令和８（2026）年度

栃 木 県 政 世 論 調 査

調 査 報 告 書

令和８（2026）年11月

栃　木　県

目　次

Ⅰ　調査の概要 …… 1

Ⅱ　サンプル・デザイン …… 3

Ⅲ　調査回答者のプロフィール …… 7

Ⅳ　調査結果の詳細 …… 11

１　暮らしの変化について

（１）暮らしの変化 …… 11

（２）暮らしが悪くなった理由 …… 15

（３）暮らしの満足度 …… 19

（４）今後の暮らしの状況 …… 23

（５）今後の暮らしで力を入れる点 …… 26

２　県政への要望について

（１）県政への要望 …… 30

３　日常生活について

（１）文化・芸術活動について …… 36

（２）スポーツ活動について …… 39

（３）社会貢献活動について …… 43

４　防災対策について

（１）災害に対する備え …… 47

５　栃木県への愛着と誇りについて

（１）栃木県に対する愛着 …… 51

（２）栃木県の魅力あるものとして自慢できるもの …… 54

６　男女平等意識について

（１）社会全体の中での男女の地位の平等感 …… 59

（２）固定的な性別役割分担意識 …… 63

（３）働く場での男女の地位の平等感 …… 66

７　あらゆる人々が活躍できる環境づくりについて

（１）あらゆる人々が共に活躍できる社会となっていることへの意識 …… 70

（２）あらゆる人々が活躍できる環境づくりに向けて
力を入れた方がよいと考える取組 …… 73

８　消費生活に関する意識について

（１）消費者トラブルへの遭遇 …… 76

目　次

９　生涯学習について

（１）直近１年間に行った生涯学習の種類 …… 79

（２）生涯学習を行った理由 …… 84

10　地域のつながりについて

（１）ご近所との関係 …… 88

（２）家族・親族以外で相談できるところ・人 …… 92

11　ケアラーについて

（１）ケアラーという言葉の認知度 …… 95

（２）ケアラー当事者になる可能性 …… 99

12　在宅医療について

（１）地域における希望する医療環境の整備の実感 …… 103

（２）人生会議（ＡＣＰ）の認知度 …… 106

13　がん対策について

（１）がんについての認知度 …… 109

（２）がん検診を受診しない理由 …… 113

（３）がん治療と仕事の両立 …… 117

14　食の安全・安心について

（１）食品の安全性に対する不安感 …… 120

（２）食品の安全性について不安に思うもの …… 123

15　食に関する意識と実践について

（１）産地や生産者を意識した食品等を選ぶか …… 126

（２）農業体験をした経験 …… 129

16　食品ロスの削減について

（１）「食品ロス」問題の認知度 …… 132

（２）現在行っている食品ロスを発生させない取組 …… 135

17　とちぎの元気な森づくり県民税について

（１）重要だと思う森林の持つ働き …… 140

（２）「とちぎの元気な森づくり県民税」で重要と思う取組 …… 143

18　公共交通について

（１）公共交通の利用状況 …… 147

（２）公共交通に関する満足度 …… 151

（３）公共交通に不満を感じること …… 154

目　次

19　自転車利用率と目的について
（１）自転車の利用状況 …… 157
（２）自転車利用の目的 …… 160

20　犯罪と治安対策について
（１）県内の治安状況の変化 …… 164
（２）不安に感じる犯罪 …… 167
（３）交通事故を抑止するための対策 …… 172

Ⅴ　調査票 …… 177

Ⅰ　調査の概要

Ⅰ　調査の概要

１　調査目的

この調査は、現在あるいは今後解決すべき課題について、県民の県政に対する意識・要望などを的確に把握し、県政施策の企画・立案及び県政執行上の参考とすることを目的とする。

２　調査項目

（１）暮らしの変化について＊
（２）県政への要望について＊
（３）日常生活について＊
（４）防災対策について
（５）栃木県への愛着と誇りについて
（６）男女平等意識について
（７）あらゆる人々が活躍できる環境づくりについて※
（８）消費生活に関する意識について※
（９）生涯学習について
(10) 地域のつながりについて
(11) ケアラーについて
(12) 在宅医療について
(13) がん対策について
(14) 食の安全・安心について
(15) 食に関する意識と実践について
(16) 食品ロスの削減について
(17) とちぎの元気な森づくり県民税について
(18) 公共交通について
(19) 自転車利用率と目的について
(20) 犯罪と治安対策について

（＊印は時系列調査、※印は新規調査）

３　調査設計

（１）調査地域　　栃木県全域
（２）調査対象　　満18歳以上の男女個人
（３）標 本 数　　2,000
（４）抽出方法　　層化二段無作為抽出法
（５）調査方法　　郵送法（郵送配布－郵送回収又はインターネット回収の選択式）
（６）調査時期　　令和８（2026）年５月29日～６月30日

4　調査機関

株式会社タイム・エージェント

5　回収結果

回収数　1,528件　（うち郵送回収数839件、インターネット回収数689件）

回収率　 76.4%　（うち郵送回収率42.0%、インターネット回収率34.5%）

6　報告書の見方

（1）比率はすべて百分比で表し、小数点以下第２位を四捨五入して算出した。このために、百分比の合計が100.0%にならないことがある。

（2）基数となるべき実数はｎとして掲載した。その比率は件数を100%として算出した。

（3）１人の回答者が複数回答で行う設問では、その比率の合計が100%を上回ることがある。

（4）図表・本文では、スペースの都合等により回答選択肢を省略して表記している場合がある。

（5）クロス集計では、分析軸の「無回答」を掲載していないため、分析軸における各項目のｎの合計値と全体の数値とが合わない場合がある。

（6）クロス集計時に、ｎが小さい数字になる場合は統計的誤差が生じる可能性が高いので注意が必要である。特に、男性18～19歳の回答者は8人、女性18～19歳の回答者は11人と少ないため、グラフの見かけ上、他の性／年齢と比べて顕著な傾向の違いがある場合でも、グラフの説明においては一律にふれていない。また、性別を「回答しない」の回答者が40人と少ないため、図表化していない。

（7）この調査の標本誤差は次の式によって得られる。但し、信頼度を95%とする。

$$b = 2\sqrt{2\frac{N-n}{N-1}\times\frac{P(1-P)}{n}}$$

（ｂ＝標本誤差　　Ｎ＝母集団数
Ｐ＝回答比率　　ｎ＝比率算出の基数（サンプル数））

次に、本調査の標本誤差の早見表をあげる。

基数（ｎ） ＼ 回答比率（Ｐ）	10%または90%前後	20%または80%前後	30%または70%前後	40%または60%前後	50%前後
1,528 人	±2.17%	±2.89%	±3.32%	±3.54%	±3.62%
1,000	±2.68%	±3.58%	±4.10%	±4.38%	±4.47%
700	±3.21%	±4.28%	±4.90%	±5.24%	±5.35%
400	±4.24%	±5.66%	±6.48%	±6.93%	±7.07%
200	±6.00%	±8.00%	±9.17%	±9.80%	±10.00%
100	±8.49%	±11.31%	±12.96%	±13.86%	±14.14%

※上表は $\frac{N-n}{N-1} \fallingdotseq 1$ として算出している。

＜注／この表の見方＞

例えば、「ある設問の回答者数が1,528人あり、その設問中の選択肢の回答比率が60%であった場合、その回答比率の誤差の範囲は最高でも±3.54%以内（56.46%～63.54%）である」とみることができる。

Ⅱ　サンプル・デザイン

Ⅱ　サンプル・デザイン

母　集　団：栃木県内の市町に居住する満18歳以上の男女

標　本　数：2,000

地　点　数：市　部　118地点
町　部　 17地点
計　　135地点

抽　出　法：層化二段無作為抽出法

［層　　化］

1．県内を市町単位に、次の３地域に分類した。

地域名	該　当　市　町　名
県北地域	那　須｛大田原市、那須塩原市、那須町｝ 日　光｛日光市｝ 塩　谷｛矢板市、さくら市、塩谷町、高根沢町｝ 南那須｛那須烏山市、那珂川町｝
県央地域	宇都宮｛宇都宮市、上三川町、壬生町｝ 鹿　沼｛鹿沼市｝ 芳　賀｛真岡市、益子町、茂木町、市貝町、芳賀町｝
県南地域	小　山｛小山市、下野市、野木町｝ 栃　木｛栃木市｝ 両　毛｛足利市、佐野市｝

2．各地域内においては、さらに市町規模によって「宇都宮市」「宇都宮市以外の市」「町」に分類し、層化した。

（注）ここでいう市とは、令和８（2026）年４月１日現在市制施行の地域である。

［標本数の配分］

各地域・市町規模の層における18歳以上の人口数（令和７（2025）年10月１日現在）により、2,000の標本数を比例配分した。

［抽　　出］

１．令和２（2020）年国勢調査時に設定された調査区を、第１次抽出単位となる調査地点として使用した。

２．調査地点の抽出数については、１調査地点あたりの標本数が14から16になるように、各層に割り当てられた標本数により算出し、調査地点数を決定した。

３．調査地点の抽出は、調査地点が２地点以上に割り当てられた層については、

$$\frac{\text{層における調査区数の合計}}{\text{層で算出された調査地点数}}=\text{抽出間隔}$$

を算出し、等間隔抽出法によって抽出した。

４．抽出に際しての各層内における市町の配列順序は、令和８（2026）年４月１日現在における「市区町村コード一覧」に従った。

５．調査地点における対象者の抽出は、調査地点の範囲内（町・丁目・番地・字等を指定）の住民基本台帳から等間隔抽出法によって抽出した。

６．以上の結果、各地域・市町別（層別）の標本数・調査地点数は次のとおりである。

市町 / 地域	宇都宮市	宇都宮市以外の市	町	計
県　北		298,987 377 (25)	64,855 82 (6)	363,842 459 (31)
県　央	423,382 534 (36)	141,794 179 (12)	106,077 134 (9)	671,253 846 (57)
県　南		530,511 669 (45)	21,001 26 (2)	551,512 695 (47)
計	423,382 534 (36)	971,292 1,225 (82)	191,933 242 (17)	1,586,607 2,000 (135)

（注）上段：令和７（2025）年10月１日現在の母集団数
　　中段：対象数
　　下段：（　　）内は地点数

調査地点一覧

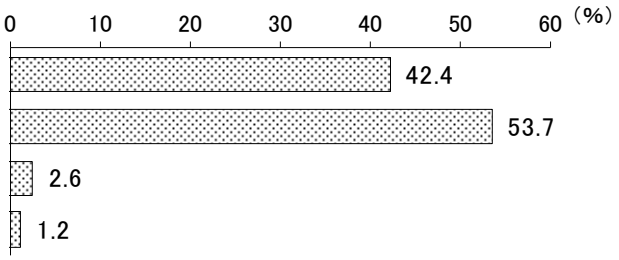
地域	対象地点名	標本数(人)
県北（那須）	大田原市山の手二丁目	14
	大田原市浅香一丁目	14
	大田原市中田原	14
	大田原市下石上	14
	大田原市蜂巣	14
	那須塩原市豊浦	15
	那須塩原市西新町	15
	那須塩原市沓掛	15
	那須塩原市弥生町	15
	那須塩原市西栄町	15
	那須塩原市北二つ室	15
	那須塩原市二区町	15
	那須塩原市塩原	15
	那須郡那須町大字豊原甲	14
	那須郡那須町大字伊王野	14
県北（日光）	日光市平ケ崎	16
	日光市芹沼	16
	日光市文挟町	16
	日光市御幸町	16
	日光市野口	16
県北（塩谷）	矢板市末広町	16
	矢板市片岡	16
	さくら市上阿久津	15
	さくら市狭間田	15
	さくら市下河戸	15
	塩谷郡塩谷町大字船生	14
	塩谷郡高根沢町宝石台二丁目	14
	塩谷郡高根沢町大字上高根沢	14
県北（南那須）	那須烏山市初音	14
	那須烏山市野上	14
	那須郡那珂川町小川	14
県央（宇都宮）	宇都宮市一条一丁目	14
	宇都宮市下河原一丁目	14
	宇都宮市滝谷町	14
	宇都宮市西一丁目	14
	宇都宮市清住一丁目	14
	宇都宮市錦二丁目	14
	宇都宮市元今泉四丁目	14
	宇都宮市宿郷五丁目	15
	宇都宮市川田町	15
	宇都宮市江曽島二丁目	15
	宇都宮市八千代二丁目	15
	宇都宮市鶴田町	15
	宇都宮市駒生一丁目	15
	宇都宮市長岡町	15
県央（宇都宮）	宇都宮市富士見が丘一丁目	15
	宇都宮市東町	15
	宇都宮市元今泉三丁目	15
	宇都宮市東今泉二丁目	15
	宇都宮市陽東二丁目	15
	宇都宮市簗瀬町	15
	宇都宮市下栗町	15
	宇都宮市雀の宮二丁目	15
	宇都宮市新富町	15
	宇都宮市南町	15
	宇都宮市兵庫塚二丁目	15
	宇都宮市西川田本町二丁目	15
	宇都宮市砥上町	15
	宇都宮市細谷町	15
	宇都宮市下荒針町	15
	宇都宮市横山二丁目	15
	宇都宮市上野町	15
	宇都宮市中岡本町	15
	宇都宮市中里町	15
	宇都宮市ゆいの杜七丁目	15
	宇都宮市清原台六丁目	15
	宇都宮市下桑島町	15
	河内郡上三川町大字多功	15
	河内郡上三川町大字上蒲生	15
	下都賀郡壬生町中央町	14
	下都賀郡壬生町おもちゃのまち二丁目	14
	下都賀郡壬生町至宝二丁目	14
県央（鹿沼）	鹿沼市下田町一丁目	14
	鹿沼市日吉町	14
	鹿沼市下武子町	15
	鹿沼市栄町一丁目	15
	鹿沼市上石川	15
	鹿沼市楡木町	15
	鹿沼市深津	15
県央（芳賀）	真岡市熊倉三丁目	16
	真岡市東郷	16
	真岡市長田四丁目	16
	真岡市西郷	16
	真岡市久下田	16
	芳賀郡益子町大字上大羽	16
	芳賀郡茂木町大字北高岡	14
	芳賀郡市貝町大字椎谷	14
	芳賀郡芳賀町大字東水沼字和泉	14
県南（小山）	小山市駅東通り一丁目	14
	小山市城東四丁目	14
	小山市三峯一丁目	14
	小山市神山二丁目	14
	小山市西城南六丁目	14
	小山市大字小山	14
	小山市大字中久喜	14
	小山市大字犬塚二丁目	14
	小山市大字田間	15
	小山市大字間々田	15
	小山市南乙女二丁目	15
	小山市扶桑三丁目	15
	下野市緑六丁目	15
	下野市花の木三丁目	15
	下野市医大前四丁目	15
	下野市川中子	15
	下都賀郡野木町大字丸林	14
	下都賀郡野木町大字野渡	14
県南（栃木）	栃木市日ノ出町	15
	栃木市沼和田町	15
	栃木市錦町	15
	栃木市片柳町二丁目	15
	栃木市箱森町	15
	栃木市惣社町	15
	栃木市大平町新	15
	栃木市大平町伯仲	15
	栃木市藤岡町藤岡	15
	栃木市都賀町木	15
	栃木市岩舟町静戸	15
県南（両毛）	足利市丸山町	15
	足利市助戸一丁目	15
	足利市借宿町	15
	足利市堀込町	15
	足利市五十部町	15
	足利市大沼田町	15
	足利市上渋垂町	15
	足利市大前町	15
	足利市名草下町	15
	足利市小俣南町	15
	佐野市浅沼町	15
	佐野市植上町	15
	佐野市赤見町	15
	佐野市犬伏新町	15
	佐野市上羽田町	15
	佐野市栃本町	15
	佐野市戸奈良町	15
	佐野市葛生西三丁目	15

Ⅲ　調査回答者のプロフィール

Ⅲ　調査回答者のプロフィール

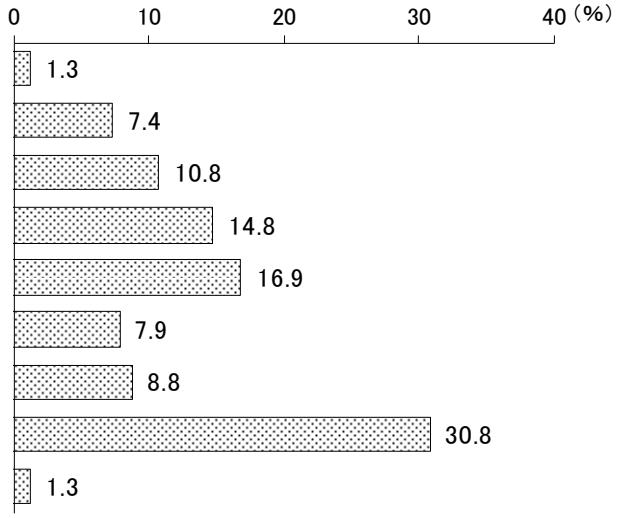
（Ｆ１）性別

		件数	構成比
1	男性	648	42.4 %
2	女性	821	53.7
3	回答しない	40	2.6
	（無回答）	19	1.2
	全　　体	1,528	



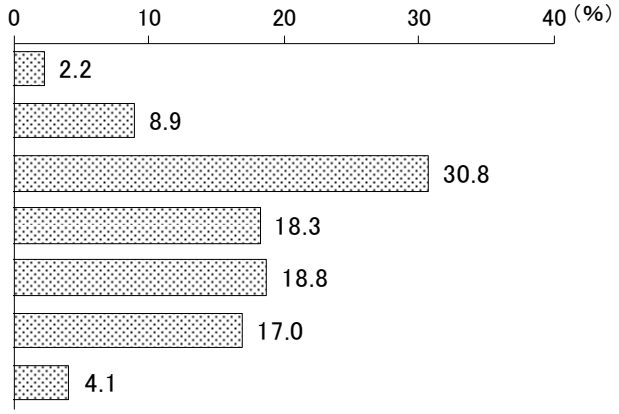
（Ｆ２）年齢

		件数	構成比
1	18歳～19歳	20	1.3 %
2	20歳～29歳	113	7.4
3	30歳～39歳	165	10.8
4	40歳～49歳	226	14.8
5	50歳～59歳	258	16.9
6	60歳～64歳	120	7.9
7	65歳～69歳	135	8.8
8	70歳以上	471	30.8
	（無回答）	20	1.3
	全　　体	1,528	



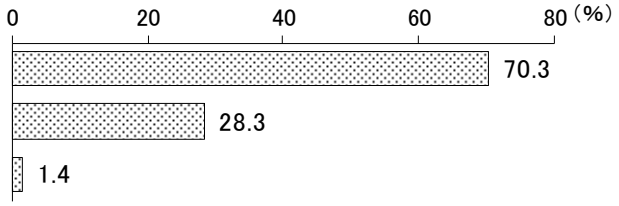
（Ｆ３）本人の職業

		件数	構成比
1	農林漁業	34	2.2 %
2	商工サービス業・自由業	136	8.9
3	管理職･事務職･専門技術職	470	30.8
4	労務職	279	18.3
5	家事	287	18.8
6	その他の無職・学生	259	17.0
	（無回答）	63	4.1
	全　　体	1,528	



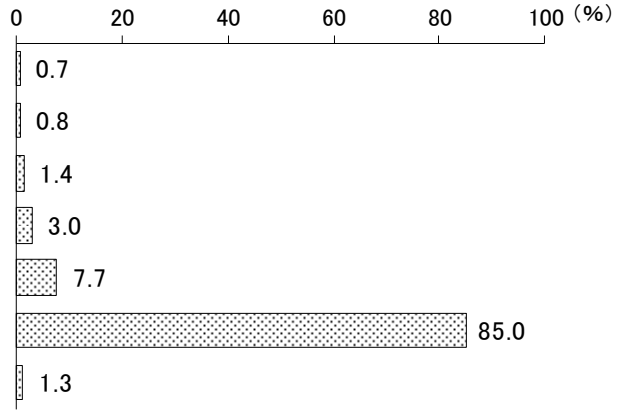
（Ｆ４）出生地

		件数	構成比
1	県内	1,074	70.3 %
2	県外	433	28.3
	（無回答）	21	1.4
	全　　体	1,528	



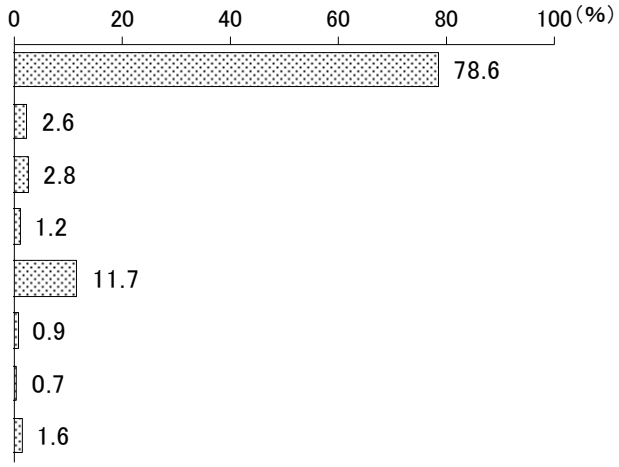
（Ｆ５）栃木県居住年数

		件数	構成比
1	１年未満	11	0.7 %
2	１年～２年	12	0.8
3	３年～４年	22	1.4
4	５年～９年	46	3.0
5	10年～19年	118	7.7
6	20年以上	1,299	85.0
	（無回答）	20	1.3
	全　　体	1,528	



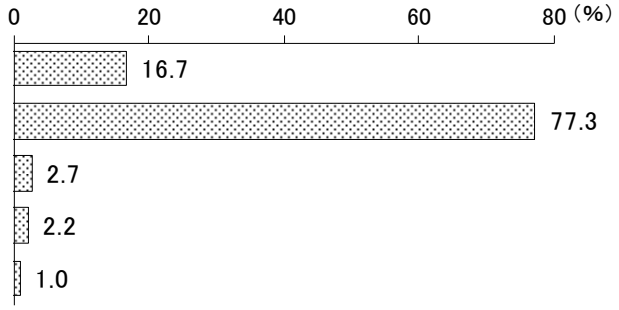
（Ｆ６）住居形態

		件数	構成比
1	持家の一戸建	1,201	78.6 %
2	持家の集合住宅(分譲ﾏﾝｼｮﾝなど)	39	2.6
3	借家の一戸建	43	2.8
4	公社・公営の賃貸住宅	18	1.2
5	民間の賃貸アパート･マンション	179	11.7
6	社宅・官舎	13	0.9
7	その他	11	0.7
	（無回答）	24	1.6
	全　　体	1,528	



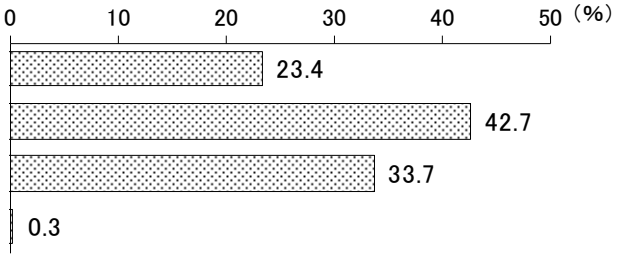
（Ｆ７）居住環境

		件数	構成比
1	農山村	255	16.7 %
2	住宅地	1,181	77.3
3	商店街	42	2.7
4	その他	34	2.2
	（無回答）	16	1.0
	全　　体	1,528	



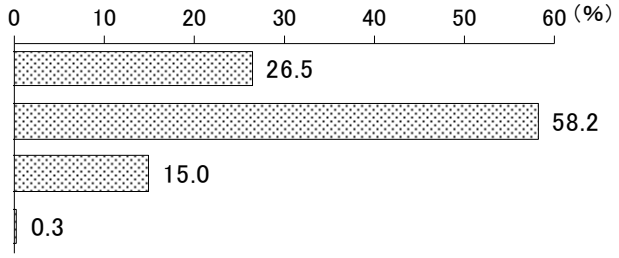
（Ｆ８）居住地域／地域別

		件数	構成比
1	県北地域	357	23.4 %
2	県央地域	652	42.7
3	県南地域	515	33.7
	（無回答）	4	0.3
	全　　体	1,528	



（Ｆ９）居住地域／市町別

		件数	構成比
1	宇都宮市	405	26.5 %
2	宇都宮市以外の市	890	58.2
3	町	229	15.0
	（無回答）	4	0.3
	全　　体	1,528	



Ⅳ　調査結果の詳細

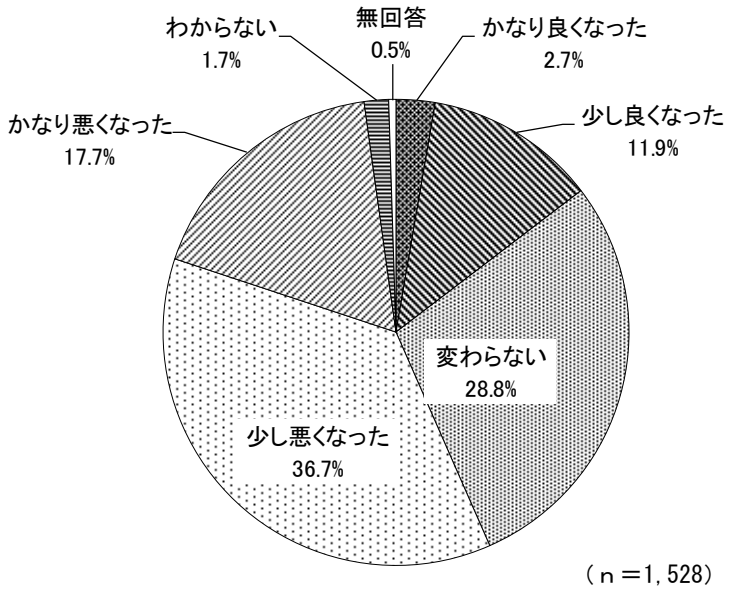
Ⅳ　調査結果の詳細

１　暮らしの変化について

（１）暮らしの変化

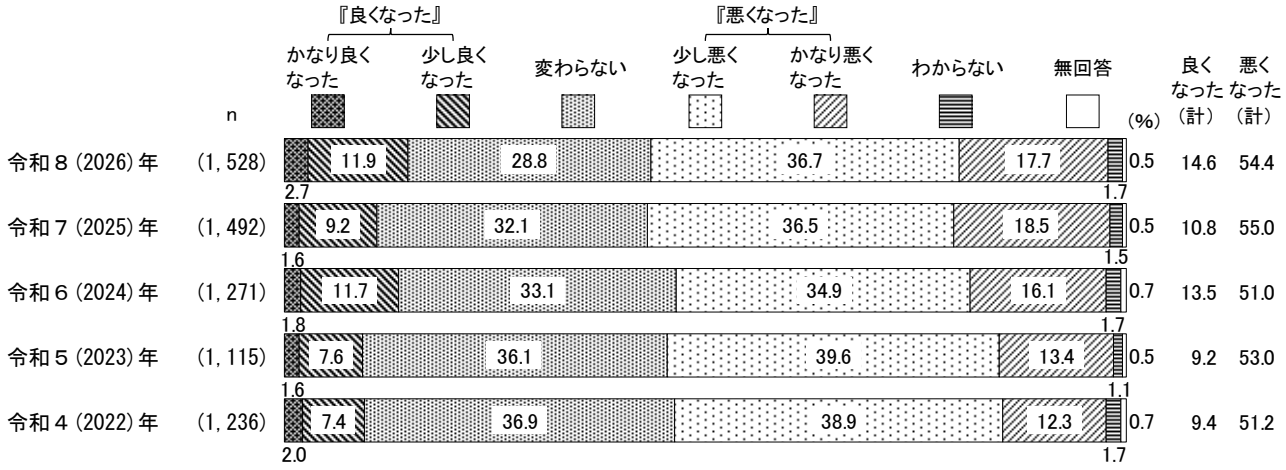
問１　あなたの暮らしは、この５～６年の間にどう変わりましたか。次の中から１つ選んでください。　［ｎ＝1,528］

１	かなり良くなった	2.7%	４	少し悪くなった	36.7%
２	少し良くなった	11.9	５	かなり悪くなった	17.7
３	変わらない	28.8	６	わからない	1.7
				（無回答）	0.5



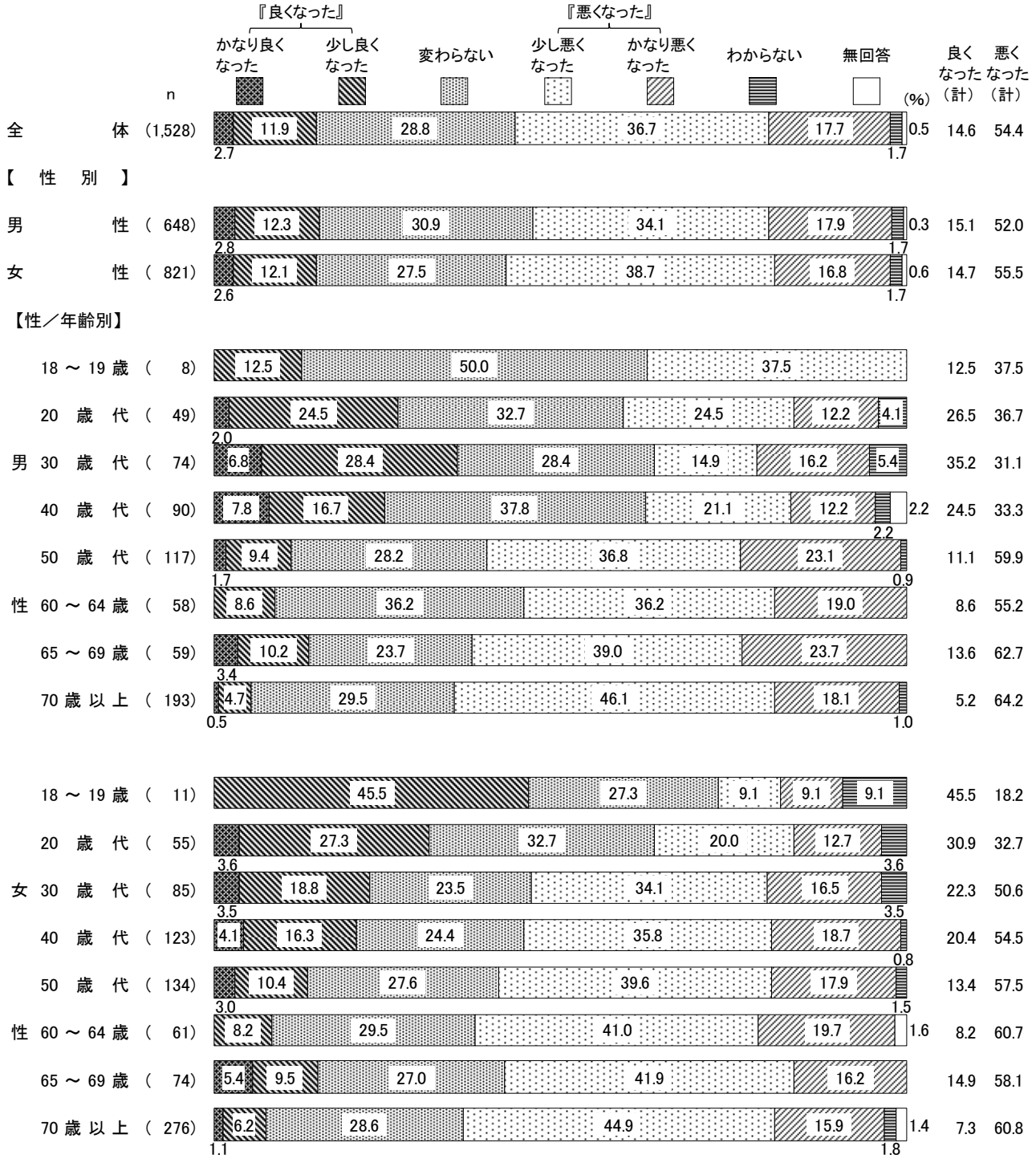
全体でみると、「かなり良くなった」（2.7%）と「少し良くなった」（11.9%）の２つを合わせた『良くなった』（14.6%）が１割台半ば近くとなっている。一方、「少し悪くなった」（36.7%）と「かなり悪くなった」（17.7%）の２つを合わせた『悪くなった』（54.4%）が５割台半ば近くとなっている。また、「変わらない」（28.8%）が３割近くとなっている。

［過去の調査結果］



前回（令和７(2025)年）の調査結果と比較すると、『良くなった』が3.8ポイント増加している。

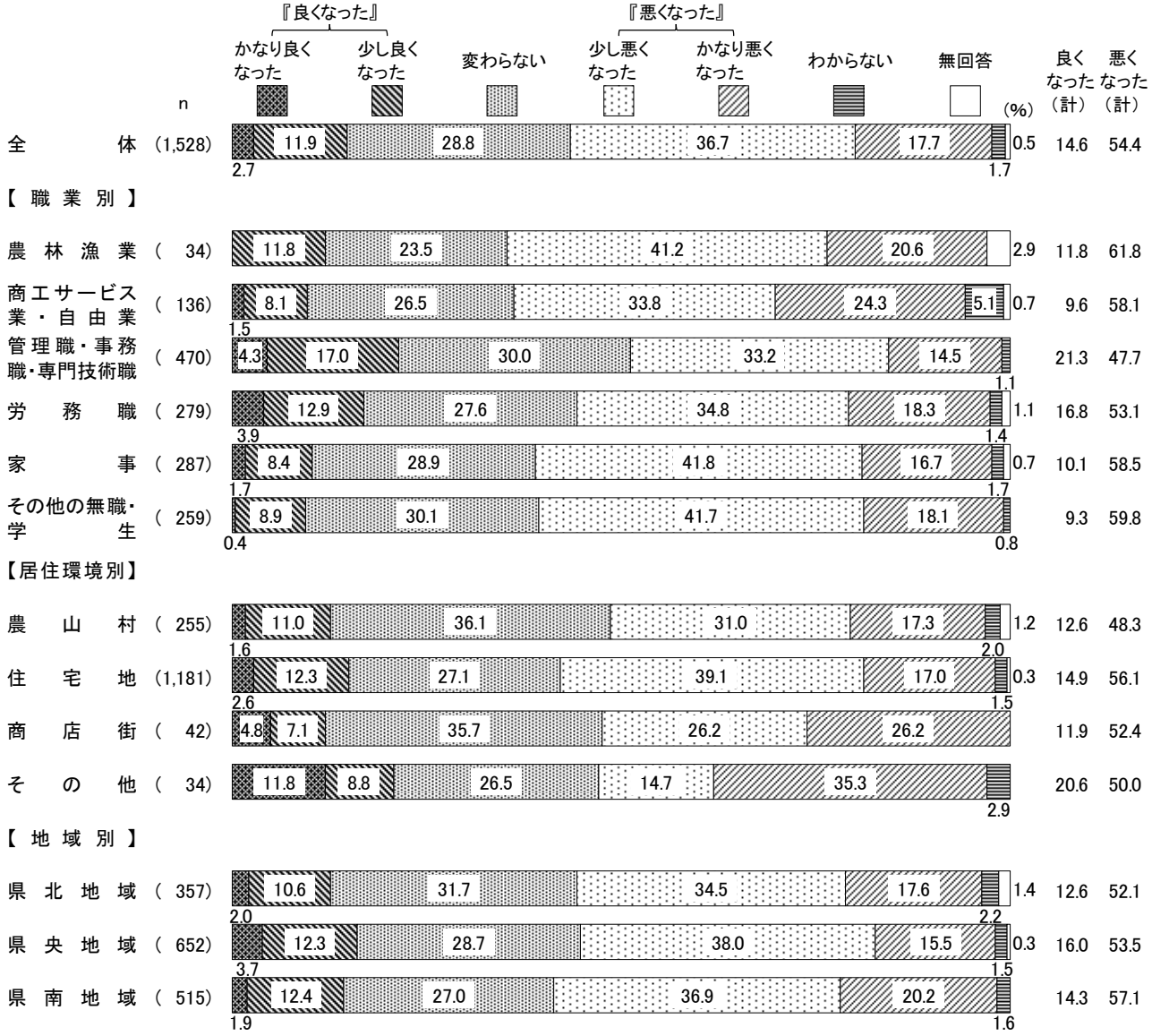
［性別・性／年齢別］



性別でみると、大きな傾向の違いはみられない。

性／年齢別でみると、『良くなった』では〈男性30歳代〉が35.2％、〈女性20歳代〉が30.9％、〈男性20歳代〉が26.5％と高くなっている。一方、『悪くなった』では〈男性70歳以上〉が64.2％と高くなっている。

［職業別・居住環境別・地域別］



職業別でみると、大きな傾向の違いはみられない。

居住環境別でみると、大きな傾向の違いはみられない。

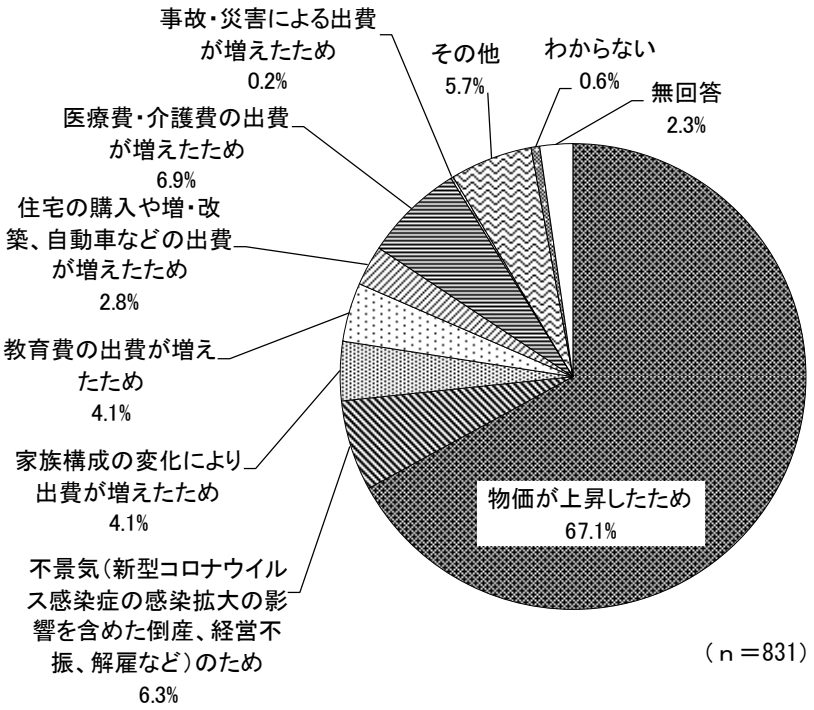
地域別でみると、大きな傾向の違いはみられない。

（２）暮らしが悪くなった理由

（問１で選択肢「４　少し悪くなった」、「５　かなり悪くなった」を選んだ方のみお答えください）

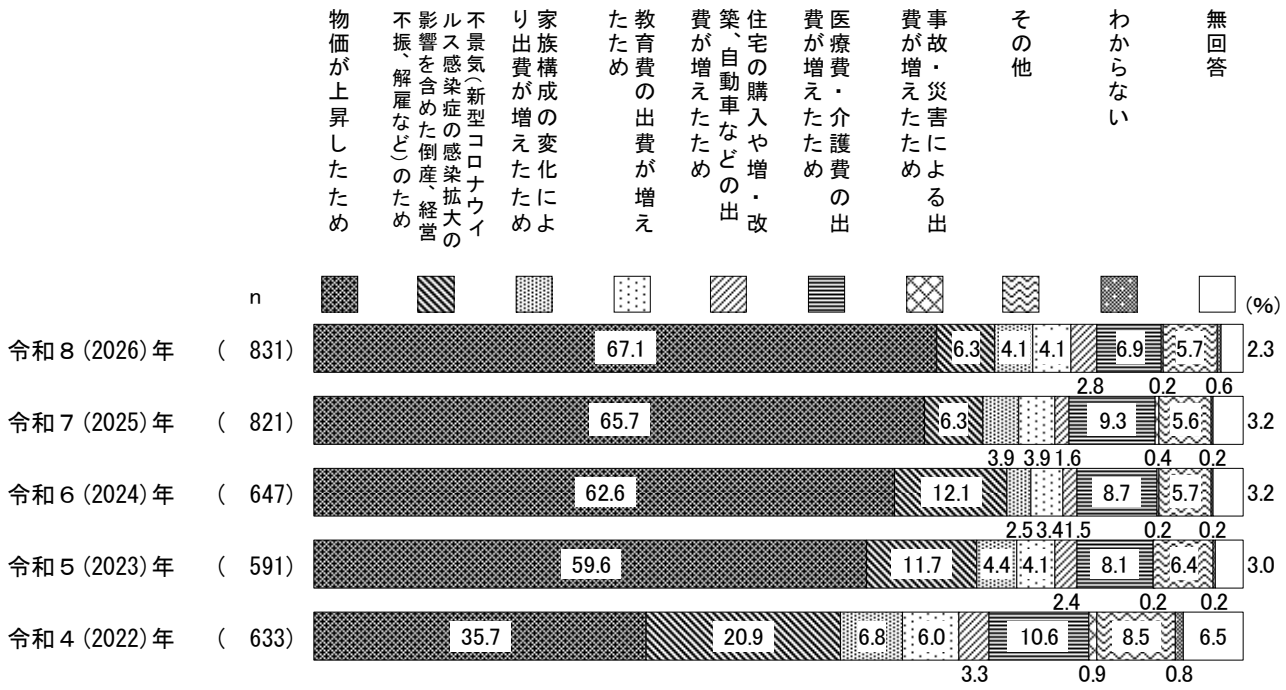
問２　悪くなったのは、主にどのようなことからですか。もっとも大きな要因を１つ選んでください。　［ｎ＝831］

１	物価が上昇したため	67.1%
２	不景気（新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響を含めた倒産、経営不振、解雇など）のため	6.3
３	家族構成の変化により出費が増えたため	4.1
４	教育費の出費が増えたため	4.1
５	住宅の購入や増・改築、自動車などの出費が増えたため	2.8
６	医療費・介護費の出費が増えたため	6.9
７	事故・災害による出費が増えたため	0.2
８	その他	5.7
９	わからない	0.6
	（無回答）	2.3



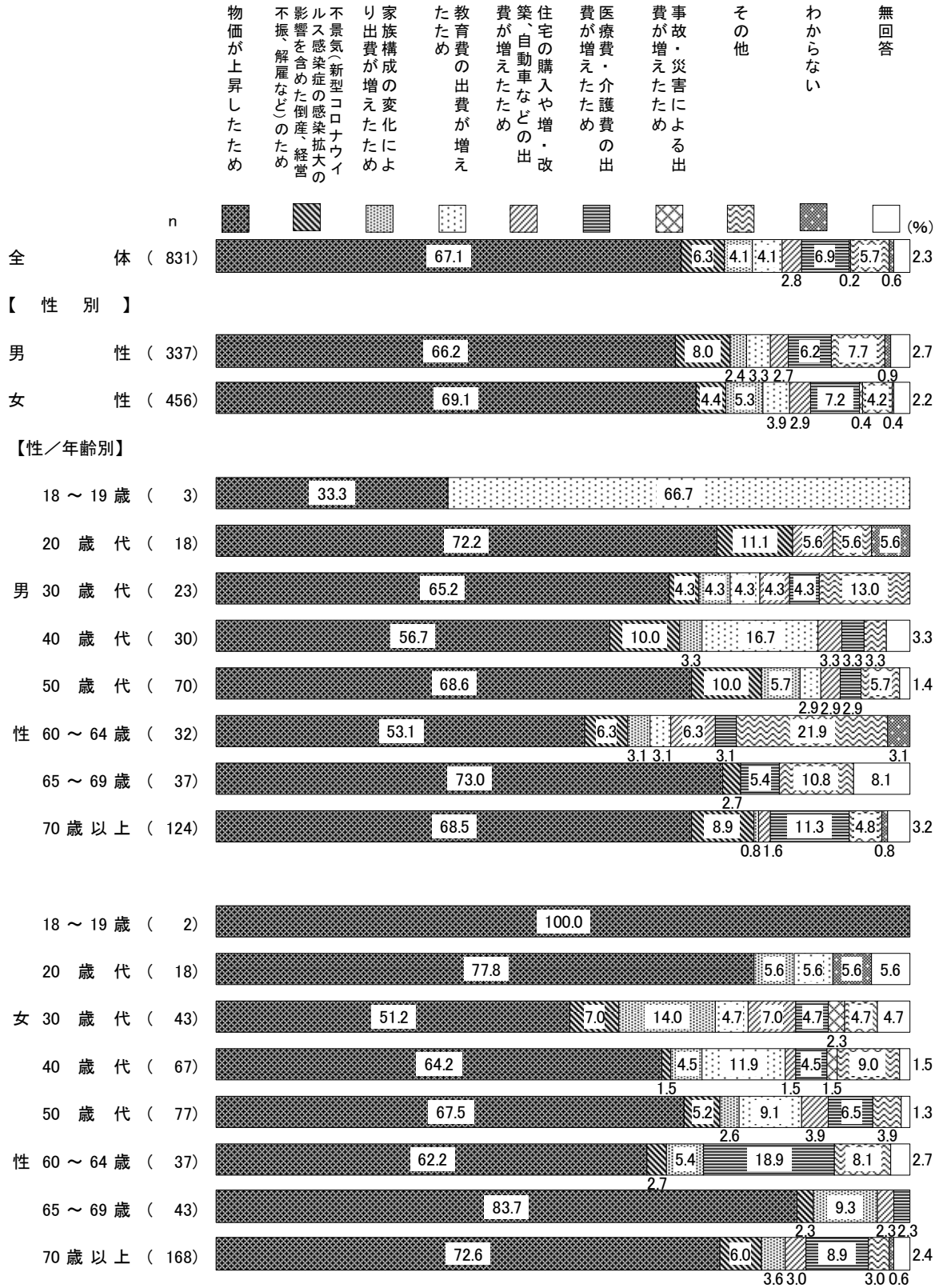
全体でみると、「物価が上昇したため」（67.1%）が６割台半ばを超えて最も高くなっている。次いで「医療費・介護費の出費が増えたため」（6.9%）、「不景気（新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響を含めた倒産、経営不振、解雇など）のため（以下『不景気のため』という。）」（6.3%）となっている。

［過去の調査結果］



過去の調査結果と比較すると、「物価が上昇したため」が近年増加傾向にあり、令和４(2022)年(35.7%)から31.4ポイント増加している。

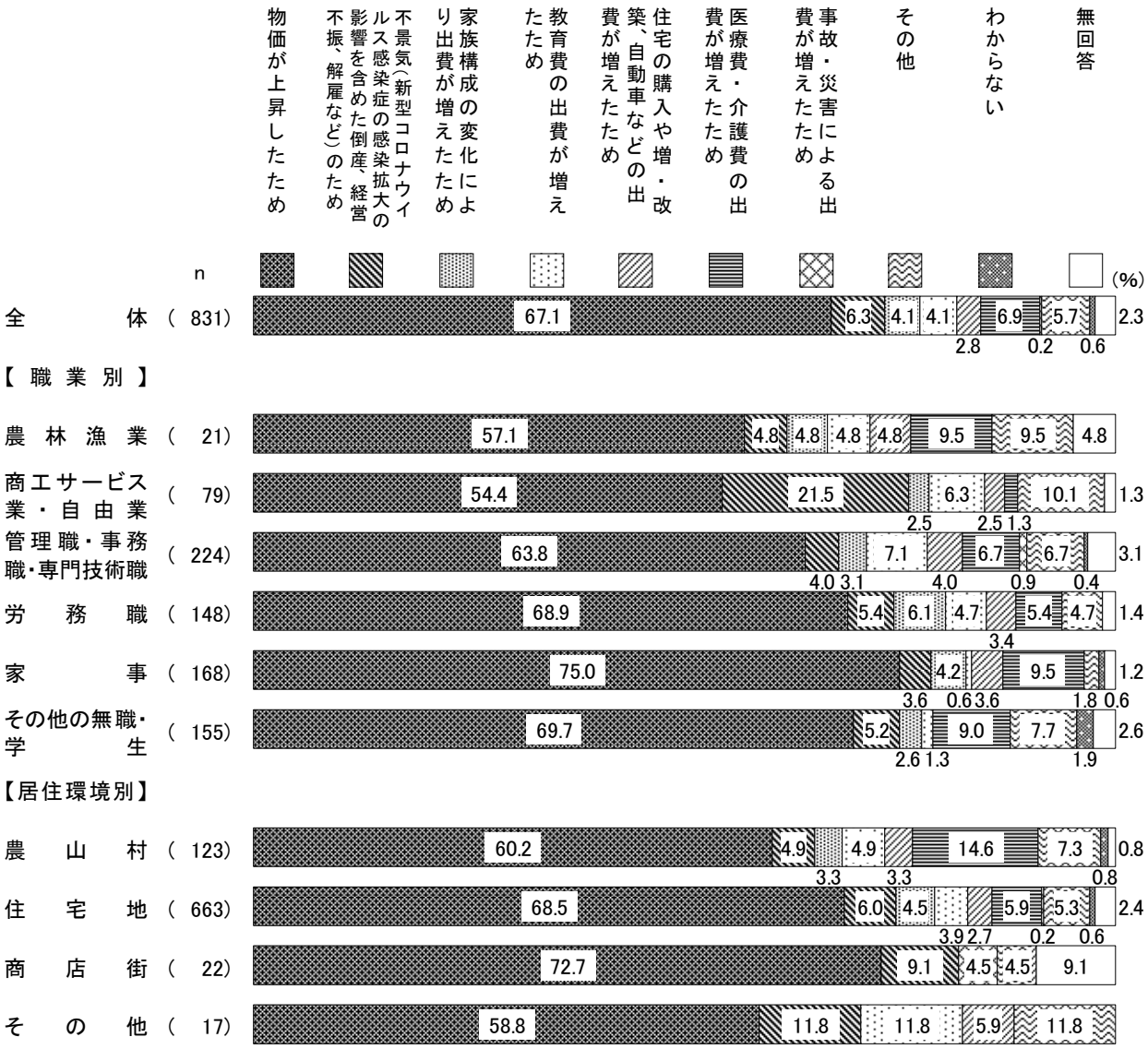
［性別・性／年齢別］



性別でみると、大きな傾向の違いはみられない。

性／年齢別でみると、「物価が上昇したため」では〈女性65～69歳〉が83.7%、〈女性20歳代〉が77.8%と高くなっている。「教育費の出費が増えたため」では〈男性40歳代〉が16.7%と高くなっている。「医療費・介護費の出費が増えたため」では〈女性60～64歳〉が18.9%と高くなっている。「家族構成の変化により出費が増えたため」では〈女性30歳代〉が14.0%と高くなっている。

［職業別・居住環境別］

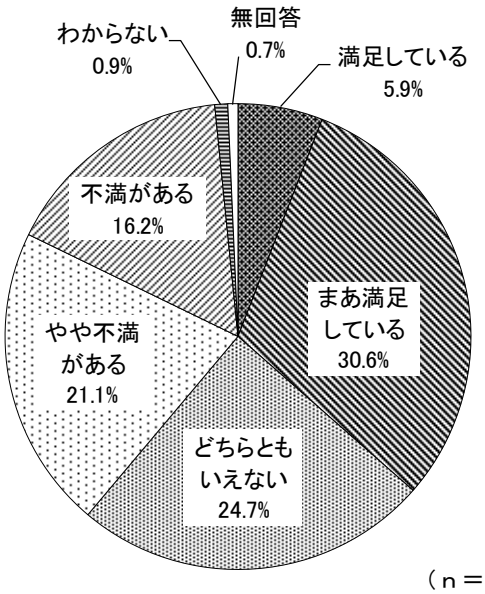


職業別でみると、『不景気のため』では〈商工サービス業・自由業〉が21.5%と高くなっている。
居住環境別でみると、大きな傾向の違いはみられない。

（３）暮らしの満足度

問３　あなたは、今の暮らしについてどの程度満足していますか。次の中から１つ選んでください。　［ｎ＝1,528］

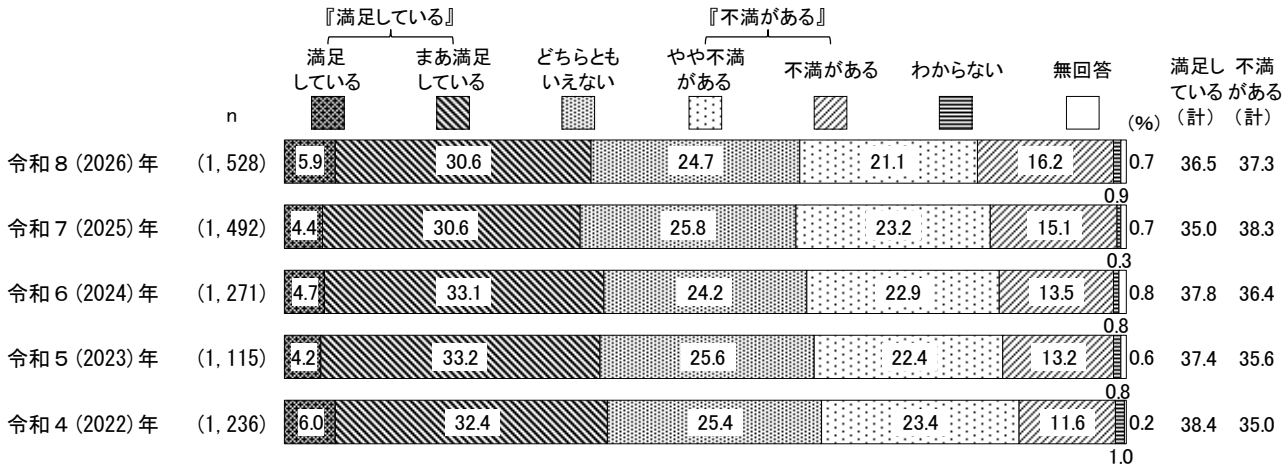
１	満足している	5.9%	４	やや不満がある	21.1%
２	まあ満足している	30.6	５	不満がある	16.2
３	どちらともいえない	24.7	６	わからない	0.9
				（無回答）	0.7



（ｎ＝1,528）

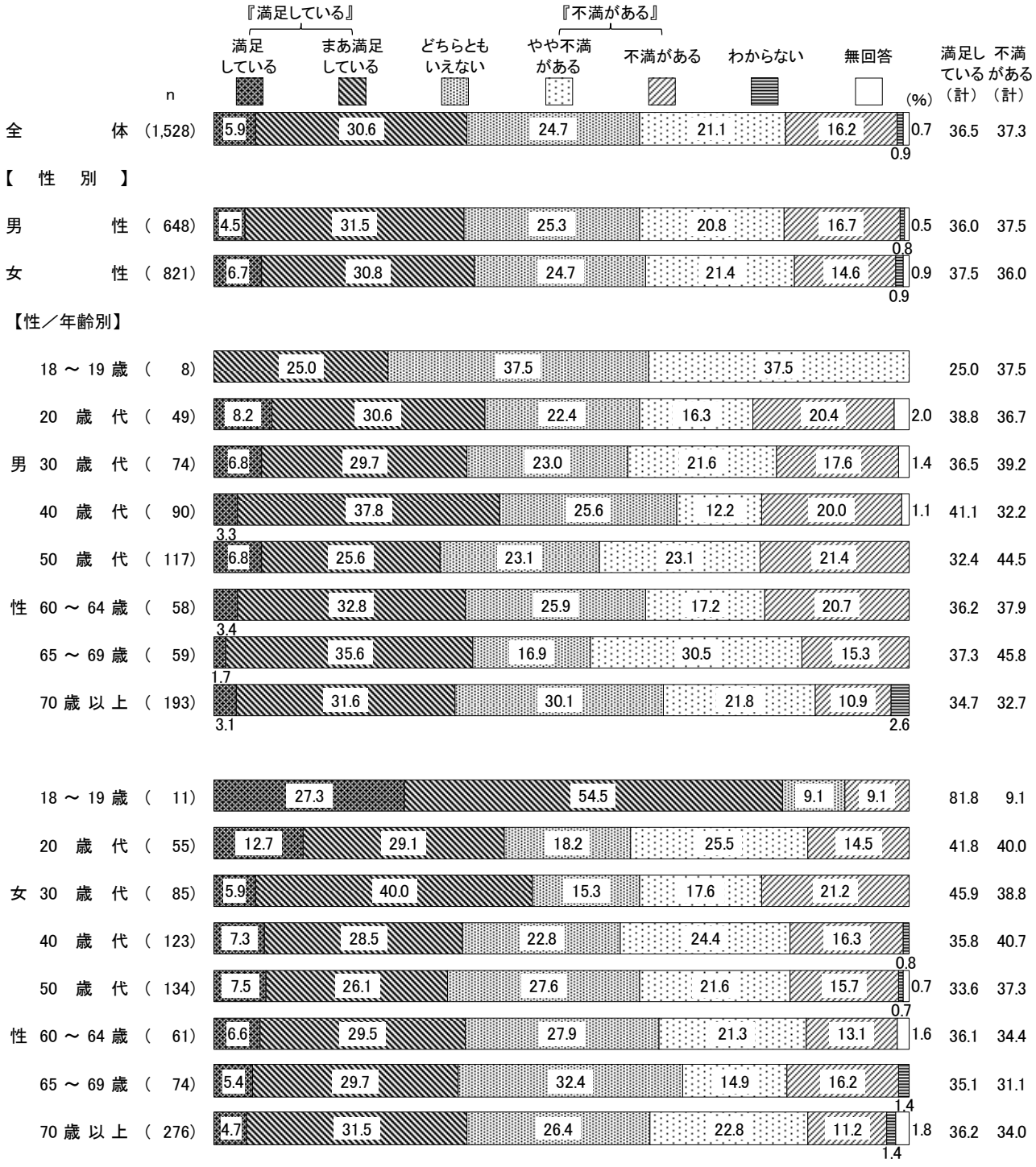
全体でみると、「満足している」（5.9%）と「まあ満足している」（30.6%）の２つを合わせた『満足している』（36.5%）が３割台半ばを超えている。一方、「やや不満がある」（21.1%）と「不満がある」（16.2%）の２つを合わせた『不満がある』（37.3%）が３割台半ばを超えている。また、「どちらともいえない」（24.7%）が２割台半ば近くとなっている。

［過去の調査結果］



過去の調査結果と比較すると、大きな傾向の違いはみられない。

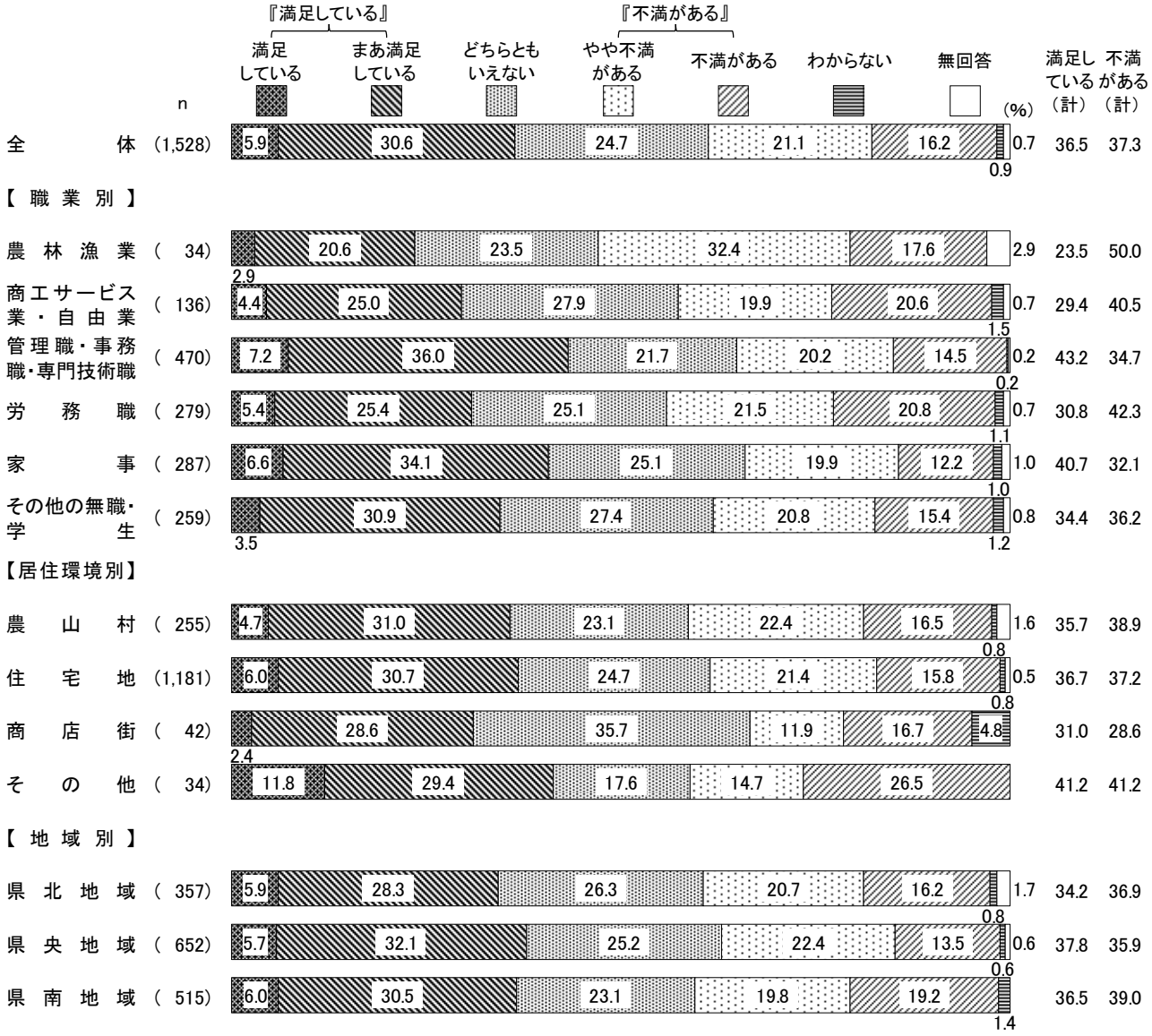
［性別・性／年齢別］



性別でみると、大きな傾向の違いはみられない。

性／年齢別でみると、大きな傾向の違いはみられない。

［職業別・居住環境別・地域別］

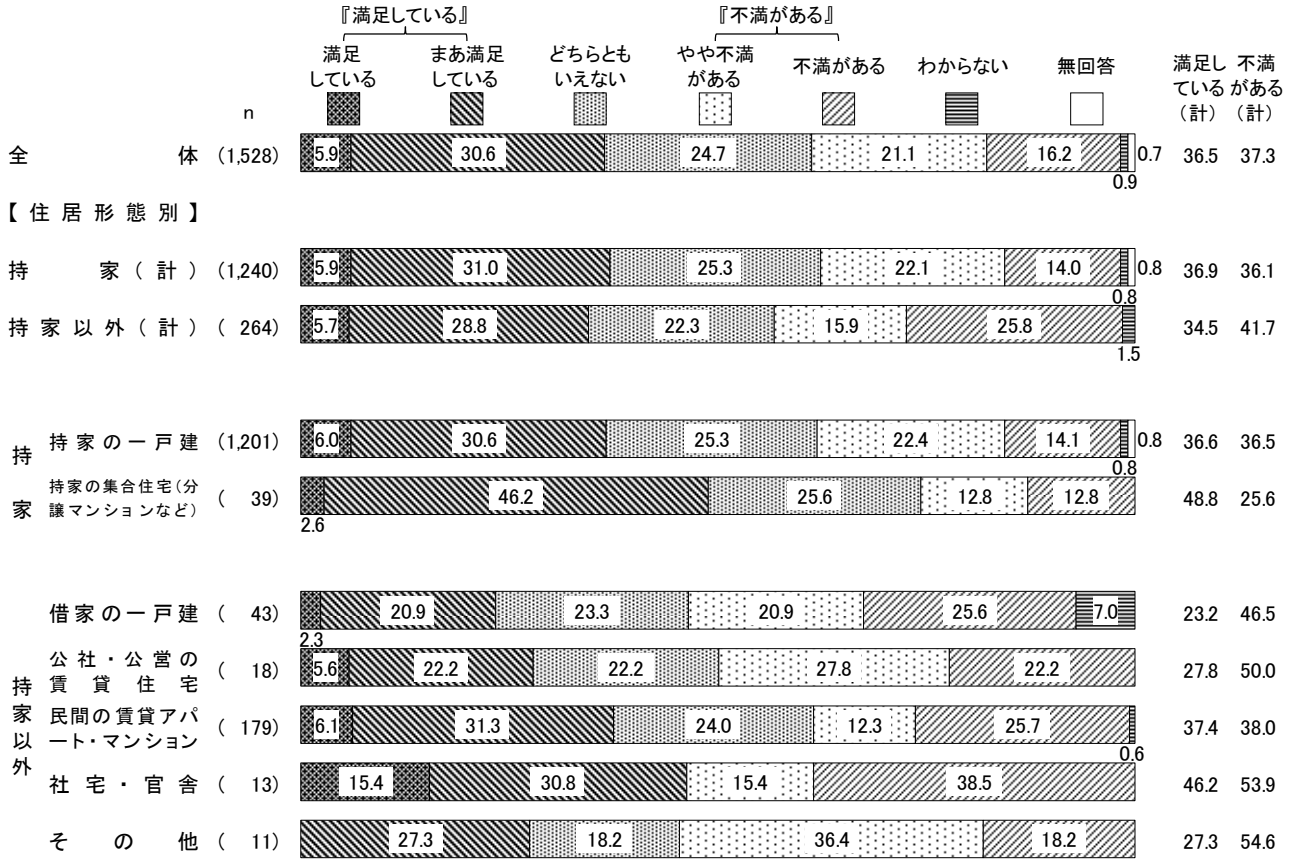


職業別でみると、『不満がある』では〈農林漁業〉が50.0％と高くなっている。

居住環境別でみると、「どちらともいえない」では〈商店街〉が35.7％と高くなっている。

地域別でみると、大きな傾向の違いはみられない。

［住居形態別］

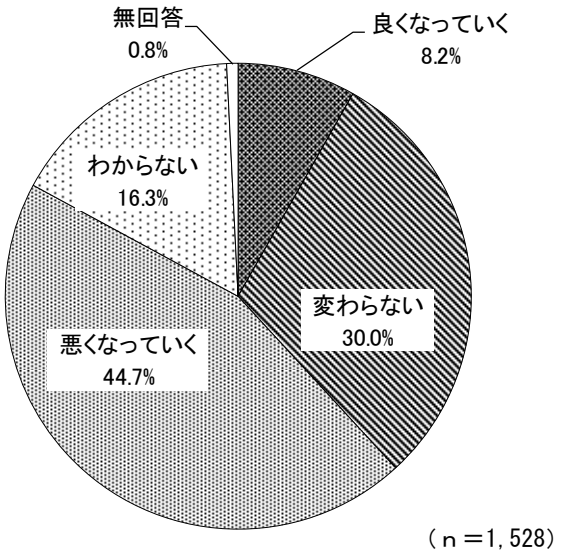


住居形態別でみると、『不満がある』では〈持家以外（計）〉（41.7%）が〈持家（計）〉（36.1%）より5.6ポイント高くなっている。一方、『満足している』では〈持家の集合住宅（分譲マンションなど）〉が48.8%と高くなっている。

（４）今後の暮らしの状況

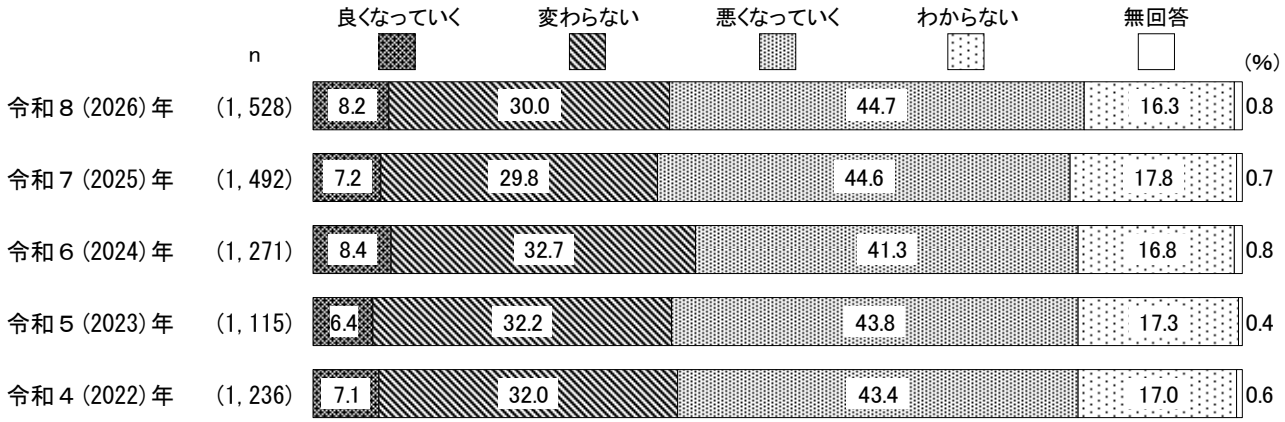
問４　あなたの暮らしは、これから先どうなっていくと思いますか。次の中から１つ選んでください。　［ｎ＝1,528］

１　良くなっていく	8.2%	３　悪くなっていく	44.7%
２　変わらない	30.0	４　わからない	16.3
		（無回答）	0.8



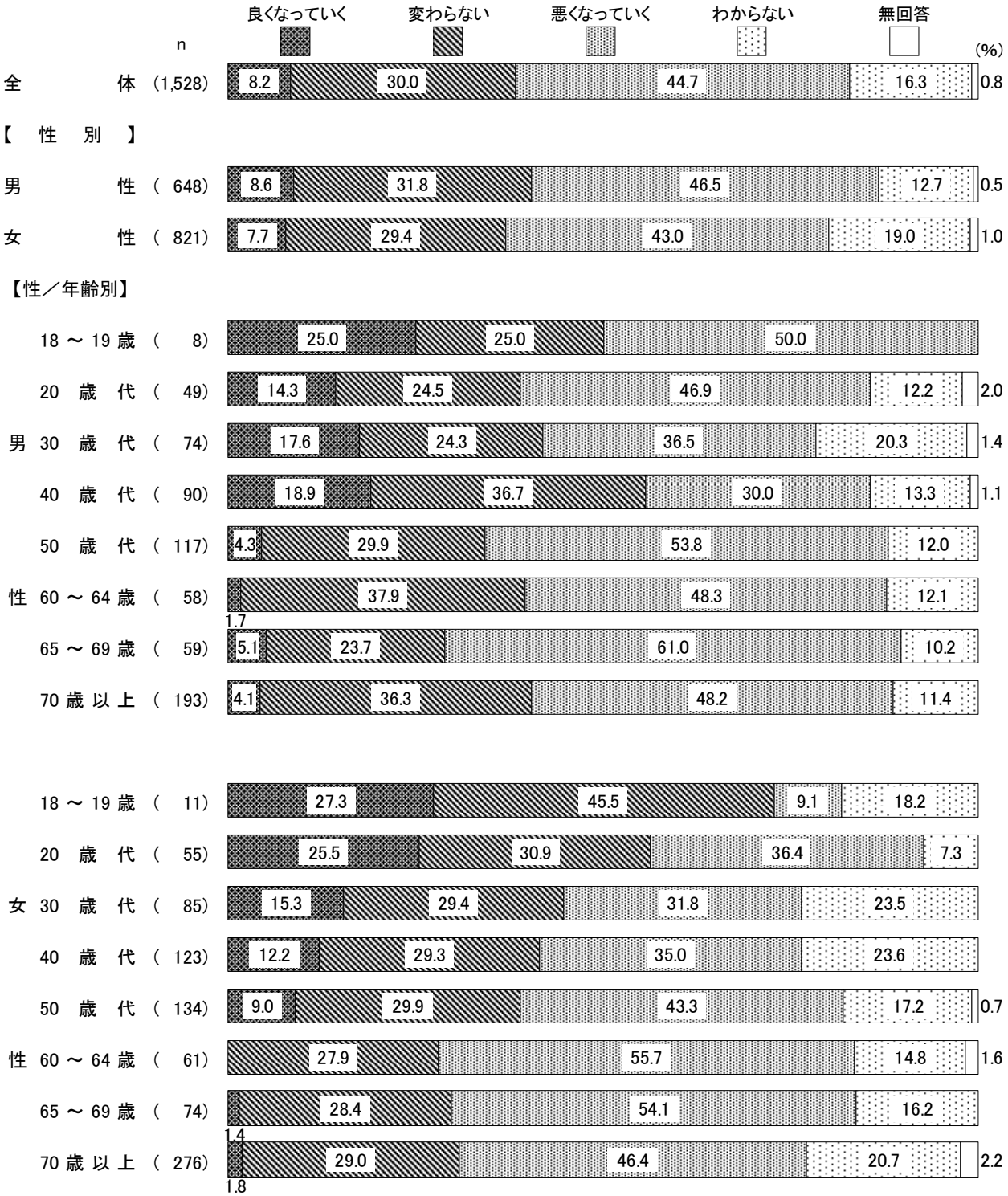
全体でみると、「悪くなっていく」（44.7%）が４割台半ば近くで最も高く、次いで「変わらない」（30.0%）が３割、「良くなっていく」（8.2%）が１割近くとなっている。

［過去の調査結果］



過去の調査結果と比較すると、大きな傾向の違いはみられない。

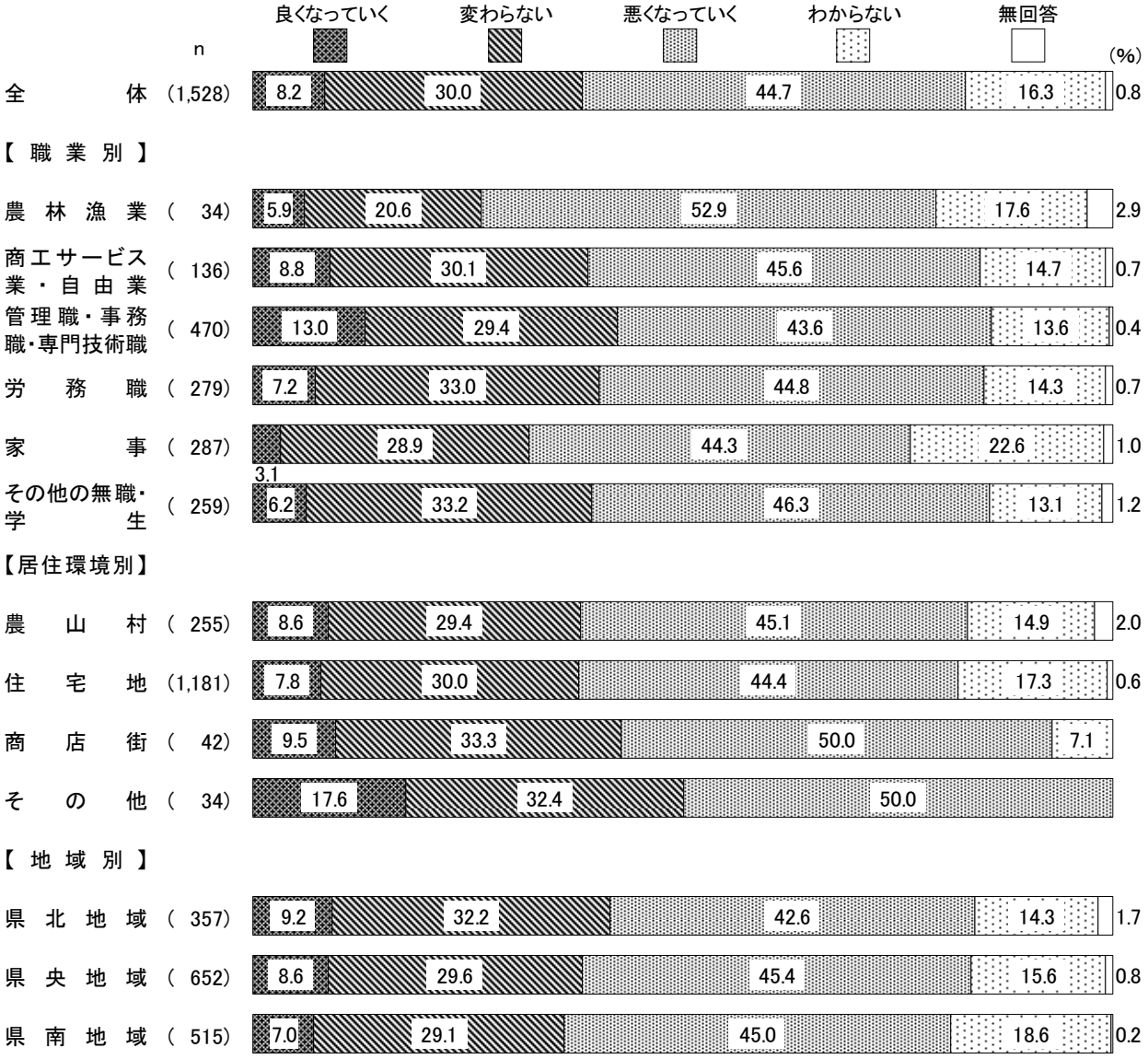
［性別・性／年齢別］



性別でみると、「わからない」では〈女性〉(19.0%) が〈男性〉(12.7%) より6.3ポイント高くなっている。

性／年齢別でみると、「良くなっていく」では〈女性20歳代〉が25.5%、〈男性40歳代〉が18.9%と高くなっている。一方、「悪くなっていく」では〈男性65～69歳〉が61.0%、〈女性60～64歳〉が55.7%と高くなっている。

［職業別・居住環境別・地域別］



職業別でみると、大きな傾向の違いはみられない。

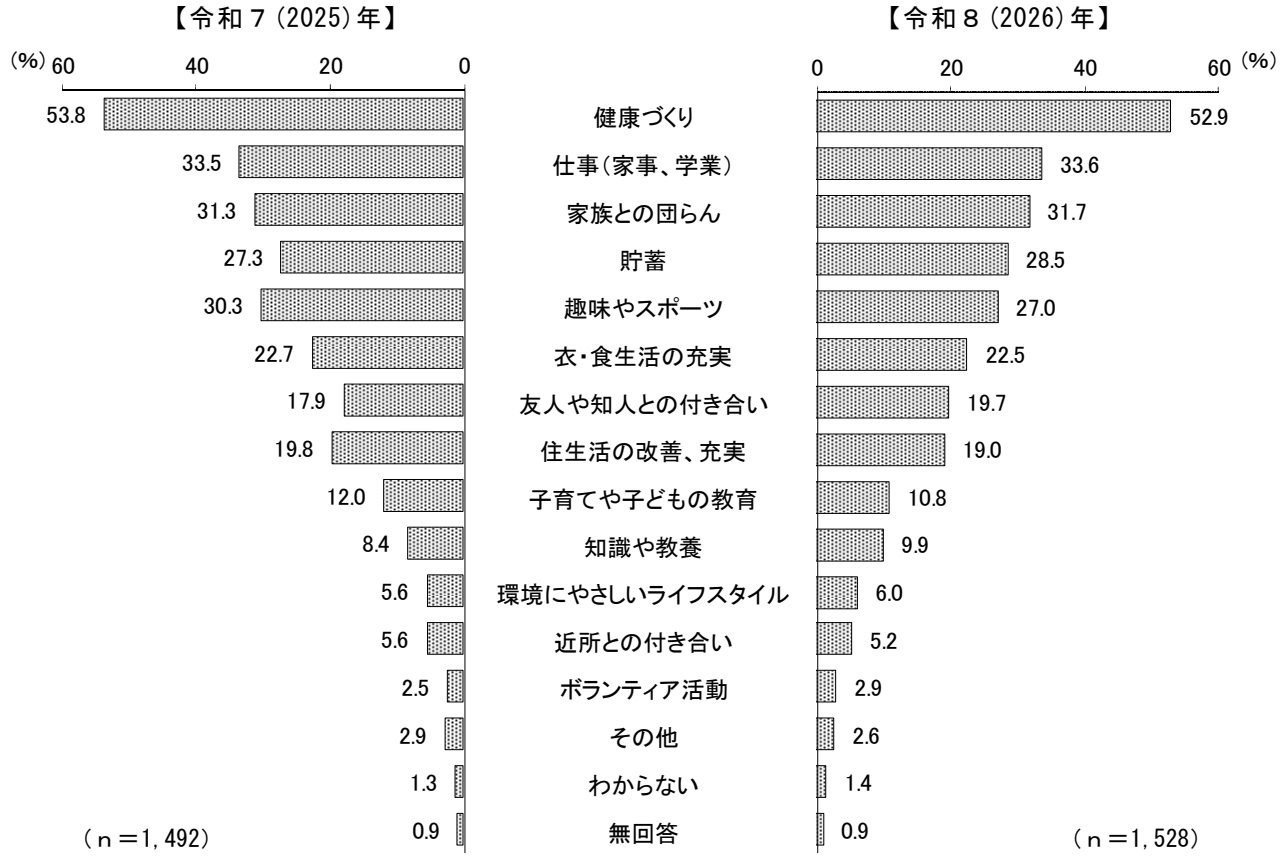
居住環境別でみると、大きな傾向の違いはみられない。

地域別でみると、大きな傾向の違いはみられない。

（５）今後の暮らしで力を入れる点

問５　あなたは、今後の暮らしの中で、どのような点に力を入れていきたいと思いますか。
次の中から３つまで選んでください。　［ｎ＝1,528］

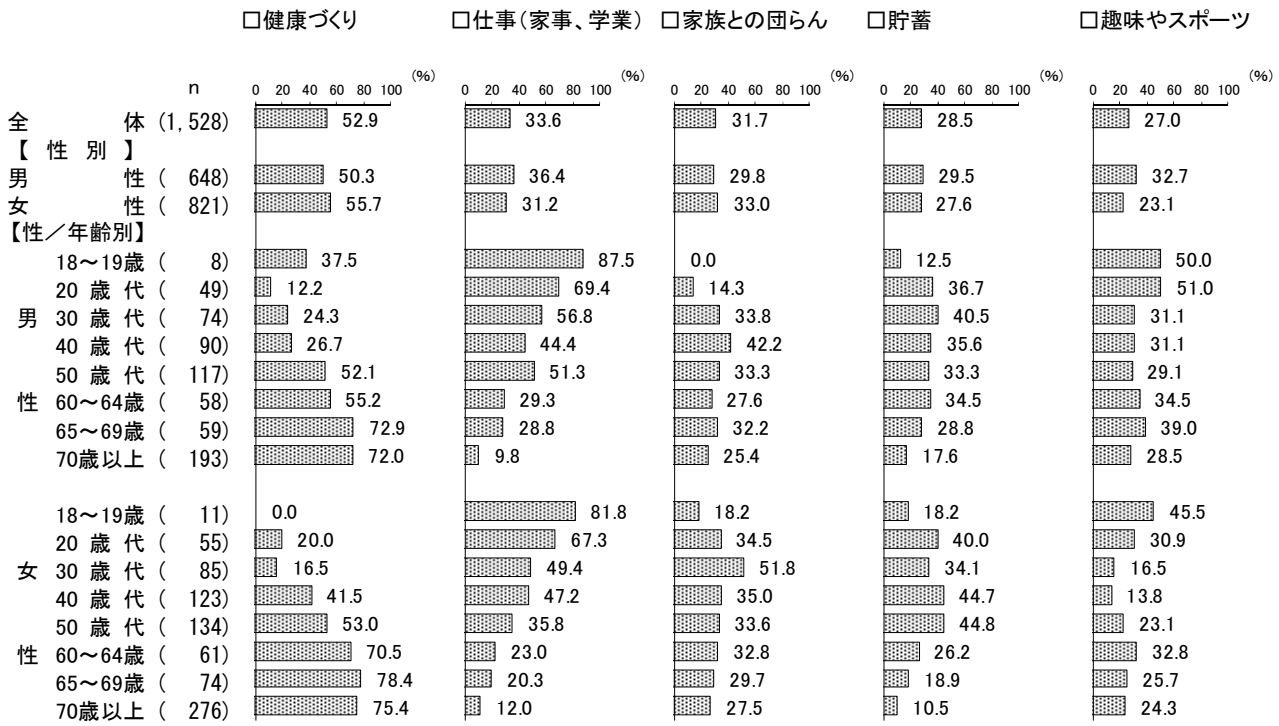
1	仕事（家事、学業）	33.6%	9	家族との団らん	31.7%
2	知識や教養	9.9	10	近所との付き合い	5.2
3	貯蓄	28.5	11	友人や知人との付き合い	19.7
4	趣味やスポーツ	27.0	12	子育てや子どもの教育	10.8
5	ボランティア活動	2.9	13	健康づくり	52.9
6	衣・食生活の充実	22.5	14	その他	2.6
7	住生活の改善、充実	19.0	15	わからない	1.4
8	環境にやさしいライフスタイル	6.0		（無回答）	0.9

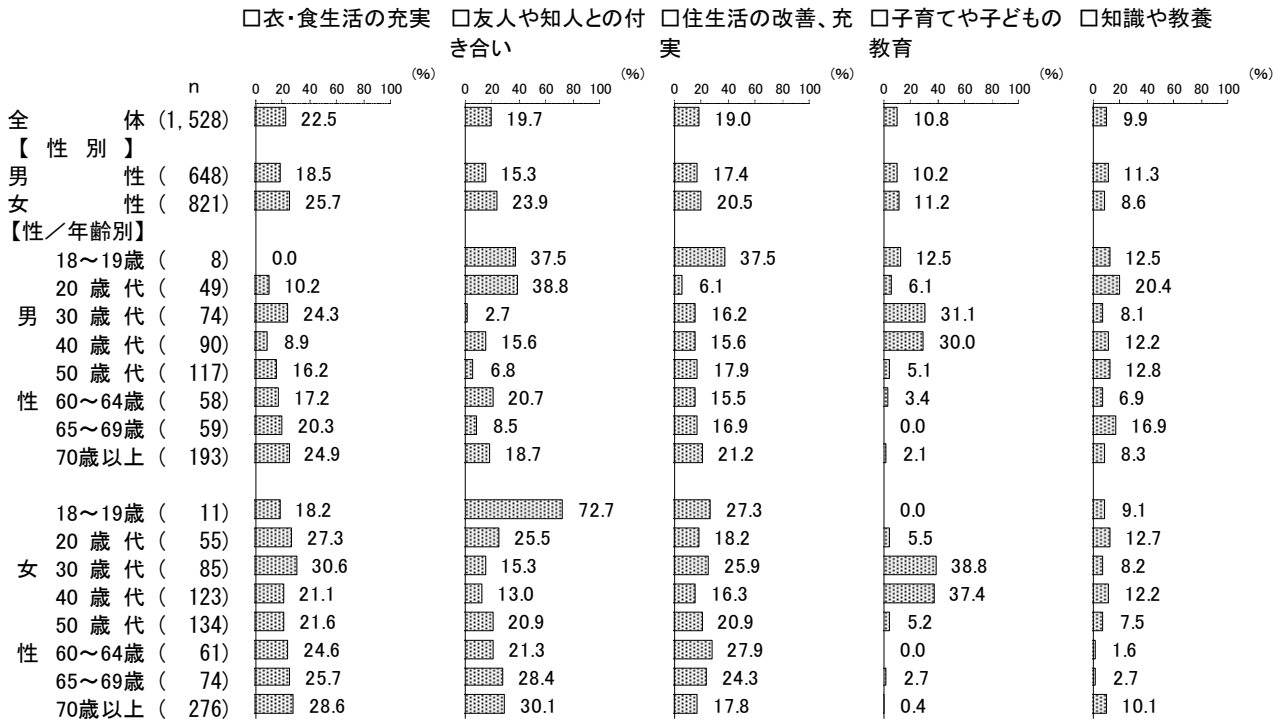


全体でみると、「健康づくり」（52.9%）が５割強で最も高く、次いで「仕事（家事、学業）」（33.6%）、「家族との団らん」（31.7%）、「貯蓄」（28.5%）、「趣味やスポーツ」（27.0%）となっている。

前回（令和７(2025)年）の調査結果と比較すると、「趣味やスポーツ」が3.3ポイント減少している。

［性別・性／年齢別］（上位10項目）

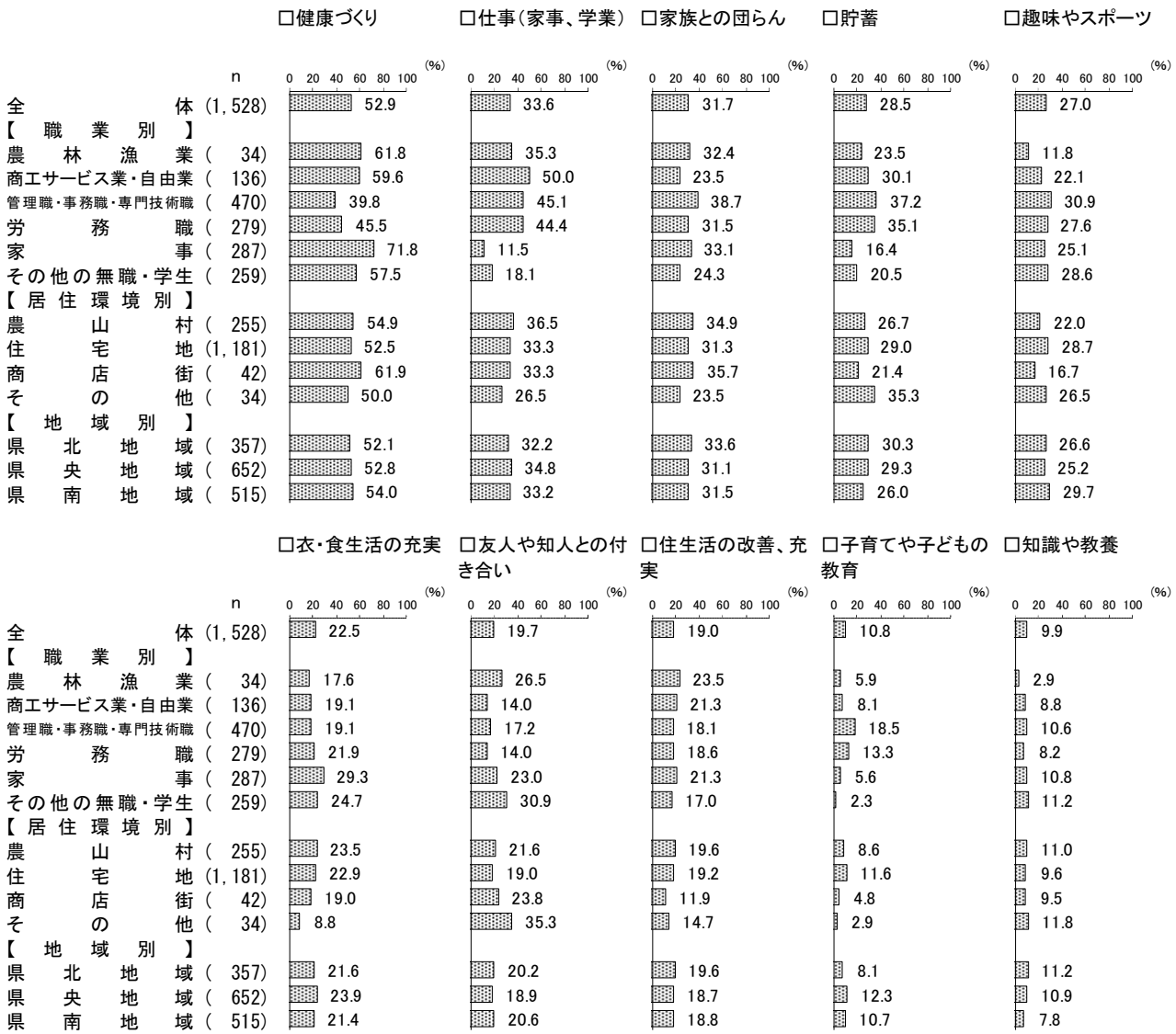




上位10項目について、性別でみると、「趣味やスポーツ」では〈男性〉(32.7%)が〈女性〉(23.1%)より9.6ポイント、「仕事(家事、学業)」では〈男性〉(36.4%)が〈女性〉(31.2%)より5.2ポイント高くなっている。一方、「友人や知人との付き合い」では〈女性〉(23.9%)が〈男性〉(15.3%)より8.6ポイント、「衣・食生活の充実」では〈女性〉(25.7%)が〈男性〉(18.5%)より7.2ポイント、「健康づくり」では〈女性〉(55.7%)が〈男性〉(50.3%)より5.4ポイント高くなっている。

性／年齢別でみると、「健康づくり」では〈女性65～69歳〉が78.4%、〈女性70歳以上〉が75.4%、〈男性65～69歳〉が72.9%、〈男性70歳以上〉が72.0%、〈女性60～64歳〉が70.5%と高くなっている。「仕事(家事、学業)」では〈男性20歳代〉が69.4%、〈女性20歳代〉が67.3%、〈男性30歳代〉が56.8%、〈男性50歳代〉が51.3%、〈女性30歳代〉が49.4%、〈女性40歳代〉が47.2%、〈男性40歳代〉が44.4%と高くなっている。「家族との団らん」では〈女性30歳代〉が51.8%、〈男性40歳代〉が42.2%と高くなっている。「貯蓄」では〈女性50歳代〉が44.8%、〈女性40歳代〉が44.7%、〈男性30歳代〉が40.5%、〈女性20歳代〉が40.0%と高くなっている。「趣味やスポーツ」では〈男性20歳代〉が51.0%、〈男性65～69歳〉が39.0%と高くなっている。「衣・食生活の充実」では〈男性40歳代〉が8.9%、〈男性20歳代〉が10.2%と低くなっている。「友人や知人との付き合い」では〈男性20歳代〉が38.8%、〈女性70歳以上〉が30.1%と高くなっている。「住生活の改善、充実」では〈男性20歳代〉が6.1%と低くなっている。「子育てや子どもの教育」では〈女性30歳代〉が38.8%、〈女性40歳代〉が37.4%、〈男性30歳代〉が31.1%、〈男性40歳代〉が30.0%と高くなっている。「知識や教養」では〈男性20歳代〉が20.4%と高くなっている。

［職業別・居住環境別・地域別］（上位10項目）



上位10項目について、職業別でみると、「健康づくり」では〈家事〉が71.8％と高くなっている。「仕事（家事、学業）」では〈商工サービス業・自由業〉が50.0％、〈管理職・事務職・専門技術職〉が45.1％、〈労務職〉が44.4％と高くなっている。「貯蓄」では〈家事〉が16.4％と低くなっている。「趣味やスポーツ」では〈農林漁業〉が11.8％と低くなっている。「友人や知人との付き合い」では〈その他の無職・学生〉が30.9％と高くなっている。

居住環境別でみると、「趣味やスポーツ」では〈商店街〉が16.7％と低くなっている。

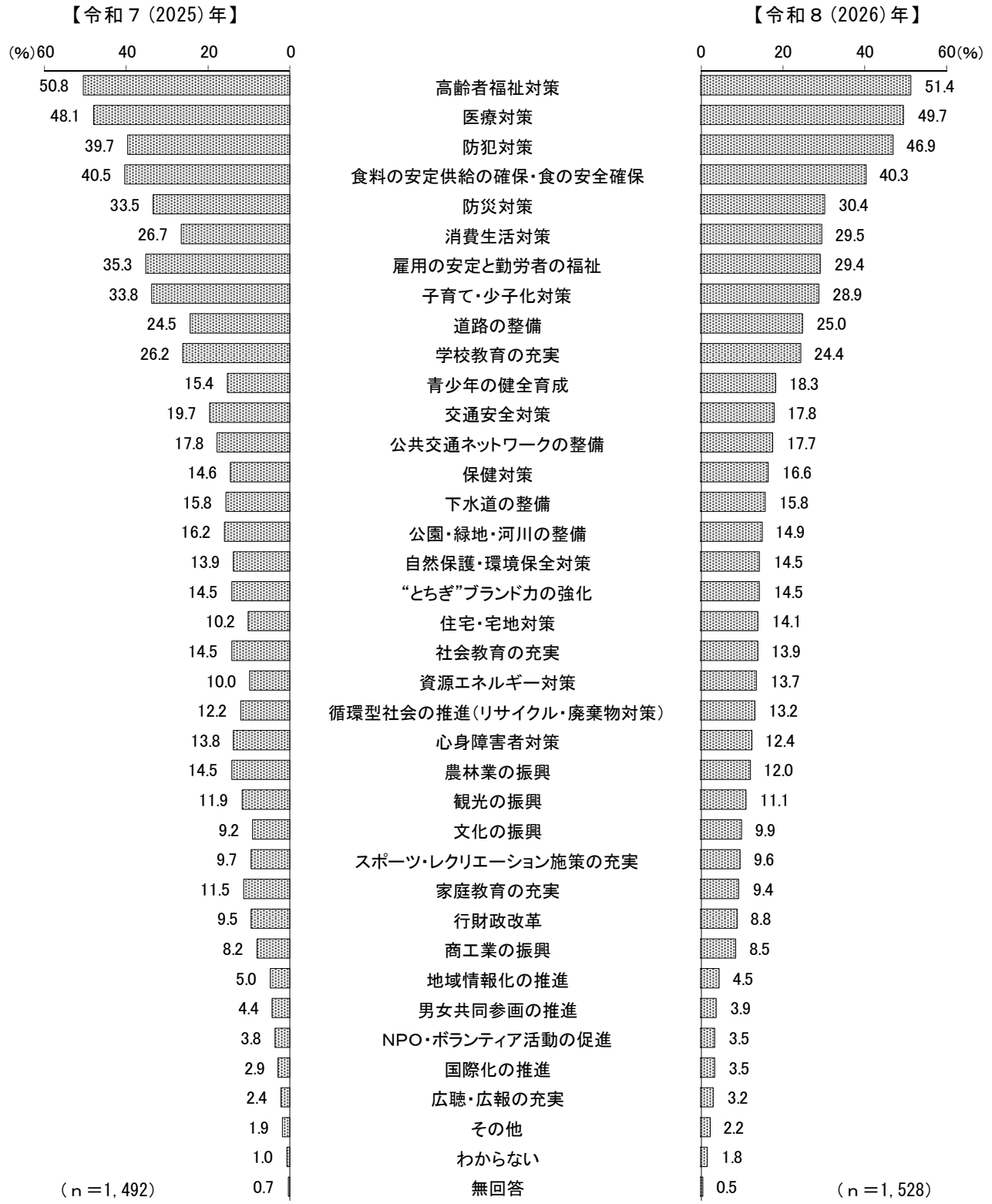
地域別でみると、大きな傾向の違いはみられない。

２　県政への要望について

（１）県政への要望

問６　県では、皆様のご理解とご協力を得ながら、「共に創る 人も地域も輝く“元気なとちぎ”」をめざして様々な仕事をしています。あなたが、県政に対して、特に力を入れてほしいことは何ですか。次の中からいくつでも選んでください。　［ｎ＝1,528］

1	学校教育の充実	24.4%	19	観光の振興	11.1%
2	青少年の健全育成	18.3	20	雇用の安定と勤労者の福祉	29.4
3	家庭教育の充実	9.4	21	住宅・宅地対策	14.1
4	社会教育の充実	13.9	22	資源エネルギー対策	13.7
5	文化の振興	9.9	23	下水道の整備	15.8
6	スポーツ・レクリエーション施策の充実	9.6	24	公園・緑地・河川の整備	14.9
			25	公共交通ネットワークの整備	17.7
7	ＮＰＯ・ボランティア活動の促進	3.5	26	道路の整備	25.0
8	広聴・広報の充実	3.2	27	地域情報化の推進	4.5
9	国際化の推進	3.5	28	防災対策	30.4
10	子育て・少子化対策	28.9	29	防犯対策	46.9
11	高齢者福祉対策	51.4	30	交通安全対策	17.8
12	心身障害者対策	12.4	31	消費生活対策	29.5
13	医療対策	49.7	32	自然保護・環境保全対策	14.5
14	保健対策	16.6	33	循環型社会の推進（リサイクル・廃棄物対策）	13.2
15	男女共同参画の推進	3.9			
16	農林業の振興	12.0	34	行財政改革	8.8
17	食料の安定供給の確保・食の安全確保	40.3	35	“とちぎ”ブランド力の強化	14.5
			36	その他	2.2
18	商工業の振興	8.5	37	わからない	1.8
				（無回答）	0.5

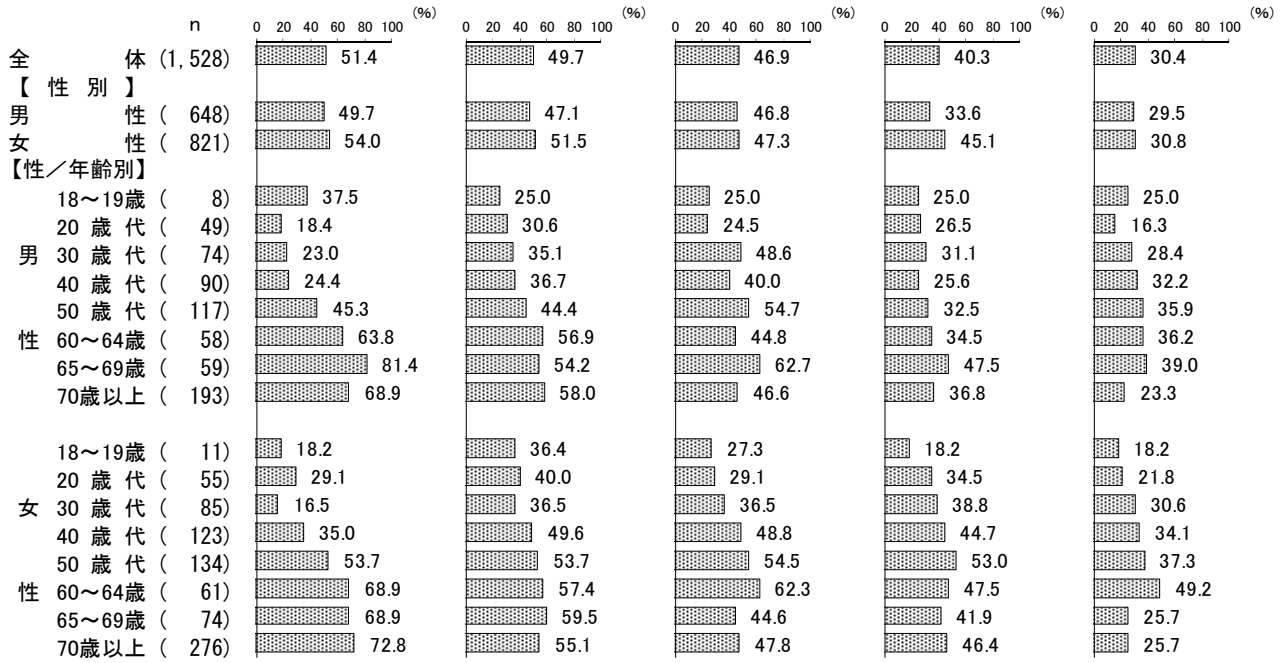


全体でみると、「高齢者福祉対策」(51.4%) が５割強で最も高く、次いで「医療対策」(49.7%)、「防犯対策」(46.9%)、「食料の安定供給の確保・食の安全確保」(40.3%)、「防災対策」(30.4%)、「消費生活対策」(29.5%)、「雇用の安定と勤労者の福祉」(29.4%)、「子育て・少子化対策」(28.9%) なっている。

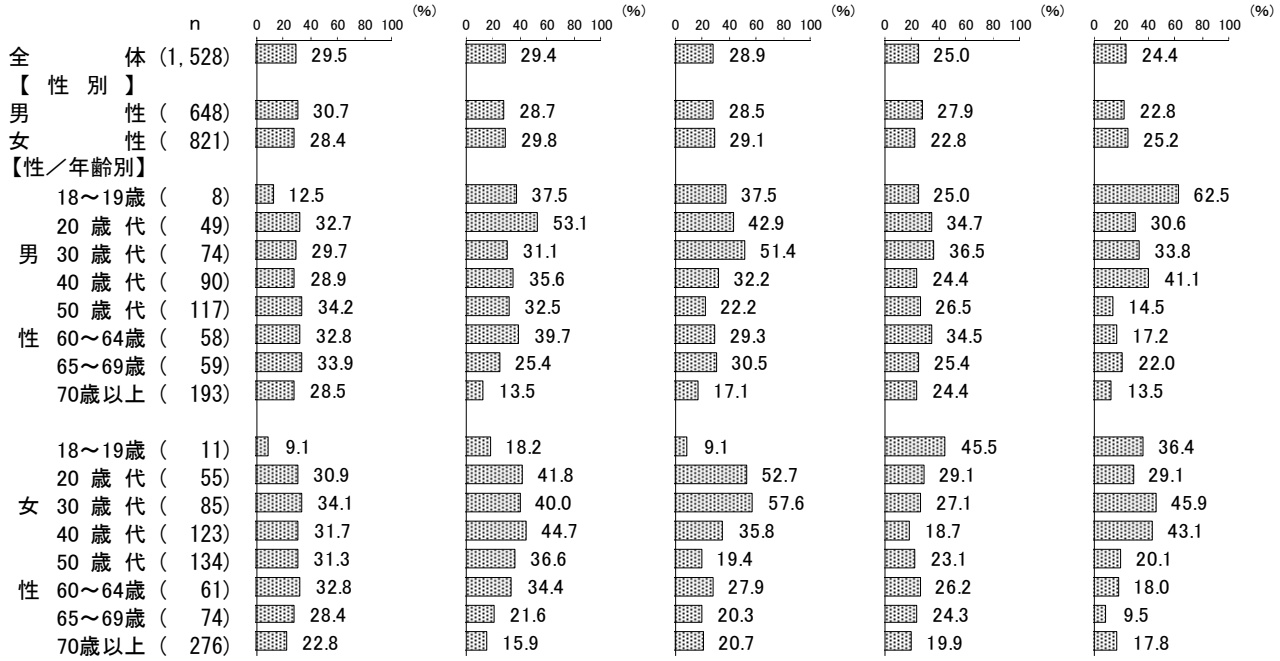
前回（令和７(2025)年）の調査結果と比較すると、「防犯対策」が7.2ポイント増加している。一方、「雇用の安定と勤労者の福祉」が5.9ポイント減少している。

［性別・性／年齢別］（上位 10 項目）

□高齢者福祉対策　□医療対策　□防犯対策　□食料の安定供給の確保・食の安全確保　□防災対策



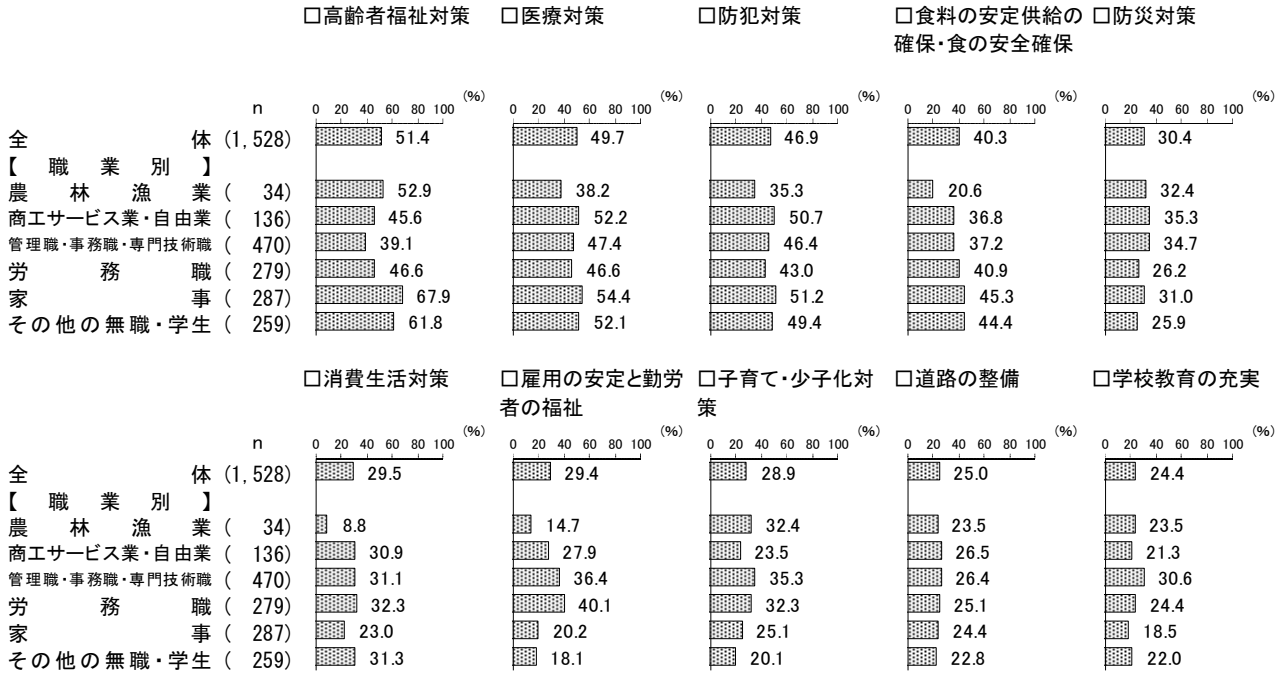
□消費生活対策　□雇用の安定と勤労者の福祉　□子育て・少子化対策　□道路の整備　□学校教育の充実



上位10項目について、性別でみると、「食料の安定供給の確保・食の安全確保」では〈女性〉(45.1%)が〈男性〉(33.6%)より11.5ポイント高くなっている。一方、「道路の整備」では〈男性〉(27.9%)が〈女性〉(22.8%)より5.1ポイント高くなっている。

性／年齢別でみると、「高齢者福祉対策」では〈男性65～69歳〉が81.4%、〈女性70歳以上〉が72.8%、〈男性70歳以上〉が68.9%、〈女性60～64歳〉が68.9%、〈女性65～69歳〉が68.9%、〈男性60～64歳〉が63.8%と高くなっている。「医療対策」では〈男性20歳代〉が30.6%、〈男性30歳代〉が35.1%、〈女性30歳代〉が36.5%、〈男性40歳代〉が36.7%と低くなっている。「防犯対策」では〈男性65～69歳〉が62.7%、〈女性60～64歳〉が62.3%と高くなっている。「食料の安定供給の確保・食の安全確保」では〈女性50歳代〉が53.0%と高くなっている。「防災対策」では〈女性60～64歳〉が49.2%と高くなっている。「雇用の安定と勤労者の福祉」では〈男性20歳代〉が53.1%、〈女性40歳代〉が44.7%、〈女性20歳代〉が41.8%、〈女性30歳代〉が40.0%、〈男性60～64歳〉が39.7%と高くなっている。「子育て・少子化対策」では〈女性30歳代〉が57.6%、〈女性20歳代〉が52.7%、〈男性30歳代〉が51.4%、〈男性20歳代〉が42.9%と高くなっている。「道路の整備」では〈男性30歳代〉が36.5%と高くなっている。「学校教育の充実」では〈女性30歳代〉が45.9%、〈女性40歳代〉が43.1%、〈男性40歳代〉が41.1%と高くなっている。

［職業別］（上位 10 項目）



上位10項目について、職業別でみると、「高齢者福祉対策」では〈家事〉が67.9%、〈その他の無職・学生〉が61.8%と高くなっている。「雇用の安定と勤労者の福祉」では〈労務職〉が40.1%と高くなっている。

［過去の調査結果－年齢別］

（上位５項目）

年齢	順位／年	１　位	２　位	３　位	４　位	５　位
全体	令和８(2026)年（ｎ＝1,528）	高齢者福祉対策 51.4%	医療対策 49.7%	防犯対策 46.9%	食料の安定供給の確保・食の安全確保 40.3%	防災対策 30.4%
	令和７(2025)年（ｎ＝1,492）	高齢者福祉対策 50.8%	医療対策 48.1%	食料の安定供給の確保・食の安全確保 40.5%	防犯対策 39.7%	雇用の安定と勤労者の福祉 35.3%
	令和６(2024)年（ｎ＝1,271）	高齢者福祉対策 55.6%	医療対策 50.9%	子育て・少子化対策 41.2%	防災対策 36.4%	防犯対策 33.8%
	令和５(2023)年（ｎ＝1,115）	高齢者福祉対策 56.4%	医療対策 49.6%	子育て・少子化対策 36.9%	食料の安定供給の確保・食の安全確保 35.9%	雇用の安定と勤労者の福祉 35.1%
	令和４(2022)年（ｎ＝1,236）	高齢者福祉対策 52.7%	医療対策 47.2%	雇用の安定と勤労者の福祉 35.6%	子育て・少子化対策 35.4%	防災対策 33.7%
20～39歳	令和８(2026)年（ｎ＝278）	子育て・少子化対策 51.8%	雇用の安定と勤労者の福祉 41.7%	防犯対策 37.4%	医療対策 37.1%	学校教育の充実 36.3%
	令和７(2025)年（ｎ＝273）	子育て・少子化対策 49.5%	雇用の安定と勤労者の福祉 41.8%	学校教育の充実 40.3%	医療対策 38.8%	食料の安定供給の確保・食の安全確保 35.5%
	令和６(2024)年（ｎ＝236）	子育て・少子化対策 55.5%	医療対策 46.6%	学校教育の充実 44.9%	防災対策 37.7%	防犯対策 36.0%
	令和５(2023)年（ｎ＝188）	子育て・少子化対策 59.0%	雇用の安定と勤労者の福祉 46.3%	学校教育の充実 44.1%	医療対策 43.1%	防犯対策 33.5%
	令和４(2022)年（ｎ＝213）	子育て・少子化対策 52.1%	雇用の安定と勤労者の福祉 43.7%	医療対策 41.8%	学校教育の充実 40.4%	防災対策 37.6%
40～59歳	令和８(2026)年（ｎ＝484）	防犯対策 49.6%	医療対策 47.3%	食料の安定供給の確保・食の安全確保 40.5%	高齢者福祉対策 40.1%	雇用の安定と勤労者の福祉 37.0%
	令和７(2025)年（ｎ＝484）	医療対策 48.1%	雇用の安定と勤労者の福祉 47.7%	高齢者福祉対策 43.4%	防犯対策 42.1%	食料の安定供給の確保・食の安全確保 39.9%
	令和６(2024)年（ｎ＝382）	医療対策 49.2%	高齢者福祉対策／子育て・少子化対策 46.1%		学校教育の充実 40.3%	雇用の安定と勤労者の福祉 40.1%
	令和５(2023)年（ｎ＝329）	医療対策 55.0%	高齢者福祉対策 51.1%	雇用の安定と勤労者の福祉 45.0%	子育て・少子化対策 38.6%	防犯対策 34.7%
	令和４(2022)年（ｎ＝379）	医療対策 53.6%	高齢者福祉対策 50.1%	雇用の安定と勤労者の福祉 46.2%	子育て・少子化対策 39.6%	学校教育の充実／防災対策 34.8%
60～69歳	令和８(2026)年（ｎ＝255）	高齢者福祉対策 69.8%	医療対策 56.5%	防犯対策 53.3%	食料の安定供給の確保・食の安全確保 43.1%	防災対策 36.9%
	令和７(2025)年（ｎ＝246）	高齢者福祉対策 61.0%	医療対策 48.0%	防犯対策 40.2%	食料の安定供給の確保・食の安全確保 39.0%	防災対策 34.6%
	令和６(2024)年（ｎ＝227）	高齢者福祉対策 72.2%	医療対策 62.1%	防災対策 42.3%	食料の安定供給の確保・食の安全確保 37.4%	子育て・少子化対策 36.6%
	令和５(2023)年（ｎ＝221）	高齢者福祉対策 67.4%	医療対策 51.6%	食料の安定供給の確保・食の安全確保 38.0%	防犯対策 37.6%	防災対策 35.7%
	令和４(2022)年（ｎ＝228）	高齢者福祉対策 61.4%	医療対策 46.9%	防災対策 32.0%	雇用の安定と勤労者の福祉 31.6%	子育て・少子化対策 30.7%
70歳以上	令和８(2026)年（ｎ＝471）	高齢者福祉対策 71.3%	医療対策 56.5%	防犯対策 47.3%	食料の安定供給の確保・食の安全確保 42.5%	消費生活対策 25.1%
	令和７(2025)年（ｎ＝454）	高齢者福祉対策 74.2%	医療対策 54.4%	食料の安定供給の確保・食の安全確保 45.4%	防犯対策 40.1%	防災対策 33.0%
	令和６(2024)年（ｎ＝401）	高齢者福祉対策 73.8%	医療対策 49.9%	食料の安定供給の確保・食の安全確保 35.9%	防犯対策 35.2%	防災対策 32.9%
	令和５(2023)年（ｎ＝355）	高齢者福祉対策 73.8%	医療対策 47.6%	食料の安定供給の確保・食の安全確保 41.4%	防犯対策 31.8%	防災対策 27.9%
	令和４(2022)年（ｎ＝379）	高齢者福祉対策 67.5%	医療対策 44.1%	食料の安定供給の確保・食の安全確保 37.2%	防災対策 33.0%	防犯対策 26.9%

上位５項目について、全体及び４区分した年齢層別に過去４年の調査結果と比較すると、全体では、令和４(2022)年以降「高齢者福祉対策」が１位、「医療対策」が２位となっている。また、令和６(2024)年以降上位５項目に入っている「防犯対策」は今回調査で３位に上がってきた。一方、令和７(2025)年に上位５項目に入っていた「雇用の安定と勤労者の福祉」は今回調査では入らなかった。代わりに「防災対策」が上位５項目に入ってきた。

20～39歳では、令和４(2022)年以降「子育て・少子化対策」が１位となっており、上位５項目には「学校教育の充実」及び「医療対策」が入っている。また、令和７(2025)年に上位５項目に入っていた「食料の安定供給の確保・食の安全確保」が今回調査では入らなかった。代わりに「防犯対策」が３位に入ってきた。

40～59歳では、令和４(2022)年以降「医療対策」が１位となっていたが、今回調査では２位になり、代わりに「防犯対策」が１位に上がってきた。令和４(2022)年以降、上位５項目には「高齢者福祉対策」及び「雇用の安定と勤労者の福祉」が入っている。

60～69歳では、令和４(2022)年以降、「高齢者福祉対策」が１位、「医療対策」が２位となっている。前回（令和７(2025)年）と上位５項目の順位に変動はない。

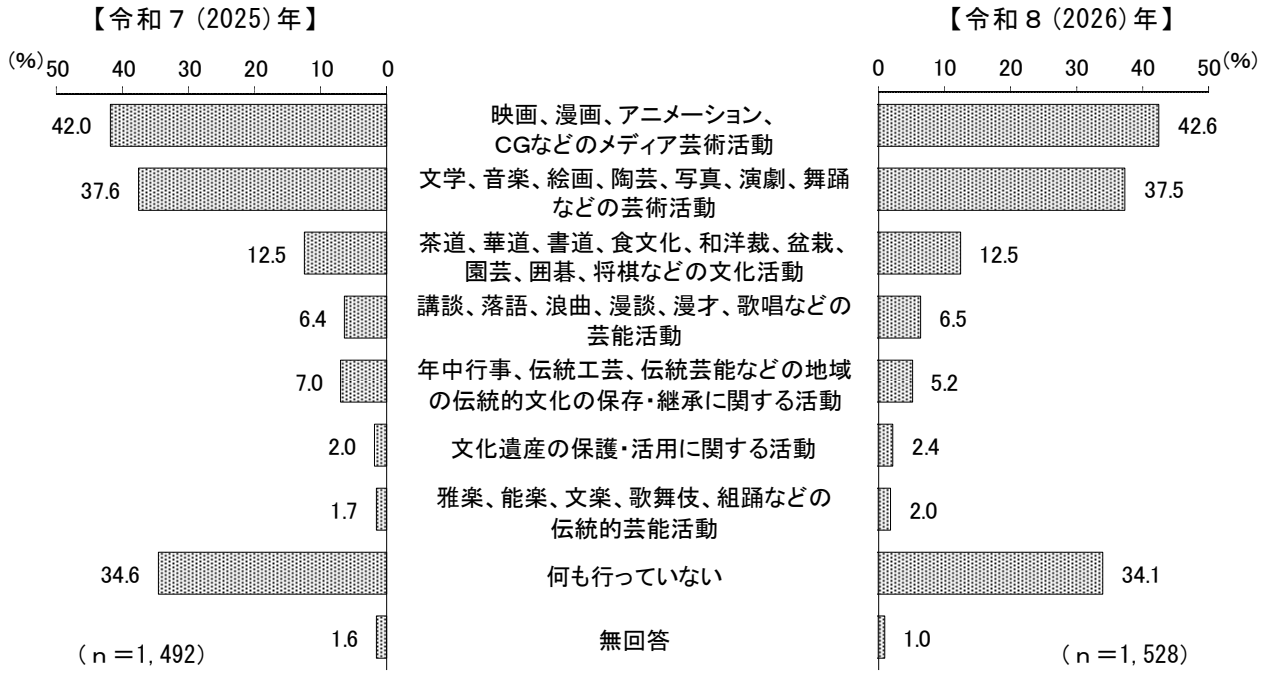
70歳以上では、令和４(2022)年以降、「高齢者福祉対策」が１位、「医療対策」が２位となっている。令和４(2022)年以降、前回（令和７(2025)年）調査まで上位５項目の項目は変わらなかったが、今回調査では「防災対策」の代わりに「消費生活対策」が５位に入ってきた。

３　日常生活について

（１）文化・芸術活動について

問７　あなたが日ごろ行っている文化・芸術活動（鑑賞を含む）は、どのようなものですか。
次の中からいくつでも選んでください。　［ｎ＝1,528］

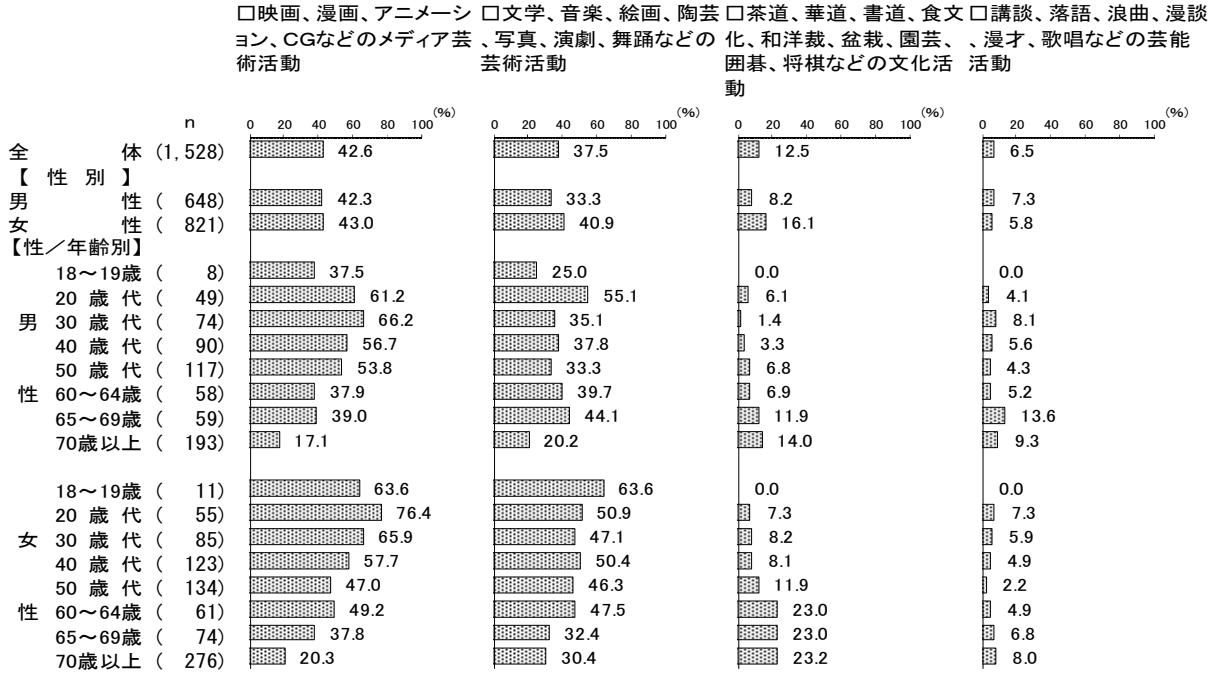
１	文学、音楽、絵画、陶芸、写真、演劇、舞踊などの芸術活動	37.5％
２	映画、漫画、アニメーション、ＣＧなどのメディア芸術活動	42.6
３	雅楽、能楽、文楽、歌舞伎、組踊などの伝統的芸能活動	2.0
４	講談、落語、浪曲、漫談、漫才、歌唱などの芸能活動	6.5
５	茶道、華道、書道、食文化、和洋裁、盆栽、園芸、囲碁、将棋などの文化活動	12.5
６	年中行事、伝統工芸、伝統芸能などの地域の伝統的文化の保存・継承に関する活動	5.2
７	文化遺産の保護・活用に関する活動	2.4
８	何も行っていない	34.1
	（無回答）	1.0



全体でみると、「映画、漫画、アニメーション、ＣＧなどのメディア芸術活動（以下『メディア芸術活動』という。）」（42.6％）が４割強で最も高く、次いで「文学、音楽、絵画、陶芸、写真、演劇、舞踊などの芸術活動（以下『芸術活動』という。）」（37.5％）となっている。一方、「何も行っていない」（34.1％）が３割台半ば近くとなっている。

前回（令和７(2025)年）の調査結果と比較すると、大きな傾向の違いはみられない。

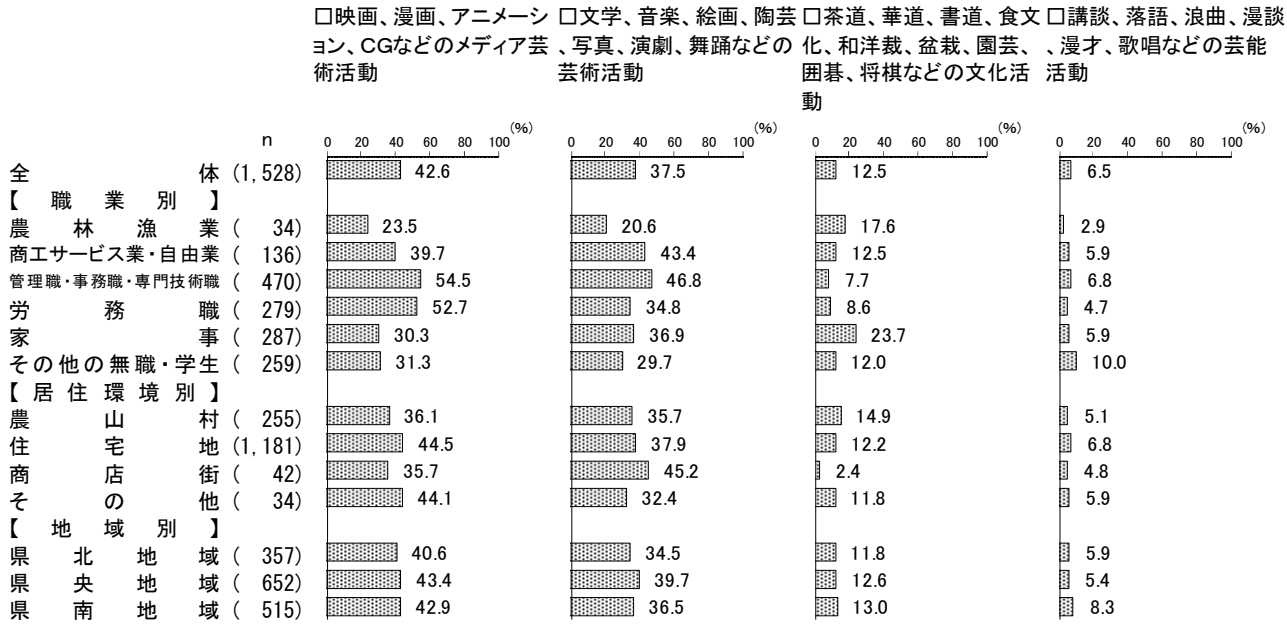
［性別・性／年齢別］

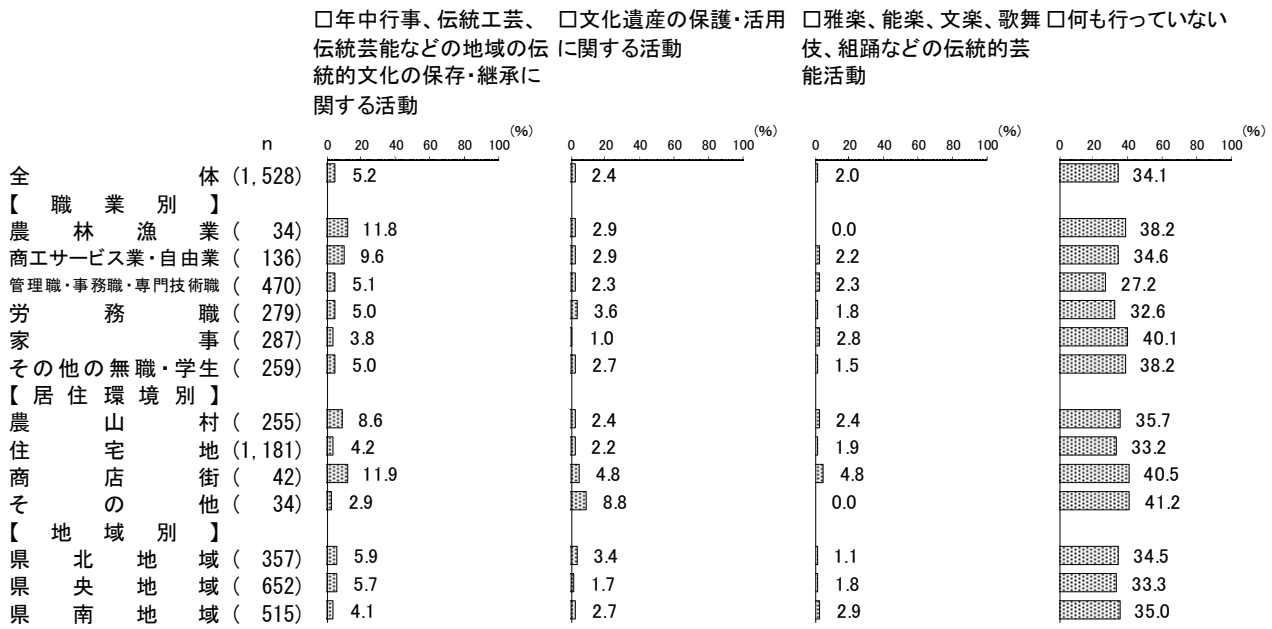


性別でみると、「茶道、華道、書道、食文化、和洋裁、盆栽、園芸、囲碁、将棋などの文化活動（以下『文化活動』という。）」では〈女性〉（16.1%）が〈男性〉（8.2%）より7.9ポイント、『芸術活動』では〈女性〉（40.9%）が〈男性〉（33.3%）より7.6ポイント高くなっている。

性／年齢別でみると、『メディア芸術活動』では〈女性20歳代〉が76.4%、〈男性30歳代〉が66.2%、〈女性30歳代〉が65.9%、〈男性20歳代〉が61.2%、〈女性40歳代〉が57.7%、〈男性40歳代〉が56.7%、〈男性50歳代〉が53.8%と高くなっている。『芸術活動』では〈男性20歳代〉が55.1%、〈女性20歳代〉が50.9%、〈女性40歳代〉が50.4%、〈女性60～64歳〉が47.5%と高くなっている。『文化活動』では〈女性70歳以上〉が23.2%、〈女性60～64歳〉及び〈女性65～69歳〉がともに23.0%と高くなっている。一方、「何も行っていない」では〈男性70歳以上〉が48.7%、〈女性70歳以上〉が44.6%と高くなっている。

［職業別・居住環境別・地域別］





職業別でみると、『メディア芸術活動』では〈管理職・事務職・専門技術職〉が54.5%、〈労務職〉が52.7%と高くなっている。『芸術活動』では〈農林漁業〉が20.6%と低くなっている。『文化活動』では〈家事〉が23.7%と高くなっている。

居住環境別でみると、『文化活動』では〈商店街〉が2.4%と低くなっている。

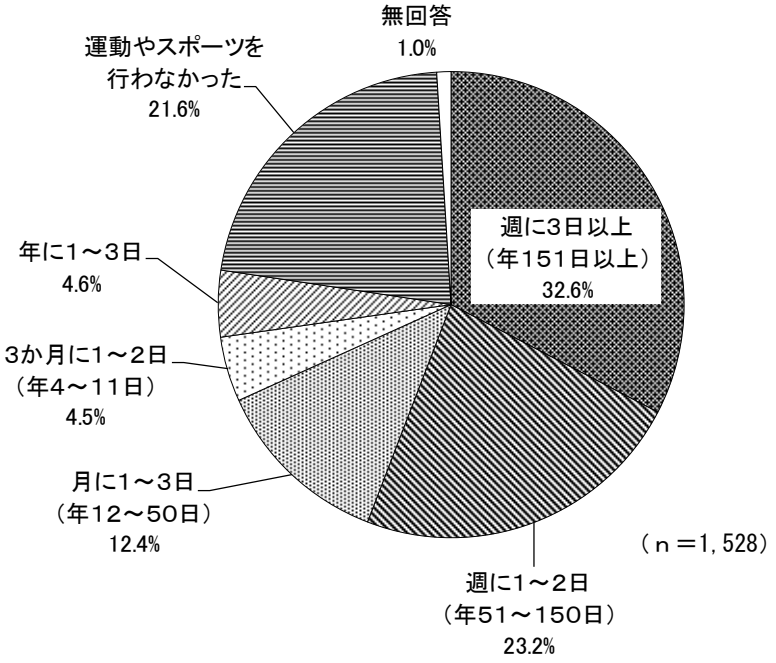
地域別でみると、大きな傾向の違いはみられない。

（２）スポーツ活動について

問８　あなたは、この１年間にどの程度運動やスポーツ（※）を行いましたか。次の中から１つ選んでください。　［ｎ＝1,528］

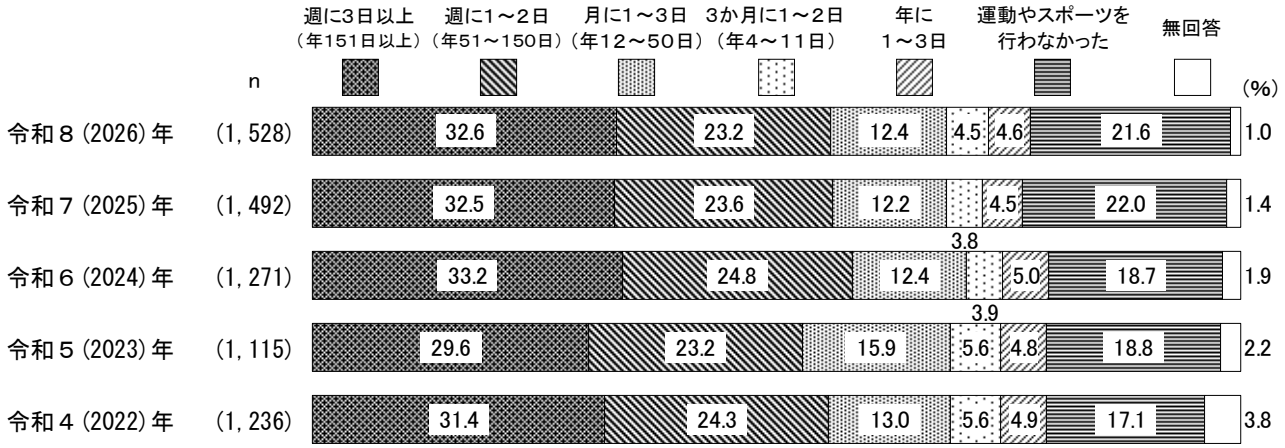
※　ここでは「運動やスポーツ」を、「散歩や階段昇降など、健康・体力や美容の保持増進のための活動」や「家事・育児・通勤・通学など日常生活の中で意識的に身体を動かすこと」まで幅広く捉えることとします。

1	週に３日以上（年１５１日以上）	32.6%	4	３か月に１～２日（年４～１１日）	4.5%
2	週に１～２日（年５１～１５０日）	23.2	5	年に１～３日	4.6
3	月に１～３日（年１２～５０日）	12.4	6	運動やスポーツを行わなかった	21.6
				（無回答）	1.0



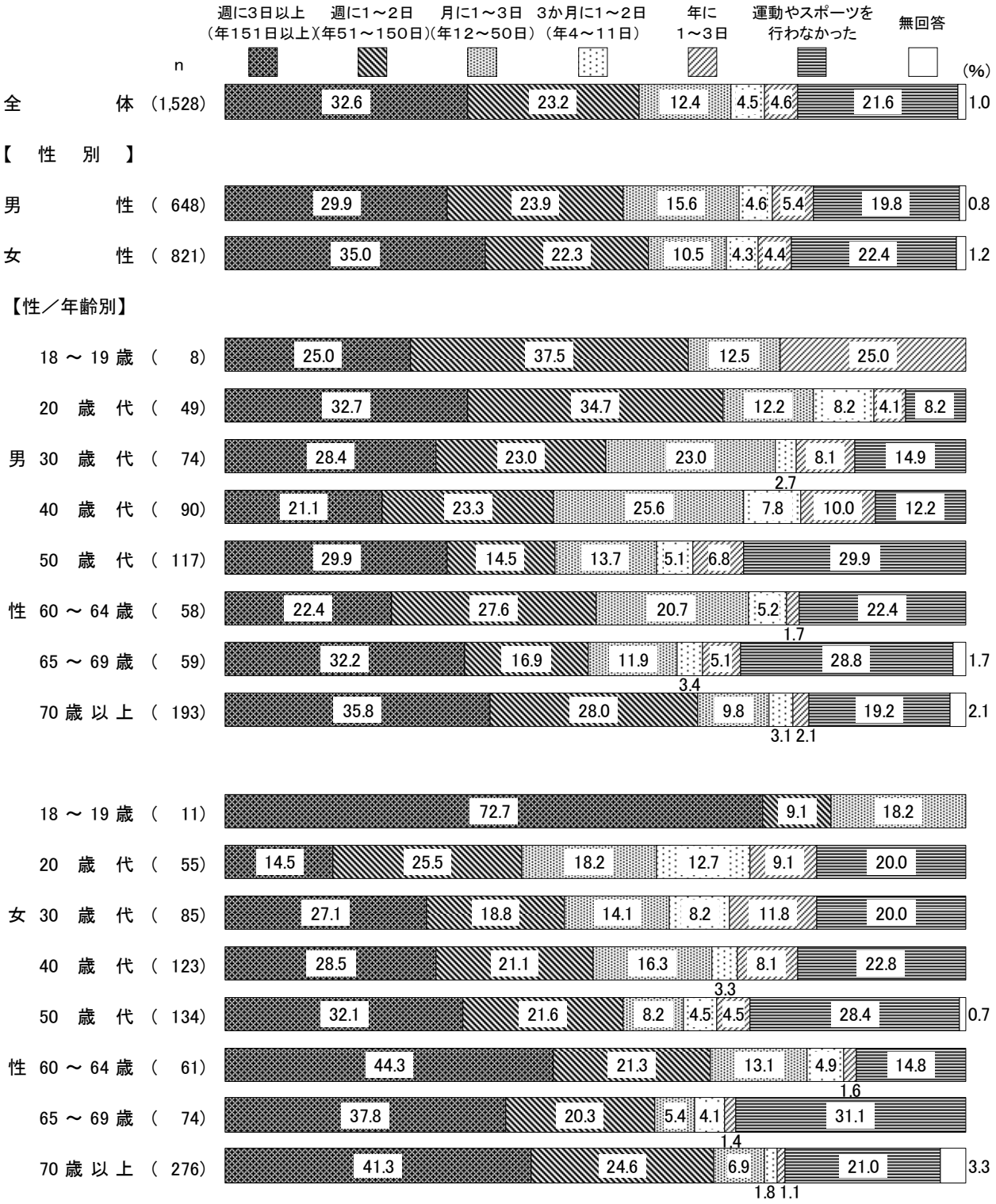
全体でみると、「週に３日以上（年１５１日以上)」(32.6%）が３割強で最も高く、次いで「週に１～２日（年５１～１５０日)」(23.2%)、「月に１～３日（年１２～５０日)」(12.4%）となっている。一方、「運動やスポーツを行わなかった」(21.6%）が２割強となっている。

［過去の調査結果］



過去の調査結果と比較すると、大きな傾向の違いはみられない。

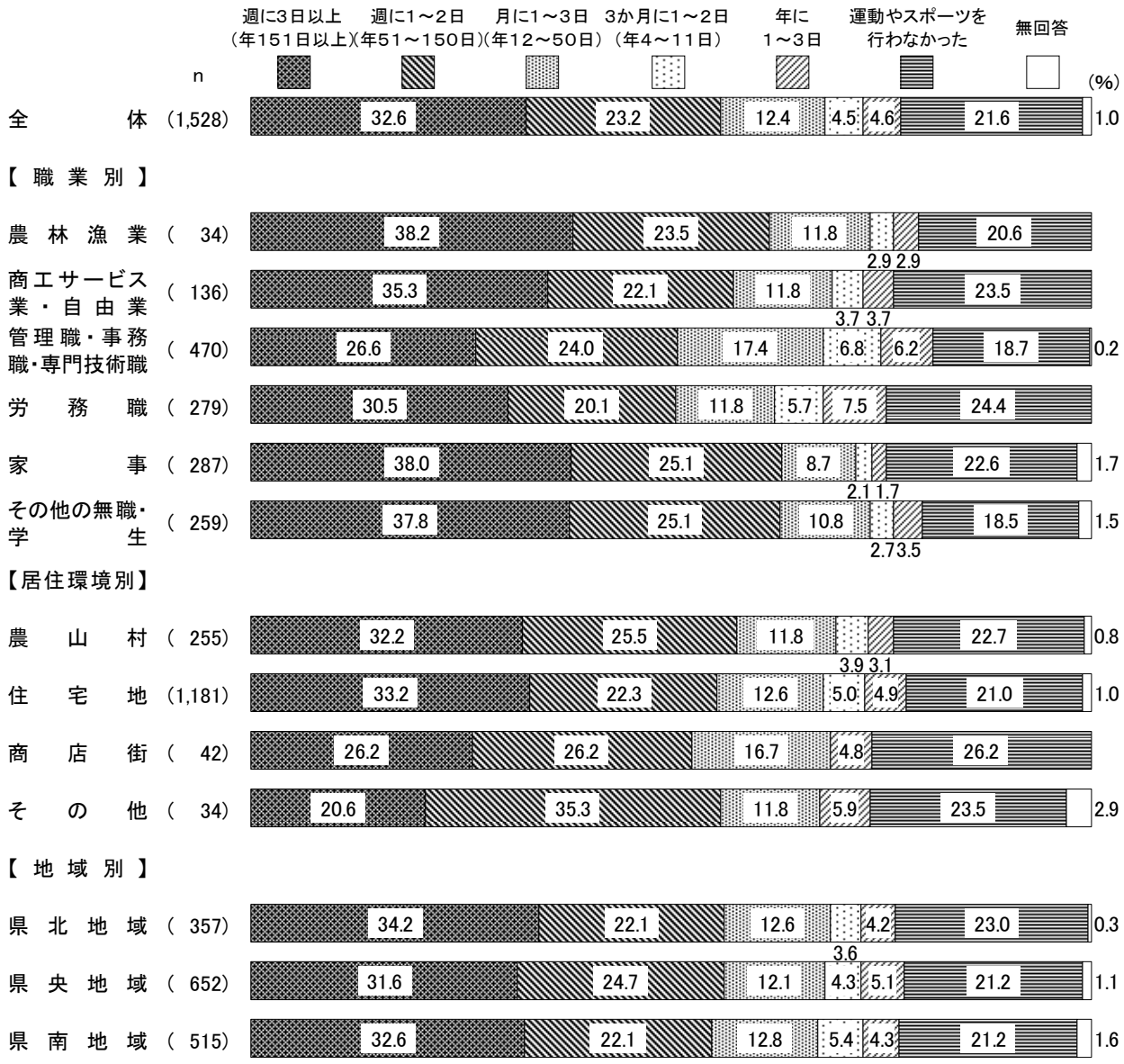
［性別・性／年齢別］



性別でみると、「週に３日以上（年１５１日以上)」では〈女性〉(35.0%）が〈男性〉(29.9%）より5.1ポイント高くなっている。一方、「月に１～３日（年１２～５０日)」では〈男性〉(15.6%）が〈女性〉(10.5%）より5.1ポイント高くなっている。

性／年齢別でみると、「週に３日以上（年１５１日以上)」では〈女性60～64歳〉が44.3%と高くなっている。「週に１～２日（年５１～１５０日)」では〈男性20歳代〉が34.7%と高くなっている。「月に１～３日（年１２～５０日)」では〈男性40歳代〉が25.6%、〈男性30歳代〉が23.0%と高くなっている。

［職業別・居住環境別・地域別］



職業別でみると、大きな傾向の違いはみられない。

居住環境別でみると、大きな傾向の違いはみられない。

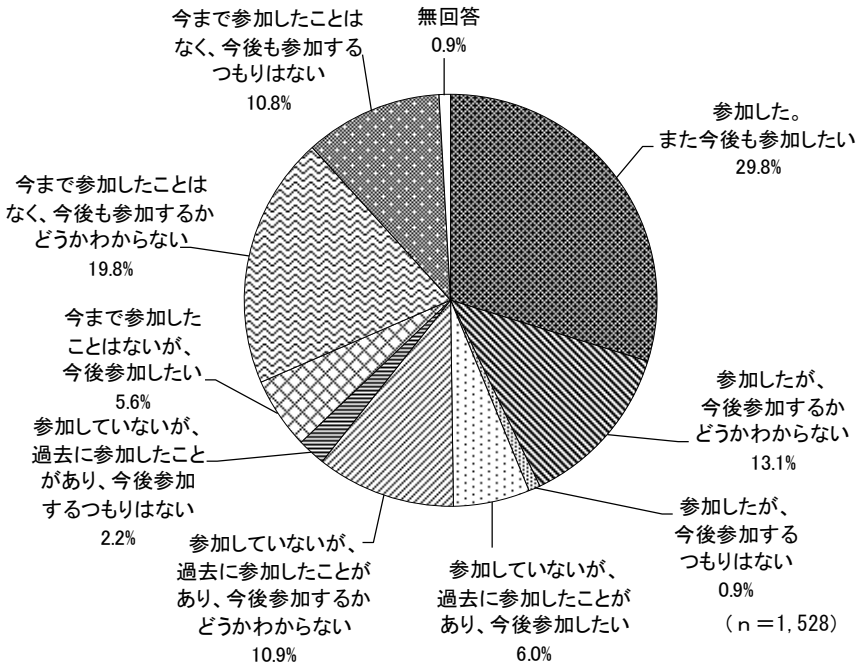
地域別でみると、大きな傾向の違いはみられない。

（３）社会貢献活動について

問９　あなたは、この１年間に社会貢献活動（※）に参加しましたか。また、今後参加したいと思いますか。次の中から１つ選んでください。　［ｎ＝1,528］

※　社会貢献活動とは、例えば、募金、寄附、プルタブ・エコキャップなどの物品収集、公園清掃などの活動、ボランティアやＮＰＯ（非営利活動団体）活動、コミュニティ活動、自治会、育成会などの地域活動などをいいます。

１	参加した。また今後も参加したい	29.8%
２	参加したが、今後参加するかどうかわからない	13.1
３	参加したが、今後参加するつもりはない	0.9
４	参加していないが、過去に参加したことがあり、今後参加したい	6.0
５	参加していないが、過去に参加したことがあり、今後参加するかどうかわからない	10.9
６	参加していないが、過去に参加したことがあり、今後参加するつもりはない	2.2
７	今まで参加したことはないが、今後参加したい	5.6
８	今まで参加したことはなく、今後も参加するかどうかわからない	19.8
９	今まで参加したことはなく、今後も参加するつもりはない	10.8
	（無回答）	0.9

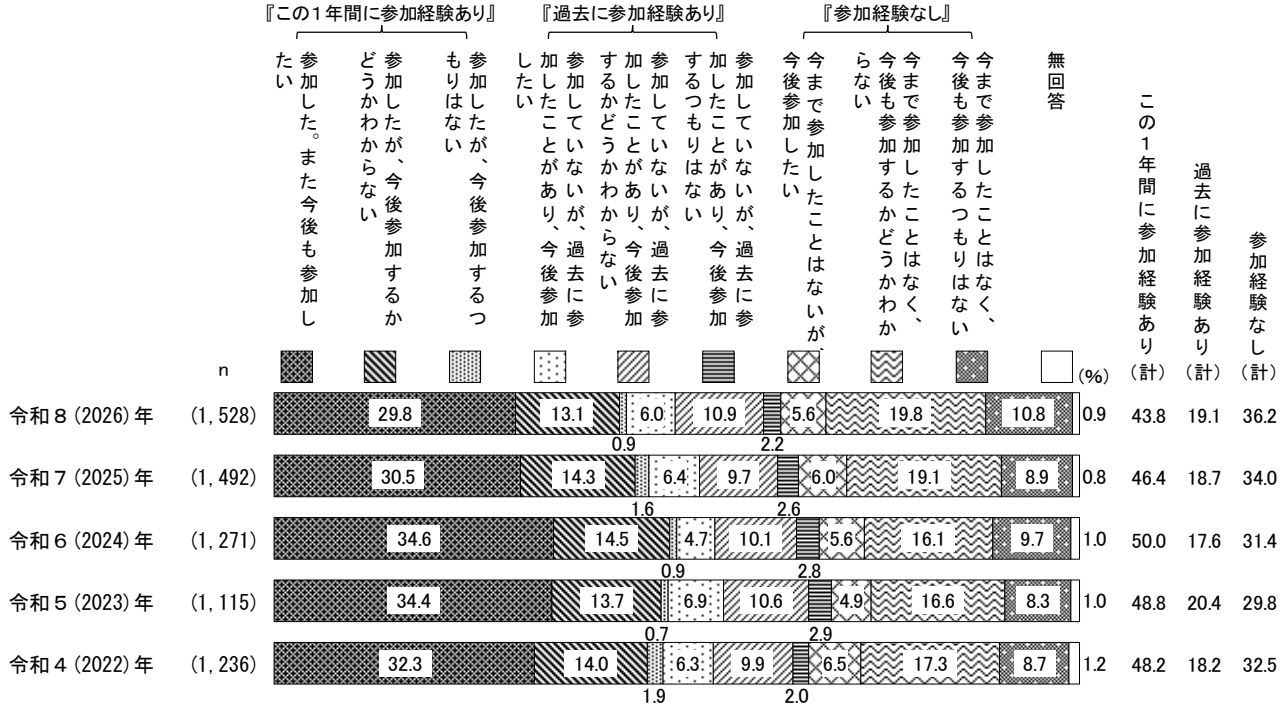


全体でみると、「参加した。また今後も参加したい」（29.8%）、「参加したが、今後参加するかどうかわからない」（13.1%）と「参加したが、今後参加するつもりはない」（0.9%）の３つを合わせた『この１年間に参加経験あり』（43.8%）が４割台半ば近くとなっている。

「参加していないが、過去に参加したことがあり、今後参加したい」（6.0%）、「参加していないが、過去に参加したことがあり、今後参加するかどうかわからない」（10.9%）と「参加していないが、過去に参加したことがあり、今後参加するつもりはない」（2.2%）の３つを合わせた『過去に参加経験あり』（19.1%）が２割弱となっている。

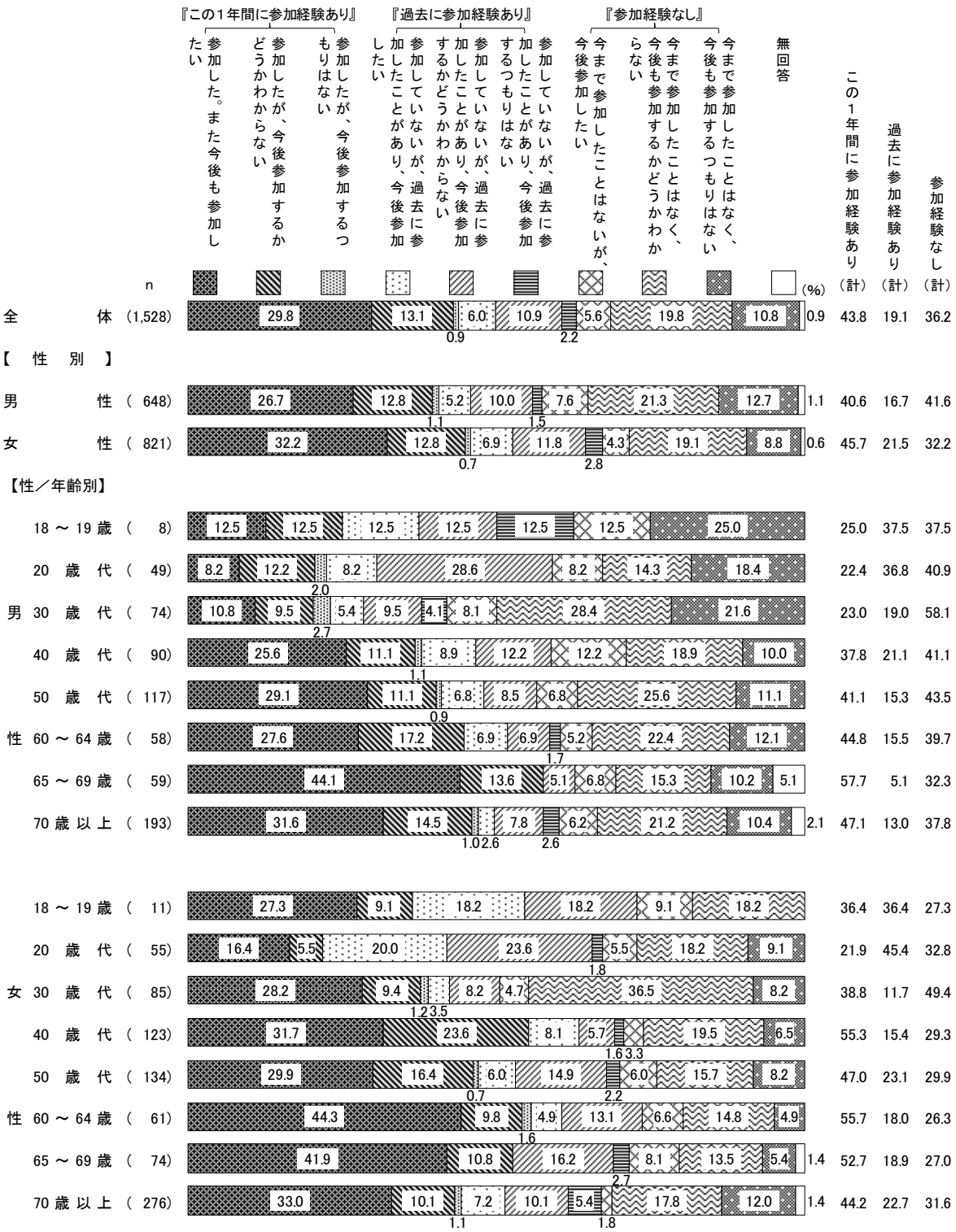
「今まで参加したことはないが、今後参加したい」（5.6%）、「今まで参加したことはなく、今後も参加するかどうかわからない」（19.8%）と「今まで参加したことはなく、今後も参加するつもりはない」（10.8%）の３つを合わせた『参加経験なし』（36.2%）が３割台半ばを超えている。

［過去の調査結果］



過去の調査結果と比較すると、前回（令和７(2025)年）と大きな傾向の違いはみられない。

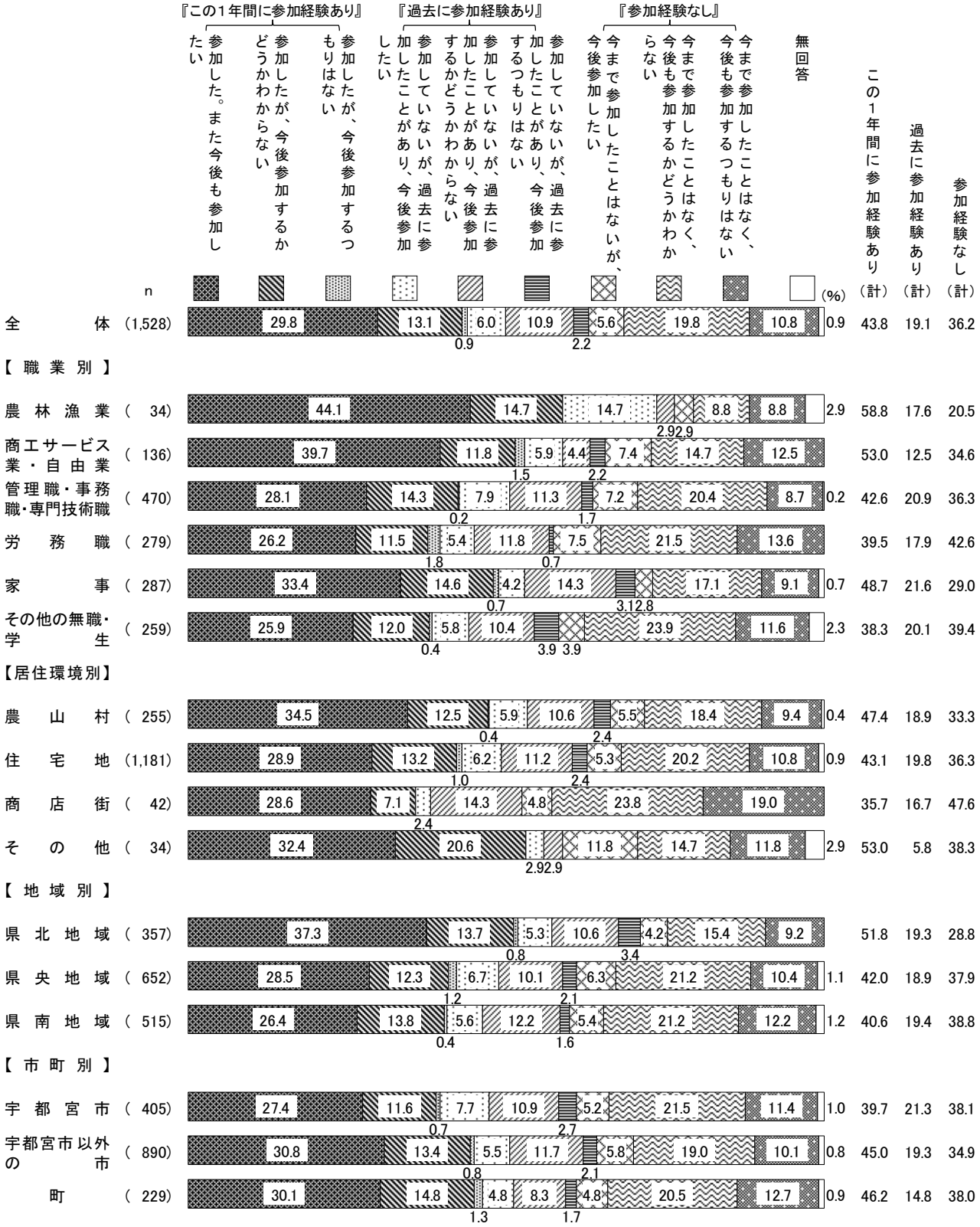
［性別・性／年齢別］



性別でみると、『参加経験なし』では〈男性〉（41.6%）が〈女性〉（32.2%）より9.4ポイント高くなっている。一方、『この１年間に参加経験あり』では〈女性〉（45.7%）が〈男性〉（40.6%）より5.1ポイント高くなっている。

性／年齢別でみると、『この１年間に参加経験あり』では〈男性65～69歳〉が57.7%、〈女性60～64歳〉が55.7%、〈女性40歳代〉が55.3%と高くなっている。『過去に参加経験あり』では〈女性20歳代〉が45.4%、〈男性20歳代〉が36.8%と高くなっている。『参加経験なし』では〈男性30歳代〉が58.1%、〈女性30歳代〉が49.4%と高くなっている。

［職業別・居住環境別・地域別・市町別］



職業別でみると、『この１年間に参加経験あり』では〈農林漁業〉が58.8％と高くなっている。

居住環境別でみると、『参加経験なし』では〈商店街〉が47.6％と高くなっている。

地域別でみると、大きな傾向の違いはみられない。

市町別でみると、大きな傾向の違いはみられない。

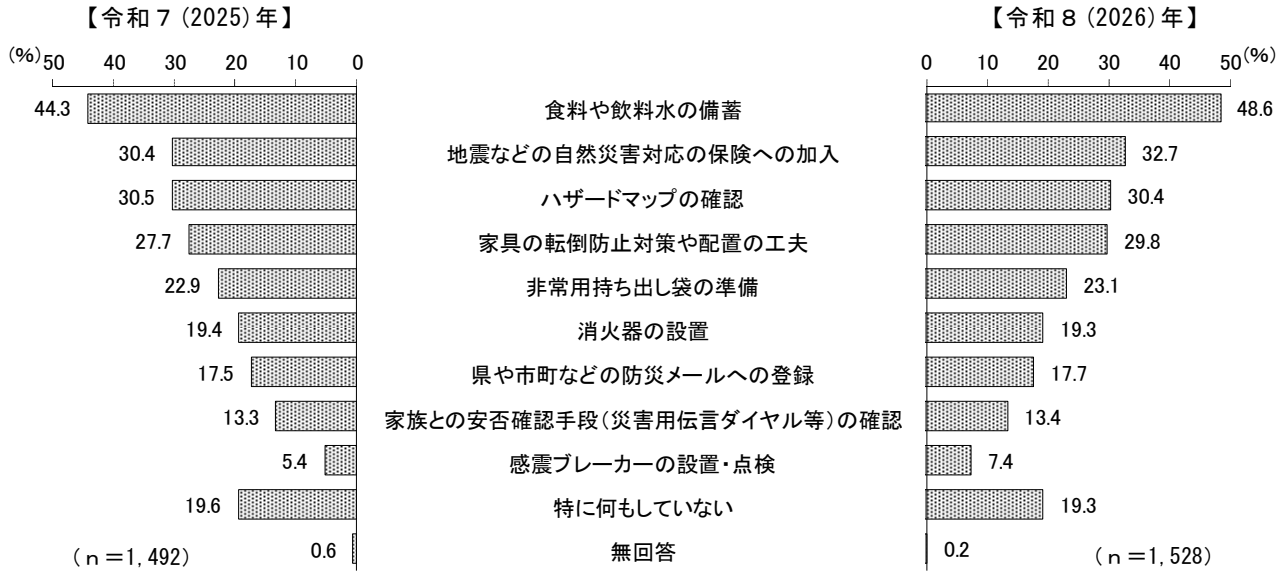
４　防災対策について

（１）災害に対する備え

問10　あなたの家庭では、災害に対してどのような備えをしていますか。次の中からいくつでも選んでください。　［ｎ＝1,528］

1	家具の転倒防止対策や配置の工夫	29.8%
2	ハザードマップの確認	30.4
3	非常用持ち出し袋の準備	23.1
4	食料や飲料水の備蓄	48.6
5	消火器の設置	19.3
6	感震ブレーカー（※）の設置・点検	7.4
7	県や市町などの防災メールへの登録	17.7
8	地震などの自然災害対応の保険への加入	32.7
9	家族との安否確認手段（災害用伝言ダイヤル等）の確認	13.4
10	特に何もしていない	19.3
	（無回答）	0.2

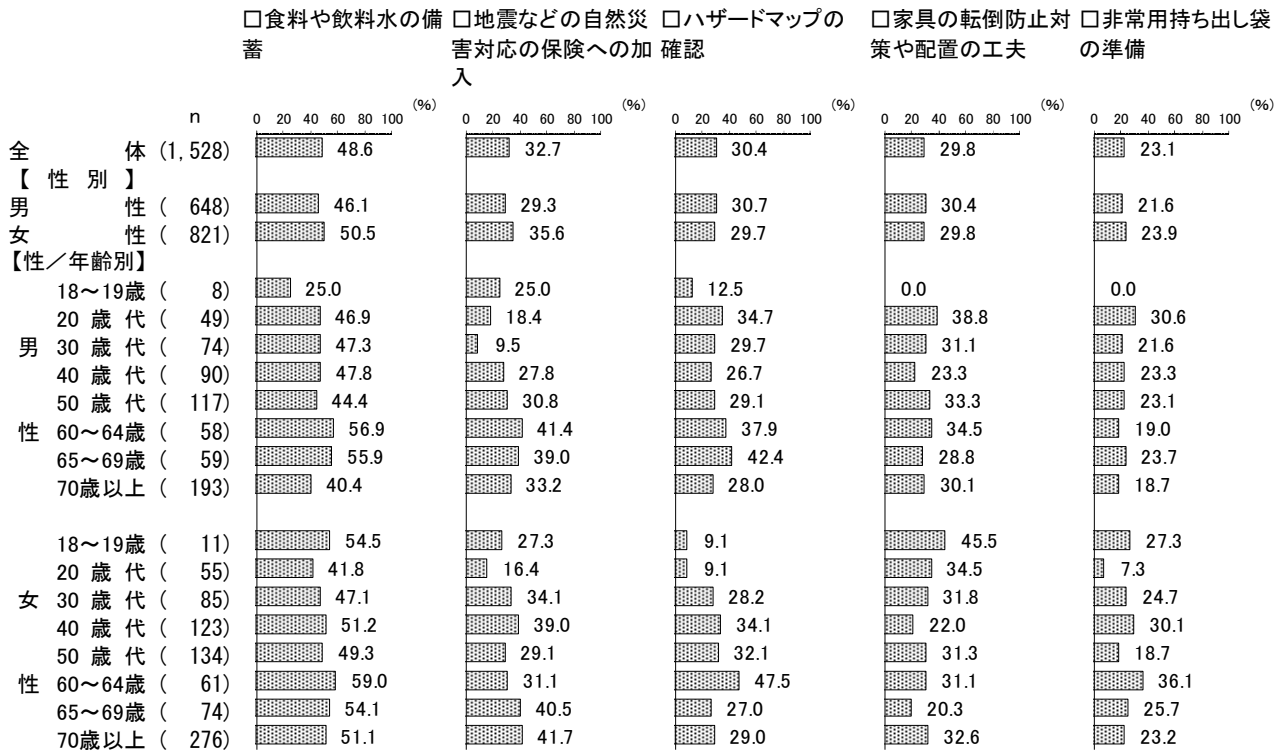
※　感震ブレーカーとは、地震の揺れをセンサーが感知し、あらかじめ設定しておいた震度以上の場合に電力の供給を遮断する器具をいいます。

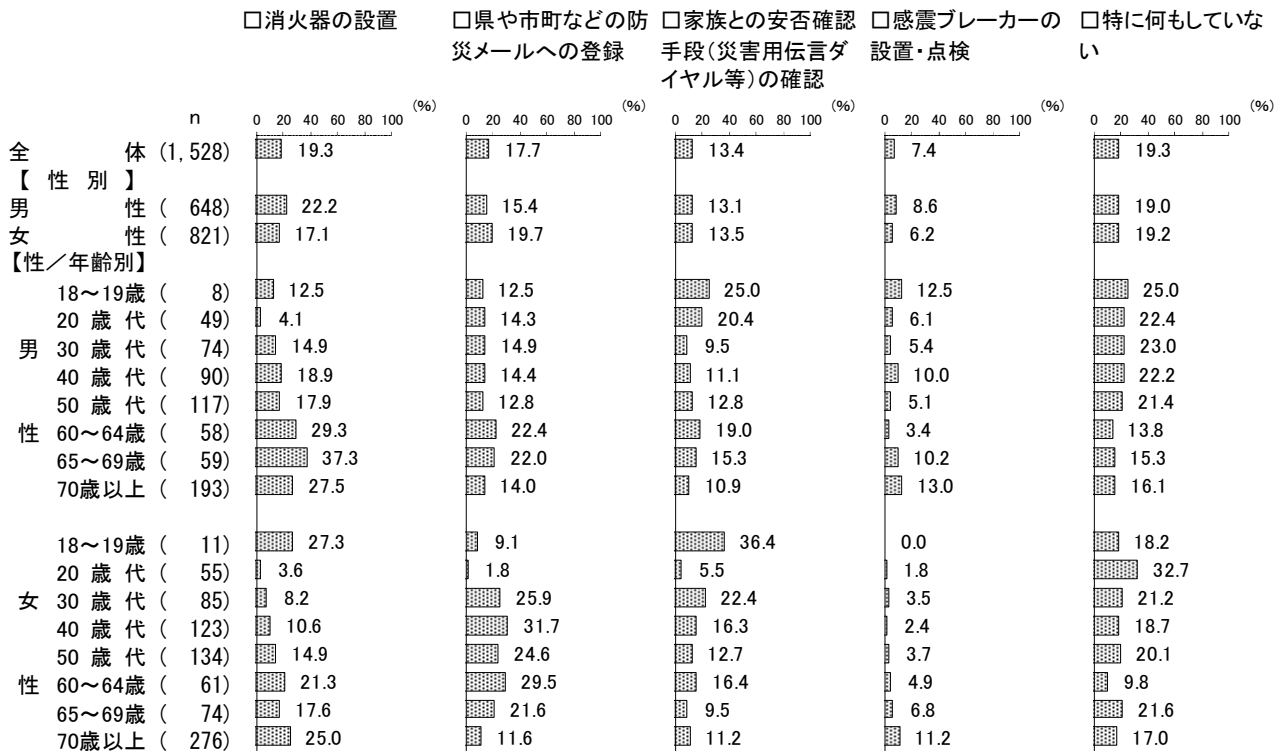


全体でみると、「食料や飲料水の備蓄」（48.6%）が５割近くで最も高く、次いで「地震などの自然災害対応の保険への加入」（32.7%）、「ハザードマップの確認」（30.4%）、「家具の転倒防止対策や配置の工夫」（29.8%）、「非常用持ち出し袋の準備」（23.1%）となっている。一方、「特に何もしていない」（19.3%）が２割弱となっている。

前回（令和７(2025)年）の調査結果と比較すると、「食料や飲料水の備蓄」が4.3ポイント増加している。

［性別・性／年齢別］

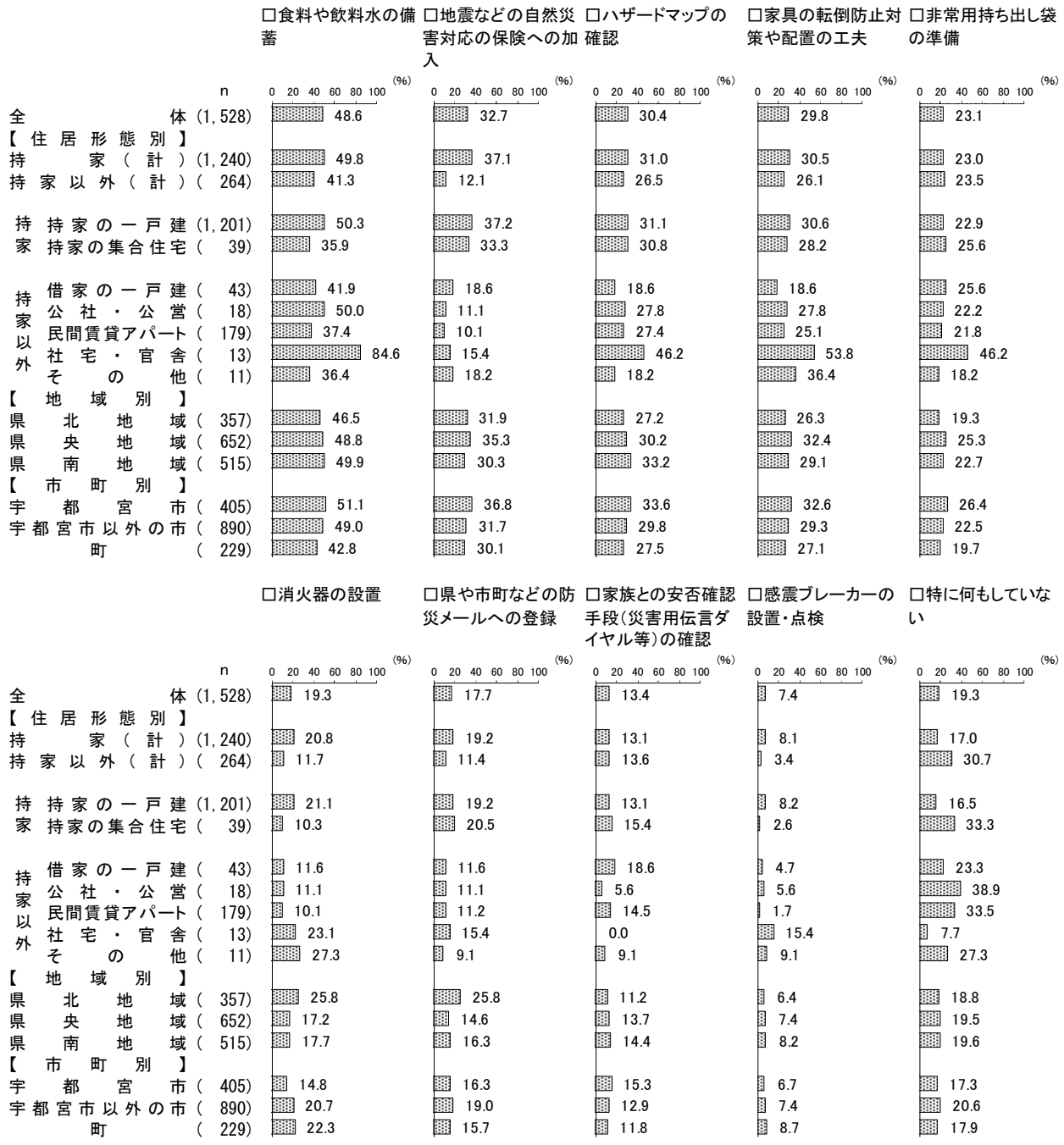

□食料や飲料水の備蓄
□地震などの自然災害対応の保険への加入
□ハザードマップの確認
□家具の転倒防止対策や配置の工夫
□非常用持ち出し袋の準備
n
0 20 40 60 80 100 (%)
全体 (1,528) 48.6 32.7 30.4 29.8 23.1
【性別】
男性 (648) 46.1 29.3 30.7 30.4 21.6
女性 (821) 50.5 35.6 29.7 29.8 23.9
【性／年齢別】
18～19歳 (8) 25.0 25.0 12.5 0.0 0.0
20歳代 (49) 46.9 18.4 34.7 38.8 30.6
男 30歳代 (74) 47.3 9.5 29.7 31.1 21.6
40歳代 (90) 47.8 27.8 26.7 23.3 23.3
50歳代 (117) 44.4 30.8 29.1 33.3 23.1
性 60～64歳 (58) 56.9 41.4 37.9 34.5 19.0
65～69歳 (59) 55.9 39.0 42.4 28.8 23.7
70歳以上 (193) 40.4 33.2 28.0 30.1 18.7
18～19歳 (11) 54.5 27.3 9.1 45.5 27.3
20歳代 (55) 41.8 16.4 9.1 34.5 7.3
女 30歳代 (85) 47.1 34.1 28.2 31.8 24.7
40歳代 (123) 51.2 39.0 34.1 22.0 30.1
50歳代 (134) 49.3 29.1 32.1 31.3 18.7
性 60～64歳 (61) 59.0 31.1 47.5 31.1 36.1
65～69歳 (74) 54.1 40.5 27.0 20.3 25.7
70歳以上 (276) 51.1 41.7 29.0 32.6 23.2


□消火器の設置
□県や市町などの防災メールへの登録
□家族との安否確認手段(災害用伝言ダイヤル等)の確認
□感震ブレーカーの設置・点検
□特に何もしていない
n
0 20 40 60 80 100 (%)
全体 (1,528) 19.3 17.7 13.4 7.4 19.3
【性別】
男性 (648) 22.2 15.4 13.1 8.6 19.0
女性 (821) 17.1 19.7 13.5 6.2 19.2
【性／年齢別】
18～19歳 (8) 12.5 12.5 25.0 12.5 25.0
20歳代 (49) 4.1 14.3 20.4 6.1 22.4
男 30歳代 (74) 14.9 14.9 9.5 5.4 23.0
40歳代 (90) 18.9 14.4 11.1 10.0 22.2
50歳代 (117) 17.9 12.8 12.8 5.1 21.4
性 60～64歳 (58) 29.3 22.4 19.0 3.4 13.8
65～69歳 (59) 37.3 22.0 15.3 10.2 15.3
70歳以上 (193) 27.5 14.0 10.9 13.0 16.1
18～19歳 (11) 27.3 9.1 36.4 0.0 18.2
20歳代 (55) 3.6 1.8 5.5 1.8 32.7
女 30歳代 (85) 8.2 25.9 22.4 3.5 21.2
40歳代 (123) 10.6 31.7 16.3 2.4 18.7
50歳代 (134) 14.9 24.6 12.7 3.7 20.1
性 60～64歳 (61) 21.3 29.5 16.4 4.9 9.8
65～69歳 (74) 17.6 21.6 9.5 6.8 21.6
70歳以上 (276) 25.0 11.6 11.2 11.2 17.0

性別でみると、「地震などの自然災害対応の保険への加入」では〈女性〉(35.6%)が〈男性〉(29.3%)より6.3ポイント高くなっている。一方、「消火器の設置」では〈男性〉(22.2%)が〈女性〉(17.1%)より5.1ポイント高くなっている。

性／年齢別でみると、「食料や飲料水の備蓄」では〈女性60～64歳〉が59.0%と高くなっている。「地震などの自然災害対応の保険への加入」では〈男性30歳代〉が9.5%、〈女性20歳代〉が16.4%、〈男性20歳代〉が18.4%と低くなっている。「ハザードマップの確認」では〈女性60～64歳〉が47.5%、〈男性65～69歳〉が42.4%と高くなっている。「非常用持ち出し袋の準備」では〈女性60～64歳〉が36.1%と高くなっている。「消火器の設置」では〈男性65～69歳〉が37.3%、〈男性60～64歳〉が29.3%と高くなっている。「県や市町などの防災メールへの登録」では〈女性40歳代〉が31.7%、〈女性60～64歳〉が29.5%と高くなっている。一方、「特に何もしていない」では〈女性20歳代〉が32.7%と高くなっている。

［住居形態別・地域別・市町別］



住居形態別でみると、「地震などの自然災害対応の保険への加入」では〈持家（計)〉（37.1%）が〈持家以外（計)〉（12.1%）より25.0ポイント、「消火器の設置」では〈持家（計)〉（20.8%）が〈持家以外（計)〉（11.7%）より9.1ポイント、「食料や飲料水の備蓄」では〈持家（計)〉（49.8%）が〈持家以外（計)〉（41.3%）より8.5ポイント、「県や市町などの防災メールへの登録」では〈持家（計)〉（19.2%）が〈持家以外（計)〉（11.4%）より7.8ポイント高くなっている。一方、「特に何もしていない」では〈持家以外（計)〉（30.7%）が〈持家（計)〉（17.0%）より13.7ポイント高くなっており、特に〈民間の賃貸アパート・マンション〉が33.5%、〈持家の集合住宅（分譲マンションなど)〉が33.3%と高くなっている。

地域別でみると、大きな傾向の違いはみられない。

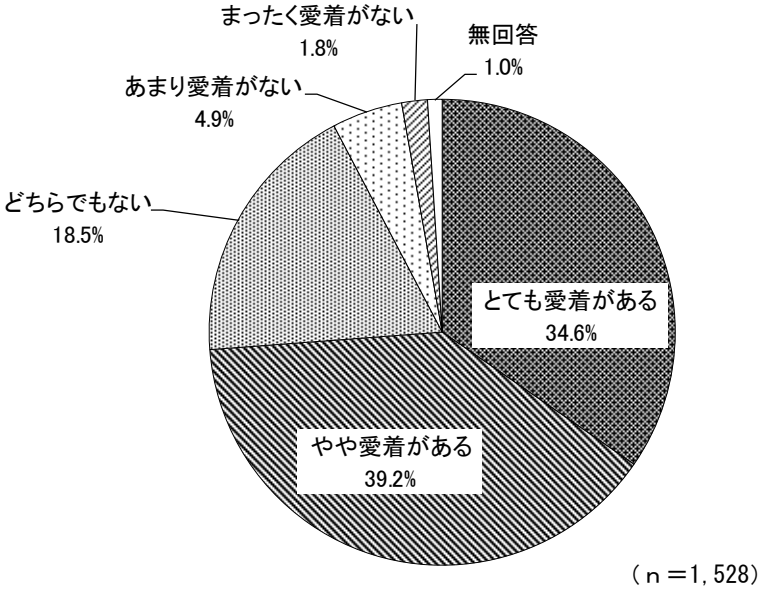
市町別でみると、大きな傾向の違いはみられない。

５　栃木県への愛着と誇りについて

（１）栃木県に対する愛着

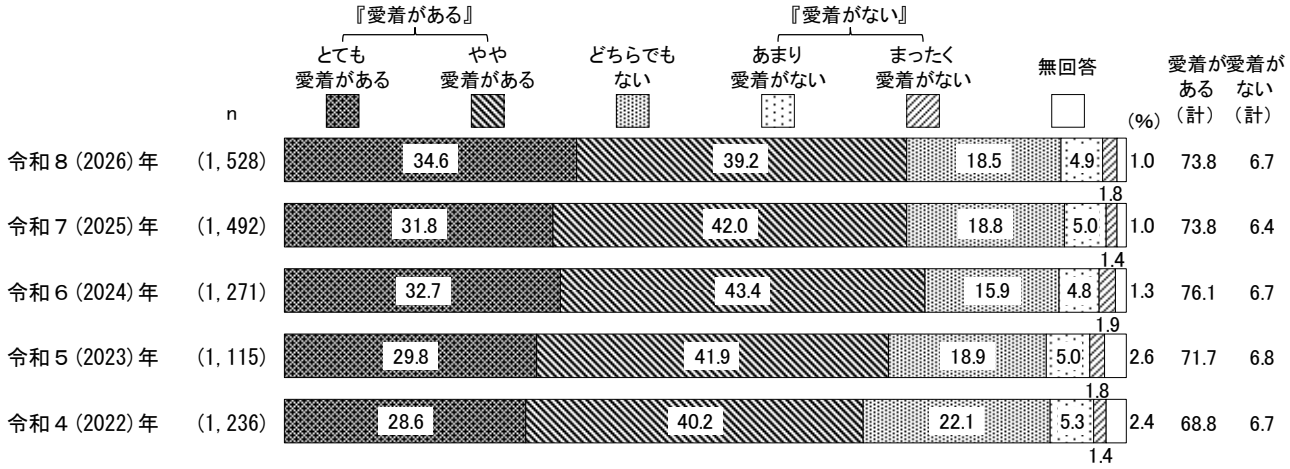
問11　あなたは、「栃木県」に対してどの程度愛着を感じていますか。次の中から１つ選んでください。　［ｎ＝1,528］

１	とても愛着がある	34.6%	４	あまり愛着がない	4.9%
２	やや愛着がある	39.2	５	まったく愛着がない	1.8
３	どちらでもない	18.5		（無回答）	1.0



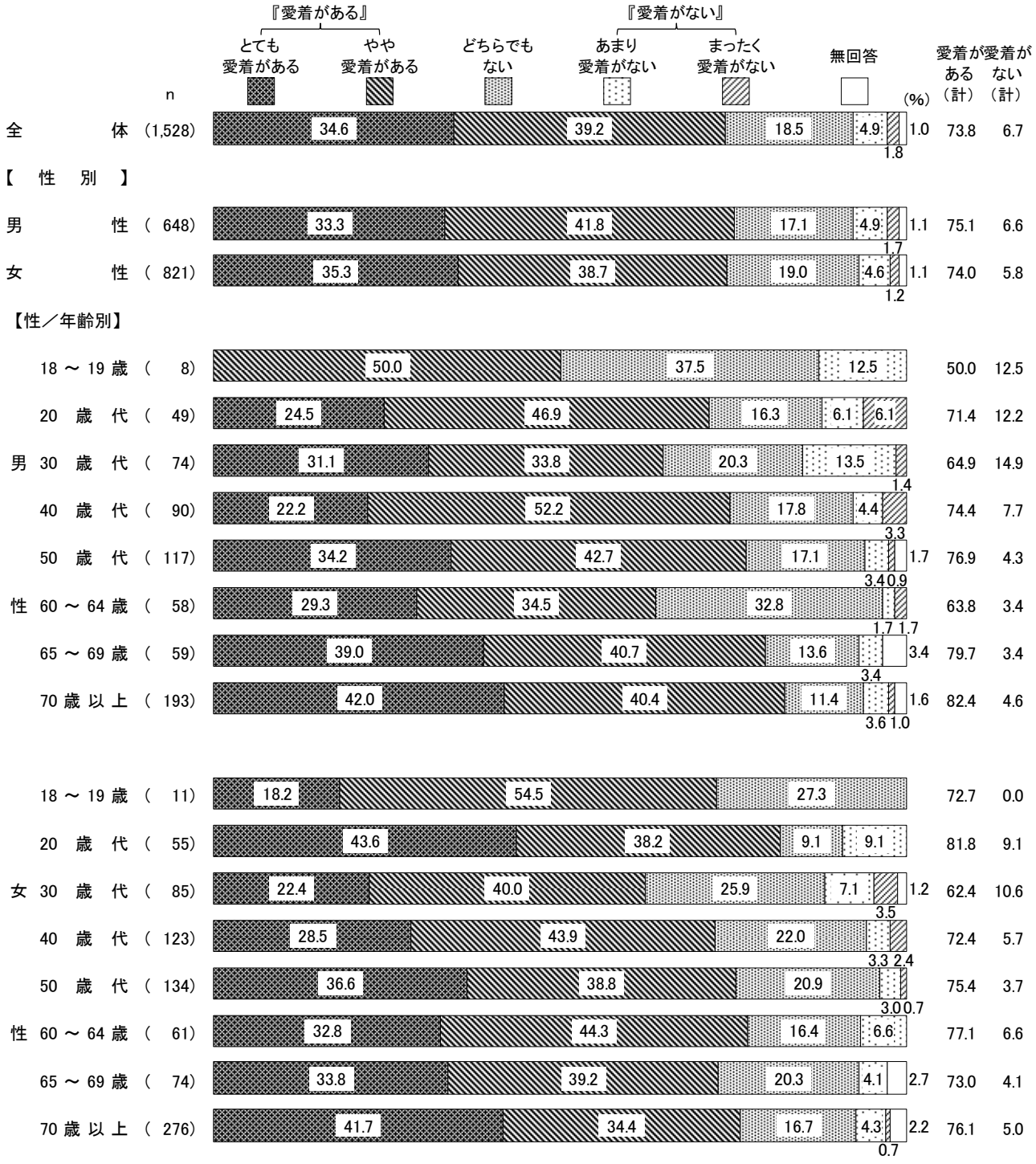
全体でみると、「とても愛着がある」（34.6%）と「やや愛着がある」（39.2%）の２つを合わせた『愛着がある』（73.8%）が７割台半ば近くとなっている。一方、「あまり愛着がない」（4.9%）と「まったく愛着がない」（1.8%）の２つを合わせた『愛着がない』（6.7%）が１割未満となっている。また、「どちらでもない」（18.5%）が２割近くとなっている。

［過去の調査結果］



過去の調査結果と比較すると、大きな傾向の違いはみられない。

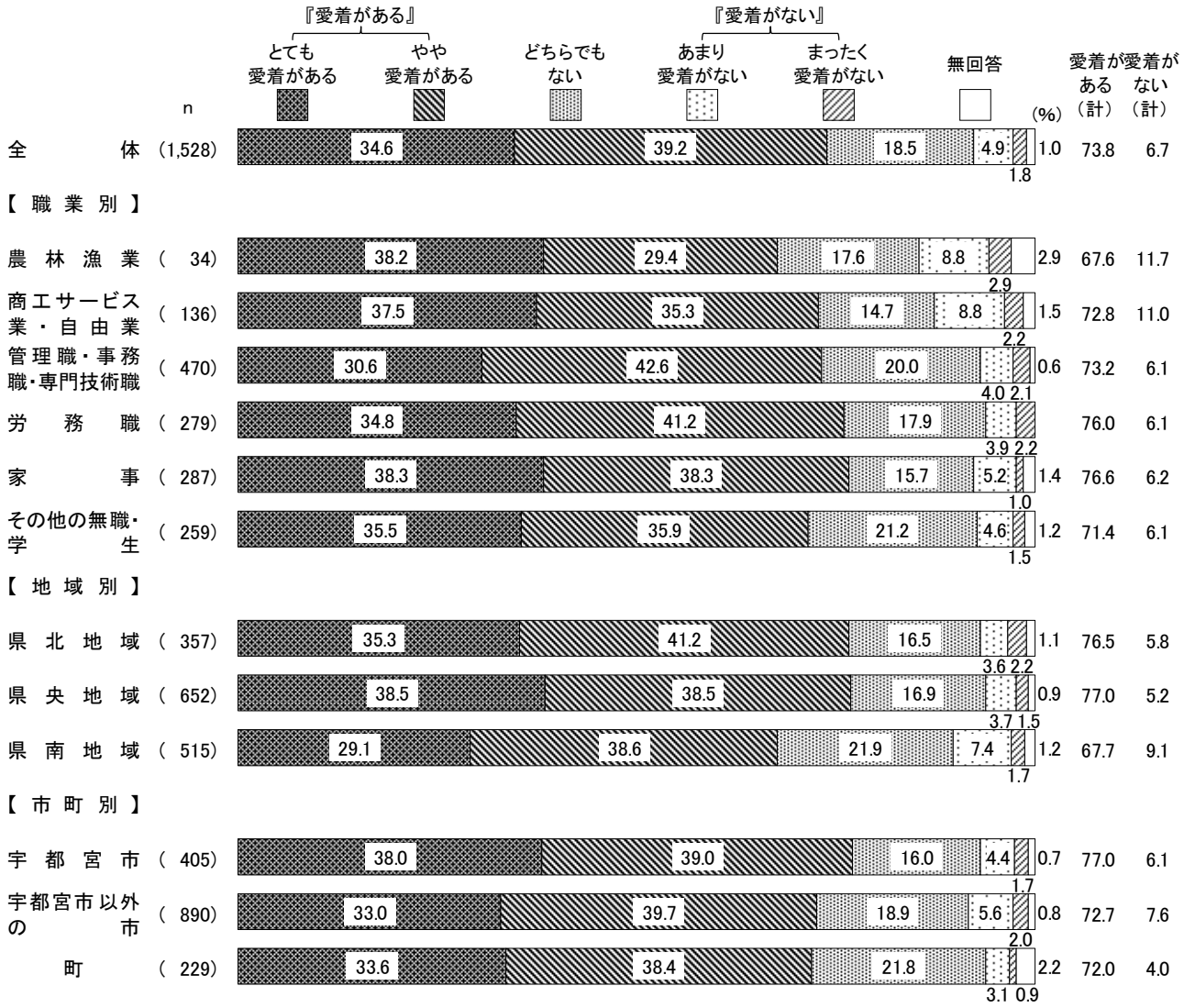
［性別・性／年齢別］



性別でみると、大きな傾向の違いはみられない。

性／年齢別でみると、『愛着がある』では〈男性70歳以上〉が82.4％と高く、〈女性30歳代〉が62.4％と低くなっている。

［職業別・地域別・市町別］



職業別でみると、大きな傾向の違いはみられない。

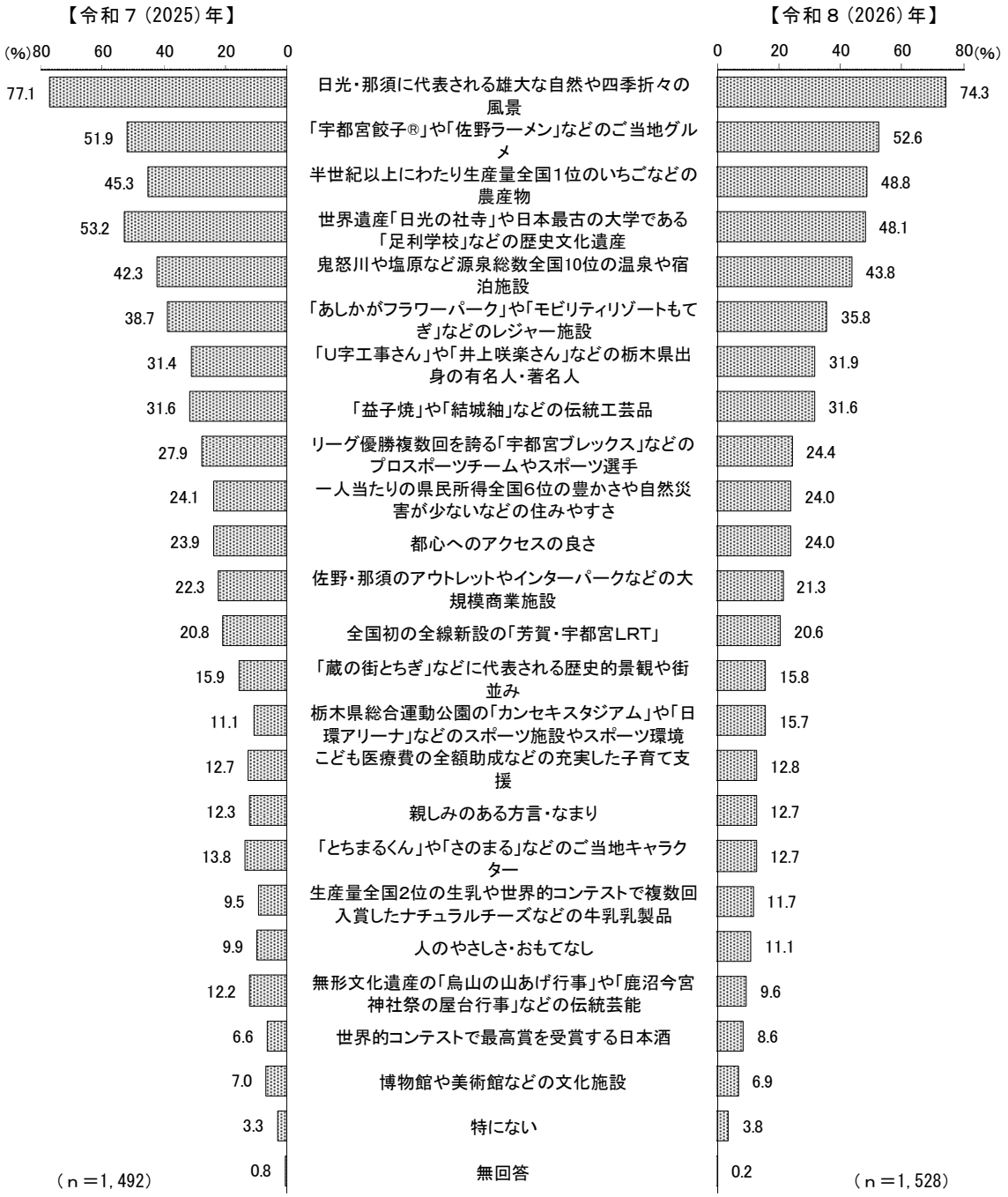
地域別でみると、大きな傾向の違いはみられない。

市町別でみると、大きな傾向の違いはみられない。

（２）栃木県の魅力あるものとして自慢できるもの

問12　あなたが「栃木県」の魅力あるものとして自慢できるもの、オススメするものは何ですか。次の中からいくつでも選んでください。　［ｎ＝1,528］

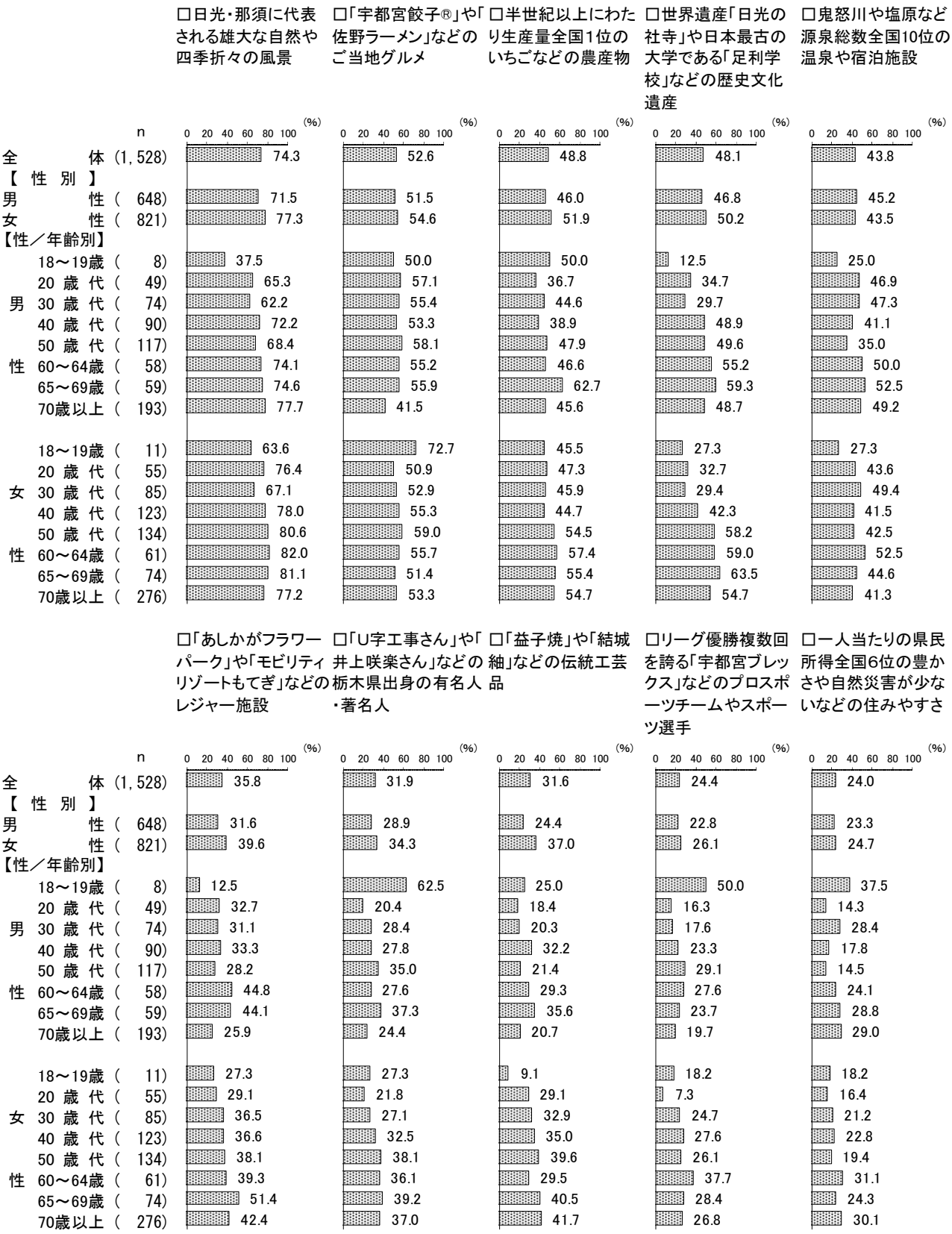
1	日光・那須に代表される雄大な自然や四季折々の風景	74.3%
2	鬼怒川や塩原など源泉総数全国10位の温泉や宿泊施設	43.8
3	「あしかがフラワーパーク」や「モビリティリゾートもてぎ」などのレジャー施設	35.8
4	栃木県総合運動公園の「カンセキスタジアム」や「日環アリーナ」などのスポーツ施設やスポーツ環境	15.7
5	佐野・那須のアウトレットやインターパークなどの大規模商業施設	21.3
6	博物館や美術館などの文化施設	6.9
7	無形文化遺産の「烏山の山あげ行事」や「鹿沼今宮神社祭の屋台行事」などの伝統芸能	9.6
8	「蔵の街とちぎ」などに代表される歴史的景観や街並み	15.8
9	世界遺産「日光の社寺」や日本最古の大学である「足利学校」などの歴史文化遺産	48.1
10	「益子焼」や「結城紬」などの伝統工芸品	31.6
11	半世紀以上にわたり生産量全国１位のいちごなどの農産物	48.8
12	生産量全国２位の生乳や世界的コンテストで複数回入賞したナチュラルチーズなどの牛乳乳製品	11.7
13	「宇都宮餃子®」や「佐野ラーメン」などのご当地グルメ	52.6
14	世界的コンテストで最高賞を受賞する日本酒	8.6
15	人のやさしさ・おもてなし	11.1
16	親しみのある方言・なまり	12.7
17	一人当たりの県民所得全国６位の豊かさや自然災害が少ないなどの住みやすさ	24.0
18	こども医療費の全額助成などの充実した子育て支援	12.8
19	全国初の全線新設の「芳賀・宇都宮ＬＲＴ」	20.6
20	都心へのアクセスの良さ	24.0
21	「とちまるくん」や「さのまる」などのご当地キャラクター	12.7
22	リーグ優勝複数回を誇る「宇都宮ブレックス」などのプロスポーツチームやスポーツ選手	24.4
23	「Ｕ字工事さん」や「井上咲楽さん」などの栃木県出身の有名人・著名人	31.9
24	特にない	3.8
	(無回答)	0.2



全体でみると、「日光・那須に代表される雄大な自然や四季折々の風景（以下『風景』という。）」（74.3%）が７割台半ば近くで最も高くなっている。次いで『「宇都宮餃子®」や「佐野ラーメン」などのご当地グルメ（以下『ご当地グルメ』という。）』（52.6%）、「半世紀以上にわたり生産量全国１位のいちごなどの農産物（以下『農産物』という。）」（48.8%）、『世界遺産「日光の社寺」や日本最古の大学である「足利学校」などの歴史文化遺産（以下『歴史文化遺産』という。）』（48.1%）、「鬼怒川や塩原など源泉総数全国10位の温泉や宿泊施設（以下、『温泉や宿泊施設』という。）」（43.8%）となっている。

前回（令和７(2025)年）の調査結果と比較すると、『歴史文化遺産』が5.1ポイント、『リーグ優勝複数回を誇る「宇都宮ブレックス」などのプロスポーツチームやスポーツ選手（以下『プロスポーツチーム等』という。）』が3.5ポイント減少している。一方、『栃木県総合運動公園の「カンセキスタジアム」や「日環アリーナ」などのスポーツ施設やスポーツ環境』が4.6ポイント、『農産物』が3.5ポイント増加している。

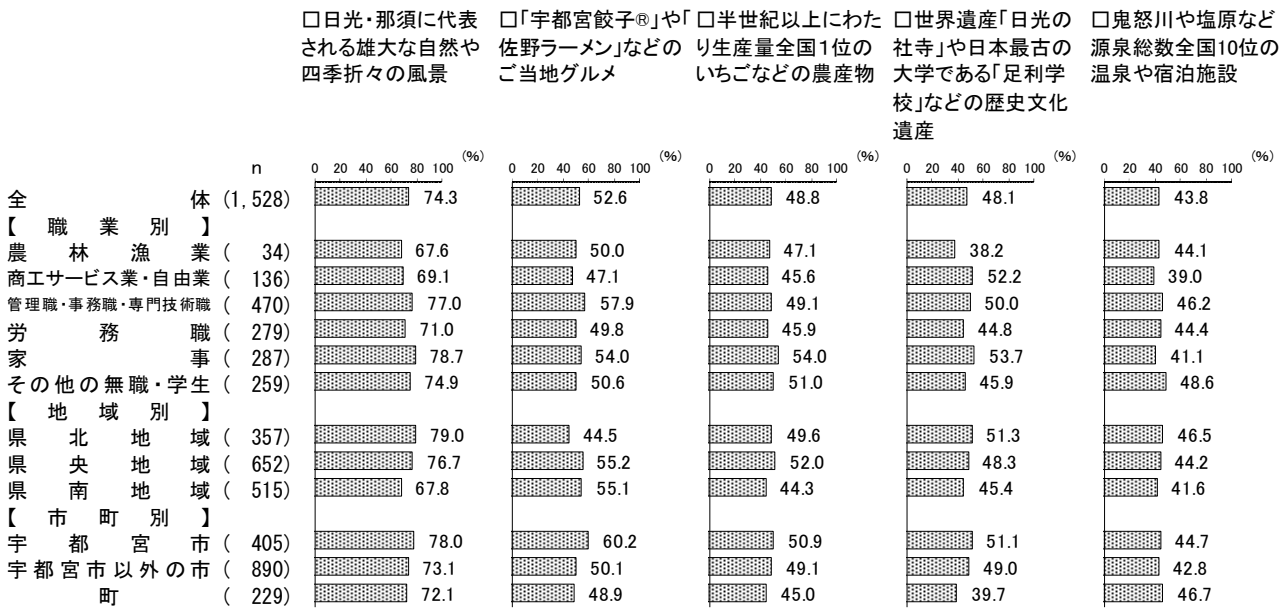
［性別・性／年齢別］（上位10項目）

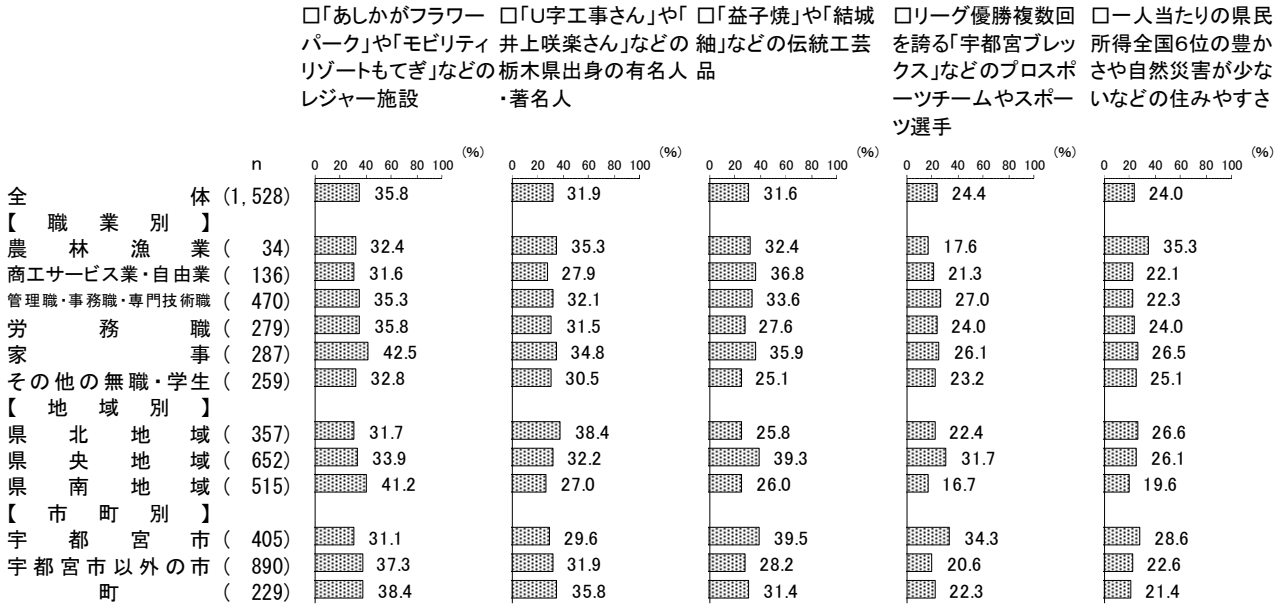


性別でみると、『「益子焼」や「結城紬」などの伝統工芸品（以下『伝統工芸品』という。）』では〈女性〉（37.0%）が〈男性〉（24.4%）より12.6ポイント、『「あしかがフラワーパーク」や「モビリティリゾートもてぎ」などのレジャー施設』では〈女性〉（39.6%）が〈男性〉（31.6%）より8.0ポイント、『農産物』では〈女性〉（51.9%）が〈男性〉（46.0%）より5.9ポイント、『風景』では〈女性〉（77.3%）が〈男性〉（71.5%）より5.8ポイント、『「U字工事さん」や「井上咲楽さん」などの栃木県出身の有名人・著名人』では〈女性〉（34.3%）が〈男性〉（28.9%）より5.4ポイント高くなっている。

性／年齢別でみると、『風景』では、〈女性60～64歳〉が82.0%と高くなっている。『ご当地グルメ』では〈男性70歳以上〉が41.5%と低くなっている。『農産物』では〈男性65～69歳〉が62.7%と高くなっている。『歴史文化遺産』では〈女性65～69歳〉が63.5%と高くなっている。『温泉や宿泊施設』では、〈男性65～69歳〉、〈女性60～64歳〉が52.5%と高くなっている。

［職業別・地域別・市町別］（上位10項目）





職業別でみると、「一人当たりの県民所得全国６位の豊かさや自然災害が少ないなどの住みやすさ」では〈農林漁業〉が35.3%と高くなっている。

地域別でみると、大きな傾向の違いはみられない。

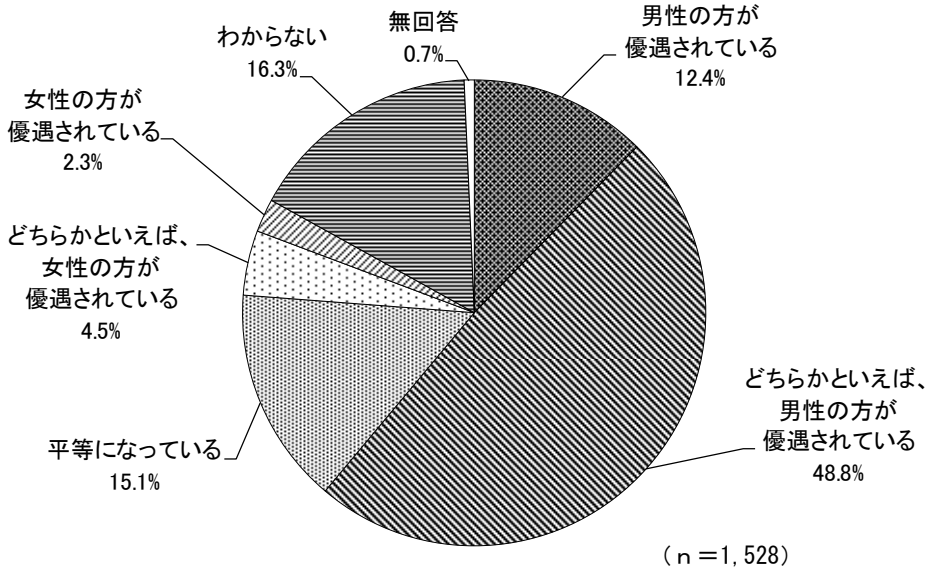
市町別でみると、『プロスポーツチーム等』では〈宇都宮市〉が34.3%と高くなっている。

６　男女平等意識について

（１）社会全体の中での男女の地位の平等感

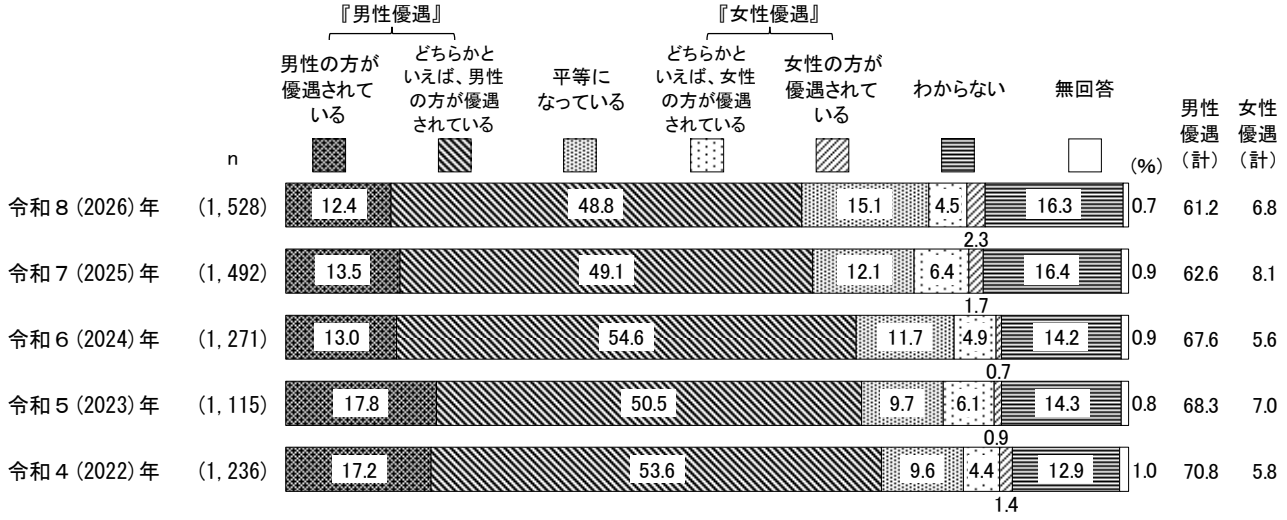
問13　あなたは、現在、社会全体の中で、男女の地位はどの程度平等になっていると思いますか。次の中から１つ選んでください。　［ｎ＝1,528］

１	男性の方が優遇されている	12.4%
２	どちらかといえば、男性の方が優遇されている	48.8
３	平等になっている	15.1
４	どちらかといえば、女性の方が優遇されている	4.5
５	女性の方が優遇されている	2.3
６	わからない	16.3
	（無回答）	0.7



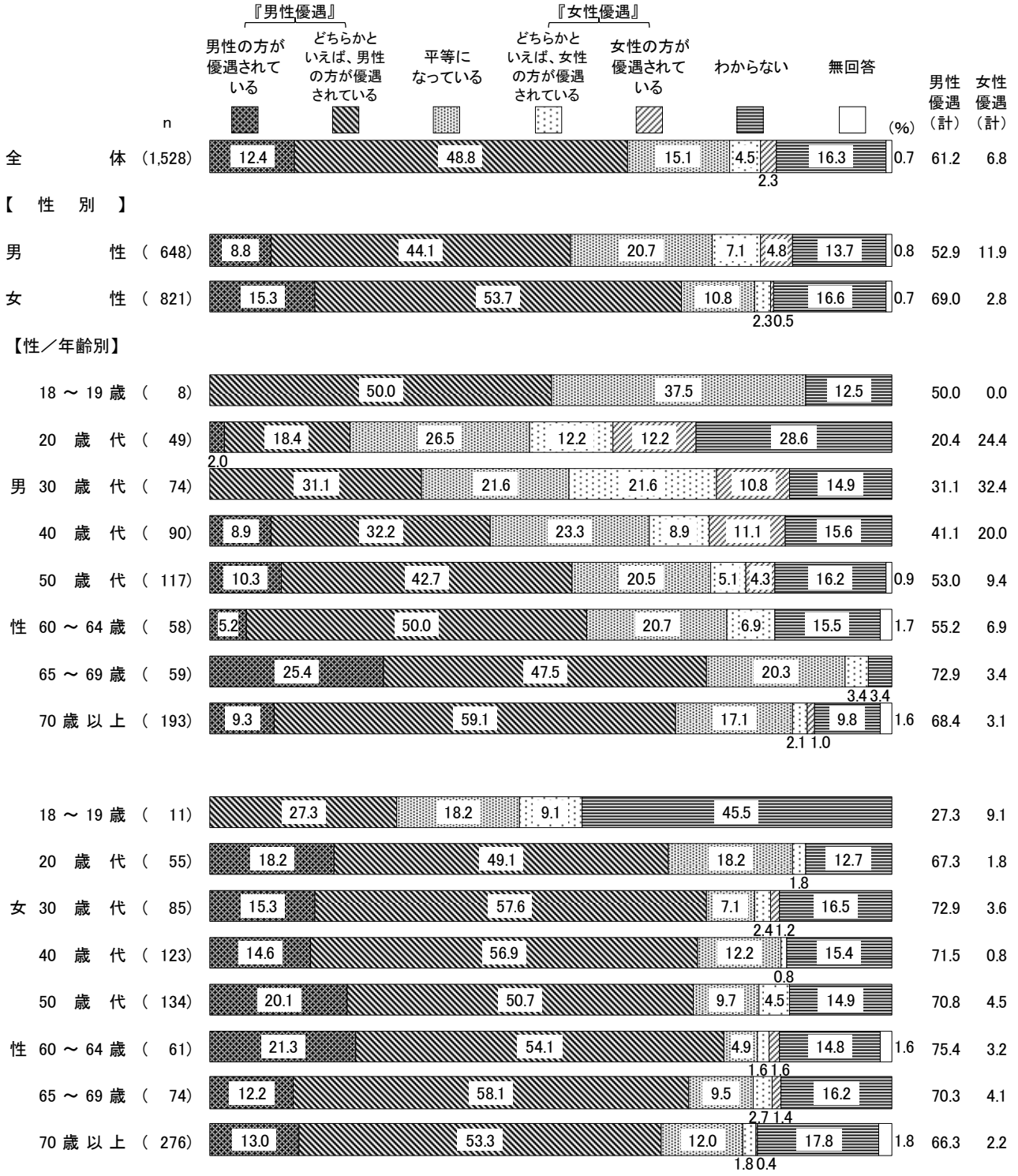
全体でみると、「平等になっている」（15.1%）が１割台半ばとなっている。一方、「男性の方が優遇されている」（12.4%）と「どちらかといえば、男性の方が優遇されている」（48.8%）の２つを合わせた『男性優遇』（61.2%）が６割強、「どちらかといえば、女性の方が優遇されている」（4.5%）と「女性の方が優遇されている」（2.3%）の２つを合わせた『女性優遇』（6.8%）が１割未満となっている。

［過去の調査結果］



過去の調査結果と比較すると、『男性優遇』が令和４(2022)年から減少傾向が続き、令和４(2022)年（70.8%）から9.6ポイント減少している。一方、「平等になっている」が令和４(2022)年から微増傾向が続き、令和４(2022)年（9.6%）から5.5ポイント増加している。

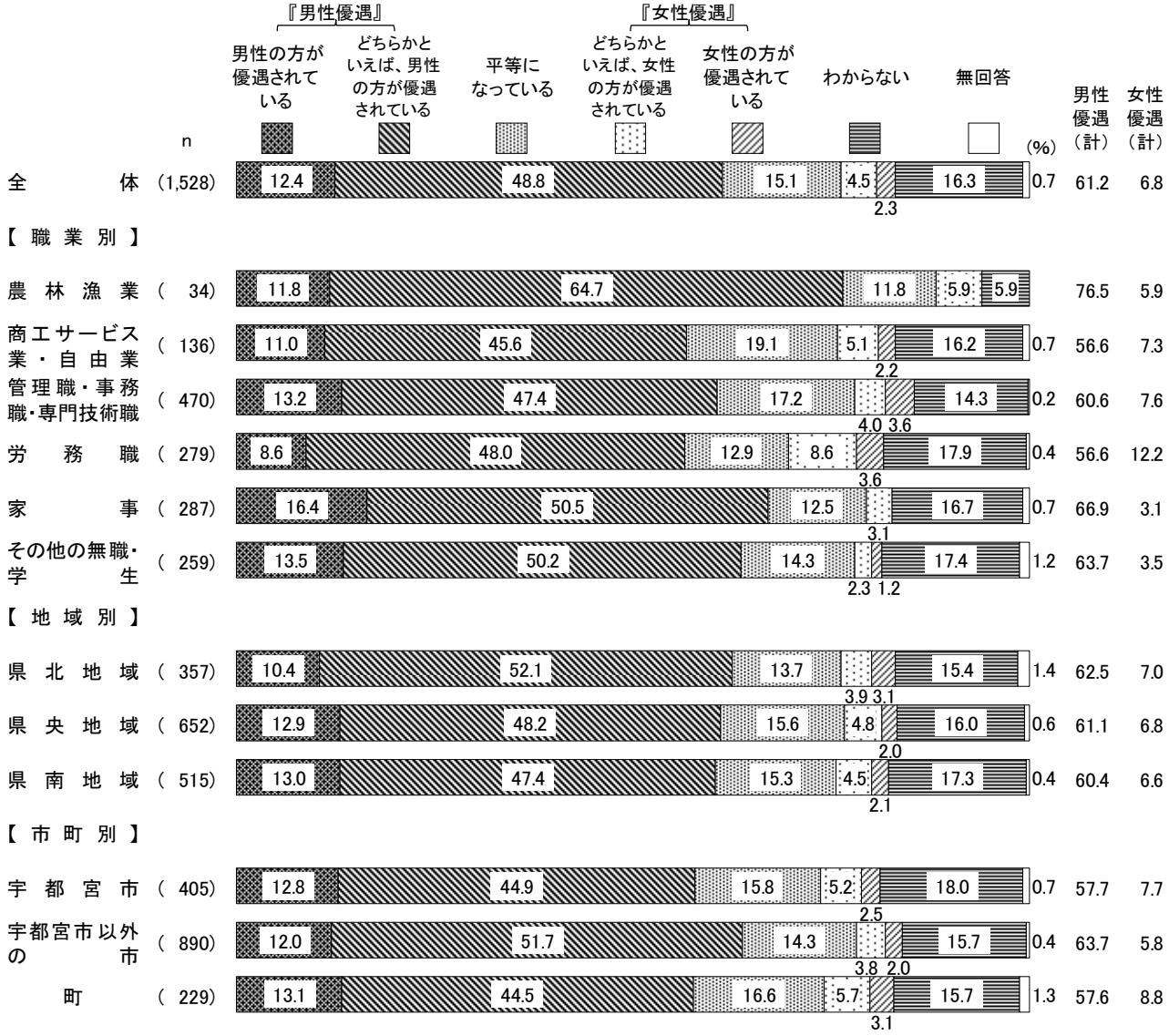
［性別・性／年齢別］



性別でみると、『男性優遇』では〈女性〉（69.0%）が〈男性〉（52.9%）より16.1ポイント高くなっている。一方、「平等になっている」では〈男性〉（20.7%）が〈女性〉（10.8%）より9.9ポイント、『女性優遇』では〈男性〉（11.9%）が〈女性〉（2.8%）より9.1ポイント高くなっている。

性／年齢別でみると、「平等になっている」では〈男性20歳代〉が26.5%と高くなっている。『男性優遇』では〈女性60～64歳〉が75.4%、〈男性65～69歳〉及び〈女性30歳代〉がともに72.9%、〈女性40歳代〉が71.5%と高くなっている。『女性優遇』では〈男性30歳代〉が32.4%、〈男性20歳代〉が24.4%、〈男性40歳代〉が20.0%と高くなっている。

［職業別・地域別・市町別］



職業別でみると、『男性優遇』では〈農林漁業〉が76.5％と高くなっている。

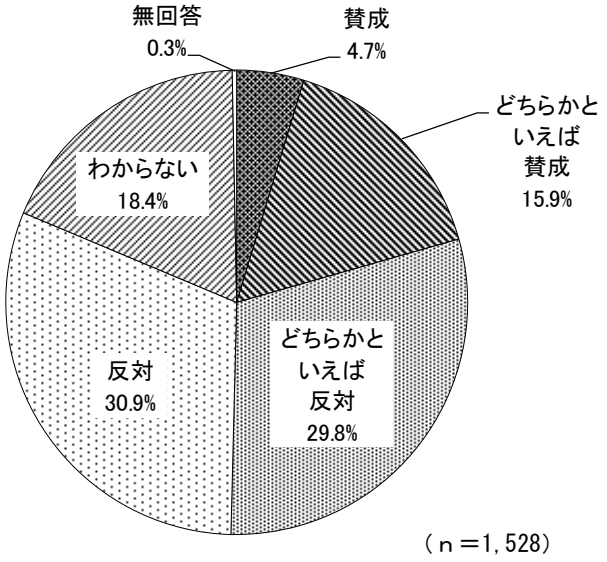
地域別でみると、大きな傾向の違いはみられない。

市町別でみると、大きな傾向の違いはみられない。

（２）固定的な性別役割分担意識

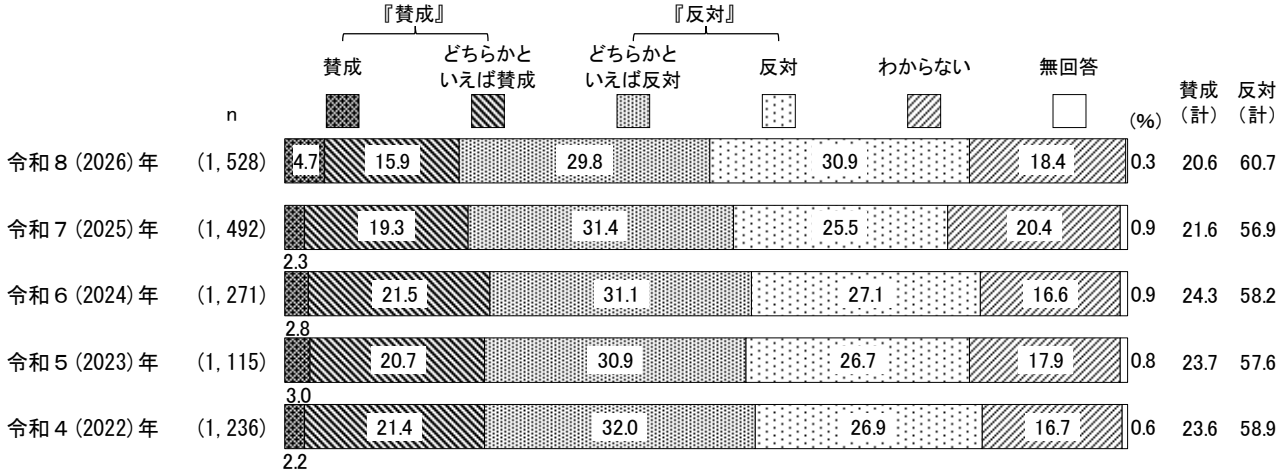
問14　あなたは、「男は外で働き、女は家庭を守るべき」との考え方について、どのように思いますか。次の中から１つ選んでください。　［ｎ＝1,528］

１	賛成	4.7%	４	反対	30.9%
２	どちらかといえば賛成	15.9	５	わからない	18.4
３	どちらかといえば反対	29.8		（無回答）	0.3



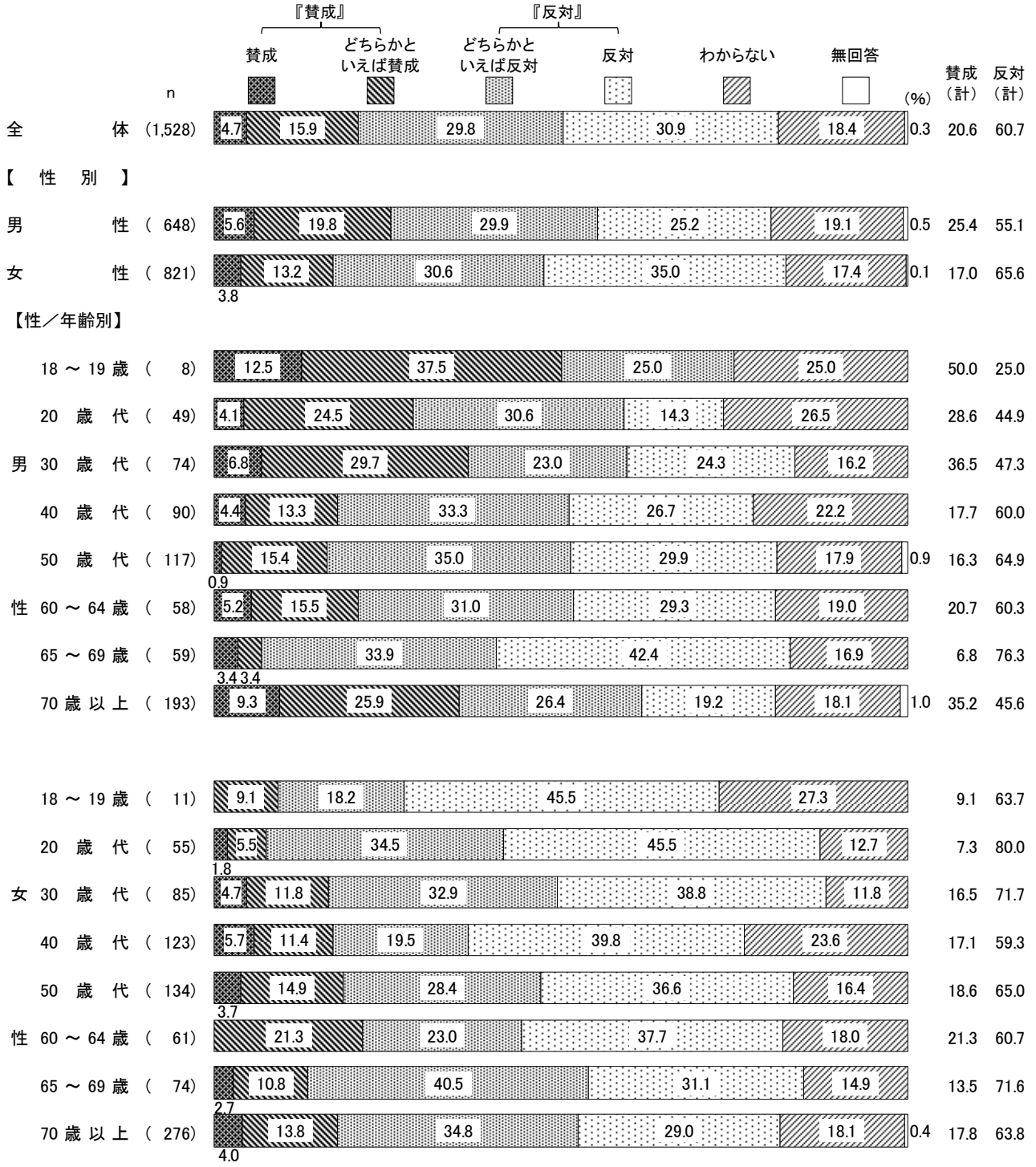
全体でみると、「賛成」(4.7%)と「どちらかといえば賛成」(15.9%)の２つを合わせた『賛成』(20.6%)が約２割となっている。一方、「どちらかといえば反対」（29.8%）と「反対」（30.9%）の２つを合わせた『反対』（60.7%）が約６割となっている。

［過去の調査結果］



前回（令和７(2025)年）の調査結果と比較すると、『反対』が3.8ポイント増加している。

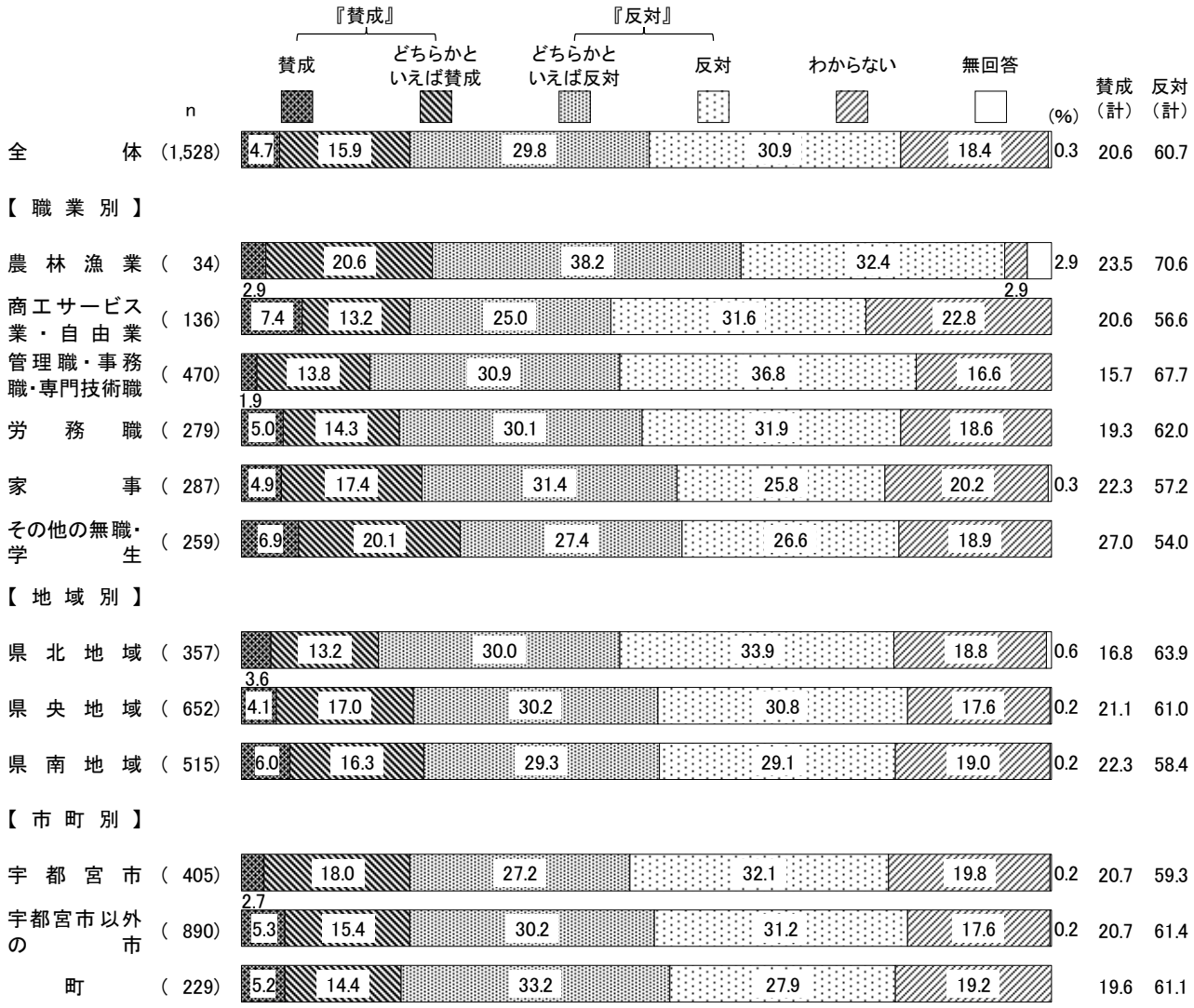
［性別・性／年齢別］



性別でみると、『反対』では〈女性〉（65.6%）が〈男性〉（55.1%）より10.5ポイント高くなっている。

性／年齢別でみると、『賛成』では〈男性30歳代〉が36.5%、〈男性70歳以上〉が35.2%と高くなっている。『反対』では〈女性20歳代〉が80.0%、〈男性65～69歳〉が76.3%、〈女性30歳代〉が71.7%、〈女性65～69歳〉が71.6%と高くなっている。

［職業別・地域別・市町別］



職業別でみると、『反対』では〈農林漁業〉が70.6％と高くなっている。

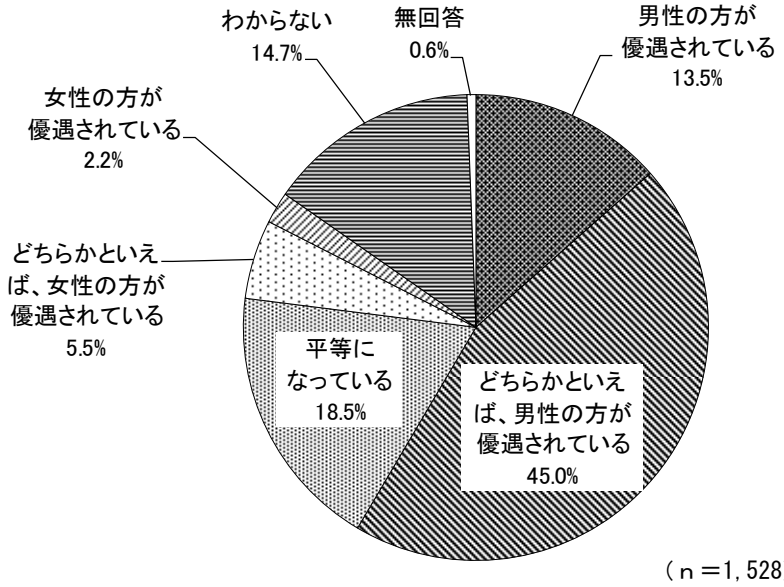
地域別でみると、大きな傾向の違いはみられない。

市町別でみると、大きな傾向の違いはみられない。

（３）働く場での男女の地位の平等感

問15　あなたは、現在、働く場において、男女の地位はどの程度平等になっていると思いますか。次の中から１つ選んでください。（現在働いていない方も、イメージでお答えください。）　［ｎ＝1,528］

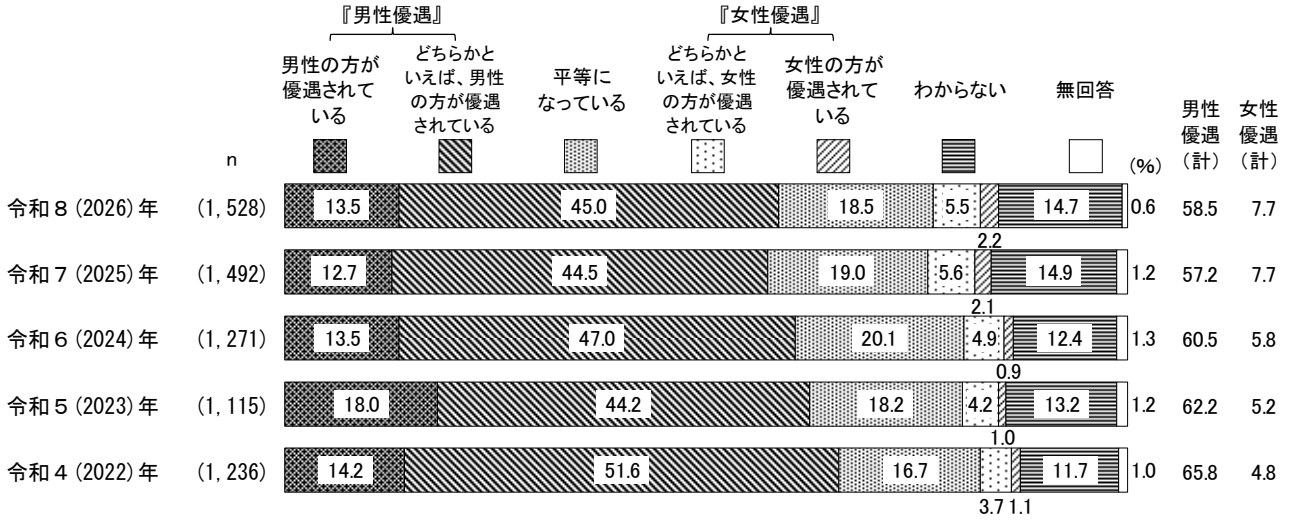
１	男性の方が優遇されている	13.5%
２	どちらかといえば、男性の方が優遇されている	45.0
３	平等になっている	18.5
４	どちらかといえば、女性の方が優遇されている	5.5
５	女性の方が優遇されている	2.2
６	わからない	14.7
	（無回答）	0.6



（ｎ＝1,528）

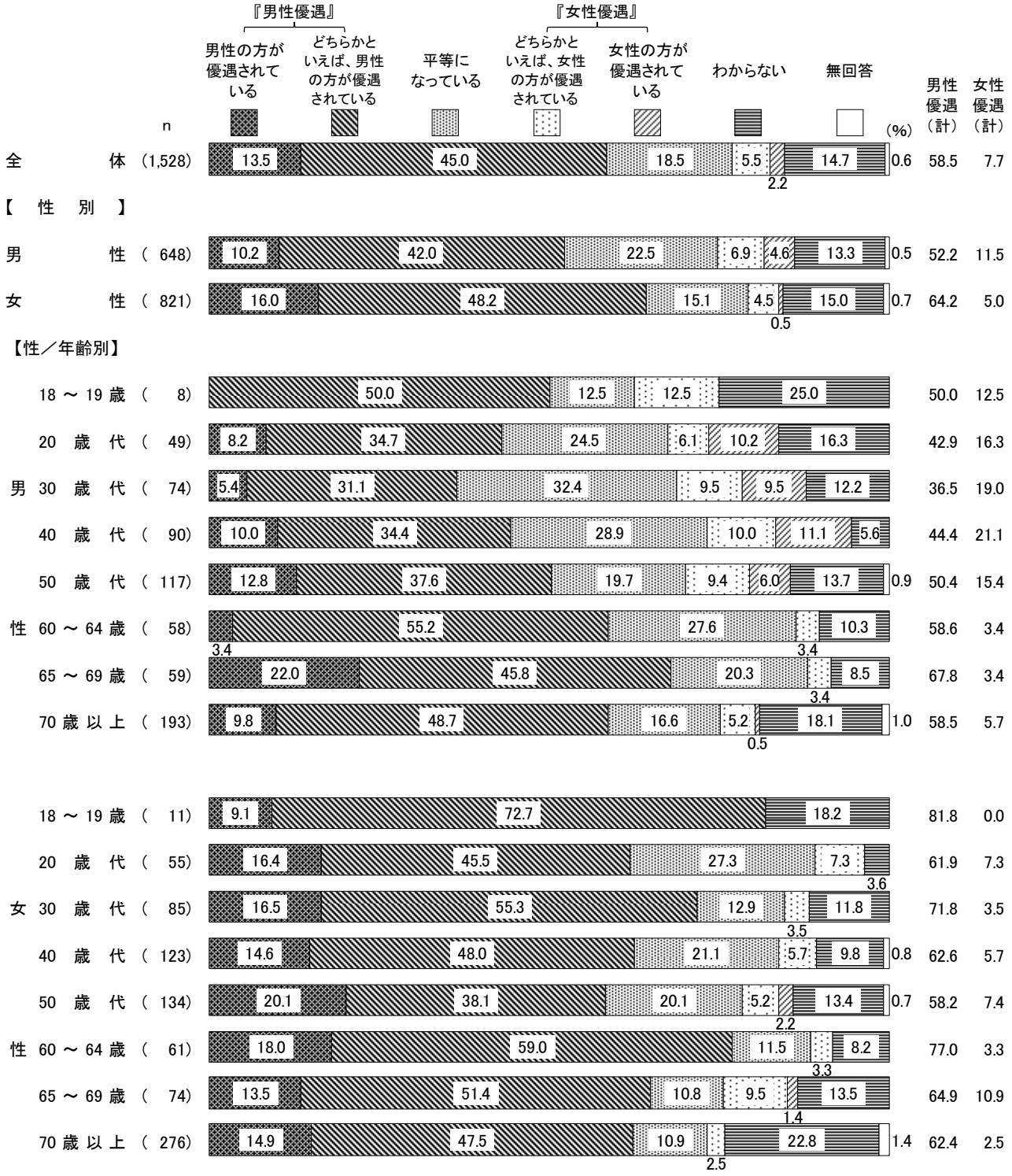
全体でみると、「平等になっている」（18.5%）が２割近くとなっている。一方、「男性の方が優遇されている」（13.5%）と「どちらかといえば、男性の方が優遇されている」（45.0%）の２つを合わせた『男性優遇』（58.5%）が６割近く、「どちらかといえば、女性の方が優遇されている」（5.5%）と「女性の方が優遇されている」（2.2%）の２つを合わせた『女性優遇』（7.7%）が１割未満となっている。

［過去の調査結果］



過去の調査結果と比較すると、前回（令和７(2025)年）と大きな傾向の違いはみられない。

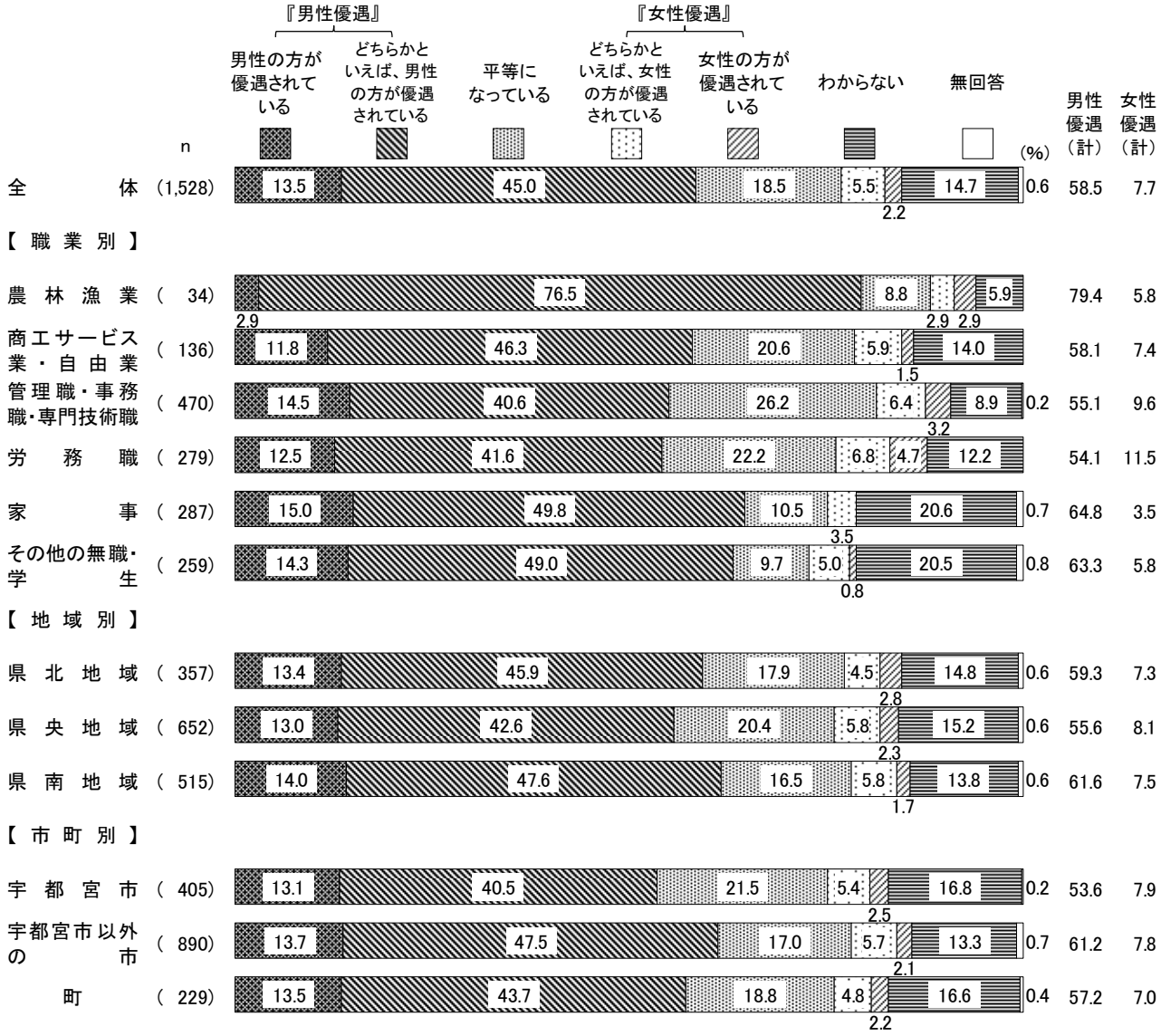
［性別・性／年齢別］



性別でみると、『男性優遇』では〈女性〉（64.2%）が〈男性〉（52.2%）より12.0ポイント高くなっている。一方、「平等になっている」では〈男性〉（22.5%）が〈女性〉（15.1%）より7.4ポイント高くなっている。

性／年齢別でみると、「平等になっている」では〈男性30歳代〉が32.4%、〈男性40歳代〉が28.9%と高くなっている。『男性優遇』では〈女性60～64歳〉が77.0%、〈女性30歳代〉が71.8%と高くなっている。『女性優遇』では〈男性40歳代〉が21.1%、〈男性30歳代〉が19.0%と高くなっている。

［職業別・地域別・市町別］



職業別でみると、『男性優遇』では〈農林漁業〉が79.4％と高くなっている。

地域別でみると、大きな傾向の違いはみられない。

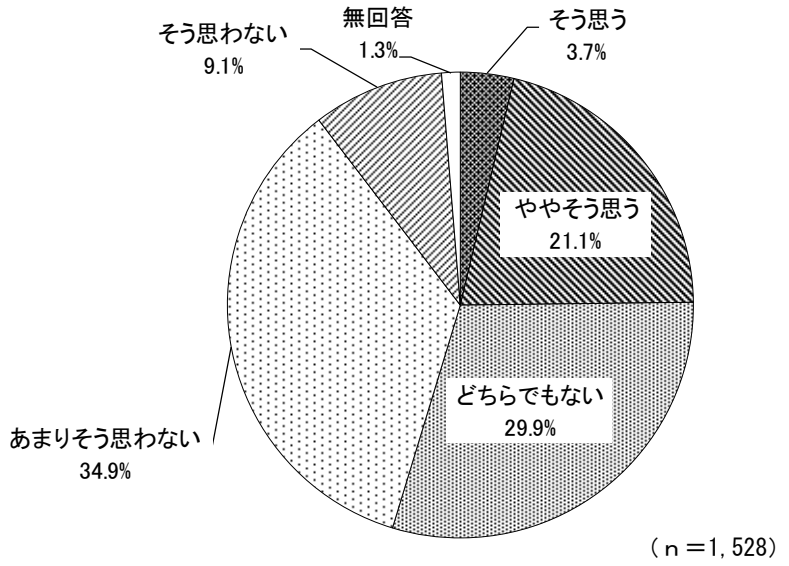
市町別でみると、大きな傾向の違いはみられない。

７　あらゆる人々が活躍できる環境づくりについて

（１）あらゆる人々が共に活躍できる社会となっていることへの意識

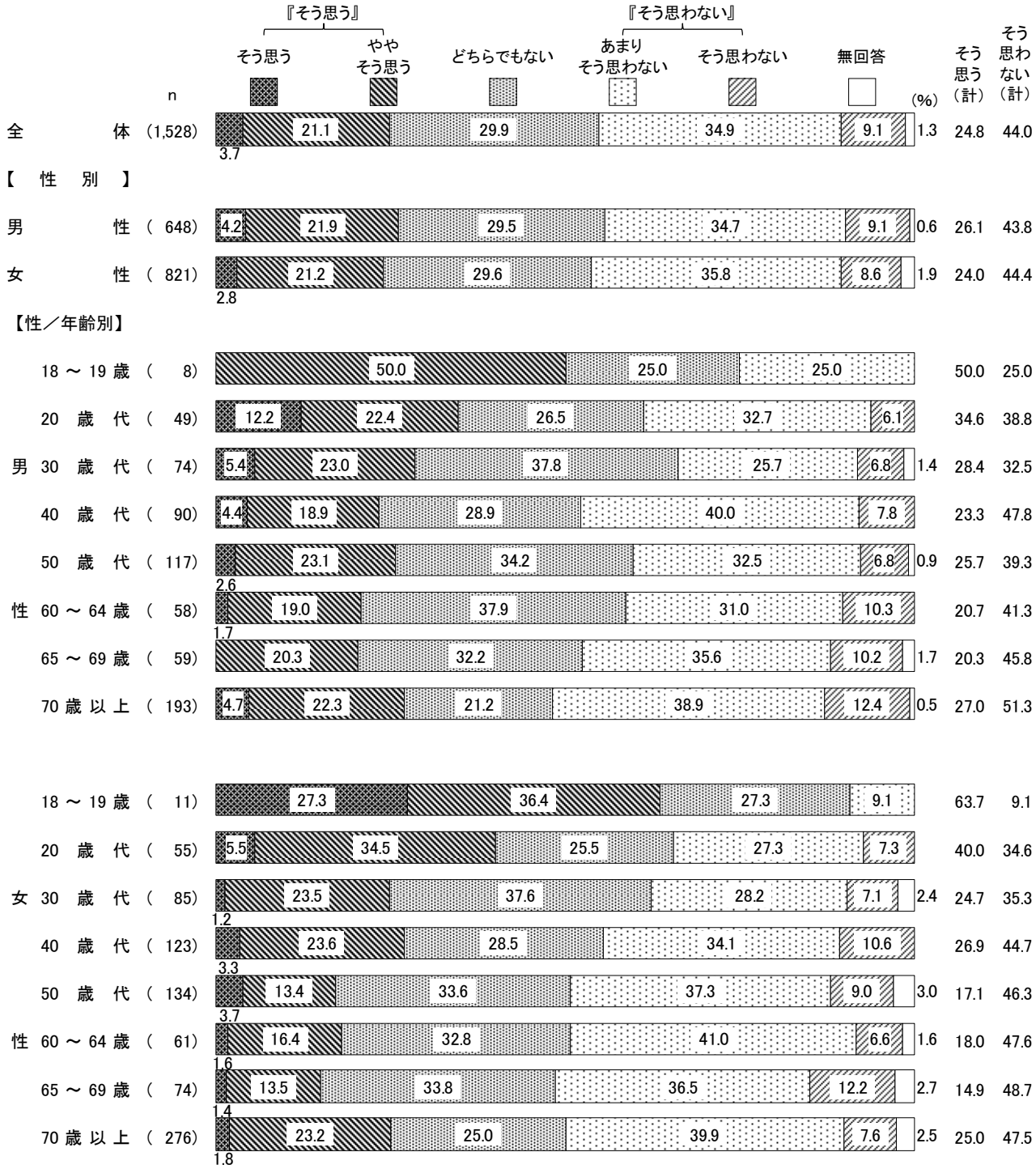
問16　あなたは、現在、栃木県内に暮らす高齢者、障害者、外国人等あらゆる人々が、地域を構成する一員として共に活躍できる社会となっていると思いますか。次の中から１つ選んでください。　［ｎ＝1,528］

１	そう思う	3.7%	４	あまりそう思わない	34.9%
２	ややそう思う	21.1	５	そう思わない	9.1
３	どちらでもない	29.9		（無回答）	1.3



全体でみると、「そう思う」(3.7%)と「ややそう思う」(21.1%)の２つを合わせた『そう思う』(24.8%)が２割台半ば近くとなっている。一方、「あまりそう思わない」（34.9%）と「そう思わない」（9.1%）の２つを合わせた『そう思わない』(44.0%）が４割台半ば近くとなっている。また、「どちらでもない」（29.9%）が３割弱となっている。

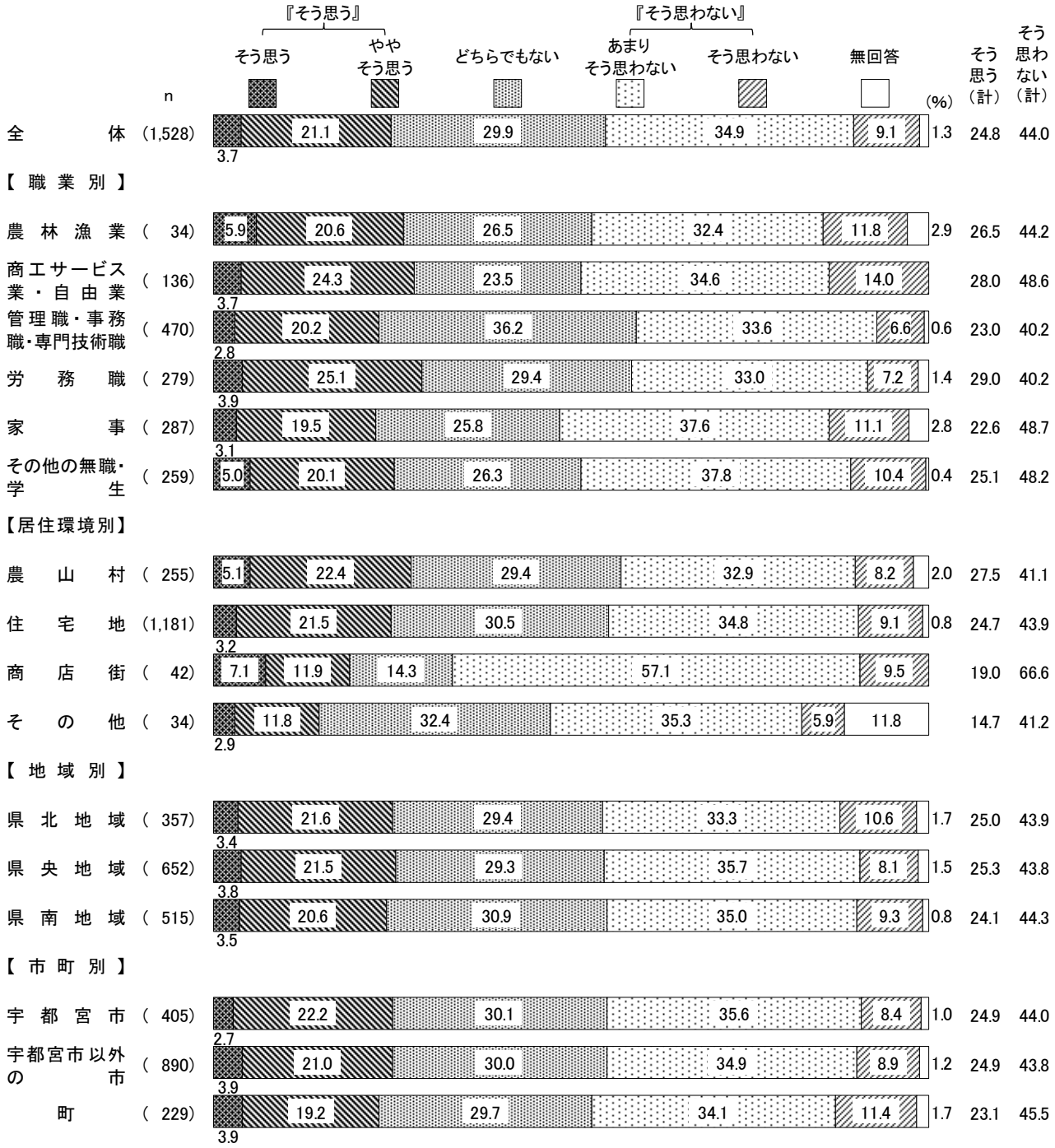
［性別・性／年齢別］



性別でみると、大きな傾向の違いはみられない。

性／年齢別でみると、『そう思う』では〈女性20歳代〉が40.0％と高くなっている。『そう思わない』では〈男性30歳代〉が32.5％と低くなっている。

［職業別・居住環境別・地域別・市町別］



職業別でみると、大きな傾向の違いはみられない。

居住環境別でみると、『そう思わない』では〈商店街〉が66.6％と高くなっている。

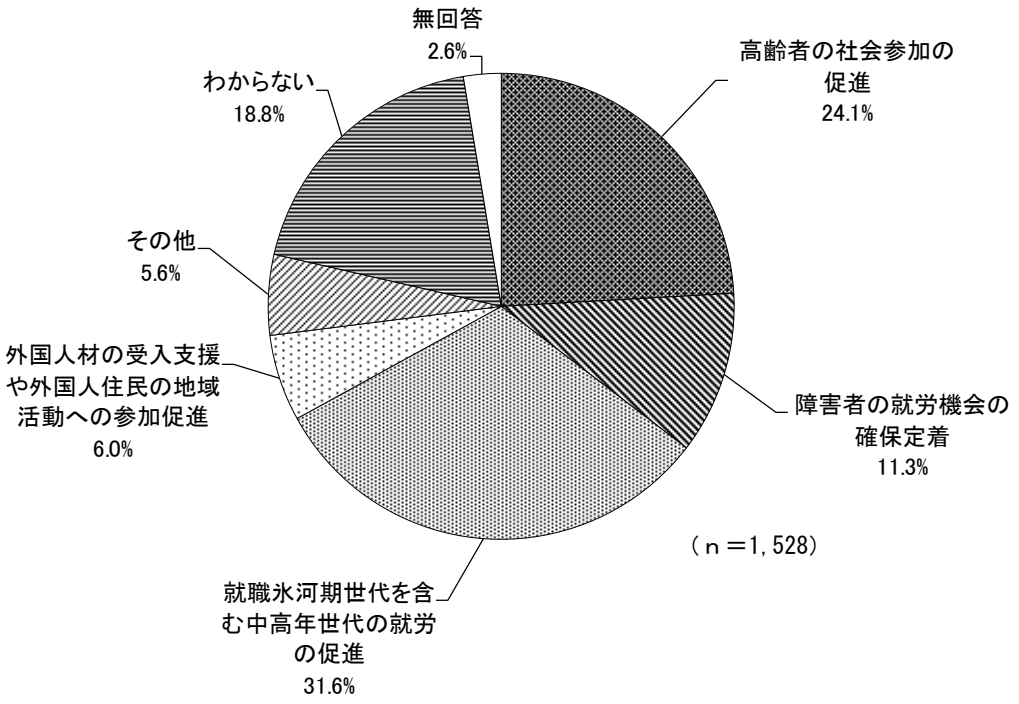
地域別でみると、大きな傾向の違いはみられない。

市町別でみると、大きな傾向の違いはみられない。

（２）あらゆる人々が活躍できる環境づくりに向けて力を入れた方がよいと考える取組

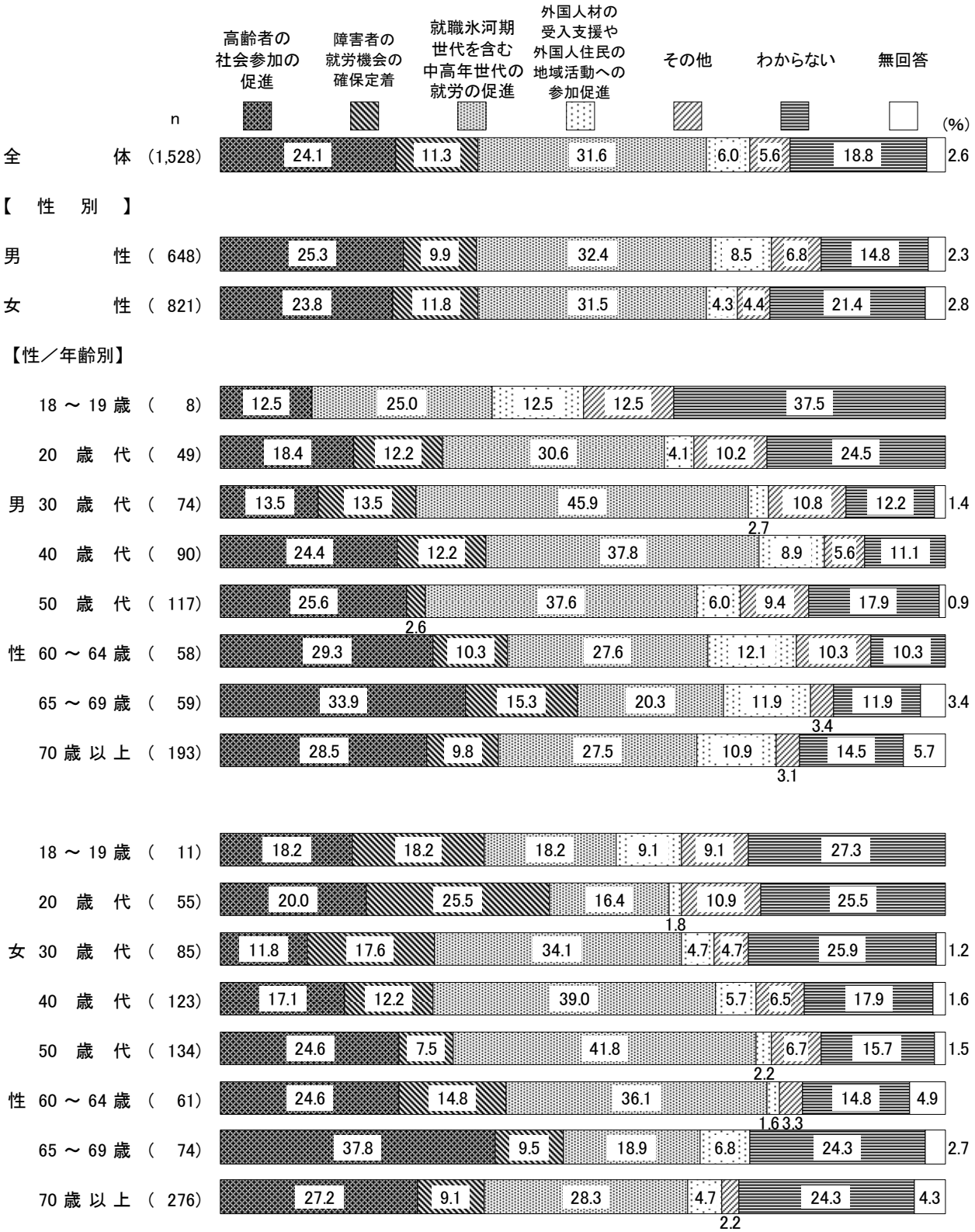
問17　あらゆる人々が活躍できる環境づくりに向けて、さらに力を入れた方がよいと考える取組は何ですか。次の中から１つ選んでください。　［ｎ＝1,528］

１	高齢者の社会参加の促進	24.1%
２	障害者の就労機会の確保定着	11.3
３	就職氷河期世代を含む中高年世代の就労の促進	31.6
４	外国人材の受入支援や外国人住民の地域活動への参加促進	6.0
５	その他	5.6
６	わからない	18.8
	（無回答）	2.6



全体でみると、「就職氷河期世代を含む中高年世代の就労の促進」（31.6%）が３割強で最も高く、次いで「高齢者の社会参加の促進」（24.1%）、「障害者の就労機会の確保定着」（11.3%）となっている。

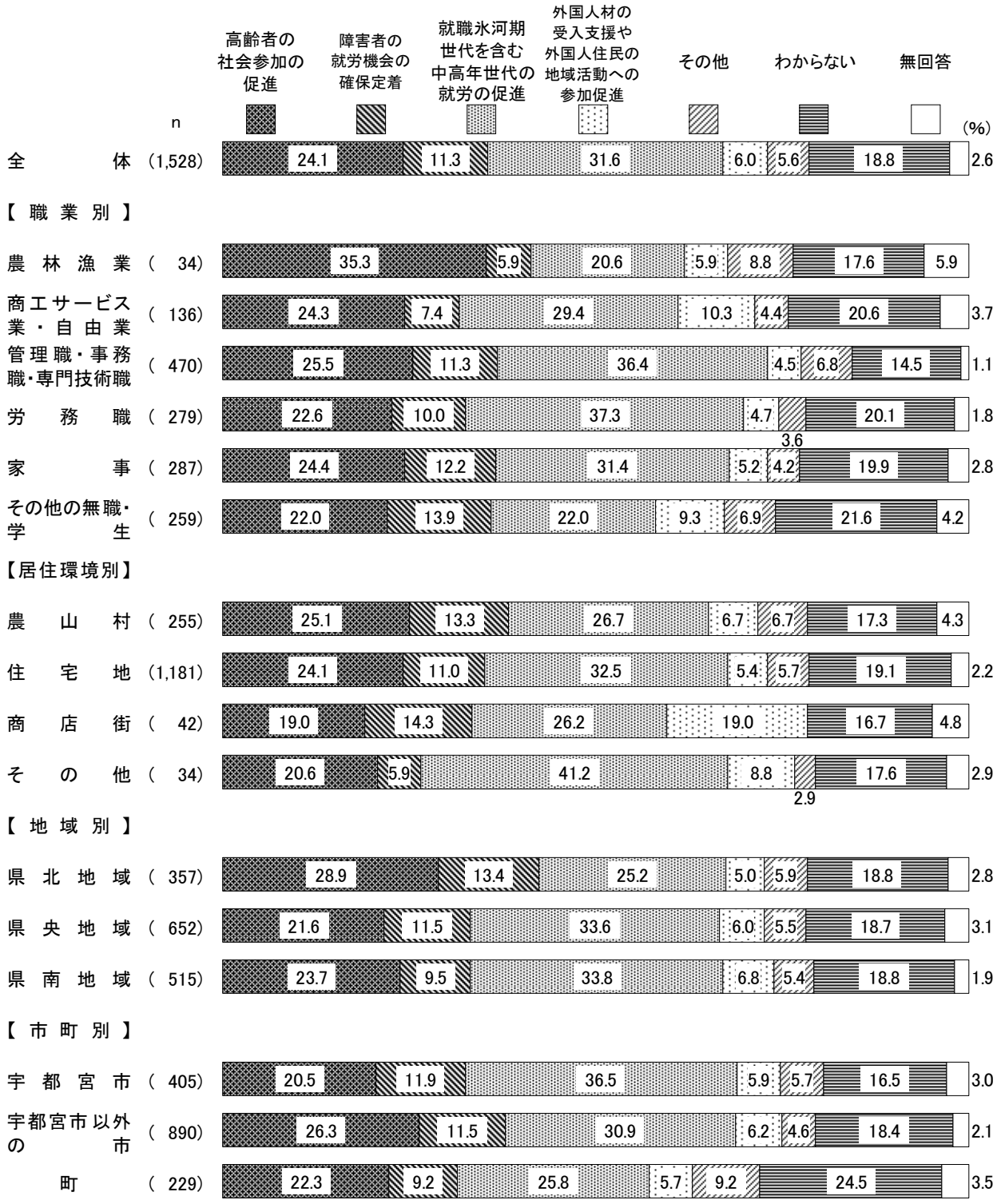
［性別・性／年齢別］



性別でみると、「わからない」では〈女性〉(21.4%)が〈男性〉(14.8%)より6.6ポイント高くなっている。

性／年齢別でみると、「高齢者の社会参加の促進」では〈女性65～69歳〉が37.8%と高くなっている。「障害者の就労機会の確保定着」では〈女性20歳代〉が25.5%と高くなっている。「就職氷河期世代を含む中高年世代の就労の促進」では〈男性30歳代〉が45.9%、〈女性50歳代〉が41.8%と高くなっている。

［職業別・居住環境別・地域別・市町別］



職業別でみると、「高齢者の社会参加の促進」では〈農林漁業〉が35.3%と高くなっている。

居住環境別でみると、「外国人材の受入支援や外国人住民の地域活動への参加促進」では〈商店街〉が19.0%と高くなっている。

地域別でみると、大きな傾向の違いはみられない。

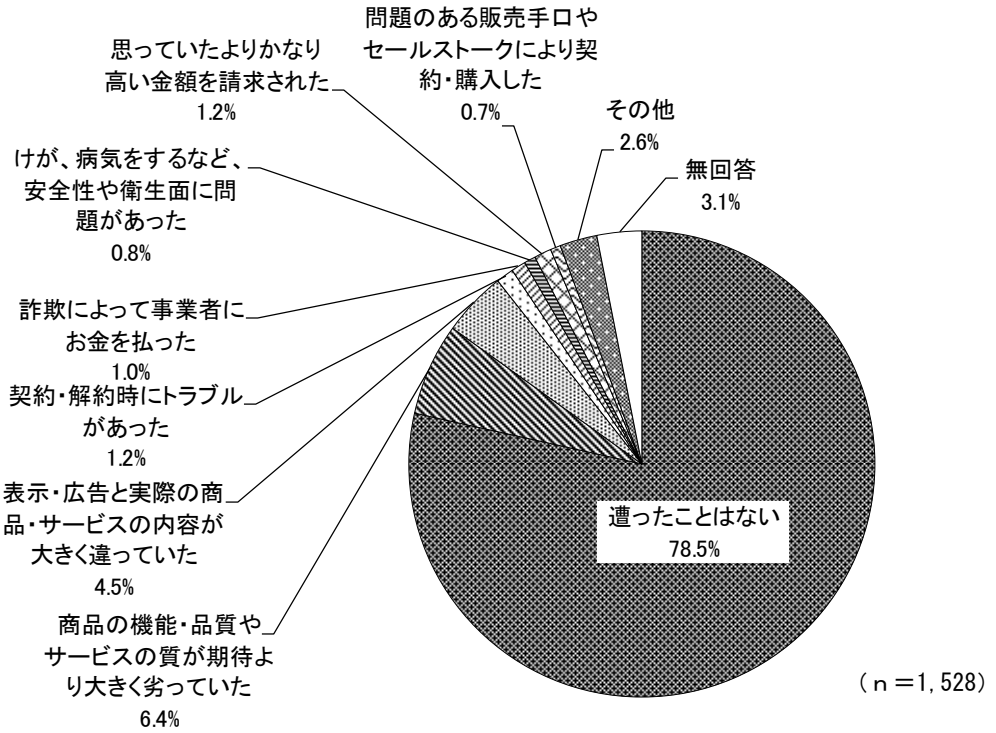
市町別でみると、大きな傾向の違いはみられない。

８　消費生活に関する意識について

（１）消費者トラブルへの遭遇

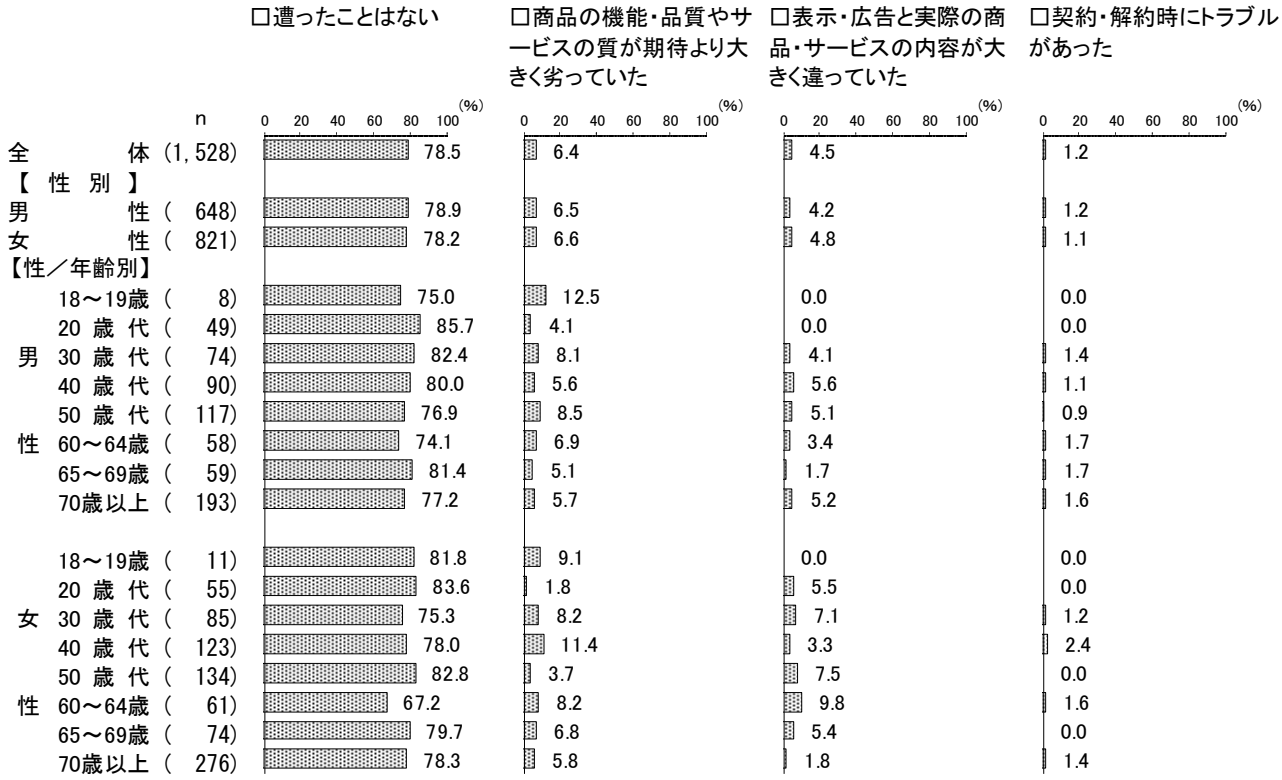
問18　あなたが、この１年間に購入･利用した商品やサービスについて、「表示･広告と実際の商品･サービスの内容が違っていた」「契約･解約時のトラブルで被害にあった」等の消費者トラブルに遭ったことはありますか。トラブルに遭ったことがある場合は、その内容を次の中から１つ選んでください。　［ｎ＝1,528］

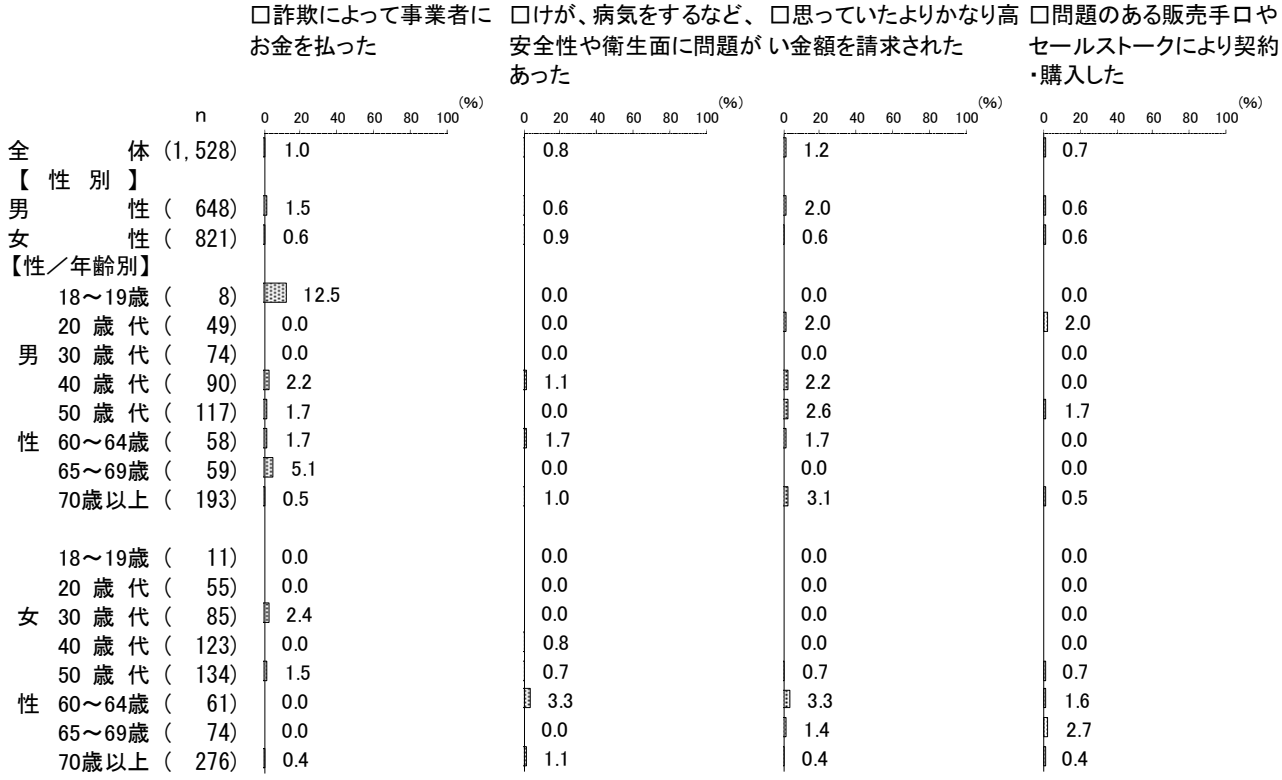
１	遭ったことはない	78.5%
２	商品の機能・品質やサービスの質が期待より大きく劣っていた	6.4
３	表示・広告と実際の商品・サービスの内容が大きく違っていた	4.5
４	契約・解約時にトラブルがあった	1.2
５	詐欺によって事業者にお金を払った	1.0
６	けが、病気をするなど、安全性や衛生面に問題があった	0.8
７	思っていたよりかなり高い金額を請求された	1.2
８	問題のある販売手口やセールストークにより契約・購入した	0.7
９	その他	2.6
	(無回答)	3.1



全体でみると、「遭ったことはない」（78.5%）が８割近くで最も高くなっている。一方、「商品の機能・品質やサービスの質が期待より大きく劣っていた」（6.4%）及び「表示・広告と実際の商品・サービスの内容が大きく違っていた」（4.5%）がともに１割未満となっている。

［性別・性／年齢別］

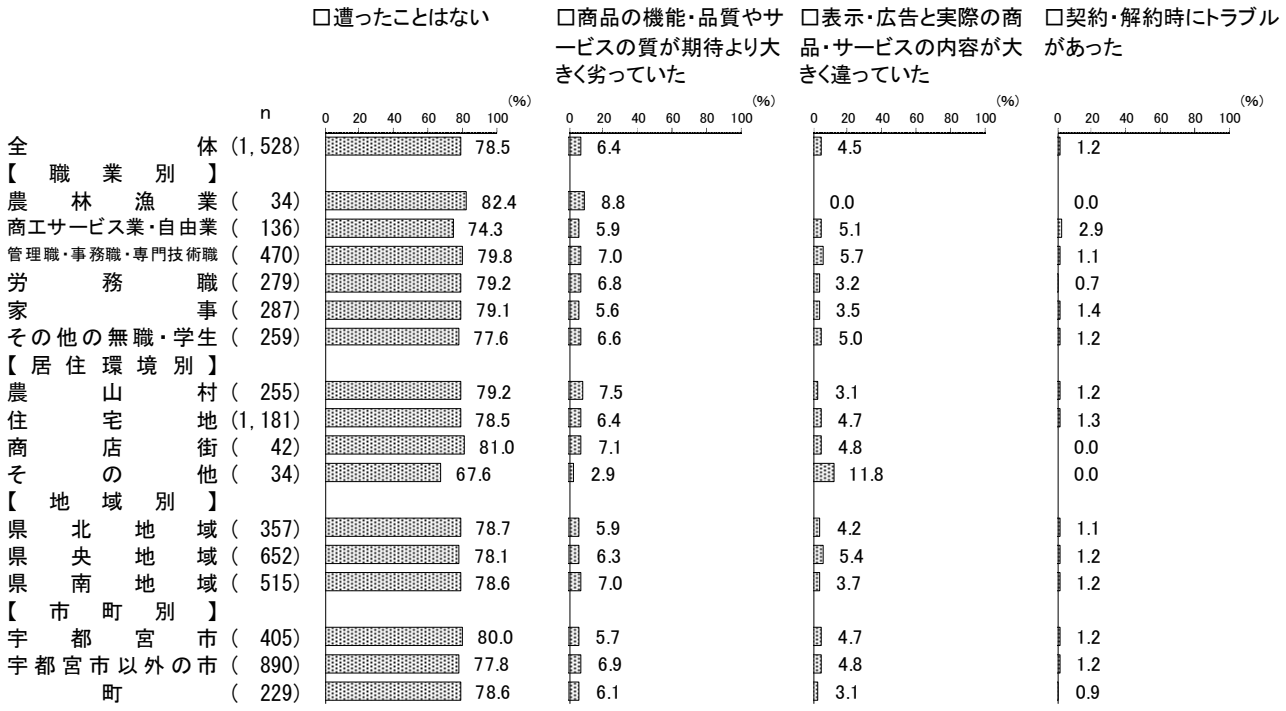


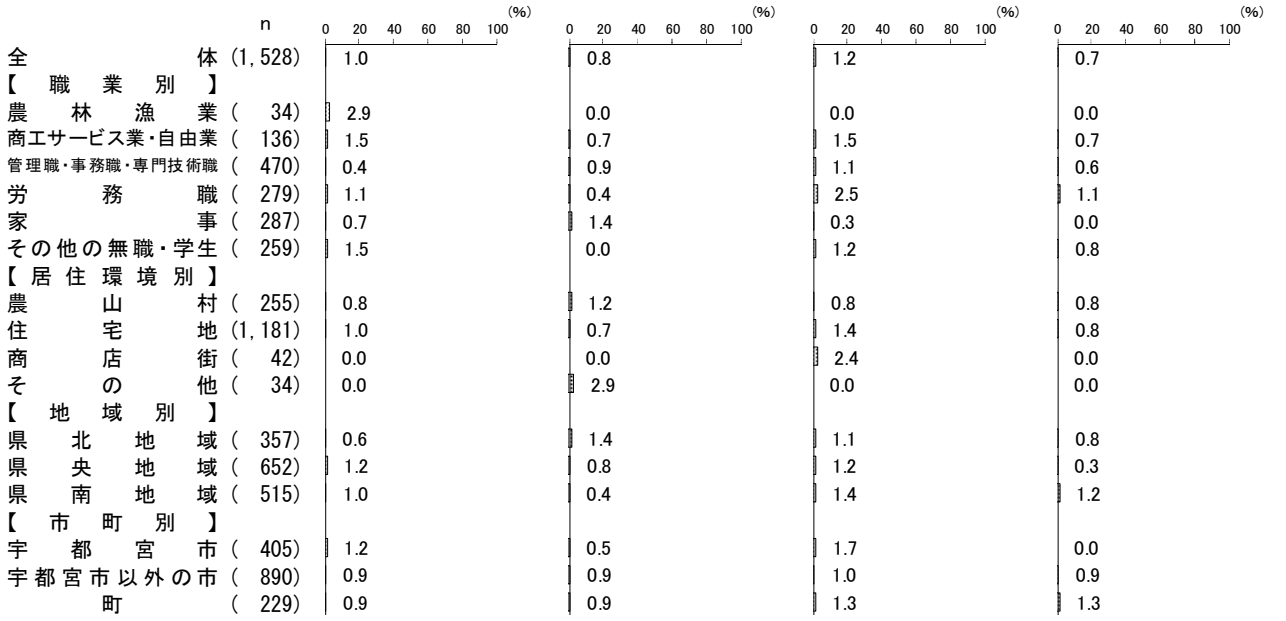


性別でみると、大きな傾向の違いはみられない。

性／年齢別でみると、「遭ったことはない」では〈女性60～64歳〉が67.2％と低くなっている。

［職業別・居住環境別・地域別・市町別］





職業別でみると、大きな傾向の違いはみられない。

居住環境別でみると、大きな傾向の違いはみられない。

地域別でみると、大きな傾向の違いはみられない。

市町別でみると、大きな傾向の違いはみられない。

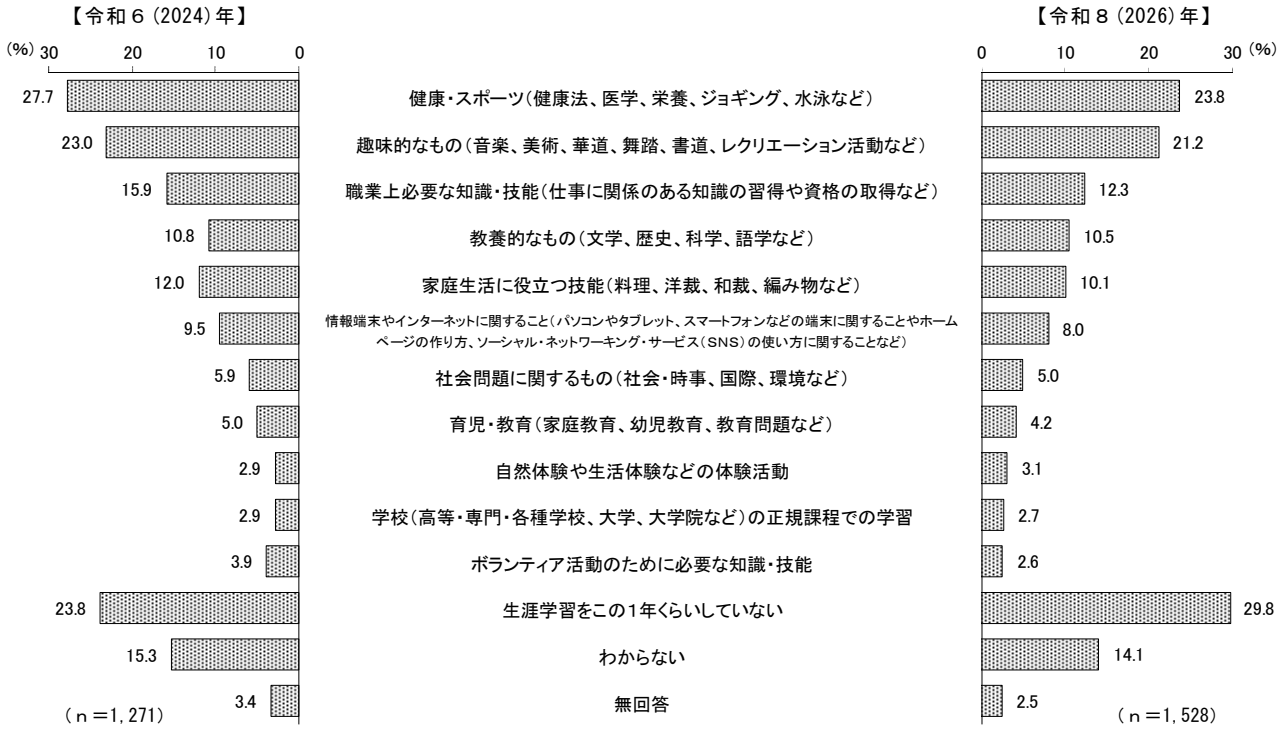
９　生涯学習について

（１）直近１年間に行った生涯学習の種類

問19　あなたは、この１年くらいの間に、生涯学習（※）をしたことがありますか。次の中からいくつでも選んでください。　［ｎ＝1,528］

※生涯学習とは、人々が、生涯のいつでも、どこでも、自由に行う学習活動のことで、学校での学習や公民館などにおける講座等の学習はもとより、自分から進んで行う学習やスポーツ、文化活動、趣味、ボランティア活動などの様々な学習活動のことをいいます。

１	趣味的なもの（音楽、美術、華道、舞踏、書道、レクリエーション活動など）	21.2%
２	教養的なもの（文学、歴史、科学、語学など）	10.5
３	社会問題に関するもの（社会・時事、国際、環境など）	5.0
４	健康・スポーツ（健康法、医学、栄養、ジョギング、水泳など）	23.8
５	家庭生活に役立つ技能（料理、洋裁、和裁、編み物など）	10.1
６	育児・教育（家庭教育、幼児教育、教育問題など）	4.2
７	職業上必要な知識・技能（仕事に関係のある知識の習得や資格の取得など）	12.3
８	情報端末やインターネットに関すること（パソコンやタブレット、スマートフォンなどの端末に関することやホームページの作り方、ソーシャル・ネットワーキング・サービス（ＳＮＳ）の使い方に関することなど）	8.0
９	ボランティア活動のために必要な知識・技能	2.6
10	自然体験や生活体験などの体験活動	3.1
11	学校（高等・専門・各種学校、大学、大学院など）の正規課程での学習	2.7
12	生涯学習をこの１年くらいしていない	29.8
13	わからない	14.1
	（無回答）	2.5



全体でみると、「生涯学習をこの１年くらいしていない」（29.8%）が３割弱で最も高くなっている。一方、「健康・スポーツ（健康法、医学、栄養、ジョギング、水泳など）」（23.8%）が２割台半ば近く、「趣味的なもの（音楽、美術、華道、舞踏、書道、レクリエーション活動など）」（21.2%）が２割強となっている。

前回（令和６(2024)年）の調査結果と比較すると、「生涯学習をこの１年くらいしていない」が6.0ポイント増加している。一方、「健康・スポーツ（健康法、医学、栄養、ジョギング、水泳など）」が3.9ポイント、「職業上必要な知識・技能（仕事に関係のある知識の習得や資格の取得など）」が3.6ポイント減少している。

［性別・性／年齢別］（上位９項目＋「生涯学習をこの１年くらいしていない」）

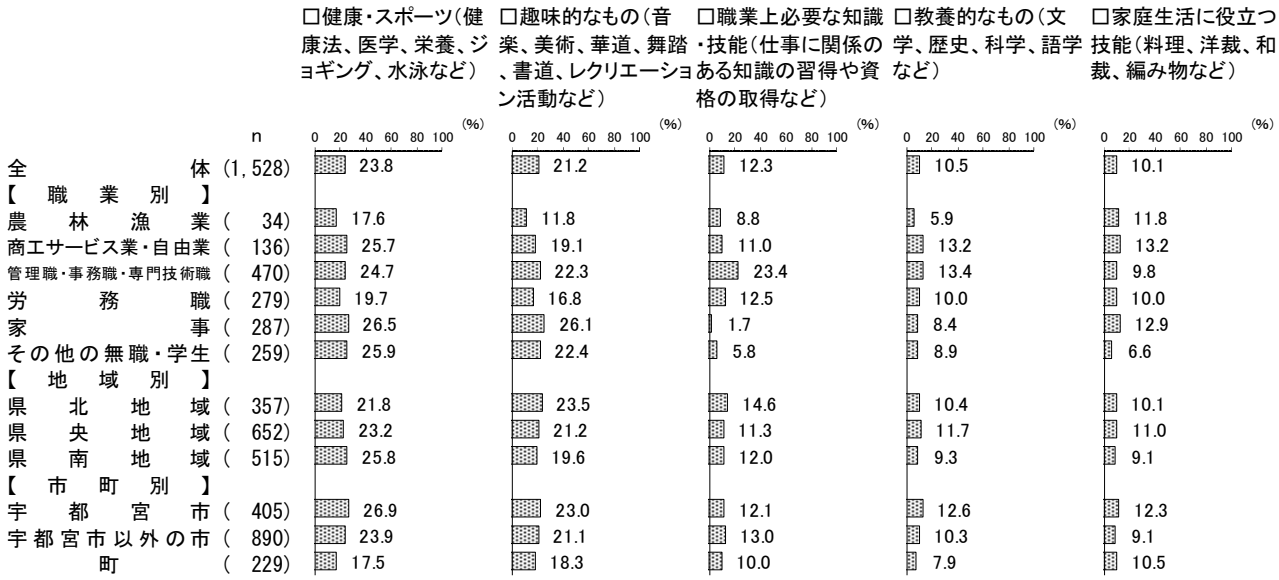
	n	□健康・スポーツ（健康法、医学、栄養、ジョギング、水泳など）	□趣味的なもの（音楽、美術、華道、舞踏、書道、レクリエーション活動など）	□職業上必要な知識・技能（仕事に関係のある知識の習得や資格の取得など）	□教養的なもの（文学、歴史、科学、語学など）	□家庭生活に役立つ技能（料理、洋裁、和裁、編み物など）
全体	(1,528)	23.8	21.2	12.3	10.5	10.1
【性別】						
男性	(648)	26.9	17.1	16.4	11.6	7.9
女性	(821)	21.2	24.0	9.0	9.1	11.7
【性／年齢別】						
男性 18～19歳	(8)	37.5	25.0	12.5	0.0	0.0
男性 20歳代	(49)	40.8	34.7	30.6	30.6	16.3
男性 30歳代	(74)	29.7	28.4	27.0	21.6	17.6
男性 40歳代	(90)	25.6	5.6	21.1	7.8	5.6
男性 50歳代	(117)	24.8	15.4	17.1	6.8	6.8
男性 60～64歳	(58)	20.7	20.7	19.0	17.2	5.2
男性 65～69歳	(59)	28.8	22.0	11.9	13.6	8.5
男性 70歳以上	(193)	24.9	11.9	6.7	5.7	4.7
女性 18～19歳	(11)	45.5	36.4	9.1	0.0	36.4
女性 20歳代	(55)	20.0	40.0	14.5	18.2	14.5
女性 30歳代	(85)	16.5	20.0	23.5	9.4	10.6
女性 40歳代	(123)	17.9	20.3	17.1	9.8	13.8
女性 50歳代	(134)	19.4	20.1	10.4	14.9	11.2
女性 60～64歳	(61)	21.3	26.2	6.6	9.8	13.1
女性 65～69歳	(74)	20.3	25.7	6.8	5.4	12.2
女性 70歳以上	(276)	24.3	24.3	0.4	5.4	9.4

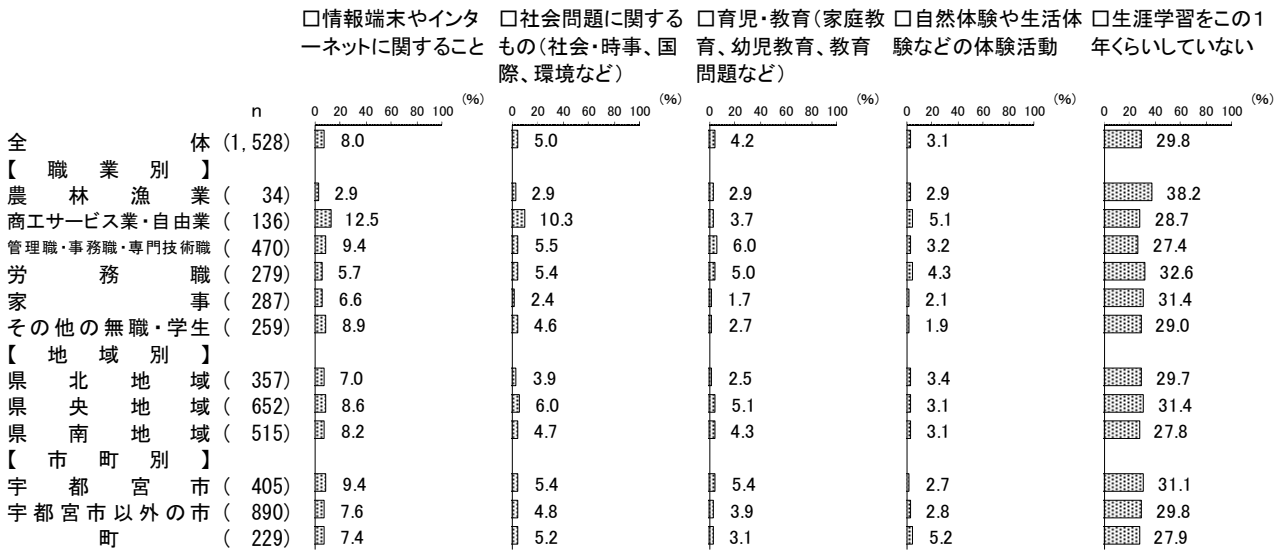
	n	□情報端末やインターネットに関すること	□社会問題に関するもの（社会・時事、国際、環境など）	□育児・教育（家庭教育、幼児教育、教育問題など）	□自然体験や生活体験などの体験活動	□生涯学習をこの1年くらいしていない
全体	(1,528)	8.0	5.0	4.2	3.1	29.8
【性別】						
男性	(648)	11.1	7.7	4.9	3.5	26.5
女性	(821)	6.0	2.8	3.4	2.8	32.6
【性／年齢別】						
男性 18～19歳	(8)	25.0	0.0	0.0	0.0	0.0
男性 20歳代	(49)	22.4	14.3	4.1	6.1	6.1
男性 30歳代	(74)	14.9	13.5	14.9	9.5	20.3
男性 40歳代	(90)	6.7	3.3	7.8	3.3	25.6
男性 50歳代	(117)	11.1	9.4	2.6	1.7	28.2
男性 60～64歳	(58)	10.3	8.6	5.2	3.4	31.0
男性 65～69歳	(59)	10.2	10.2	1.7	0.0	22.0
男性 70歳以上	(193)	8.8	4.1	2.6	3.1	34.7
女性 18～19歳	(11)	9.1	0.0	0.0	9.1	0.0
女性 20歳代	(55)	14.5	10.9	1.8	7.3	25.5
女性 30歳代	(85)	4.7	2.4	12.9	2.4	25.9
女性 40歳代	(123)	5.7	3.3	8.1	3.3	39.0
女性 50歳代	(134)	6.7	4.5	1.5	3.0	35.8
女性 60～64歳	(61)	3.3	0.0	3.3	1.6	41.0
女性 65～69歳	(74)	2.7	0.0	1.4	1.4	39.2
女性 70歳以上	(276)	5.8	1.8	0.4	2.2	29.7

上位９項目＋「生涯学習をこの１年くらいしていない」について、性別でみると、「職業上必要な知識・技能（仕事に関係のある知識の習得や資格の取得など)」では〈男性〉(16.4%）が〈女性〉(9.0%）より7.4ポイント、「健康・スポーツ（健康法、医学、栄養、ジョギング、水泳など)」では〈男性〉(26.9%）が〈女性〉(21.2%）より5.7ポイント、「情報端末やインターネットに関すること（パソコンやタブレット、スマートフォンなどの端末に関することやホームページの作り方、ソーシャル・ネットワーキング・サービス（ＳＮＳ）の使い方に関することなど）（以下『情報端末やインターネットに関すること』という。)」では〈男性〉(11.1%）が〈女性〉(6.0%）より5.1ポイント高くなっている。一方、「趣味的なもの（音楽、美術、華道、舞踏、書道、レクリエーション活動など)」では〈女性〉(24.0%）が〈男性〉(17.1%）より6.9ポイント、「生涯学習をこの１年くらいしていない」では〈女性〉(32.6%）が〈男性〉(26.5%）より6.1ポイント高くなっている。

性／年齢別でみると、「健康・スポーツ（健康法、医学、栄養、ジョギング、水泳など)」では〈男性20歳代〉が40.8%と高くなっている。「趣味的なもの（音楽、美術、華道、舞踏、書道、レクリエーション活動など)」では〈女性20歳代〉が40.0%、〈男性20歳代〉が34.7%と高くなっている。「職業上必要な知識・技能（仕事に関係のある知識の習得や資格の取得など)」では〈男性20歳代〉が30.6%、〈男性30歳代〉が27.0%、〈女性30歳代〉が23.5%と高くなっている。「教養的なもの（文学、歴史、科学、語学など)」では〈男性20歳代〉が30.6%、〈男性30歳代〉が21.6%と高くなっている。『情報端末やインターネットに関すること』では〈男性20歳代〉が22.4%と高くなっている。「育児・教育（家庭教育、幼児教育、教育問題など)」では〈男性30歳代〉が14.9%と高くなっている。一方、「生涯学習をこの１年くらいしていない」では〈女性60～64歳〉が41.0%と高くなっている。

［職業別・地域別・市町別］（上位９項目＋「生涯学習をこの１年くらいしていない」）





上位９項目＋「生涯学習をこの１年くらいしていない」について、職業別でみると、「職業上必要な知識・技能（仕事に関係のある知識の習得や資格の取得など）」では〈管理職・事務職・専門技術職〉が23.4％と高くなっている。

地域別でみると、大きな傾向の違いはみられない。

市町別でみると、大きな傾向の違いはみられない。

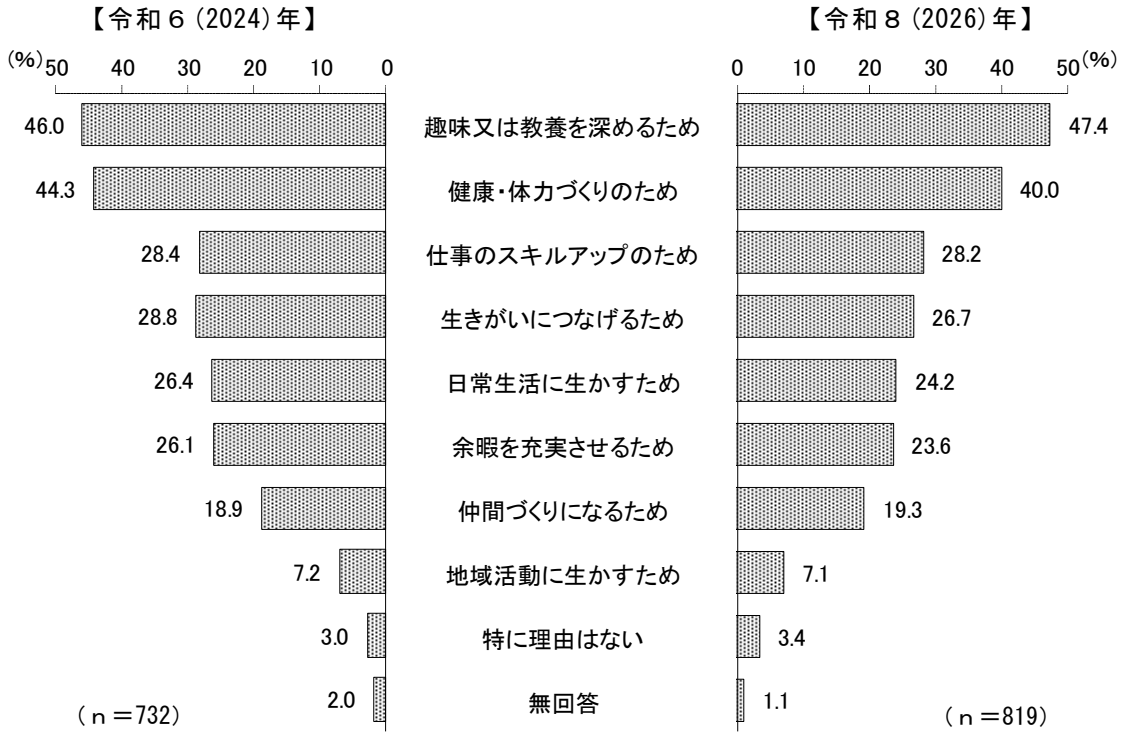
（２）生涯学習を行った理由

（問19で選択肢「１　趣味的なもの」～「11　学校の正規課程での学習」を選んだ方のみお答えください）

問20　あなたが、生涯学習を行った理由は何ですか。次の中からいくつでも選んでください。

［ｎ＝819］

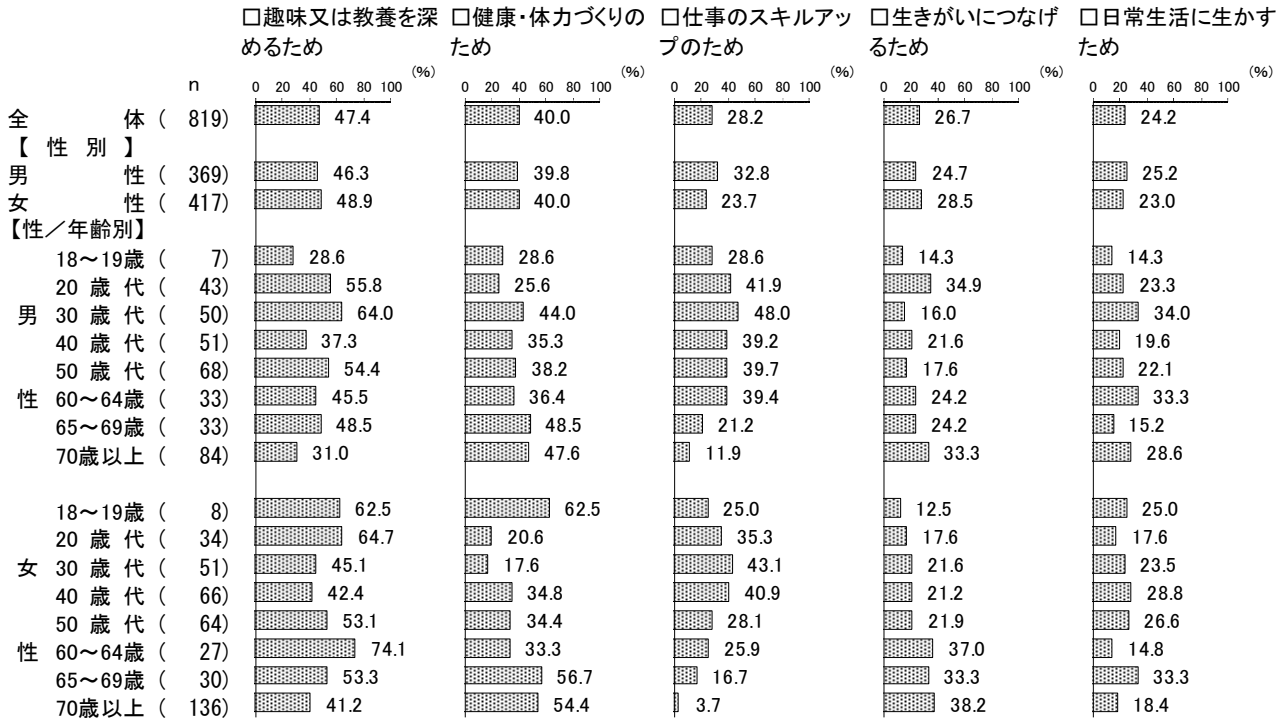
１	趣味又は教養を深めるため	47.4%
２	仲間づくりになるため	19.3
３	生きがいにつなげるため	26.7
４	健康・体力づくりのため	40.0
５	仕事のスキルアップのため	28.2
６	地域活動に生かすため	7.1
７	日常生活に生かすため	24.2
８	余暇を充実させるため	23.6
９	特に理由はない	3.4
	（無回答）	1.1

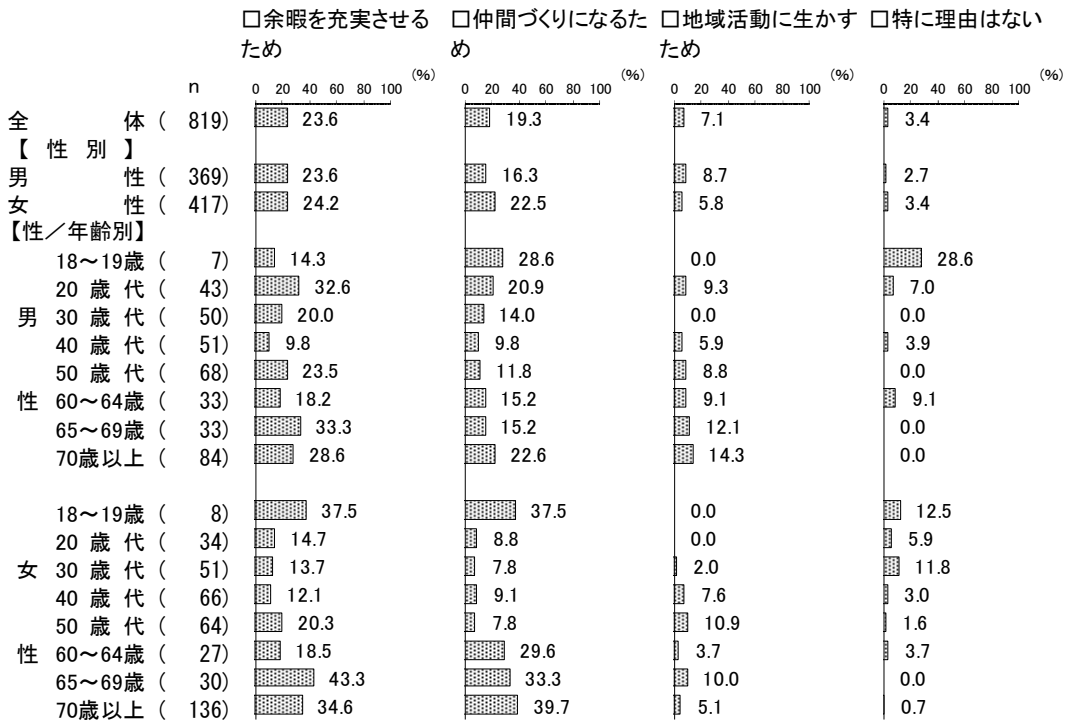


全体でみると、「趣味又は教養を深めるため」（47.4%）が４割台半ばを超えて最も高く、次いで「健康・体力づくりのため」（40.0%）、「仕事のスキルアップのため」（28.2%）、「生きがいにつなげるため」（26.7%）となっている。

前回（令和６(2024)年）の調査結果と比較すると、「健康・体力づくりのため」が4.3ポイント減少している。

［性別・性／年齢別］

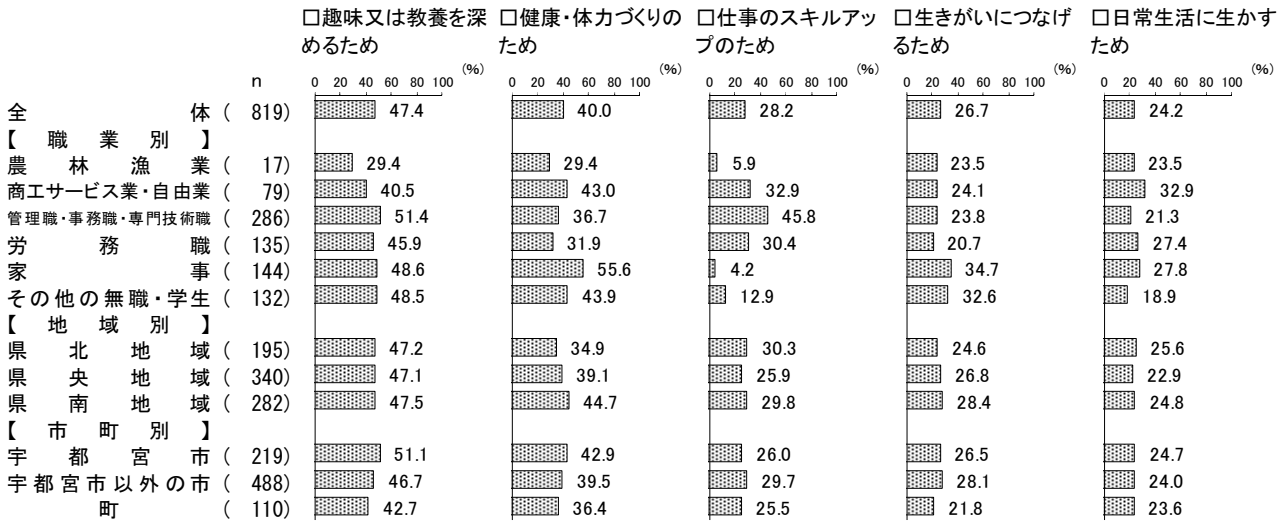

□趣味又は教養を深めるため
□健康・体力づくりのため
□仕事のスキルアップのため
□生きがいにつなげるため
□日常生活に生かすため
n
0 20 40 60 80 100 (%)
全体 (819) 47.4 40.0 28.2 26.7 24.2
【性別】
男性 (369) 46.3 39.8 32.8 24.7 25.2
女性 (417) 48.9 40.0 23.7 28.5 23.0
【性／年齢別】
男 18～19歳 (7) 28.6 28.6 28.6 14.3 14.3
男 20歳代 (43) 55.8 25.6 41.9 34.9 23.3
男 30歳代 (50) 64.0 44.0 48.0 16.0 34.0
男 40歳代 (51) 37.3 35.3 39.2 21.6 19.6
男 50歳代 (68) 54.4 38.2 39.7 17.6 22.1
男 60～64歳 (33) 45.5 36.4 39.4 24.2 33.3
男 65～69歳 (33) 48.5 48.5 21.2 24.2 15.2
男 70歳以上 (84) 31.0 47.6 11.9 33.3 28.6
女 18～19歳 (8) 62.5 62.5 25.0 12.5 25.0
女 20歳代 (34) 64.7 20.6 35.3 17.6 17.6
女 30歳代 (51) 45.1 17.6 43.1 21.6 23.5
女 40歳代 (66) 42.4 34.8 40.9 21.2 28.8
女 50歳代 (64) 53.1 34.4 28.1 21.9 26.6
女 60～64歳 (27) 74.1 33.3 25.9 37.0 14.8
女 65～69歳 (30) 53.3 56.7 16.7 33.3 33.3
女 70歳以上 (136) 41.2 54.4 3.7 38.2 18.4

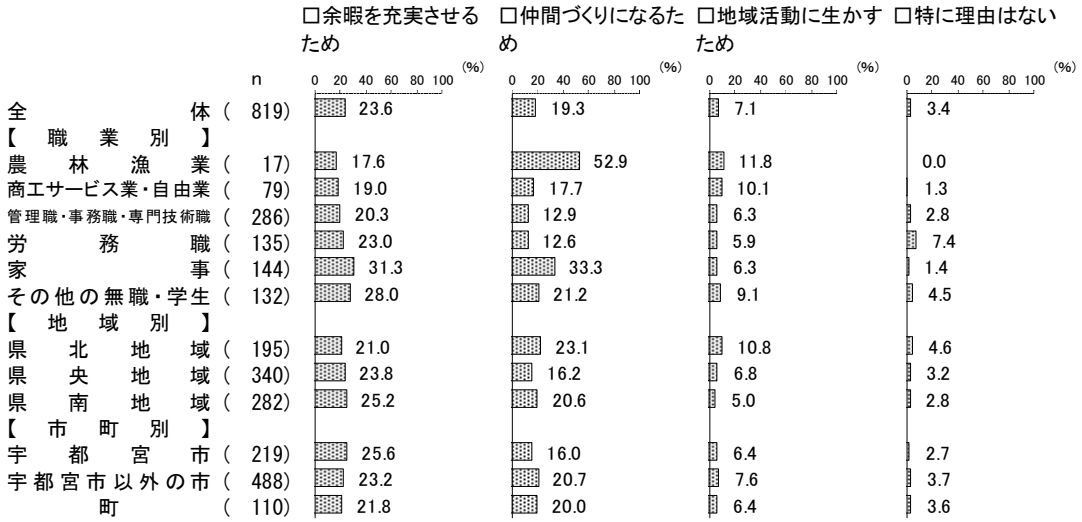

□余暇を充実させるため
□仲間づくりになるため
□地域活動に生かすため
□特に理由はない
n
0 20 40 60 80 100 (%)
全体 (819) 23.6 19.3 7.1 3.4
【性別】
男性 (369) 23.6 16.3 8.7 2.7
女性 (417) 24.2 22.5 5.8 3.4
【性／年齢別】
男 18～19歳 (7) 14.3 28.6 0.0 28.6
男 20歳代 (43) 32.6 20.9 9.3 7.0
男 30歳代 (50) 20.0 14.0 0.0 0.0
男 40歳代 (51) 9.8 9.8 5.9 3.9
男 50歳代 (68) 23.5 11.8 8.8 0.0
男 60～64歳 (33) 18.2 15.2 9.1 9.1
男 65～69歳 (33) 33.3 15.2 12.1 0.0
男 70歳以上 (84) 28.6 22.6 14.3 0.0
女 18～19歳 (8) 37.5 37.5 0.0 12.5
女 20歳代 (34) 14.7 8.8 0.0 5.9
女 30歳代 (51) 13.7 7.8 2.0 11.8
女 40歳代 (66) 12.1 9.1 7.6 3.0
女 50歳代 (64) 20.3 7.8 10.9 1.6
女 60～64歳 (27) 18.5 29.6 3.7 3.7
女 65～69歳 (30) 43.3 33.3 10.0 0.0
女 70歳以上 (136) 34.6 39.7 5.1 0.7

性別でみると、「仕事のスキルアップのため」では〈男性〉（32.8%）が〈女性〉（23.7%）より9.1ポイント高くなっている。一方、「仲間づくりになるため」では〈女性〉（22.5%）が〈男性〉（16.3%）より6.2ポイント高くなっている。

性／年齢別でみると、「趣味又は教養を深めるため」では〈女性60～64歳〉が74.1%、〈女性20歳代〉が64.7%、〈男性30歳代〉が64.0%と高くなっている。「健康・体力づくりのため」では〈女性65～69歳〉が56.7%、〈女性70歳以上〉が54.4%と高くなっている。「仕事のスキルアップのため」では〈男性30歳代〉が48.0%、〈女性30歳代〉が43.1%、〈男性20歳代〉が41.9%、〈女性40歳代〉が40.9%、〈男性50歳代〉が39.7%、〈男性60～64歳〉が39.4%、〈男性40歳代〉が39.2%と高くなっている。「生きがいにつなげるため」では〈女性70歳以上〉が38.2%、〈女性60～64歳〉が37.0%と高くなっている。「余暇を充実させるため」では〈女性65～69歳〉が43.3%、〈女性70歳以上〉が34.6%と高くなっている。「仲間づくりになるため」では〈女性70歳以上〉が39.7%、〈女性65～69歳〉が33.3%、〈女性60～64歳〉が29.6%と高くなっている。

［職業別・地域別・市町別］





職業別でみると、「健康・体力づくりのため」では〈家事〉が55.6%と高くなっている。「仕事のスキルアップのため」では〈管理職・事務職・専門技術職〉が45.8%と高くなっている。「仲間づくりになるため」では〈家事〉が33.3%と高くなっている。

地域別でみると、大きな傾向の違いはみられない。

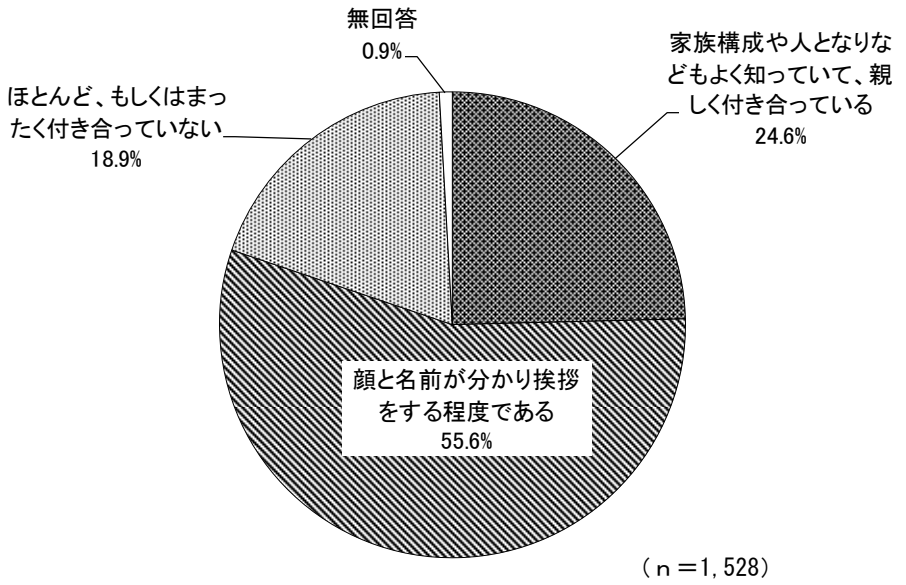
市町別でみると、大きな傾向の違いはみられない。

10　地域のつながりについて

（１）ご近所との関係

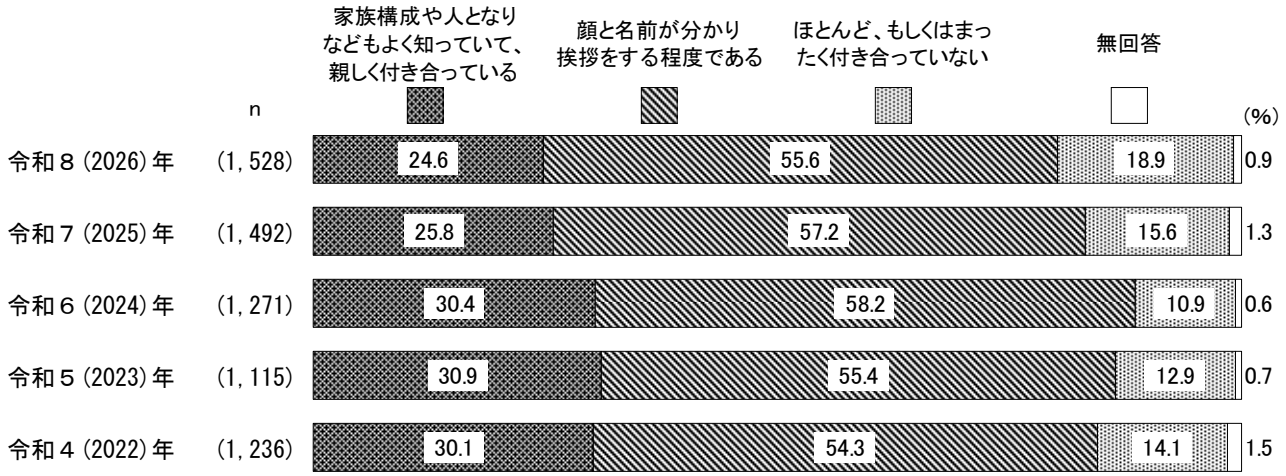
問21　あなたは現在、ご近所（両隣など）の方とどのような関係ですか。次の中から１つ選んでください。　［ｎ＝1,528］

1	家族構成や人となりなどもよく知っていて、親しく付き合っている	24.6%
2	顔と名前が分かり挨拶をする程度である	55.6
3	ほとんど、もしくはまったく付き合っていない	18.9
	（無回答）	0.9



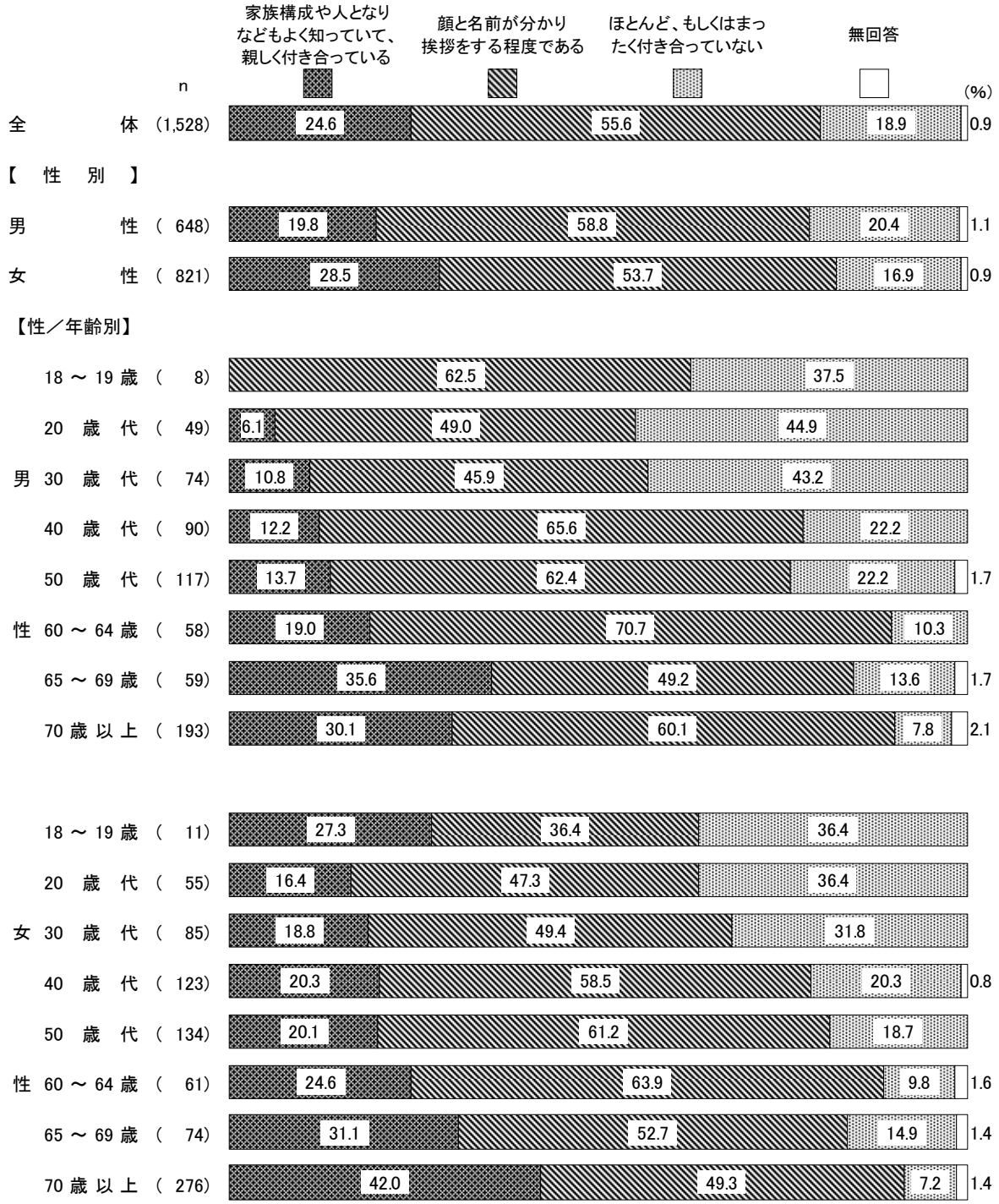
全体でみると、「顔と名前が分かり挨拶をする程度である」（55.6%）が５割台半ばで最も高くなっている。次いで「家族構成や人となりなどもよく知っていて、親しく付き合っている」（24.6%）、「ほとんど、もしくはまったく付き合っていない」（18.9%）となっている。

［過去の調査結果］



前回（令和７(2025)年）の調査結果と比較すると、「ほとんど、もしくはまったく付き合っていない」が3.3ポイント増加している。

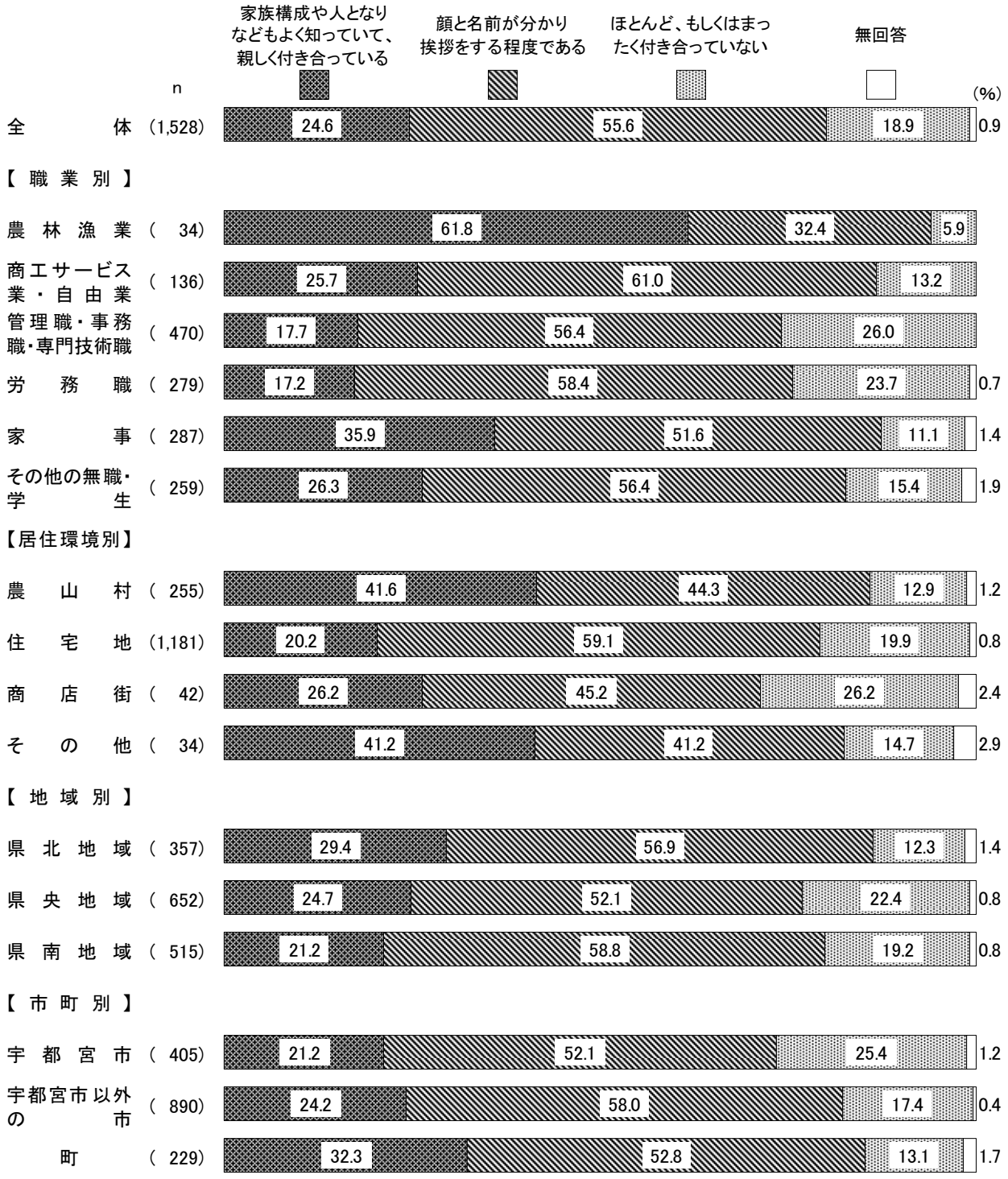
［性別・性／年齢別］



性別でみると、「家族構成や人となりなどもよく知っていて、親しく付き合っている」では〈女性〉（28.5%）が〈男性〉（19.8%）より8.7ポイント高くなっている。一方、「顔と名前が分かり挨拶をする程度である」では〈男性〉（58.8%）が〈女性〉（53.7%）より5.1ポイント高くなっている。

性／年齢別でみると、「家族構成や人となりなどもよく知っていて、親しく付き合っている」では〈女性70歳以上〉が42.0%、〈男性65～69歳〉が35.6%と高くなっている。「顔と名前が分かり挨拶をする程度である」では〈男性60～64歳〉が70.7%、〈男性40歳代〉が65.6%と高くなっている。「ほとんど、もしくはまったく付き合っていない」では〈男性20歳代〉が44.9%、〈男性30歳代〉が43.2%、〈女性20歳代〉が36.4%、〈女性30歳代〉が31.8%と高くなっている。

［職業別・居住環境別・地域別・市町別］



職業別でみると、「家族構成や人となりなどもよく知っていて、親しく付き合っている」では〈農林漁業〉が61.8%、〈家事〉が35.9%と高くなっている。

居住環境別でみると、「家族構成や人となりなどもよく知っていて、親しく付き合っている」では〈農山村〉が41.6%と高くなっている。

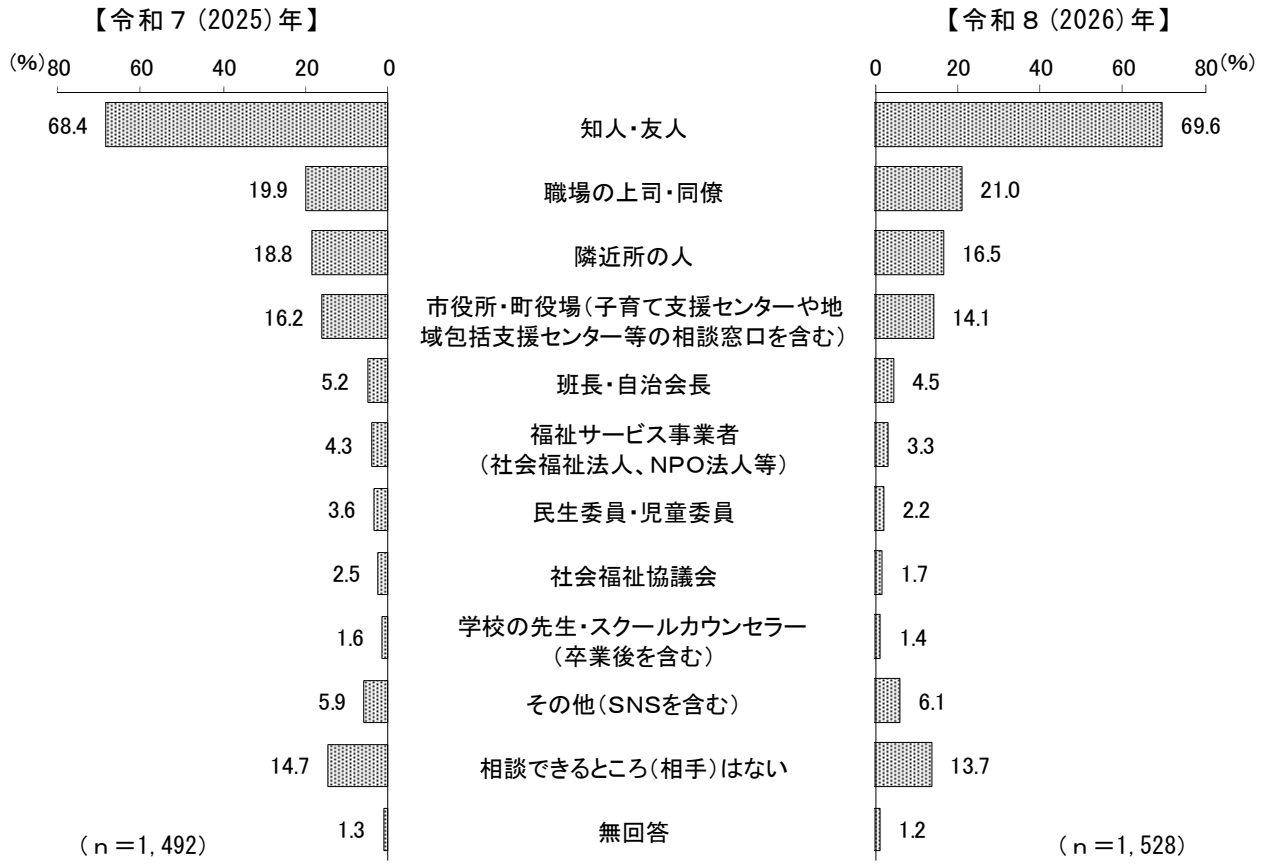
地域別でみると、大きな傾向の違いはみられない。

市町別でみると、大きな傾向の違いはみられない。

（２）家族・親族以外で相談できるところ・人

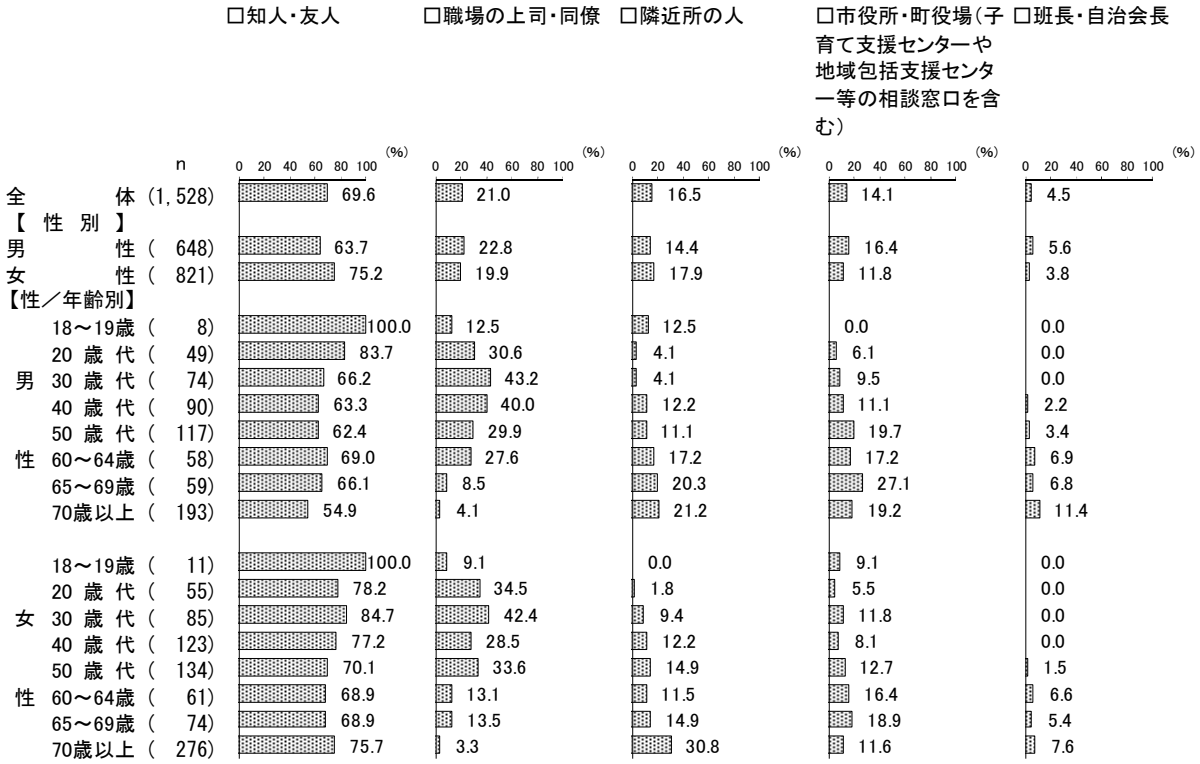
問22　日常生活で困ったときに、家族・親族以外で相談できるところ（相手）はどこ（誰）ですか。次の中からいくつでも選んでください。　［ｎ＝1,528］

1	知人・友人	69.6%
2	隣近所の人	16.5
3	民生委員・児童委員	2.2
4	班長・自治会長	4.5
5	社会福祉協議会	1.7
6	市役所・町役場（子育て支援センターや地域包括支援センター等の相談窓口を含む）	14.1
7	福祉サービス事業者（社会福祉法人、ＮＰＯ法人等）	3.3
8	学校の先生・スクールカウンセラー（卒業後を含む）	1.4
9	職場の上司・同僚	21.0
10	その他（ＳＮＳを含む）	6.1
11	相談できるところ（相手）はない	13.7
	（無回答）	1.2



全体でみると、「知人・友人」（69.6%）が７割弱で最も高くなっている。
前回（令和７(2025)年）の調査結果と比較すると、大きな傾向の違いはみられない。

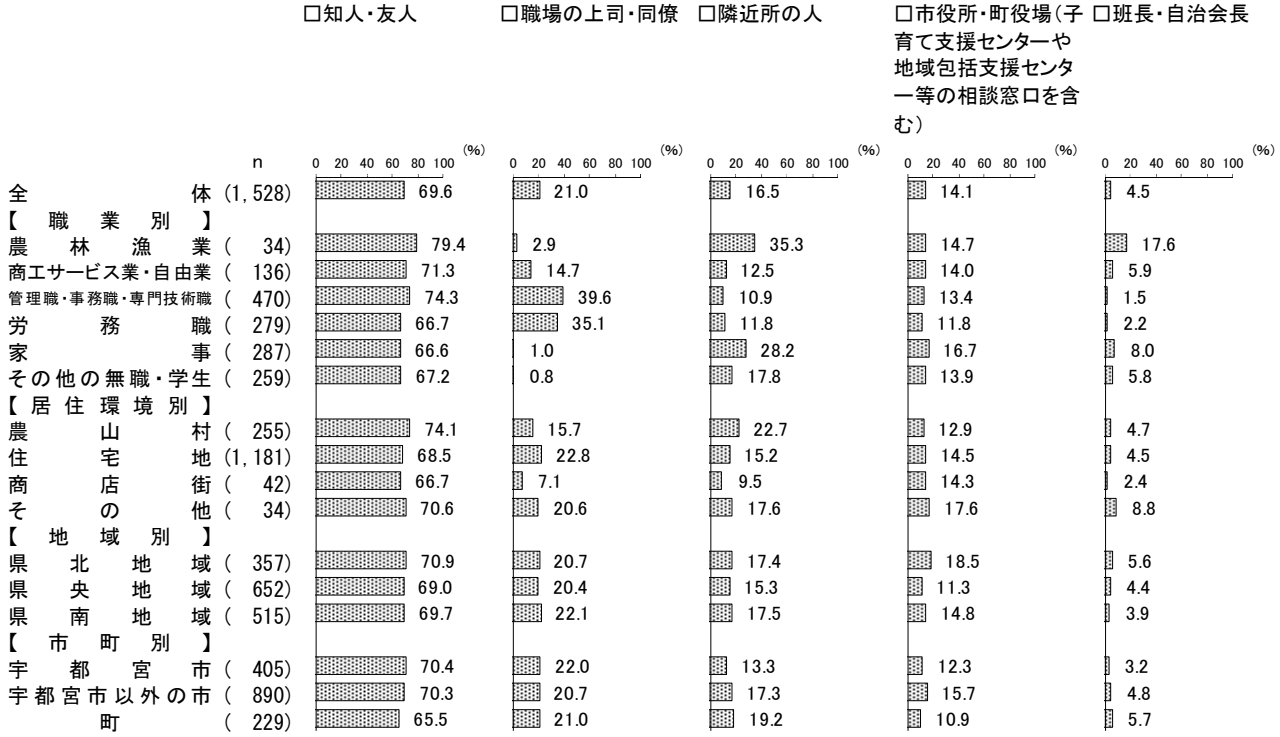
［性別・性／年齢別］（上位９項目＋「相談できるところ（相手）はない」）

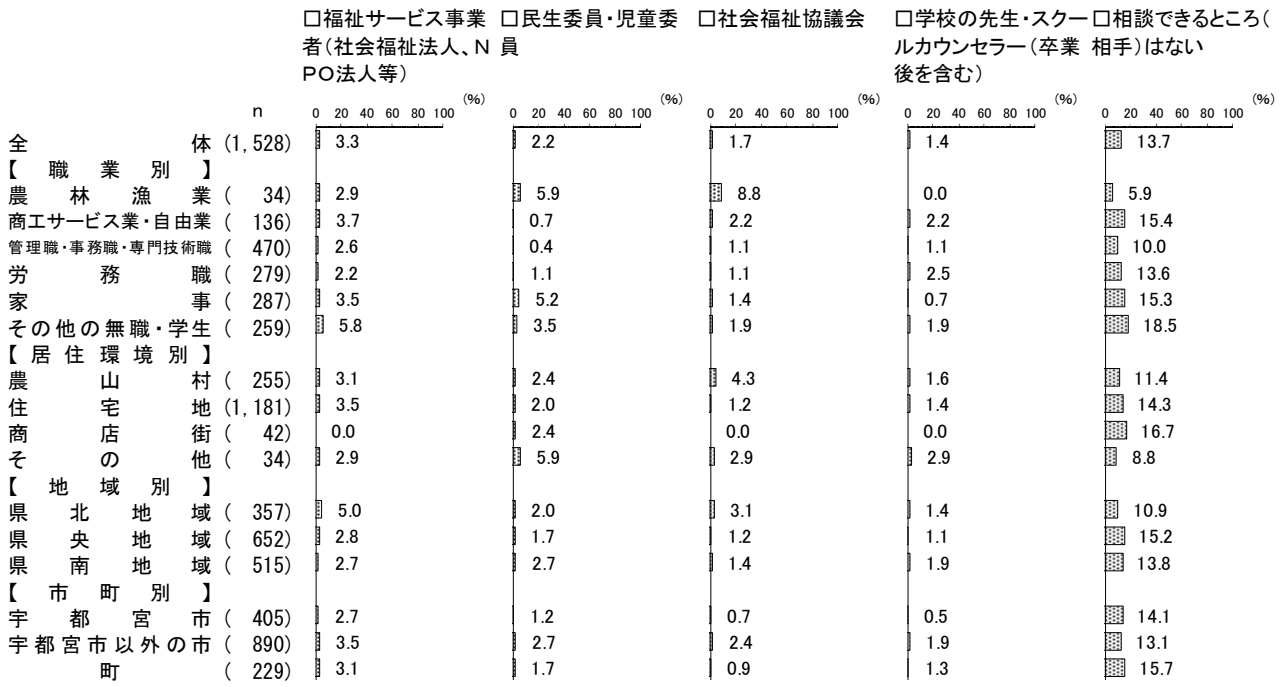


上位９項目＋「相談できるところ（相手）はない」について、性別でみると、「知人・友人」では〈女性〉（75.2％）が〈男性〉（63.7％）より11.5ポイント高くなっている。

性／年齢別でみると、「知人・友人」では〈女性30歳代〉が84.7％、〈男性20歳代〉が83.7％と高くなっている。「職場の上司・同僚」では〈男性30歳代〉が43.2％、〈女性30歳代〉が42.4％、〈男性40歳代〉が40.0％、〈女性20歳代〉が34.5％、〈女性50歳代〉が33.6％と高くなっている。「隣近所の人」では〈女性70歳以上〉が30.8％と高くなっている。「市役所・町役場（子育て支援センターや地域包括支援センター等の相談窓口を含む）」では〈男性65～69歳〉が27.1％と高くなっている。

［職業別・居住環境別・地域別・市町別］（上位９項目＋「相談できるところ（相手）はない」）





上位９項目＋「相談できるところ（相手）はない」について、職業別でみると、「職場の上司・同僚」では〈管理職・事務職・専門技術職〉が39.6%、〈労務職〉が35.1%と高くなっている。「隣近所の人」では〈農林漁業〉が35.3%、〈家事〉が28.2%と高くなっている。「班長・自治会長」では〈農林漁業〉が17.6%と高くなっている。

居住環境別でみると、「職場の上司・同僚」では〈商店街〉が7.1%と低くなっている。

地域別でみると、大きな傾向の違いはみられない。

市町別でみると、大きな傾向の違いはみられない。

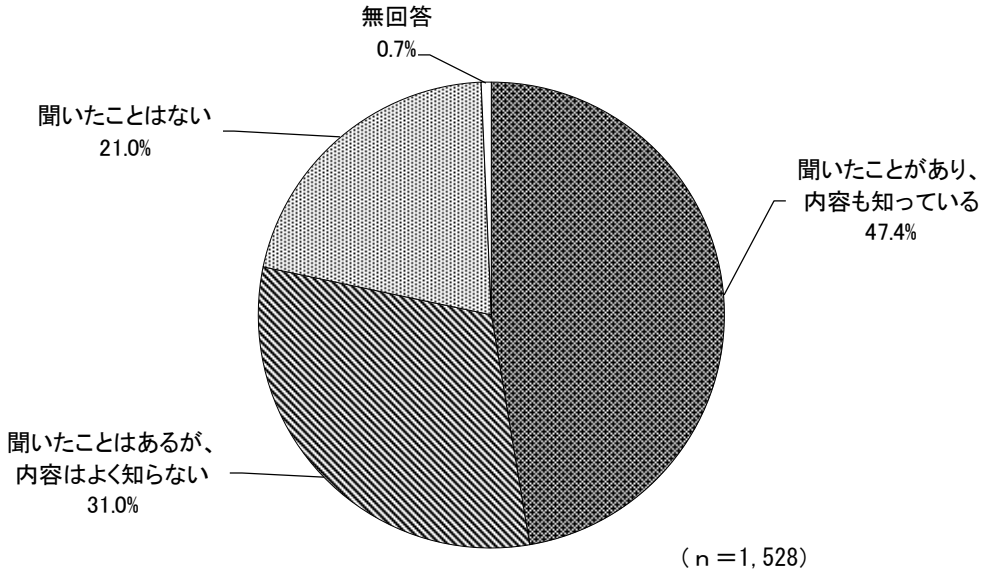
11　ケアラーについて

（１）ケアラーという言葉の認知度

問23　あなたは、「ケアラー」（18歳未満のヤングケアラーを含む。）（※）という言葉を聞いたことがありますか。次の中から１つ選んでください。　［ｎ＝1,528］

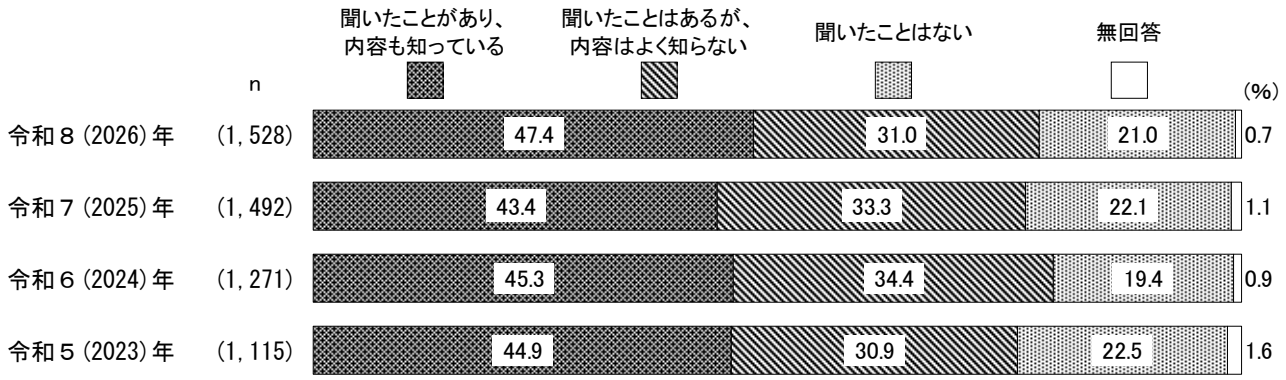
※栃木県では、全てのケアラーが個人として尊重され、社会から孤立することなく、安心して生活することができる地域社会の実現に向けて、令和５年４月に栃木県ケアラー支援条例を施行しました。この条例において、「ケアラー」とは、「高齢、障害、疾病等の理由により援助を必要とする家族、身近な人その他の者に対し、無償で介護、看護、日常生活上の世話その他の援助を提供する」方と定義しており、「ヤングケアラー」とは、このうち18歳未満の方をいいます。

１	聞いたことがあり、内容も知っている	47.4%
２	聞いたことはあるが、内容はよく知らない	31.0
３	聞いたことはない	21.0
	（無回答）	0.7



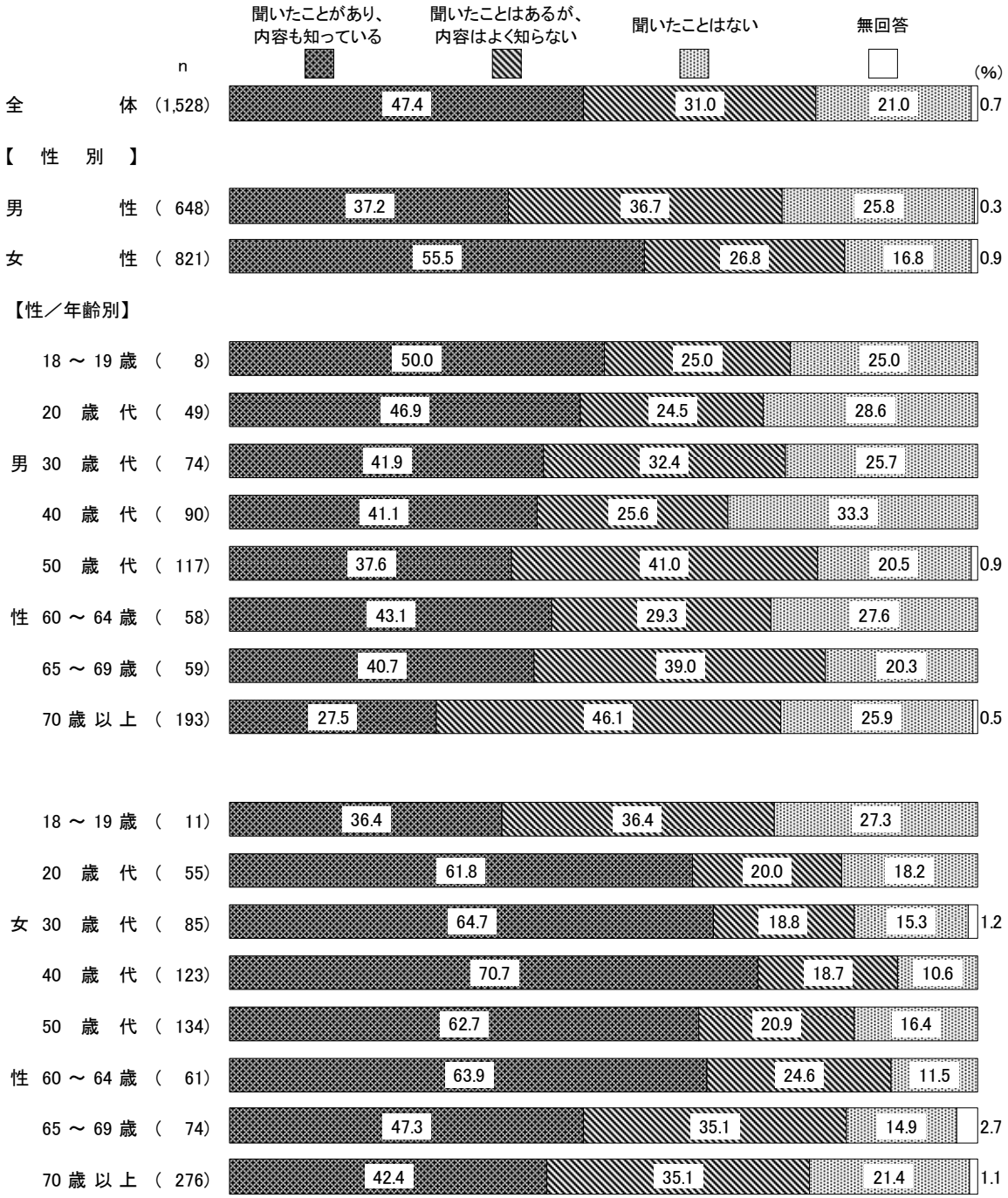
全体でみると、「聞いたことがあり、内容も知っている」（47.4%）が４割台半ばを超えて最も高く、次いで「聞いたことはあるが、内容はよく知らない」（31.0%）、「聞いたことはない」（21.0%）となっている。

［過去の調査結果］



前回（令和７(2025)年）の調査結果と比較すると、「聞いたことがあり、内容も知っている」が4.0ポイント増加している。

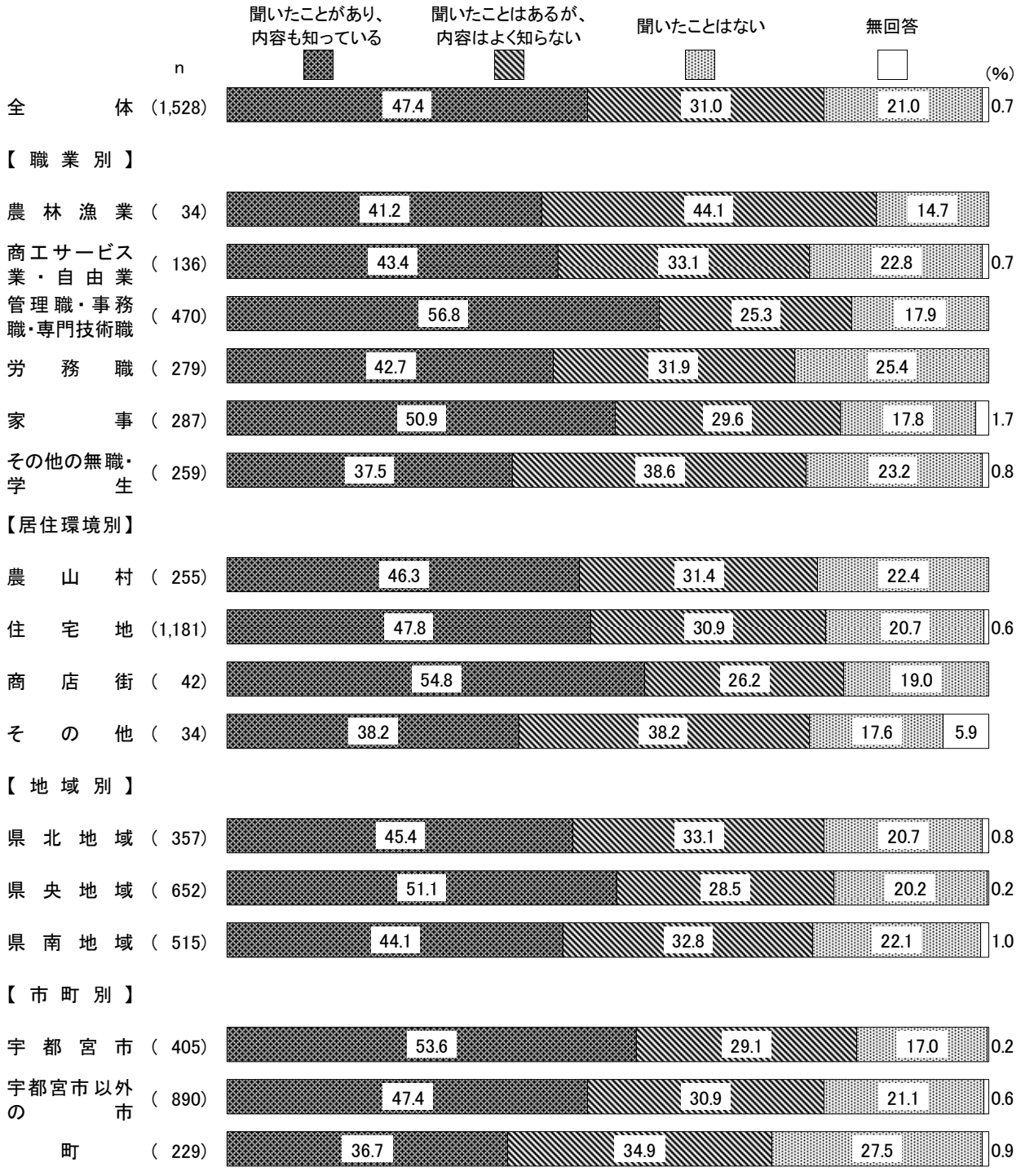
［性別・性／年齢別］



性別でみると、「聞いたことがあり、内容も知っている」では〈女性〉(55.5%) が〈男性〉(37.2%) より18.3ポイント高くなっている。一方、「聞いたことはあるが、内容はよく知らない」では〈男性〉(36.7%) が〈女性〉(26.8%) より9.9ポイント、「聞いたことはない」では〈男性〉(25.8%) が〈女性〉(16.8%) より9.0ポイント高くなっている。

性／年齢別でみると、「聞いたことがあり、内容も知っている」では〈女性40歳代〉が70.7%、〈女性30歳代〉が64.7%、〈女性60～64歳〉が63.9%、〈女性50歳代〉が62.7%、〈女性20歳代〉が61.8%と高くなっている。「聞いたことはあるが、内容はよく知らない」では〈男性70歳以上〉が46.1%、〈男性50歳代〉が41.0%と高くなっている。「聞いたことはない」では〈男性40歳代〉が33.3%と高くなっている。

［職業別・居住環境別・地域別・市町別］



職業別でみると、「聞いたことがあり、内容も知っている」では〈その他の無職・学生〉が37.5％と低くなっている。「聞いたことはあるが、内容はよく知らない」では〈農林漁業〉が44.1％と高くなっている。

居住環境別でみると、大きな傾向の違いはみられない。

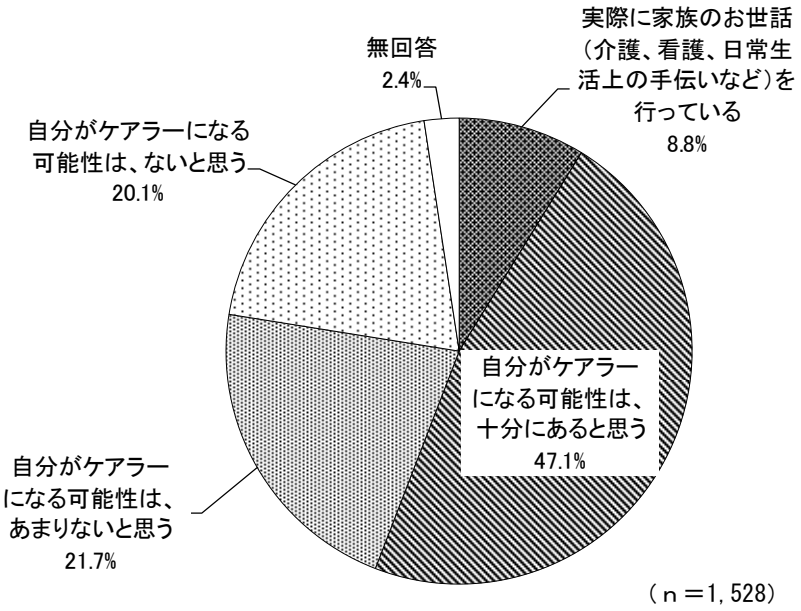
地域別でみると、大きな傾向の違いはみられない。

市町別でみると、「聞いたことがあり、内容も知っている」では〈町〉が36.7％と低くなっている。

（２）ケアラー当事者になる可能性

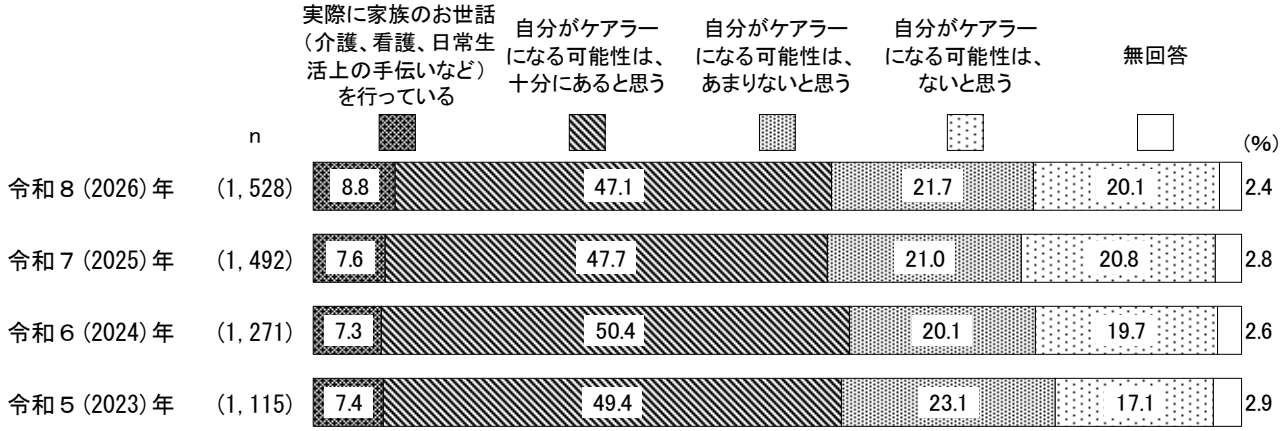
問24　今後、あなたがケアラー当事者（※問23の定義にある、家族等のお世話や介護・看護を担う方）となる可能性について、どのようにお考えですか。あなたの考えに最も近いものを、次の中から１つ選んでください。　［ｎ＝1,528］

1	実際に家族のお世話（介護、看護、日常生活上の手伝いなど）を行っている	8.8%
2	自分がケアラーになる可能性は、十分にあると思う	47.1
3	自分がケアラーになる可能性は、あまりないと思う	21.7
4	自分がケアラーになる可能性は、ないと思う	20.1
	（無回答）	2.4



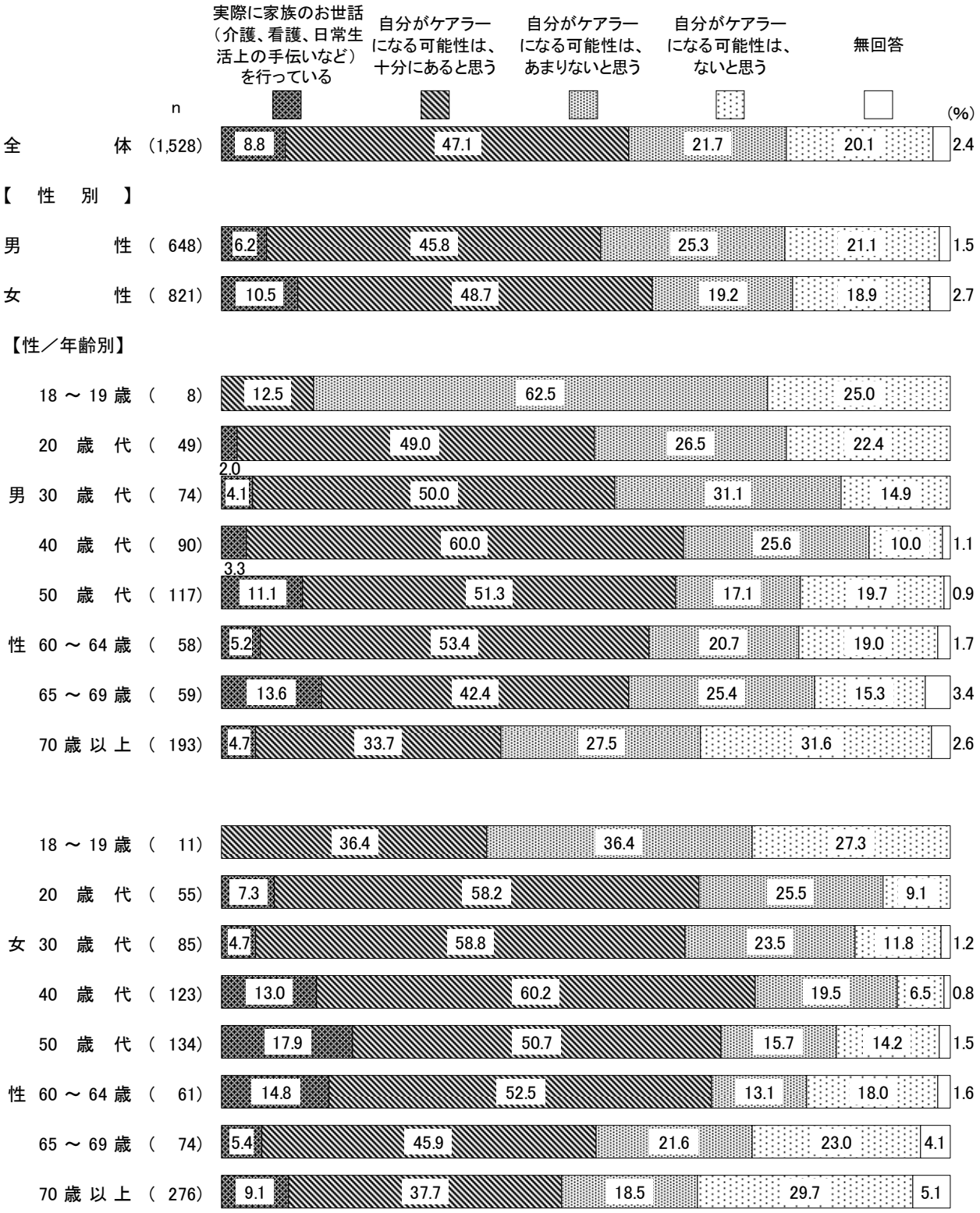
全体でみると、「自分がケアラーになる可能性は、十分にあると思う」（47.1%）が４割台半ばを超えて最も高くなっている。次いで「自分がケアラーになる可能性は、あまりないと思う」（21.7%）、「自分がケアラーになる可能性は、ないと思う」（20.1%）、「実際に家族のお世話（介護、看護、日常生活上の手伝いなど）を行っている」（8.8%）となっている。

［過去の調査結果］



過去の調査結果と比較すると、大きな傾向の違いはみられない。

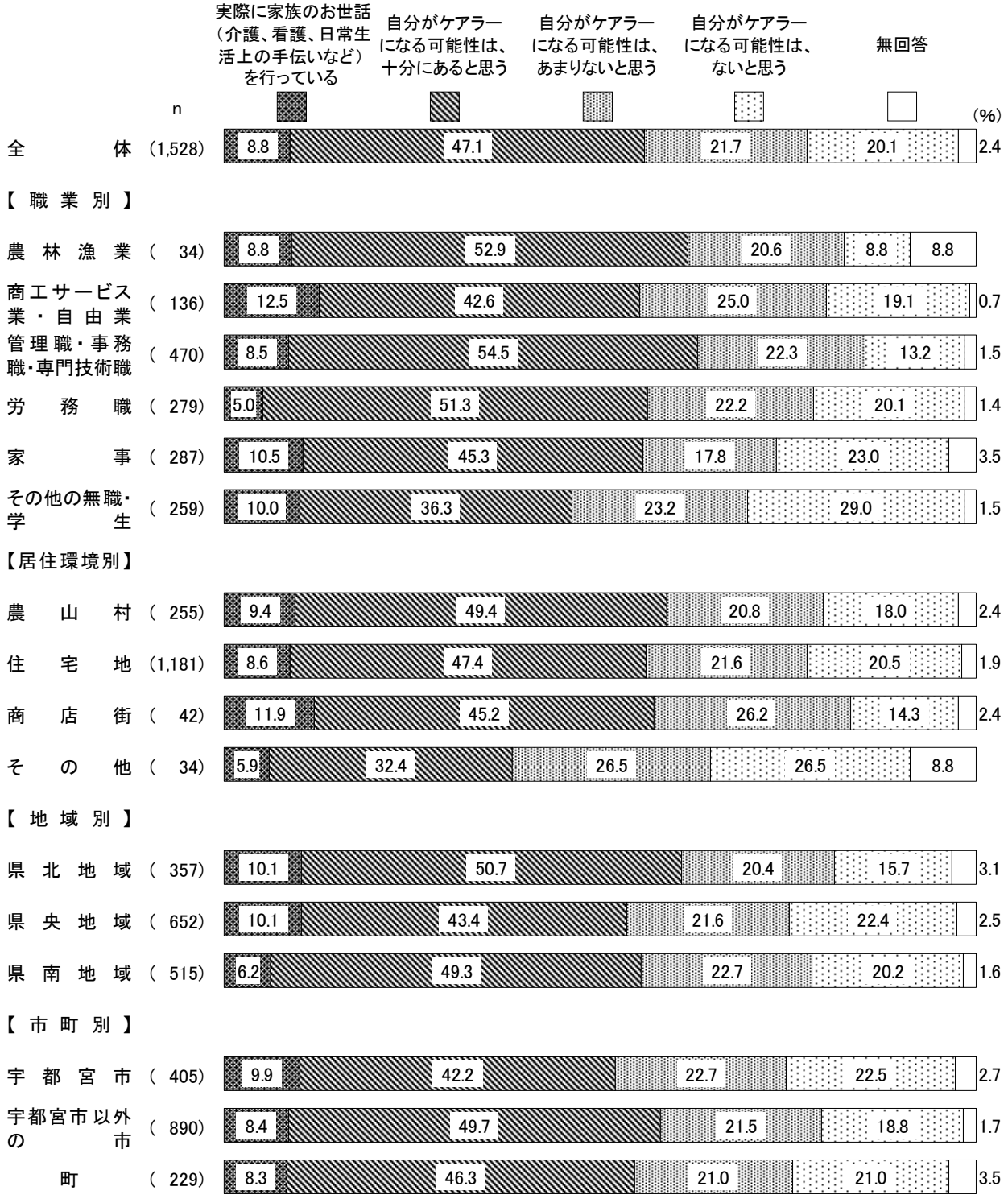
［性別・性／年齢別］



性別でみると、「自分がケアラーになる可能性は、あまりないと思う」では〈男性〉（25.3％）が〈女性〉（19.2％）より6.1ポイント高くなっている。

性／年齢別でみると、「自分がケアラーになる可能性は、十分にあると思う」では〈女性40歳代〉が60.2％、〈男性40歳代〉が60.0％、〈女性30歳代〉が58.8％、〈女性20歳代〉が58.2％と高くなっている。「自分がケアラーになる可能性は、ないと思う」では〈男性70歳以上〉が31.6％と高くなっている。

［職業別・居住環境別・地域別・市町別］



職業別でみると、「自分がケアラーになる可能性は、十分にあると思う」では〈その他の無職・学生〉が36.3%と低くなっている。「自分がケアラーになる可能性は、ないと思う」では〈農林漁業〉が8.8%と低くなっている。

居住環境別でみると、大きな傾向の違いはみられない。

地域別でみると、大きな傾向の違いはみられない。

市町別でみると、大きな傾向の違いはみられない。

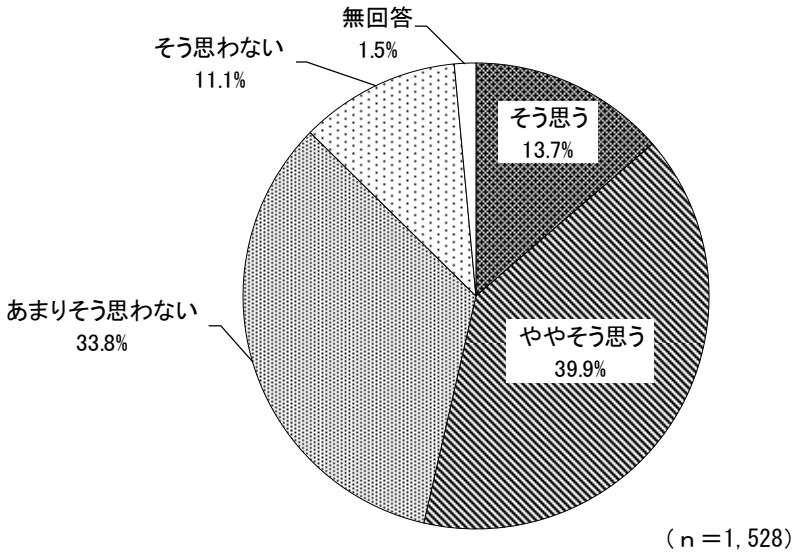
12　在宅医療について

（１）地域における希望する医療環境の整備の実感

問25 あなたの地域では、あなたや家族が自分の希望する場所で医療や介護サービスを受けることができる環境がある（整っている）（※）と思いますか。次の中から１つ選んでください。　［ｎ＝1,528］

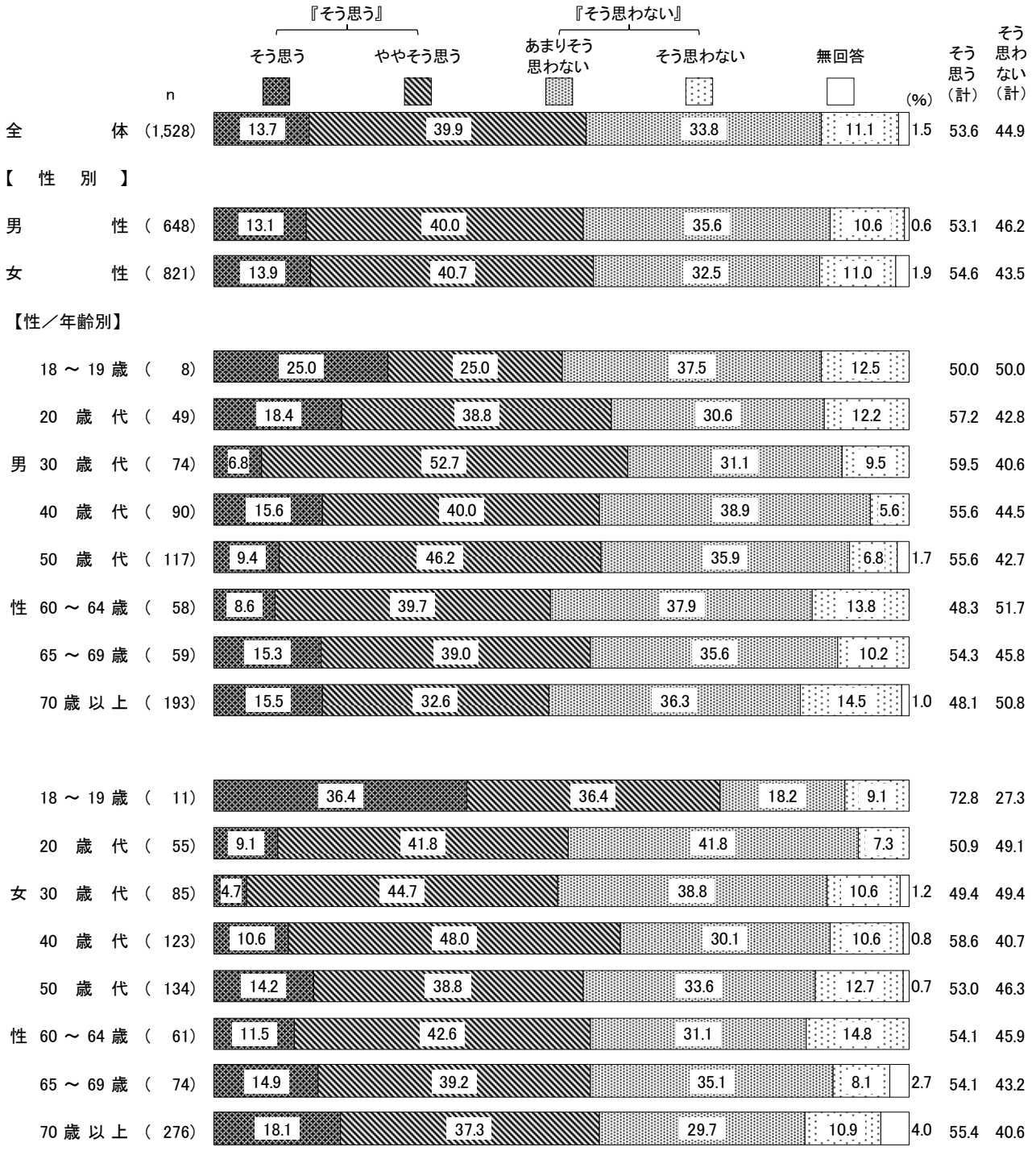
※「希望する場所で医療や介護サービスを受けることができる環境がある（整っている）」とは、病院を希望するなら入院ができる、介護施設を希望するなら入所できる、自宅や老人ホームを希望するなら在宅療養のための支援を受けることができる等をいいます。

１	そう思う	13.7%	３	あまりそう思わない	33.8%
２	ややそう思う	39.9	４	そう思わない	11.1
				（無回答）	1.5



全体でみると、「そう思う」(13.7%)と「ややそう思う」(39.9%)の２つを合わせた『そう思う』(53.6%)が５割台半ば近くとなっている。一方、「あまりそう思わない」（33.8%）と「そう思わない」（11.1%）の２つを合わせた『そう思わない』（44.9%）が４割台半ば近くとなっている。

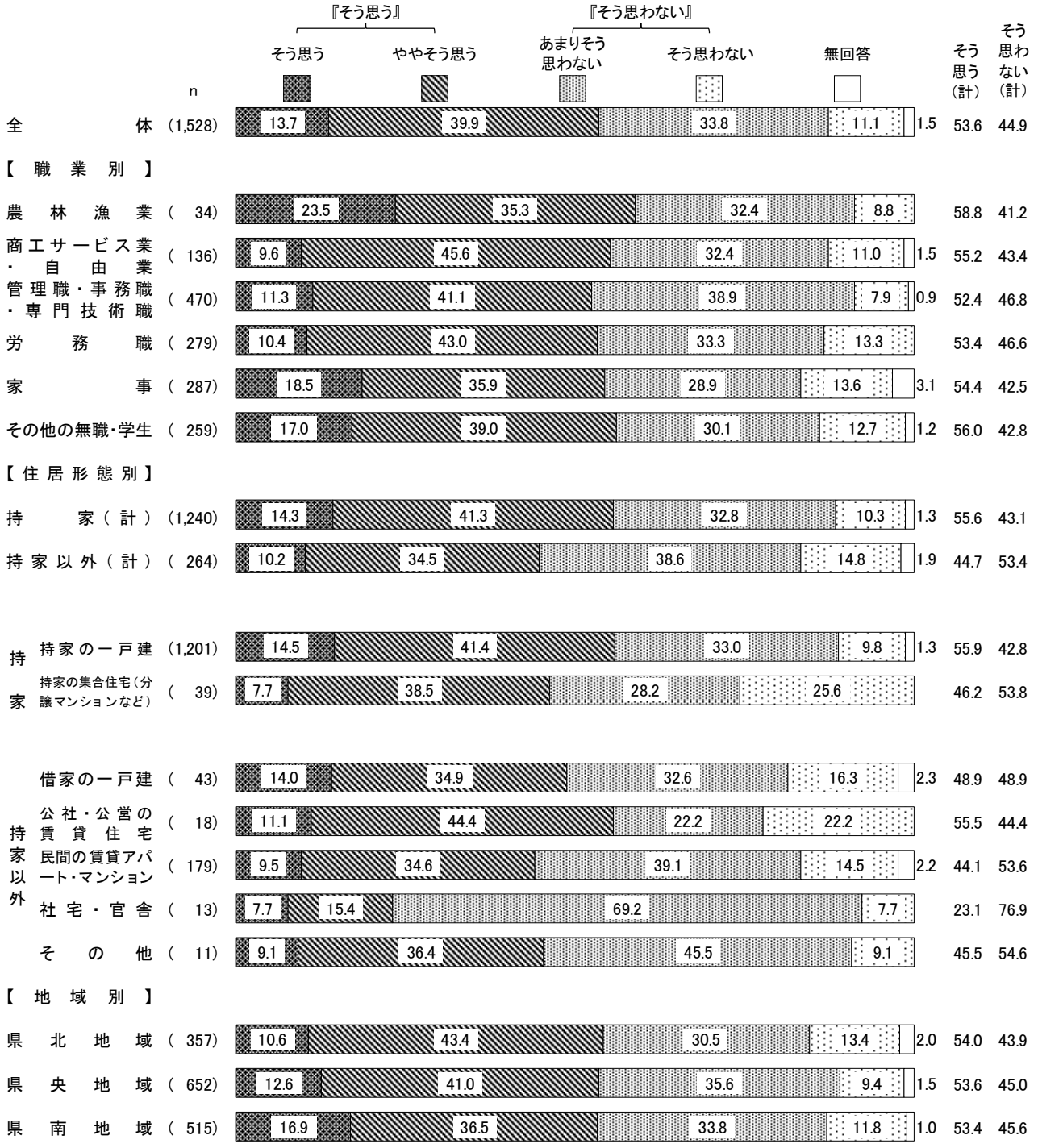
［性別・性／年齢別］



性別でみると、大きな傾向の違いはみられない。

性／年齢別でみると、「ややそう思う」では〈男性30歳代〉が52.7％と高くなっている。

［職業別・住居形態別・地域別］



職業別でみると、大きな傾向の違いはみられない。

住居形態別でみると、『そう思う』では〈持家（計）〉（55.6%）が〈持家以外（計）〉（44.7%）より10.9ポイント高くなっている。

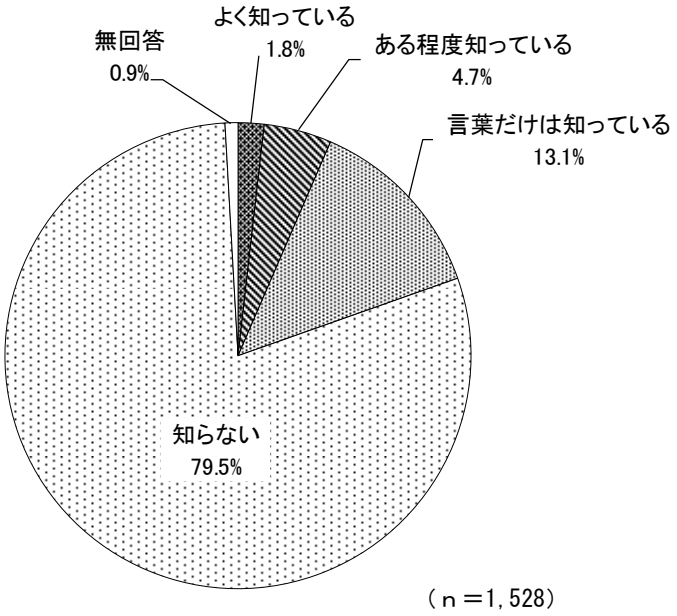
地域別でみると、大きな傾向の違いはみられない。

（２）人生会議（ＡＣＰ）の認知度

問26 あなたは、「人生会議（ＡＣＰ）」（※）を知っていますか。
次の中から１つ選んでください。 ［ｎ＝1,528］

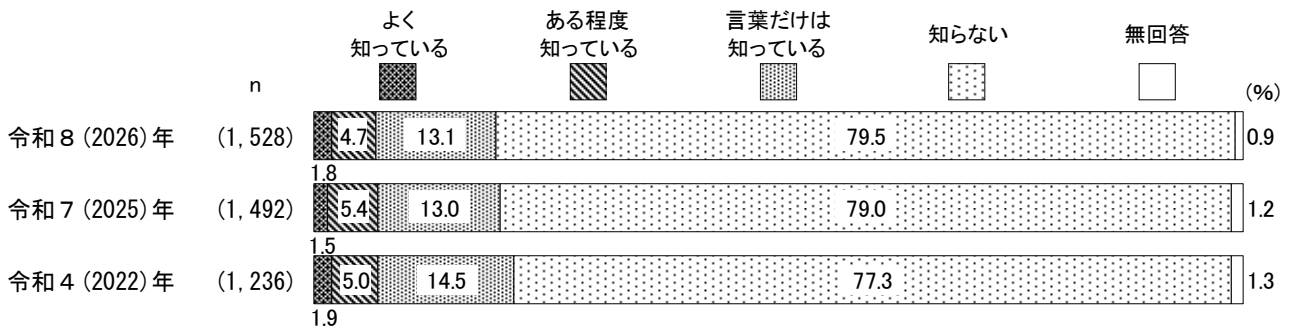
※「人生会議（ＡＣＰ）」とは、アドバンス・ケア・プランニングの愛称で、当事者が望む人生の最終段階の医療やケアについて、前もって考え、家族等や医療・ケアチームと繰り返し話し合い、共有する取組のことをいいます。

１	よく知っている	1.8%	３	言葉だけは知っている	13.1%
２	ある程度知っている	4.7	４	知らない	79.5
				（無回答）	0.9



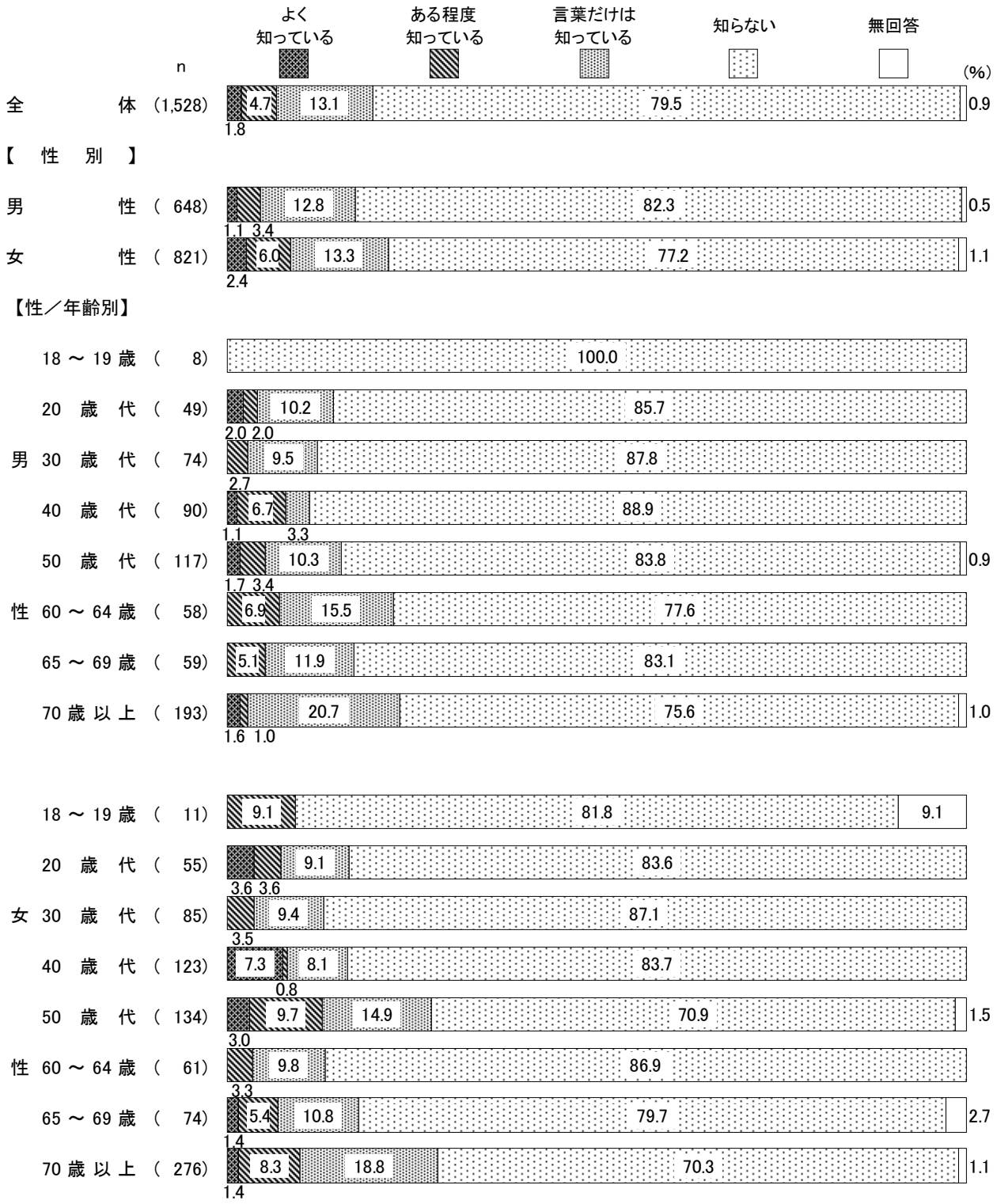
全体でみると、「知らない」（79.5%）が８割弱で最も高くなっている。次いで「言葉だけは知っている」（13.1%）、「ある程度知っている」（4.7%）、「よく知っている」（1.8%）となっている。

［過去の調査結果］



過去の調査結果と比較すると、大きな傾向の違いはみられない。

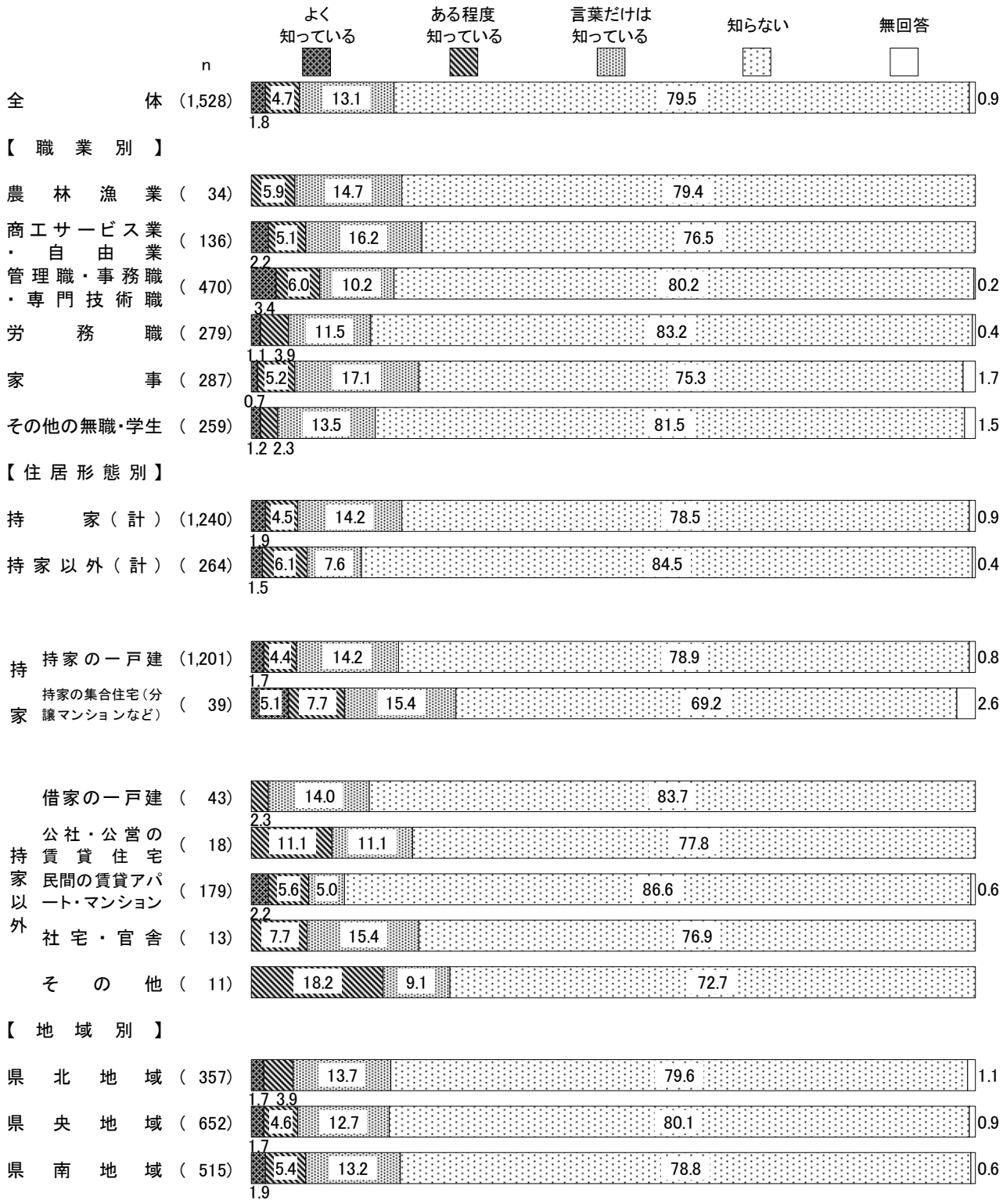
［性別・性／年齢別］



性別でみると、「知らない」では〈男性〉(82.3%) が〈女性〉(77.2%) より5.1ポイント高くなっている。

性／年齢別でみると、大きな傾向の違いはみられない。

［職業別・住居形態別・地域別］



職業別でみると、大きな傾向の違いはみられない。

住居形態別でみると、「言葉だけは知っている」では〈持家(計)〉(14.2%)が〈持家以外(計)〉(7.6%)より6.6ポイント高くなっている。

地域別でみると、大きな傾向の違いはみられない。

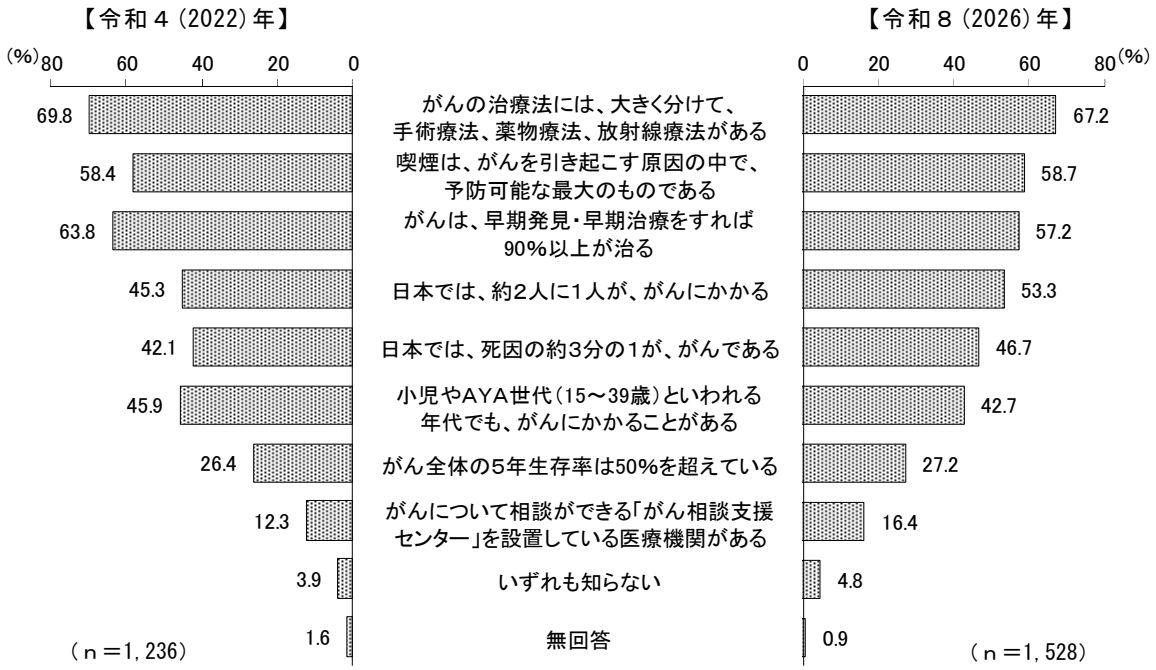
13　がん対策について

（１）がんについての認知度

問27　がんについてあなたが知っていることを、次の中からいくつでも選んでください。

［ｎ＝1,528］

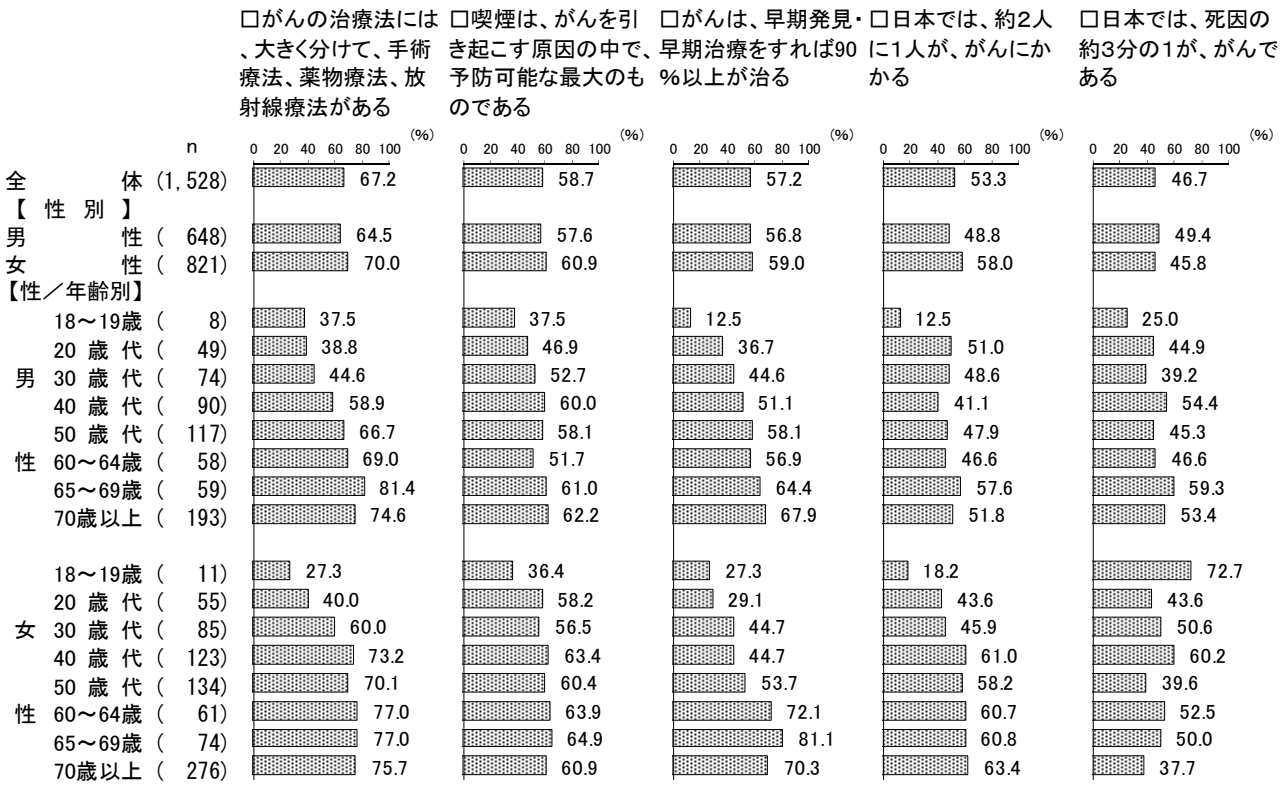
１	日本では、約２人に１人が、がんにかかる	53.3%
２	日本では、死因の約３分の１が、がんである	46.7
３	小児やＡＹＡ世代（15～39歳）といわれる年代でも、がんにかかることがある	42.7
４	がんの治療法には、大きく分けて、手術療法、薬物療法、放射線療法がある	67.2
５	がんは、早期発見・早期治療をすれば90%以上が治る	57.2
６	がん全体の５年生存率は50%を超えている	27.2
７	喫煙は、がんを引き起こす原因の中で、予防可能な最大のものである	58.7
８	がんについて相談ができる「がん相談支援センター」を設置している医療機関がある	16.4
９	いずれも知らない	4.8
	（無回答）	0.9

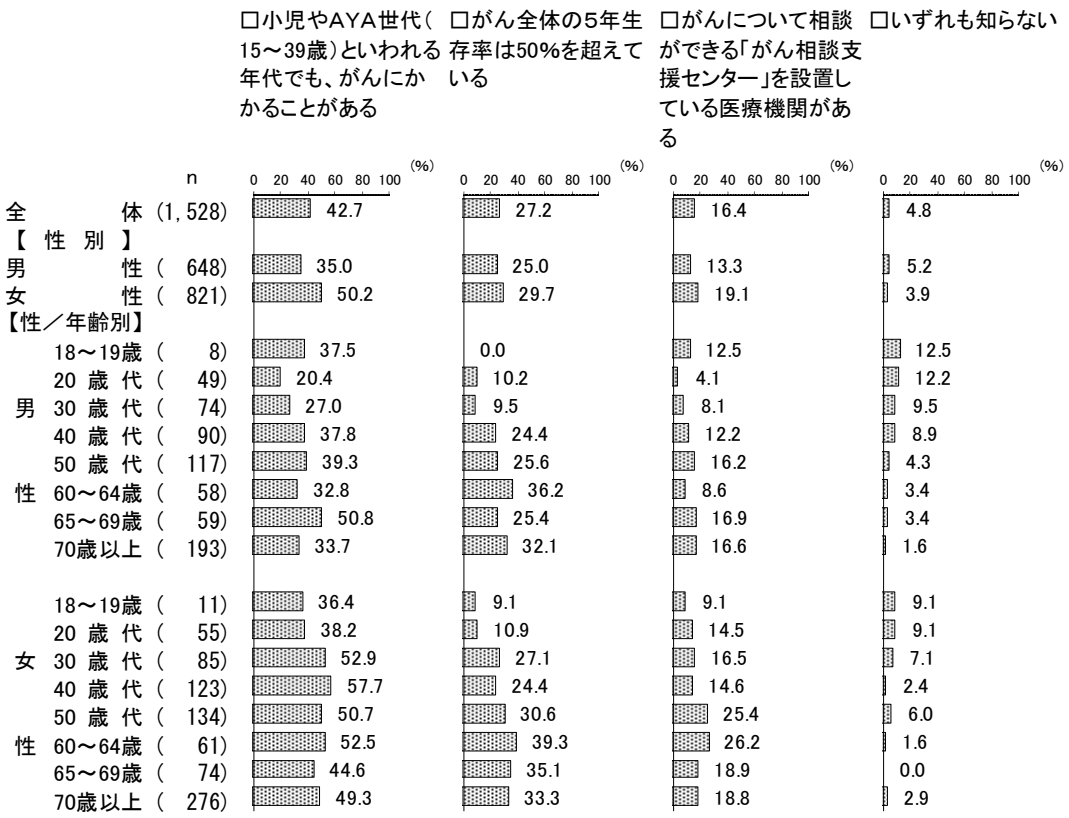


全体でみると、「がんの治療法には、大きく分けて、手術療法、薬物療法、放射線療法がある」（67.2%）が６割台半ばを超えて最も高く、次いで「喫煙は、がんを引き起こす原因の中で、予防可能な最大のものである」（58.7%）、「がんは、早期発見・早期治療をすれば90%以上が治る」（57.2%）、「日本では、約２人に１人が、がんにかかる」（53.3%）、「日本では、死因の約３分の１が、がんである」（46.7%）、「小児やＡＹＡ世代（15～39歳）といわれる年代でも、がんにかかることがある」（42.7%）となっている。

前回（令和４(2022)年）の調査結果と比較すると、「日本では、約２人に１人が、がんにかかる」が8.0ポイント、「日本では、死因の約３分の１が、がんである」が4.6ポイント、『がんについて相談ができる「がん相談支援センター」を設置している医療機関がある』が4.1ポイント増加している。一方、「がんは、早期発見・早期治療をすれば90%以上が治る」が6.6ポイント、「小児やＡＹＡ世代（15～39歳）といわれる年代でも、がんにかかることがある」が3.2ポイント減少している。

［性別・性／年齢別］

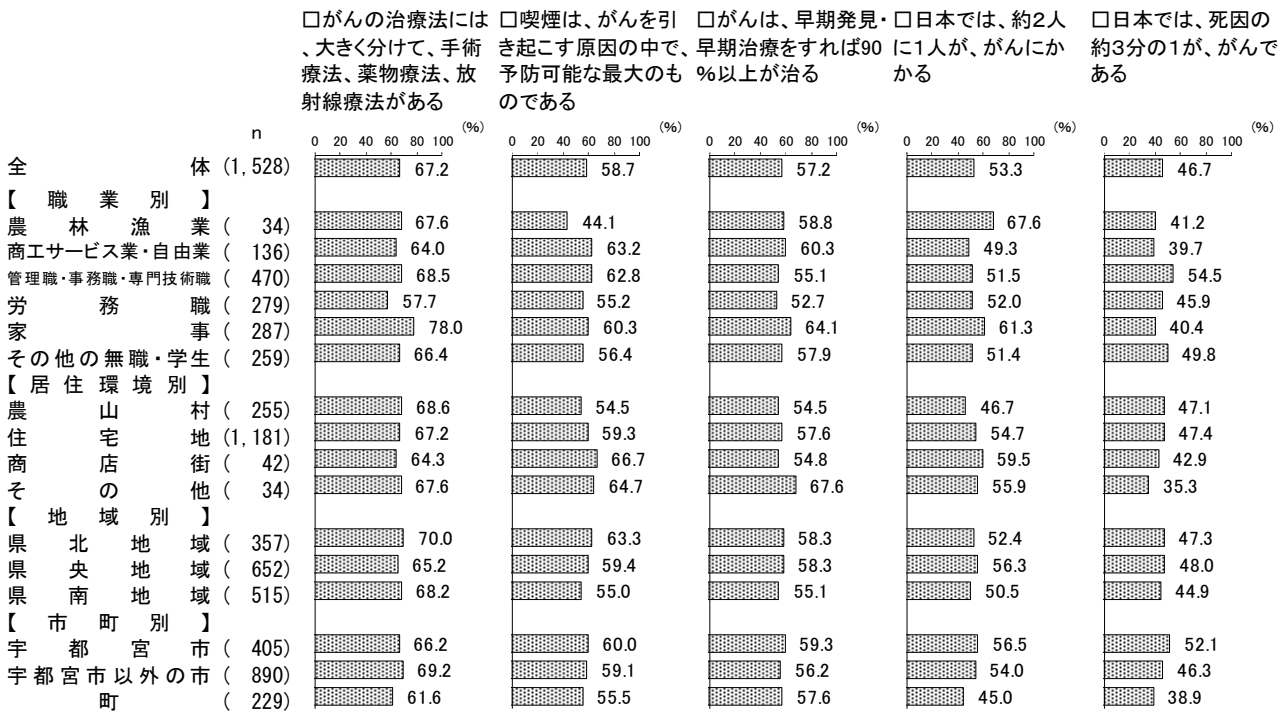

□がんの治療法には、大きく分けて、手術療法、薬物療法、放射線療法がある
□喫煙は、がんを引き起こす原因の中で、予防可能な最大のものである
□がんは、早期発見・早期治療をすれば90%以上が治る
□日本では、約2人に1人が、がんにかかる
□日本では、死因の約3分の1が、がんである
n
(%)
0 20 40 60 80 100
全体 (1,528) 67.2 58.7 57.2 53.3 46.7
【性別】
男性 (648) 64.5 57.6 56.8 48.8 49.4
女性 (821) 70.0 60.9 59.0 58.0 45.8
【性／年齢別】
男 18～19歳 (8) 37.5 37.5 12.5 12.5 25.0
男 20歳代 (49) 38.8 46.9 36.7 51.0 44.9
男 30歳代 (74) 44.6 52.7 44.6 48.6 39.2
男 40歳代 (90) 58.9 60.0 51.1 41.1 54.4
男 50歳代 (117) 66.7 58.1 58.1 47.9 45.3
男 60～64歳 (58) 69.0 51.7 56.9 46.6 46.6
男 65～69歳 (59) 81.4 61.0 64.4 57.6 59.3
男 70歳以上 (193) 74.6 62.2 67.9 51.8 53.4
女 18～19歳 (11) 27.3 36.4 27.3 18.2 72.7
女 20歳代 (55) 40.0 58.2 29.1 43.6 43.6
女 30歳代 (85) 60.0 56.5 44.7 45.9 50.6
女 40歳代 (123) 73.2 63.4 44.7 61.0 60.2
女 50歳代 (134) 70.1 60.4 53.7 58.2 39.6
女 60～64歳 (61) 77.0 63.9 72.1 60.7 52.5
女 65～69歳 (74) 77.0 64.9 81.1 60.8 50.0
女 70歳以上 (276) 75.7 60.9 70.3 63.4 37.7

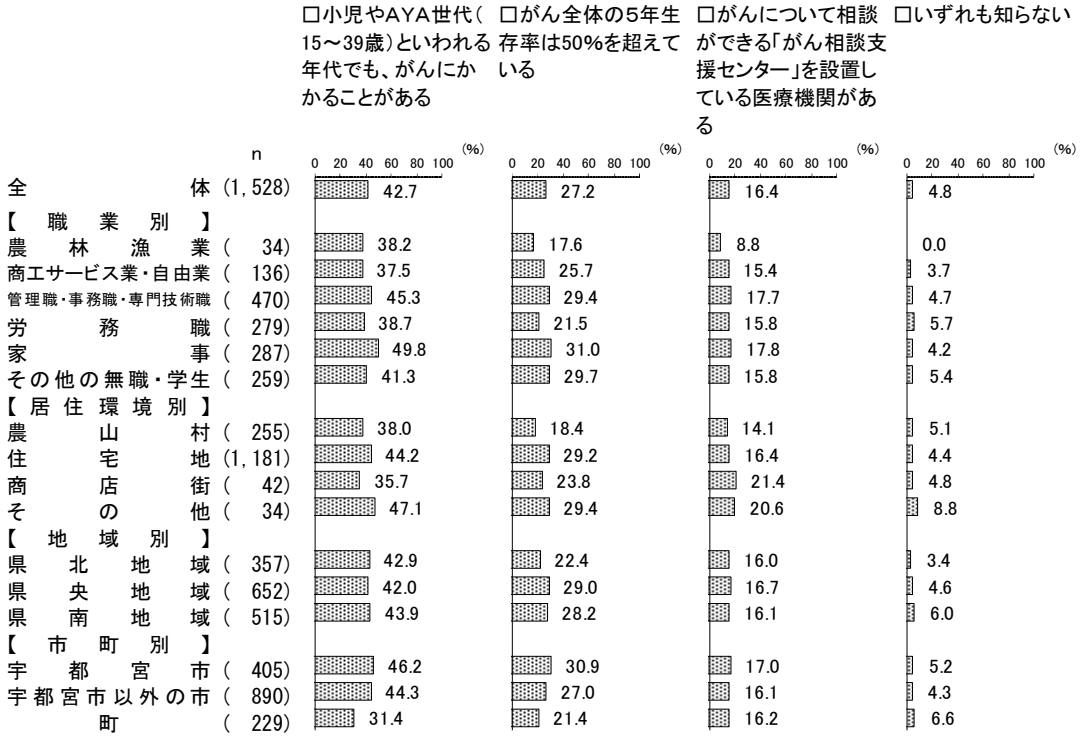

□小児やAYA世代（15～39歳）といわれる年代でも、がんにかかることがある
□がん全体の5年生存率は50%を超えている
□がんについて相談ができる「がん相談支援センター」を設置している医療機関がある
□いずれも知らない
n
(%)
0 20 40 60 80 100
全体 (1,528) 42.7 27.2 16.4 4.8
【性別】
男性 (648) 35.0 25.0 13.3 5.2
女性 (821) 50.2 29.7 19.1 3.9
【性／年齢別】
男 18～19歳 (8) 37.5 0.0 12.5 12.5
男 20歳代 (49) 20.4 10.2 4.1 12.2
男 30歳代 (74) 27.0 9.5 8.1 9.5
男 40歳代 (90) 37.8 24.4 12.2 8.9
男 50歳代 (117) 39.3 25.6 16.2 4.3
男 60～64歳 (58) 32.8 36.2 8.6 3.4
男 65～69歳 (59) 50.8 25.4 16.9 3.4
男 70歳以上 (193) 33.7 32.1 16.6 1.6
女 18～19歳 (11) 36.4 9.1 9.1 9.1
女 20歳代 (55) 38.2 10.9 14.5 9.1
女 30歳代 (85) 52.9 27.1 16.5 7.1
女 40歳代 (123) 57.7 24.4 14.6 2.4
女 50歳代 (134) 50.7 30.6 25.4 6.0
女 60～64歳 (61) 52.5 39.3 26.2 1.6
女 65～69歳 (74) 44.6 35.1 18.9 0.0
女 70歳以上 (276) 49.3 33.3 18.8 2.9

性別でみると、「小児やＡＹＡ世代（15～39歳）といわれる年代でも、がんにかかることがある」では〈女性〉（50.2％）が〈男性〉（35.0％）より15.2ポイント、「日本では、約２人に１人が、がんにかかる」では〈女性〉（58.0％）が〈男性〉（48.8％）より9.2ポイント、『がんについて相談ができる「がん相談支援センター」を設置している医療機関がある』では〈女性〉（19.1％）が〈男性〉（13.3％）より5.8ポイント、「がんの治療法には、大きく分けて、手術療法、薬物療法、放射線療法がある」では〈女性〉（70.0％）が〈男性〉（64.5％）より5.5ポイント高くなっている。

性／年齢別でみると、「がんの治療法には、大きく分けて、手術療法、薬物療法、放射線療法がある」では〈男性65～69歳〉が81.4％と高くなっている。「喫煙は、がんを引き起こす原因の中で、予防可能な最大のものである」では〈男性20歳代〉が46.9％と低くなっている。「がんは、早期発見・早期治療をすれば90％以上が治る」では〈女性65～69歳〉が81.1％、〈女性60～64歳〉が72.1％、〈女性70歳以上〉が70.3％、〈男性70歳以上〉が67.9％と高くなっている。「日本では、約２人に１人が、がんにかかる」では〈女性70歳以上〉が63.4％と高くなっている。「日本では、死因の約３分の１が、がんである」では〈女性40歳代〉が60.2％、〈男性65～69歳〉が59.3％と高くなっている。「小児やＡＹＡ世代（15～39歳）といわれる年代でも、がんにかかることがある」では〈女性40歳代〉が57.7％、〈女性30歳代〉が52.9％と高くなっている。「がん全体の５年生存率は50％を超えている」では〈女性60～64歳〉が39.3％と高くなっている。『がんについて相談ができる「がん相談支援センター」を設置している医療機関がある』では〈男性20歳代〉が4.1％と低くなっている。

［職業別・居住環境別・地域別・市町別］





職業別でみると、「がんの治療法には、大きく分けて、手術療法、薬物療法、放射線療法がある」では〈家事〉が78.0%と高くなっている。「喫煙は、がんを引き起こす原因の中で、予防可能な最大のものである」では〈農林漁業〉が44.1%と低くなっている。「日本では、約２人に１人が、がんにかかる」では〈農林漁業〉が67.6%と高くなっている。

居住環境別でみると、大きな傾向の違いはみられない。

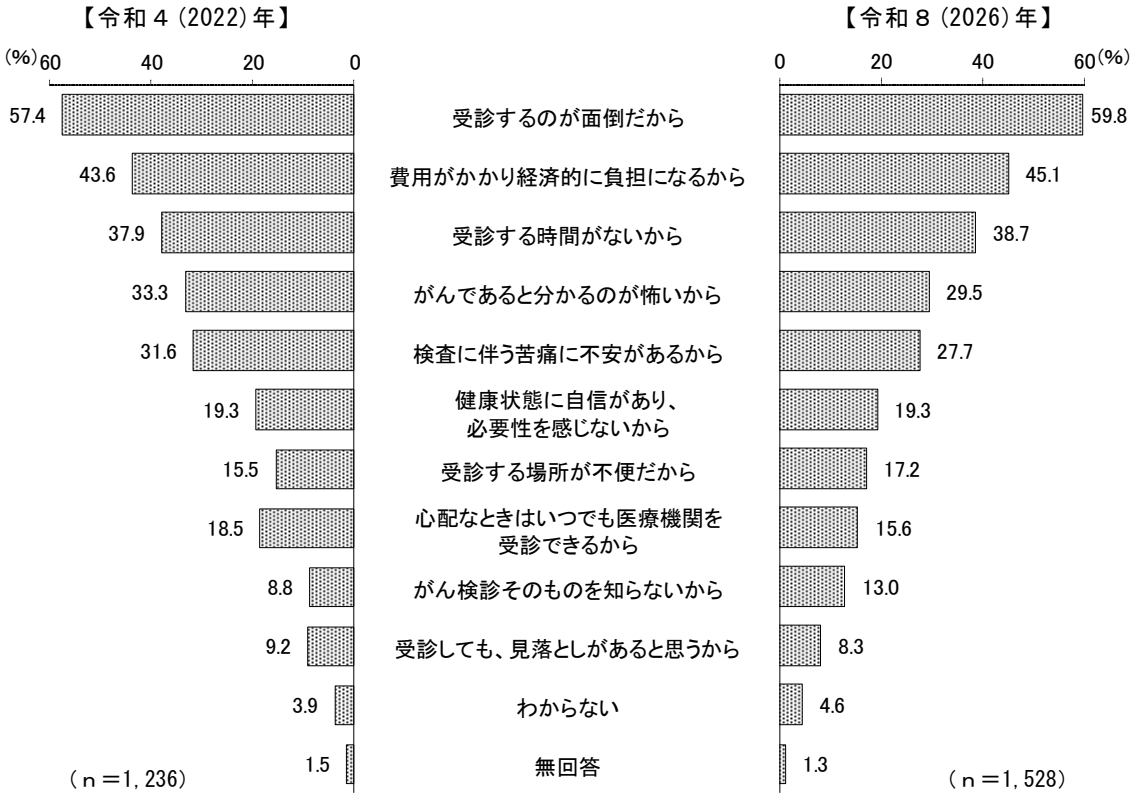
地域別でみると、大きな傾向の違いはみられない。

市町別でみると、「小児やＡＹＡ世代（15～39歳）といわれる年代でも、がんにかかることがある」では〈町〉が31.4%と低くなっている。

（２）がん検診を受診しない理由

問28　がん検診の受診率は40～50%程度となっていますが、県が掲げる受診率目標の60%と比較すると依然として低い状況です。あなたは、多くの方ががん検診を受けないのはなぜだと思いますか。次の中からいくつでも選んでください。　［ｎ＝1,528］

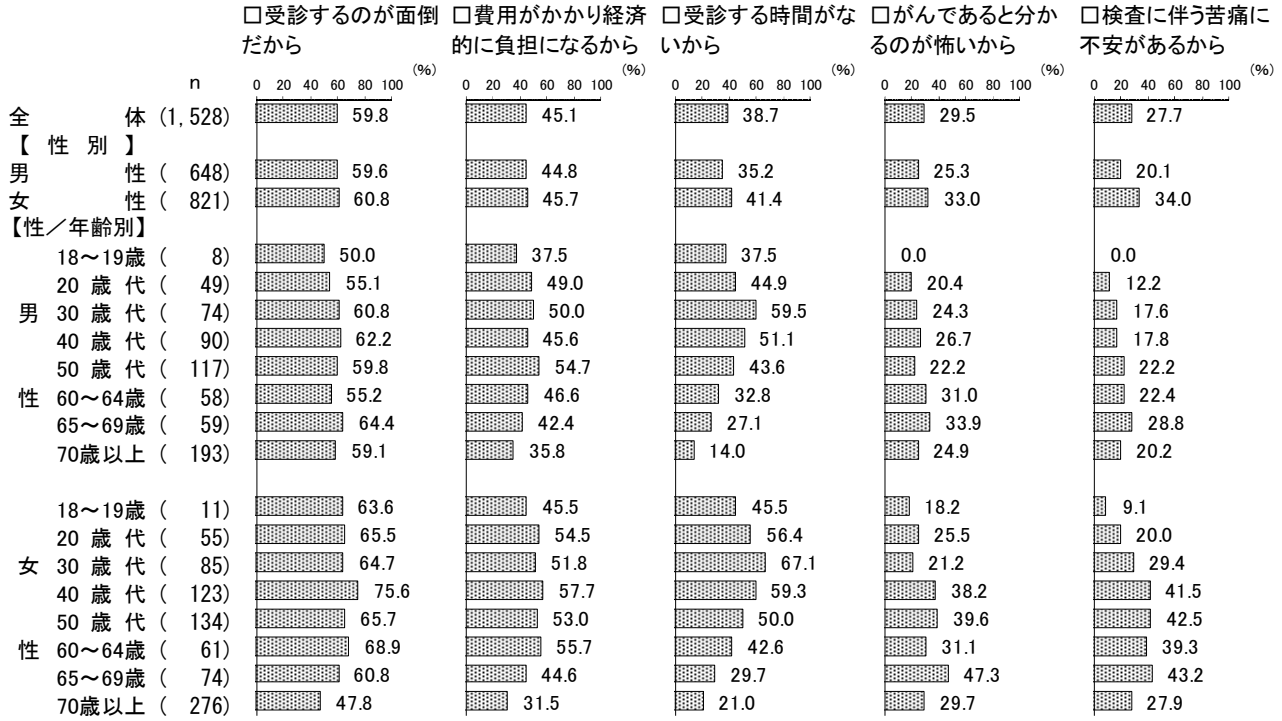
1	がん検診そのものを知らないから	13.0%
2	受診するのが面倒だから	59.8
3	受診する時間がないから	38.7
4	受診する場所が不便だから	17.2
5	費用がかかり経済的に負担になるから	45.1
6	健康状態に自信があり、必要性を感じないから	19.3
7	検査に伴う苦痛に不安があるから	27.7
8	心配なときはいつでも医療機関を受診できるから	15.6
9	がんであると分かるのが怖いから	29.5
10	受診しても、見落としがあると思うから	8.3
11	わからない	4.6
	(無回答)	1.3

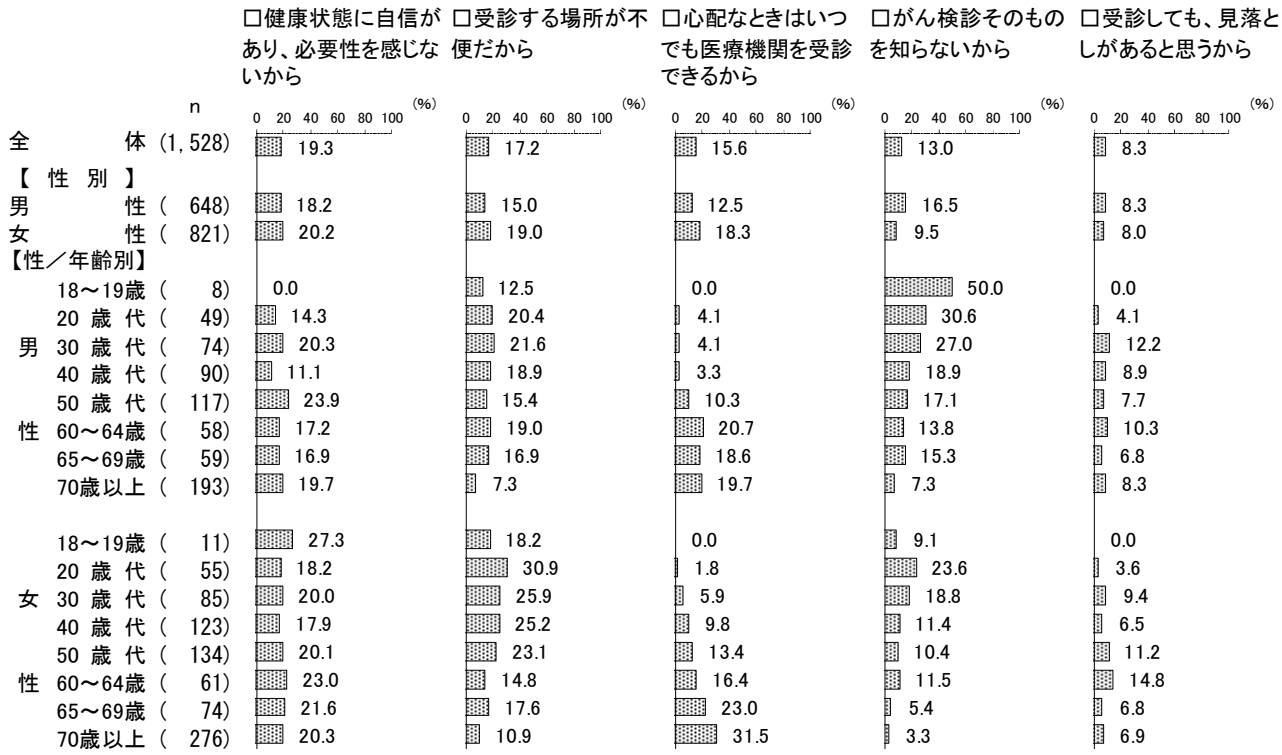


全体でみると、「受診するのが面倒だから」（59.8%）が６割弱で最も高く、次いで「費用がかかり経済的に負担になるから」（45.1%）、「受診する時間がないから」（38.7%）、「がんであると分かるのが怖いから」（29.5%）、「検査に伴う苦痛に不安があるから」（27.7%）となっている。

前回（令和４(2022)年）の調査結果と比較すると、「がん検診そのものを知らないから」が4.2ポイント増加している。一方、「検査に伴う苦痛に不安があるから」が3.9ポイント、「がんであると分かるのが怖いから」が3.8ポイント減少している。

［性別・性／年齢別］（上位10項目）

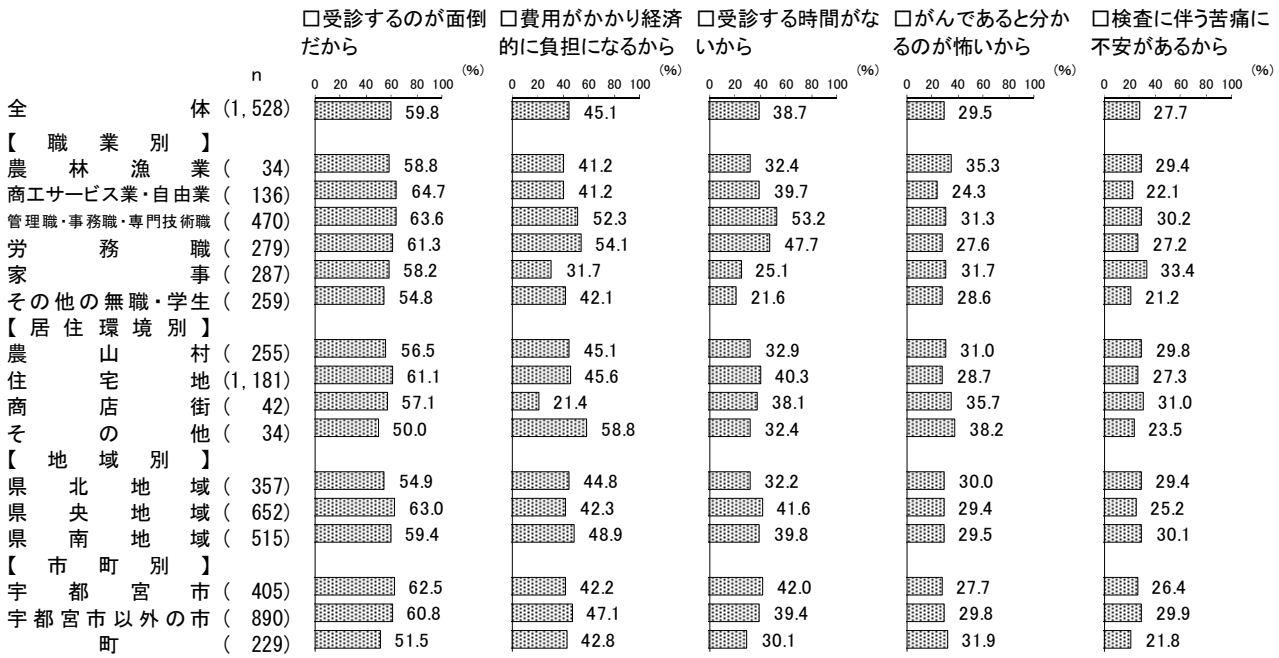


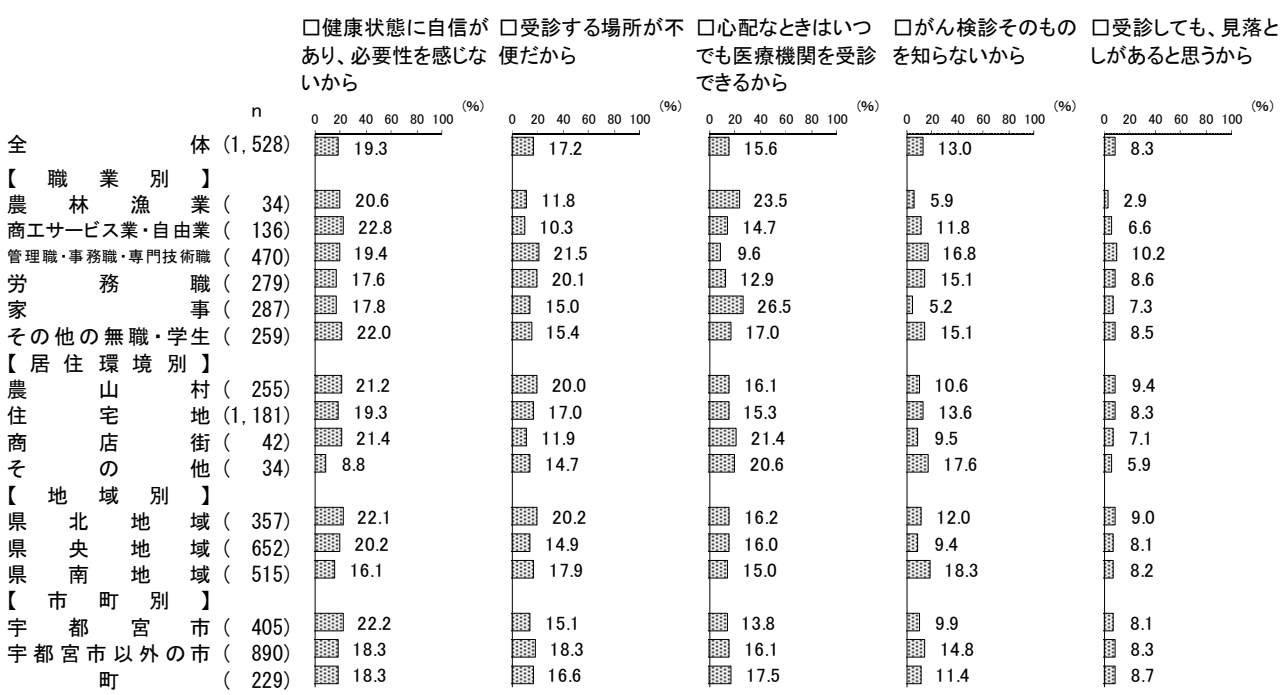


上位10項目について、性別でみると、「検査に伴う苦痛に不安があるから」では〈女性〉（34.0％）が〈男性〉（20.1％）より13.9ポイント、「がんであると分かるのが怖いから」では〈女性〉（33.0％）が〈男性〉（25.3％）より7.7ポイント、「受診する時間がないから」では〈女性〉（41.4％）が〈男性〉（35.2％）より6.2ポイント、「心配なときはいつでも医療機関を受診できるから」では〈女性〉（18.3％）が〈男性〉（12.5％）より5.8ポイント高くなっている。一方、「がん検診そのものを知らないから」では〈男性〉（16.5％）が〈女性〉（9.5％）より7.0ポイント高くなっている。

性／年齢別でみると、「受診するのが面倒だから」では〈女性40歳代〉が75.6％と高くなっている。「費用がかかり経済的に負担になるから」では〈女性40歳代〉が57.7％、〈女性60～64歳〉が55.7％と高くなっている。「受診する時間がないから」では〈女性30歳代〉が67.1％、〈男性30歳代〉が59.5％、〈女性40歳代〉が59.3％、〈女性20歳代〉が56.4％、〈男性40歳代〉が51.1％、〈女性50歳代〉が50.0％と高くなっている。「がんであると分かるのが怖いから」では〈女性65～69歳〉が47.3％、〈女性50歳代〉が39.6％と高くなっている。「検査に伴う苦痛に不安があるから」では〈女性65～69歳〉が43.2％、〈女性50歳代〉が42.5％、〈女性40歳代〉が41.5％、〈女性60～64歳〉が39.3％と高くなっている。「受診する場所が不便だから」では〈女性20歳代〉が30.9％と高くなっている。「心配なときはいつでも医療機関を受診できるから」では〈女性70歳以上〉が31.5％と高くなっている。「がん検診そのものを知らないから」では〈男性20歳代〉が30.6％、〈男性30歳代〉が27.0％、〈女性20歳代〉が23.6％と高くなっている。

［職業別・居住環境別・地域別・市町別］（上位10項目）





上位10項目について、職業別でみると、「費用がかかり経済的に負担になるから」では〈家事〉が31.7%と低くなっている。「受診する時間がないから」では〈管理職・事務職・専門技術職〉が53.2%と高くなっている。「心配なときはいつでも医療機関を受診できるから」では〈家事〉が26.5%と高くなっている。

居住環境別でみると、「費用がかかり経済的に負担になるから」では〈商店街〉が21.4%と低くなっている。

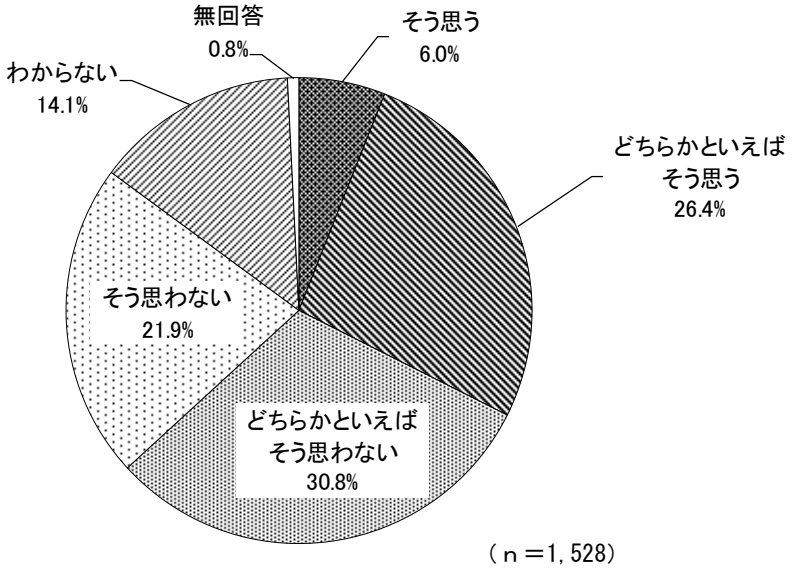
地域別でみると、大きな傾向の違いはみられない。

市町別でみると、大きな傾向の違いはみられない。

（３）がん治療と仕事の両立

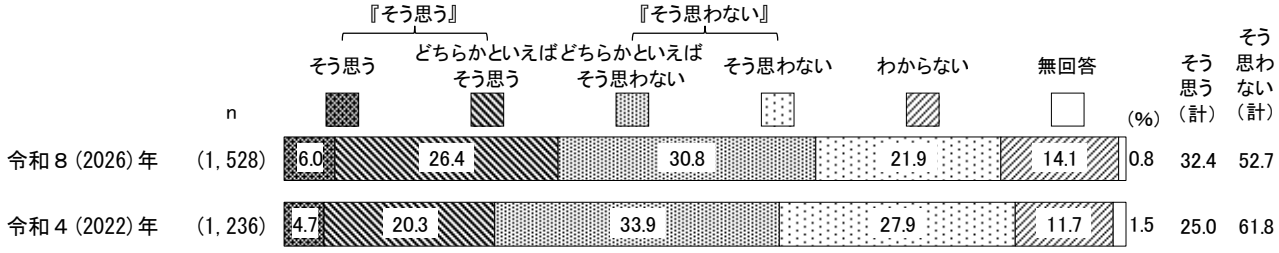
問29　現在の日本の社会では、がんの治療や検査のために通院しながら働き続けられる環境だと思いますか。次の中から１つ選んでください。　［ｎ＝1,528］

１	そう思う	6.0％	４	そう思わない	21.9％
２	どちらかといえばそう思う	26.4	５	わからない	14.1
３	どちらかといえばそう思わない	30.8		（無回答）	0.8



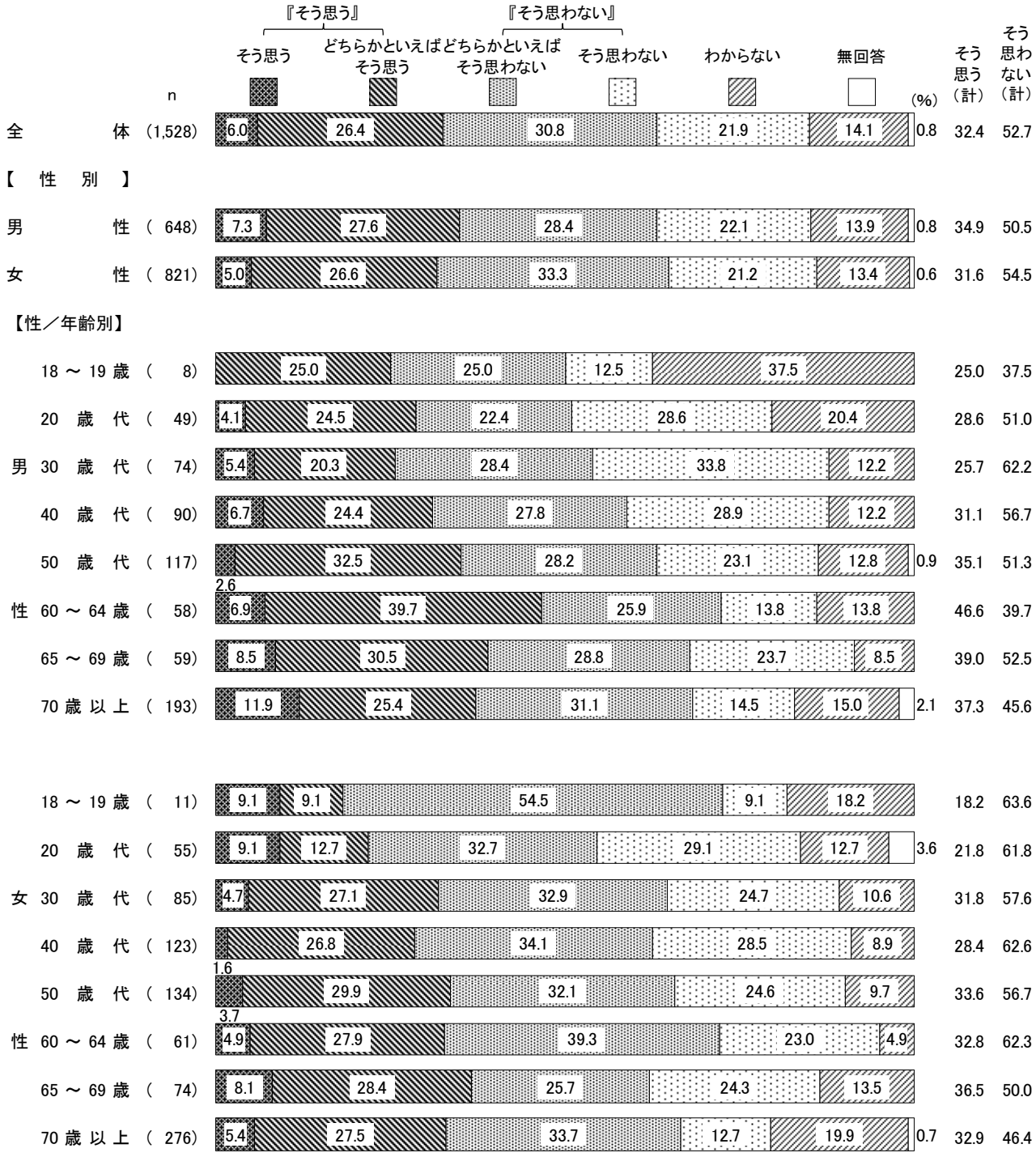
全体でみると、「そう思う」（6.0％）と「どちらかといえばそう思う」（26.4％）の２つを合わせた『そう思う』（32.4％）が３割強となっている。一方、「どちらかといえばそう思わない」（30.8％）と「そう思わない」（21.9％）の２つを合わせた『そう思わない』（52.7％）が５割強となっている。

［過去の調査結果］



前回（令和４(2022)年）の調査結果と比較すると、『そう思う』が7.4ポイント増加している。

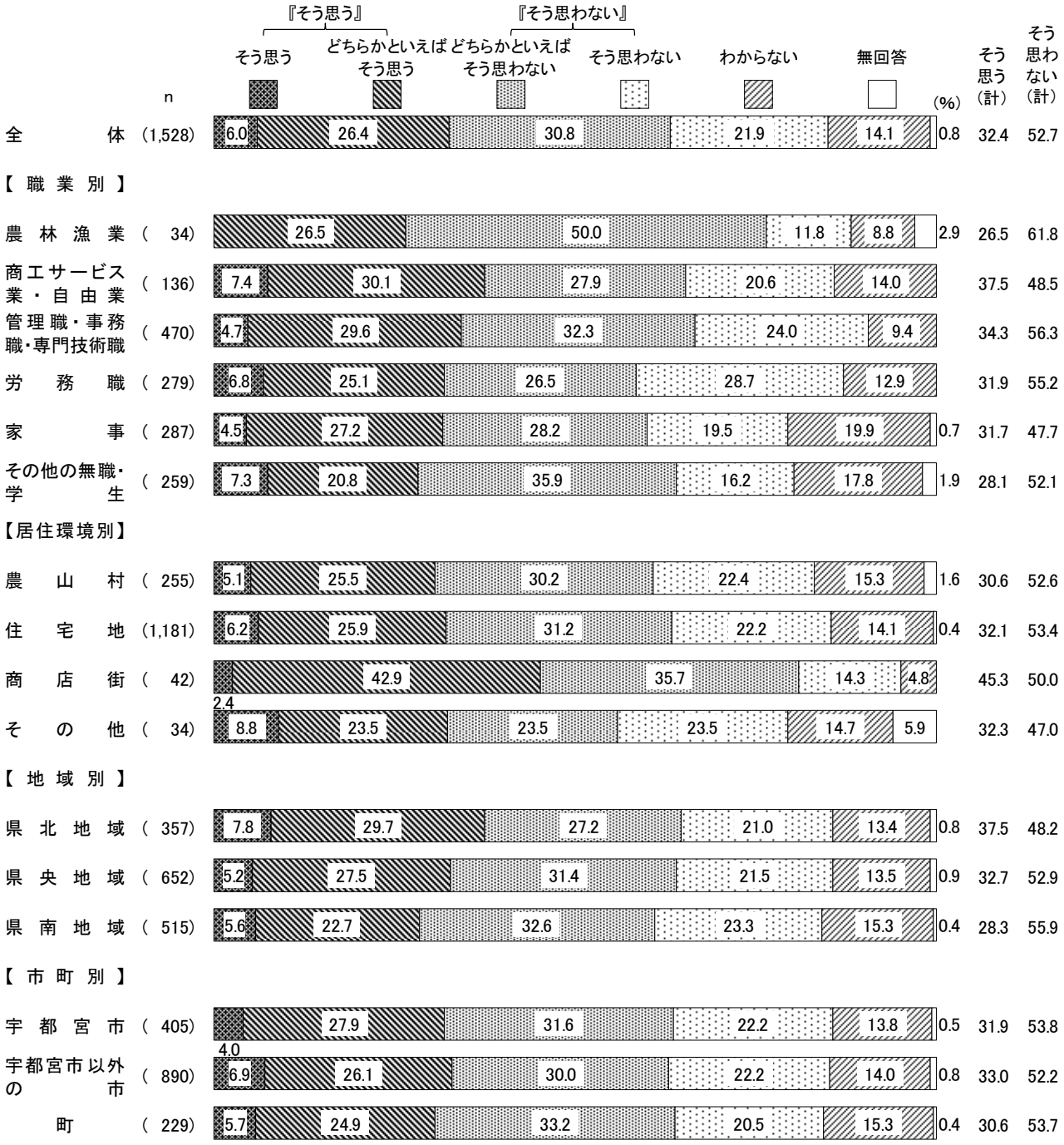
［性別・性／年齢別］



性別でみると、大きな傾向の違いはみられない。

性／年齢別でみると、『そう思う』では〈男性60～64歳〉が46.6％と高くなっている。

［職業別・居住環境別・地域別・市町別］



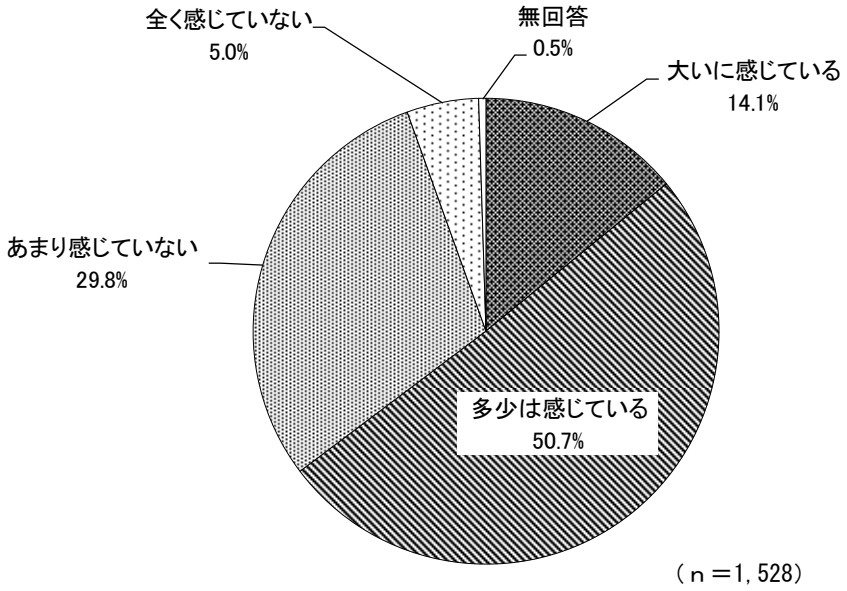
職業別でみると、「どちらかといえばそう思わない」では〈農林漁業〉が50.0％と高くなっている。
居住環境別でみると、『そう思う』では〈商店街〉が45.3％と高くなっている。
地域別でみると、大きな傾向の違いはみられない。
市町別でみると、大きな傾向の違いはみられない。

14　食の安全・安心について

（１）食品の安全性に対する不安感

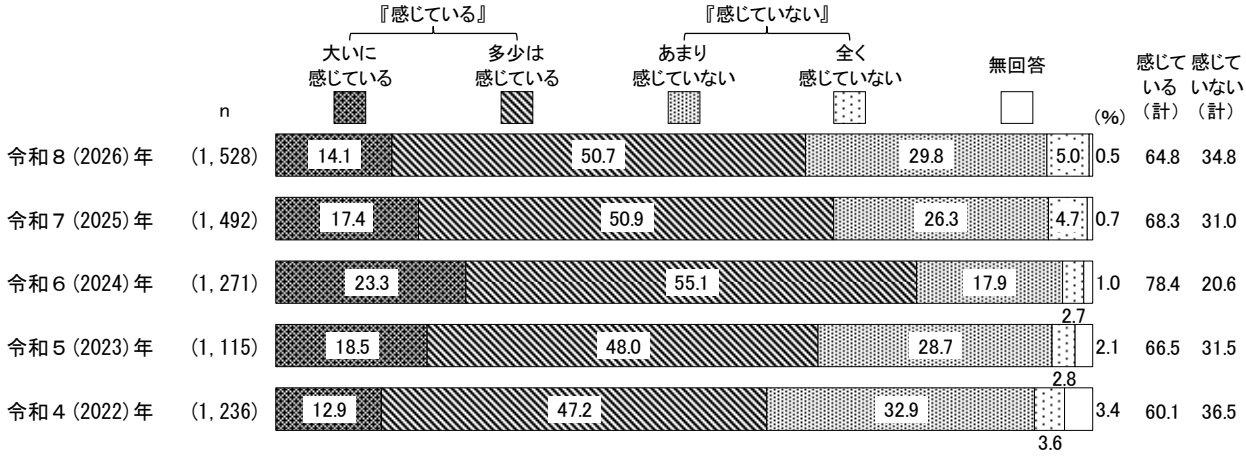
問30　あなたは、食品の安全性について、不安を感じていますか。次の中から１つ選んでください。　［ｎ＝1,528］

１	大いに感じている	14.1%	３	あまり感じていない	29.8%
２	多少は感じている	50.7	４	全く感じていない	5.0
				（無回答）	0.5



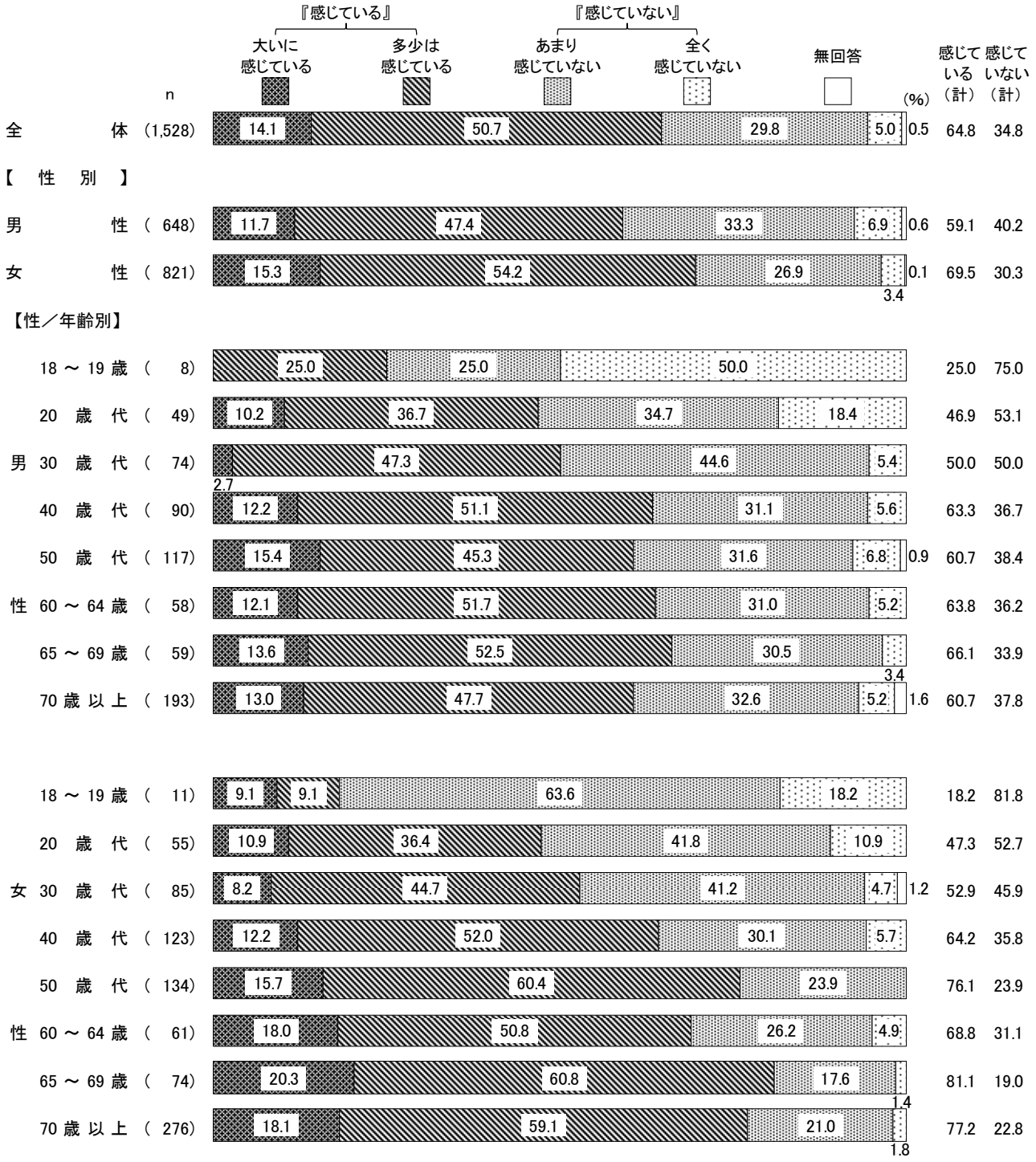
全体でみると、「大いに感じている」（14.1%）と「多少は感じている」（50.7%）の２つを合わせた『感じている』（64.8%）が６割台半ば近くとなっている。一方、「あまり感じていない」（29.8%）と「全く感じていない」（5.0%）の２つを合わせた『感じていない』（34.8%）が３割台半ば近くとなっている。

［過去の調査結果］



前回（令和７(2025)年）の調査結果と比較すると、『感じている』が3.5ポイント減少し、『感じていない』が3.8ポイント増加している。

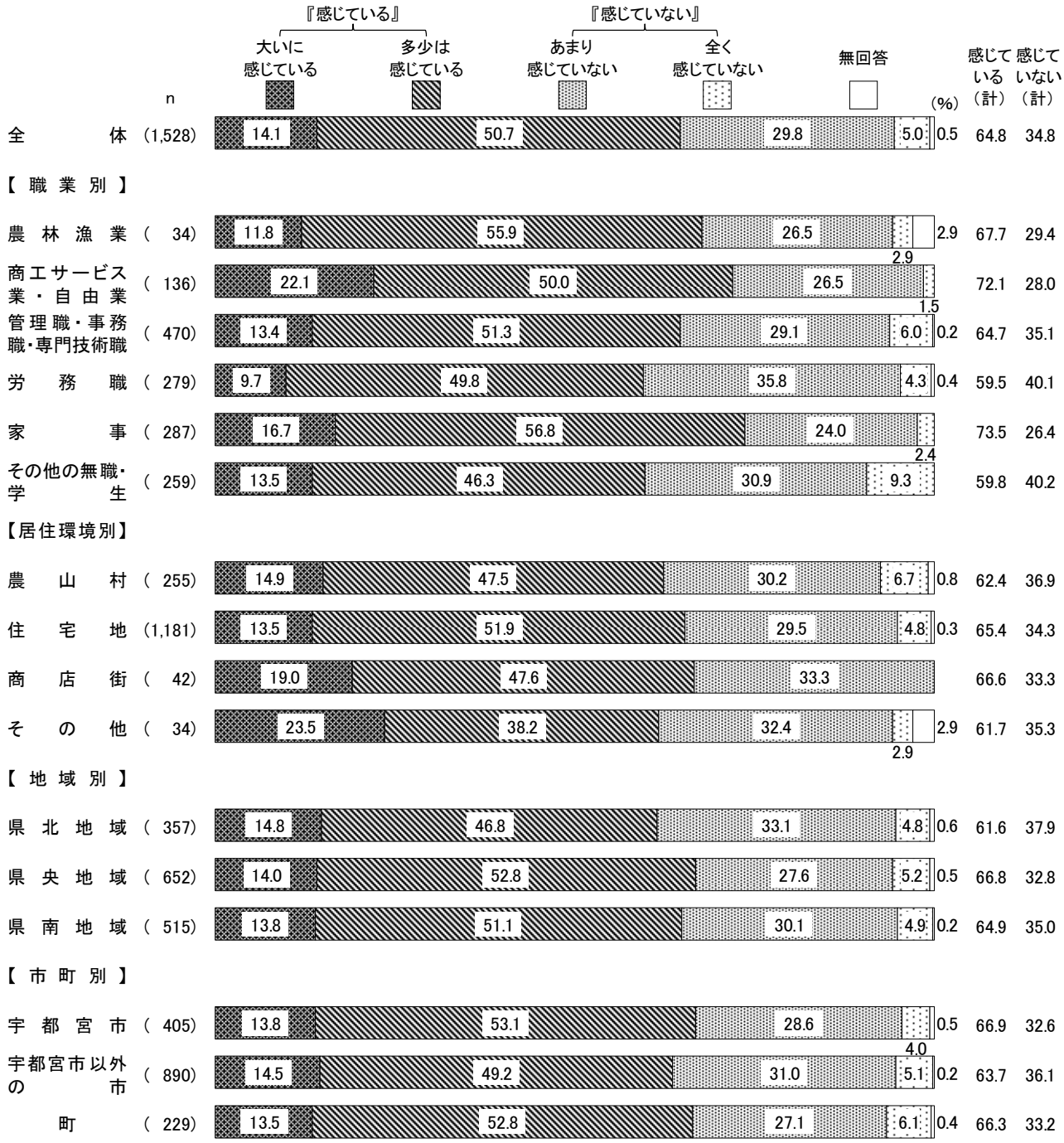
［性別・性／年齢別］



性別でみると、『感じている』では〈女性〉（69.5%）が〈男性〉（59.1%）より10.4ポイント高くなっている。

性／年齢別でみると、『感じている』では〈女性65～69歳〉が81.1%、〈女性70歳以上〉が77.2%、〈女性50歳代〉が76.1%と高くなっている。『感じていない』では〈男性20歳代〉が53.1%、〈女性20歳代〉が52.7%、〈男性30歳代〉が50.0%、〈女性30歳代〉が45.9%と高くなっている。

［職業別・居住環境別・地域別・市町別］



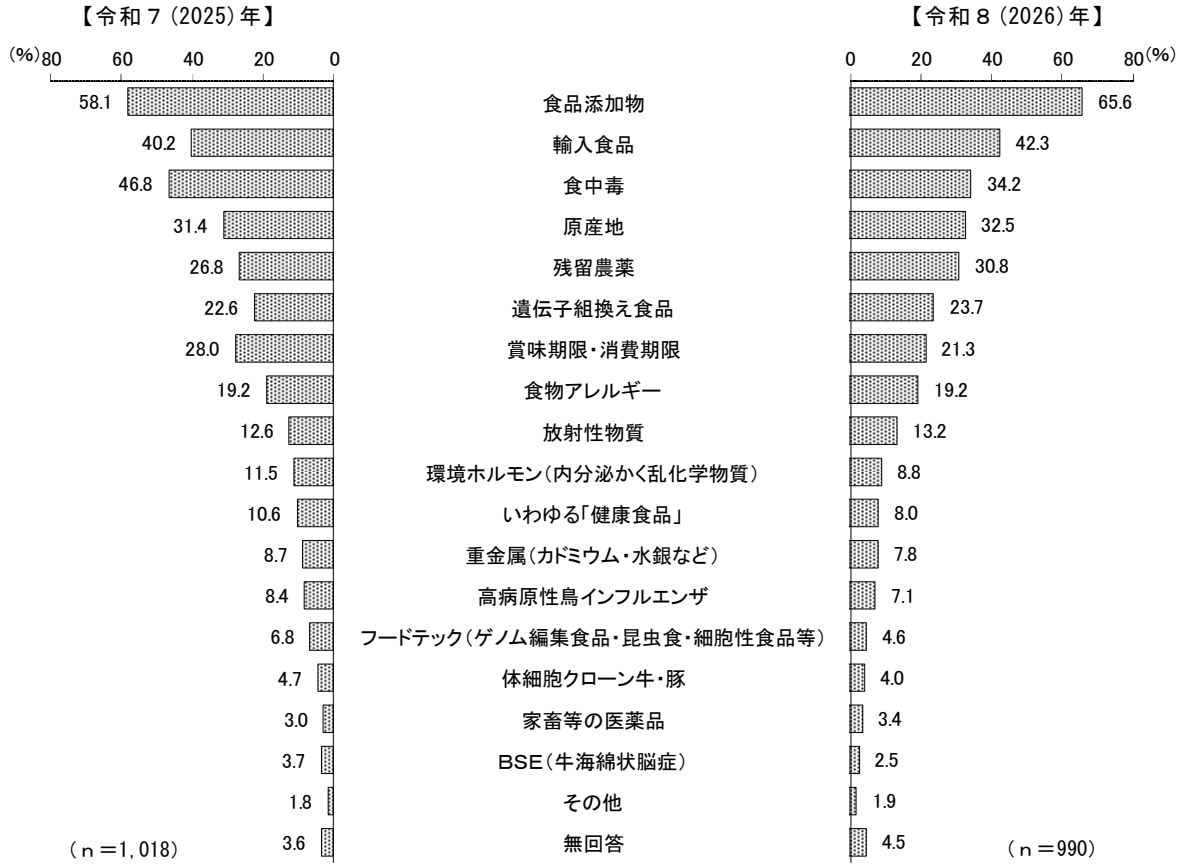
職業別でみると、大きな傾向の違いはみられない。
居住環境別でみると、大きな傾向の違いはみられない。
地域別でみると、大きな傾向の違いはみられない。
市町別でみると、大きな傾向の違いはみられない。

（２）食品の安全性について不安に思うもの

（問30で選択肢「１　大いに感じている」、「２　多少は感じている」を選んだ方のみお答えください）

問31　あなたは、食品の安全性のどのような部分について不安を感じていますか。次の中から４つまで選んでください。　［ｎ＝990］

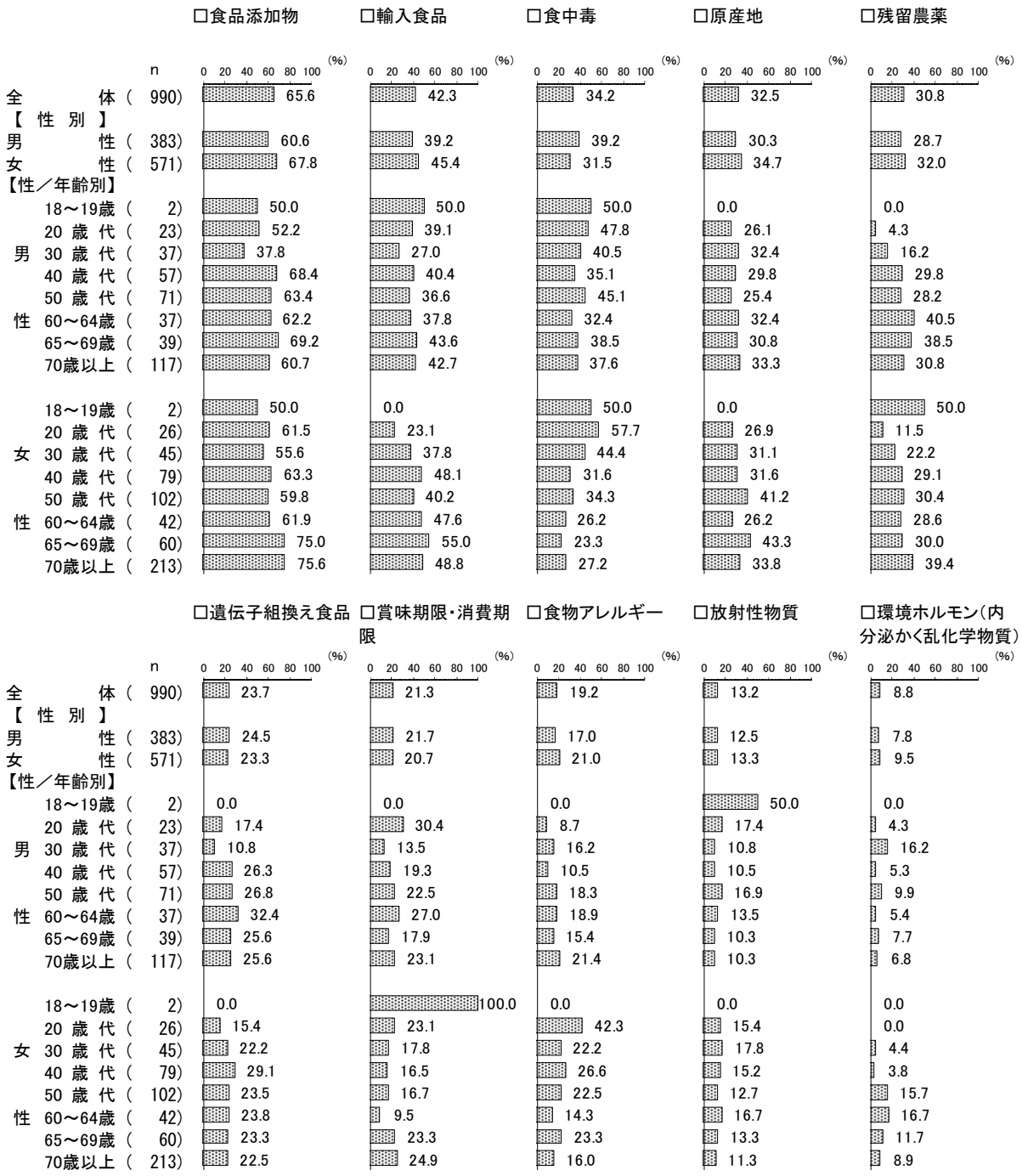
1	食中毒	34.2%	11	輸入食品	42.3%
2	食品添加物	65.6	12	ＢＳＥ（牛海綿状脳症）	2.5
3	いわゆる「健康食品」	8.0	13	高病原性鳥インフルエンザ	7.1
4	放射性物質	13.2	14	体細胞クローン牛・豚	4.0
5	重金属（カドミウム・水銀など）	7.8	15	家畜等の医薬品	3.4
6	残留農薬	30.8	16	環境ホルモン(内分泌かく乱化学物質)	8.8
7	食物アレルギー	19.2	17	フードテック（ゲノム編集食品・昆虫食・細胞性食品等）	4.6
8	賞味期限・消費期限	21.3			
9	原産地	32.5	18	その他	1.9
10	遺伝子組換え食品	23.7		（無回答）	4.5



全体でみると、「食品添加物」（65.6%）が６割台半ばで最も高くなっている。次いで「輸入食品」（42.3%）、「食中毒」（34.2%）、「原産地」（32.5%）、「残留農薬」（30.8%）となっている。

前回（令和７(2025)年）の調査結果と比較すると、「食中毒」が12.6ポイント、「賞味期限・消費期限」が6.7ポイント減少している。一方、「食品添加物」が7.5ポイント、「残留農薬」が4.0ポイント増加している。

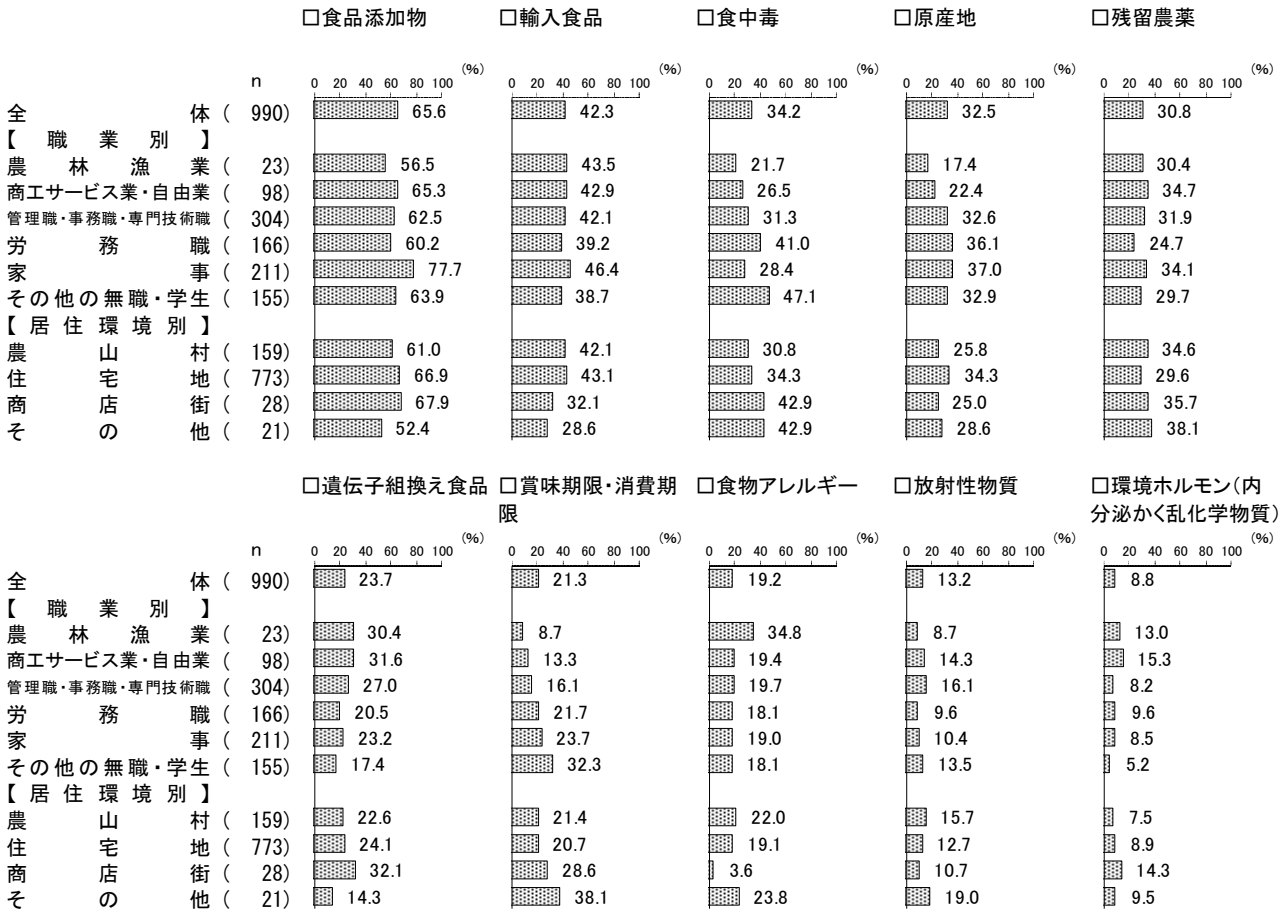
［性別・性／年齢別］（上位10項目）



上位10項目について、性別でみると、「食中毒」では〈男性〉（39.2%）が〈女性〉（31.5%）より7.7ポイント高くなっている。一方、「食品添加物」では〈女性〉（67.8%）が〈男性〉（60.6%）より7.2ポイント、「輸入食品」では〈女性〉（45.4%）が〈男性〉（39.2%）より6.2ポイント高くなっている。

性／年齢別でみると、「食品添加物」では〈女性70歳以上〉が75.6%と高くなっている。「輸入食品」では〈女性65～69歳〉が55.0%と高くなっている。「食中毒」では〈女性20歳代〉が57.7%、〈男性20歳代〉が47.8%、〈男性50歳代〉が45.1%、〈女性30歳代〉が44.4%と高くなっている。「原産地」では〈女性65～69歳〉が43.3%と高くなっている。「残留農薬」では〈男性20歳代〉が4.3%、〈女性20歳代〉が11.5%、〈男性30歳代〉が16.2%と低くなっている。「遺伝子組換え食品」では〈男性30歳代〉が10.8%と低くなっている。「賞味期限・消費期限」では〈女性60～64歳〉が9.5%と低くなっている。「食物アレルギー」では〈女性20歳代〉が42.3%と高くなっている。

［職業別・居住環境別］（上位10項目）



上位10項目について、職業別でみると、「食品添加物」では〈家事〉が77.7％と高くなっている。「食中毒」では〈その他の無職・学生〉が47.1％と高くなっている。「原産地」では〈農林漁業〉が17.4％、〈商工サービス業・自由業〉が22.4％と低くなっている。「賞味期限・消費期限」では〈その他の無職・学生〉が32.3％と高くなっている。「食物アレルギー」では〈農林漁業〉が34.8％と高くなっている。

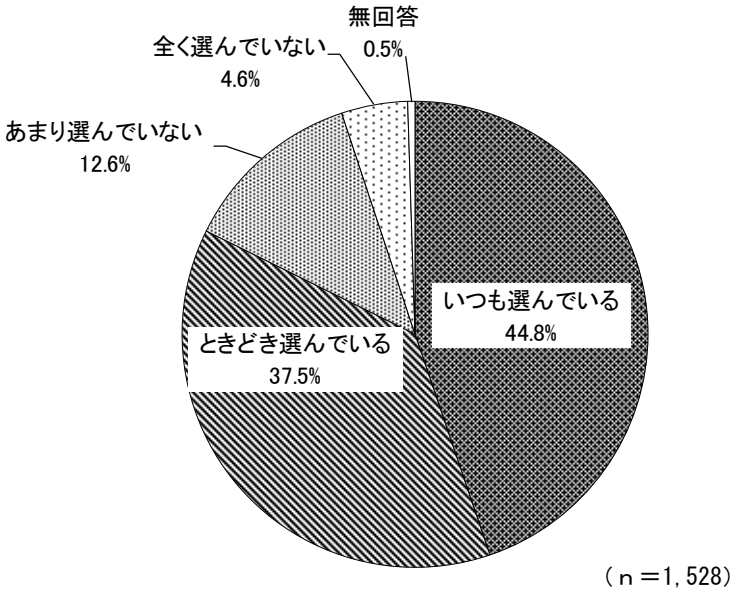
居住環境別でみると、〈商店街〉では「輸入食品」が32.1％、「食物アレルギー」が3.6％と低くなっている。

15　食に関する意識と実践について

（１）産地や生産者を意識した食品等を選ぶか

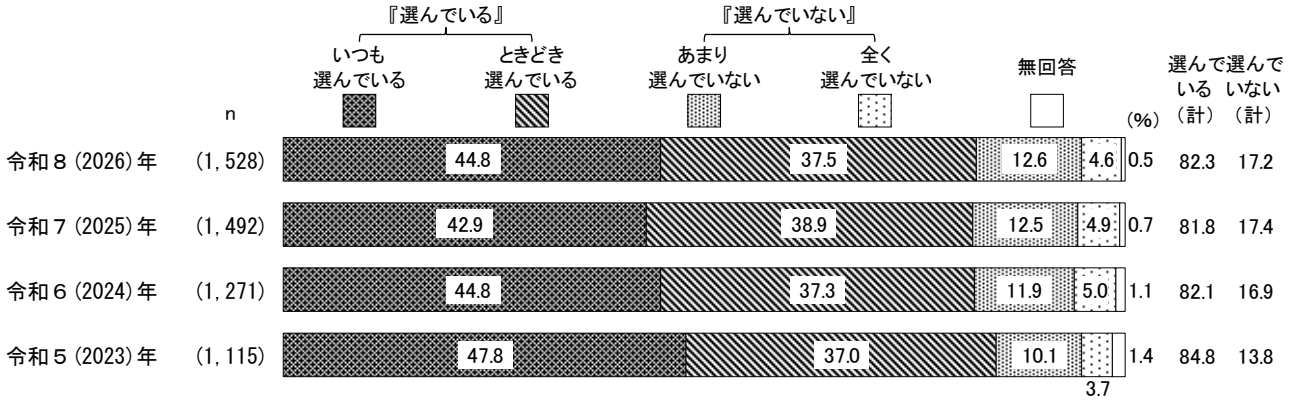
問32　あなたは、お米や野菜、果物などの生鮮食品を購入する際、国産や県産など産地を意識して選んでいますか。次の中から１つ選んでください。　［ｎ＝1,528］

１	いつも選んでいる	44.8%	３	あまり選んでいない	12.6%
２	ときどき選んでいる	37.5	４	全く選んでいない	4.6
				（無回答）	0.5



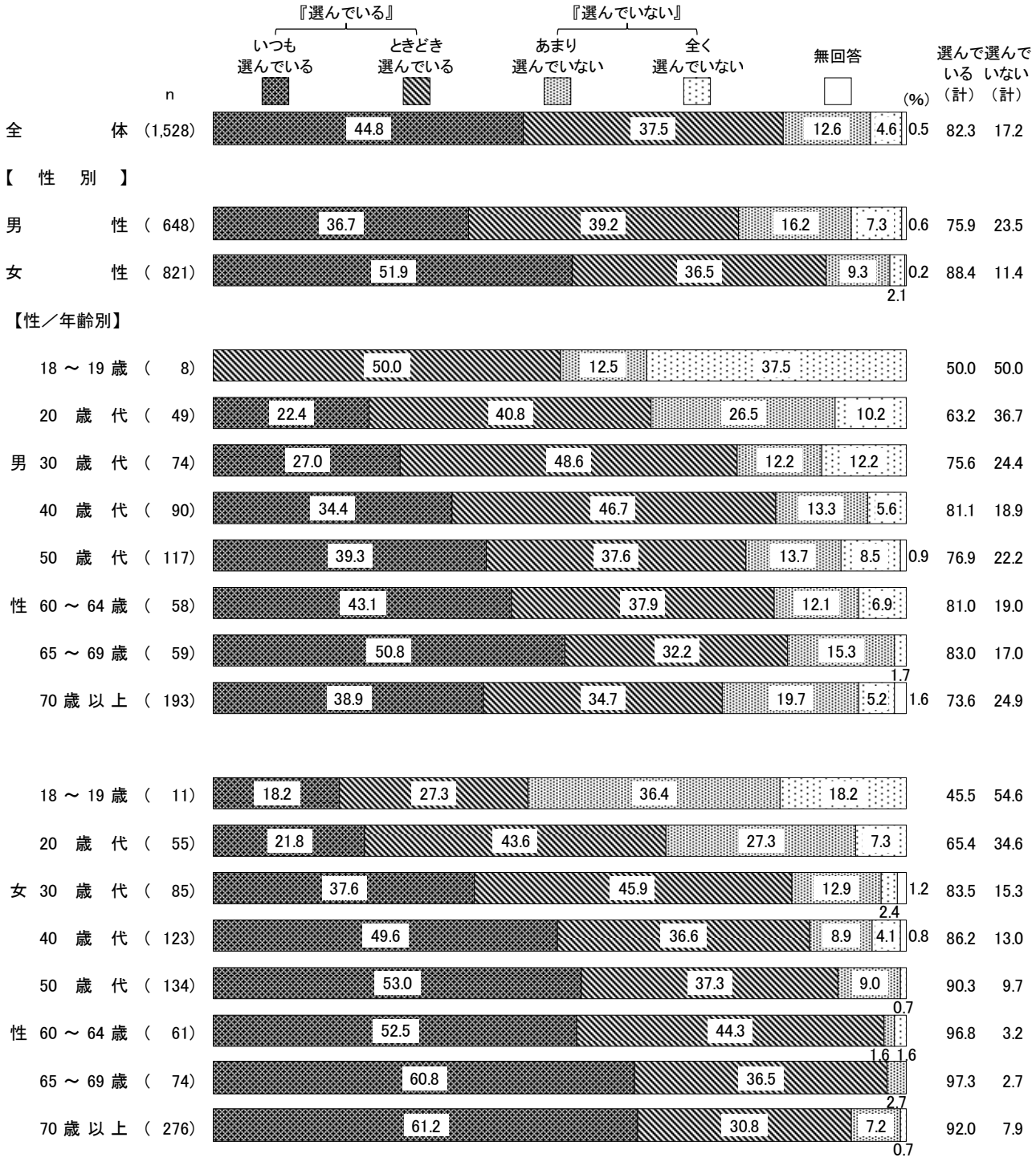
全体でみると、「いつも選んでいる」（44.8%）と「ときどき選んでいる」（37.5%）の２つを合わせた『選んでいる』（82.3%）が８割強となっている。一方、「あまり選んでいない」（12.6%）と「全く選んでいない」（4.6%）の２つを合わせた『選んでいない』（17.2%）が１割台半ばを超えている。

［過去の調査結果］



過去の調査結果と比較すると、大きな傾向の違いはみられない。

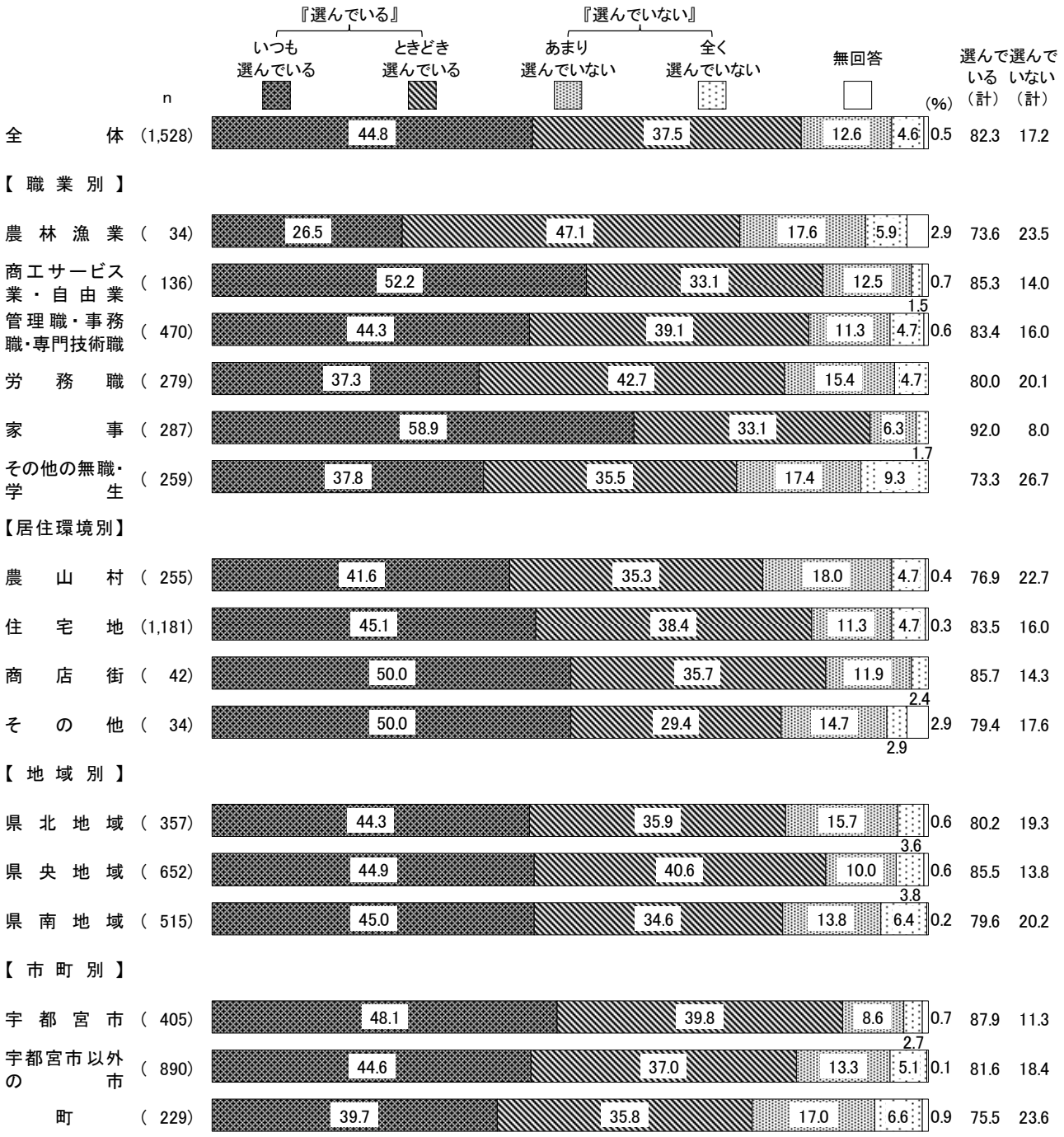
［性別・性／年齢別］



性別でみると、『選んでいる』では〈女性〉(88.4%) が〈男性〉(75.9%) より12.5ポイント高くなっている。

性／年齢別でみると、『選んでいる』では〈女性65～69歳〉が97.3%、〈女性60～64歳〉が96.8%と高くなっている。一方、『選んでいない』では〈男性20歳代〉が36.7%、〈女性20歳代〉が34.6%と高くなっている。

［職業別・居住環境別・地域別・市町別］



職業別でみると、『選んでいる』では〈家事〉が92.0％と高くなっている。

居住環境別でみると、大きな傾向の違いはみられない。

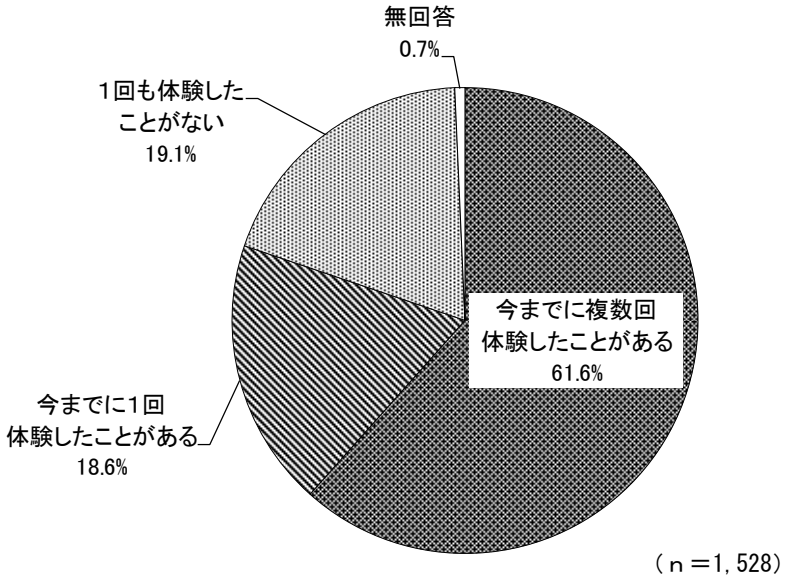
地域別でみると、大きな傾向の違いはみられない。

市町別でみると、大きな傾向の違いはみられない。

（２）農業体験をした経験

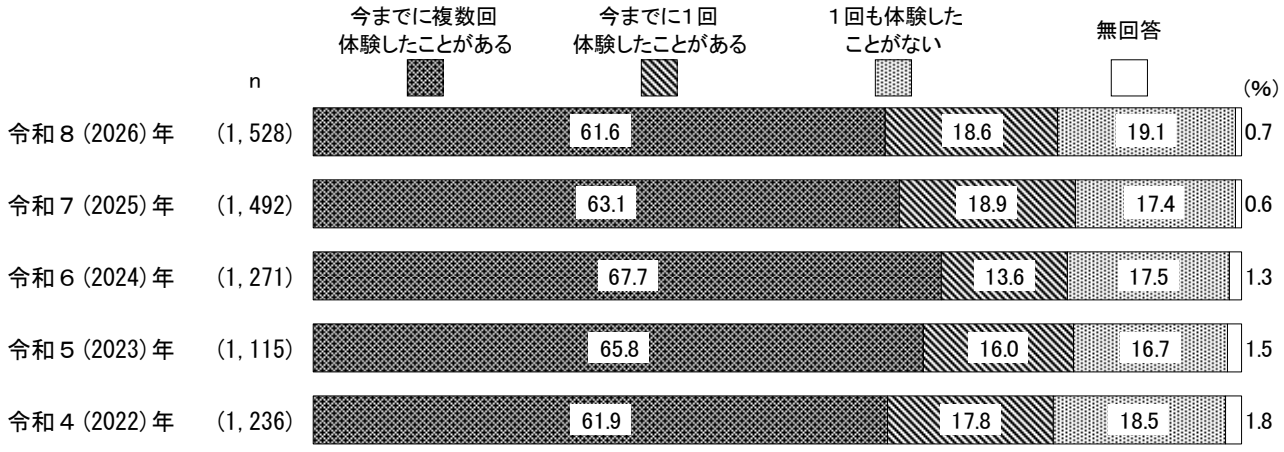
問33　あなたは、田植えやいちご狩り、乳搾りなど、農業体験をしたことがありますか。次の中から１つ選んでください。　［ｎ＝1,528］

１	今までに複数回体験したことがある　61.6％	３	１回も体験したことがない　19.1％
２	今までに１回体験したことがある　18.6		（無回答）　0.7



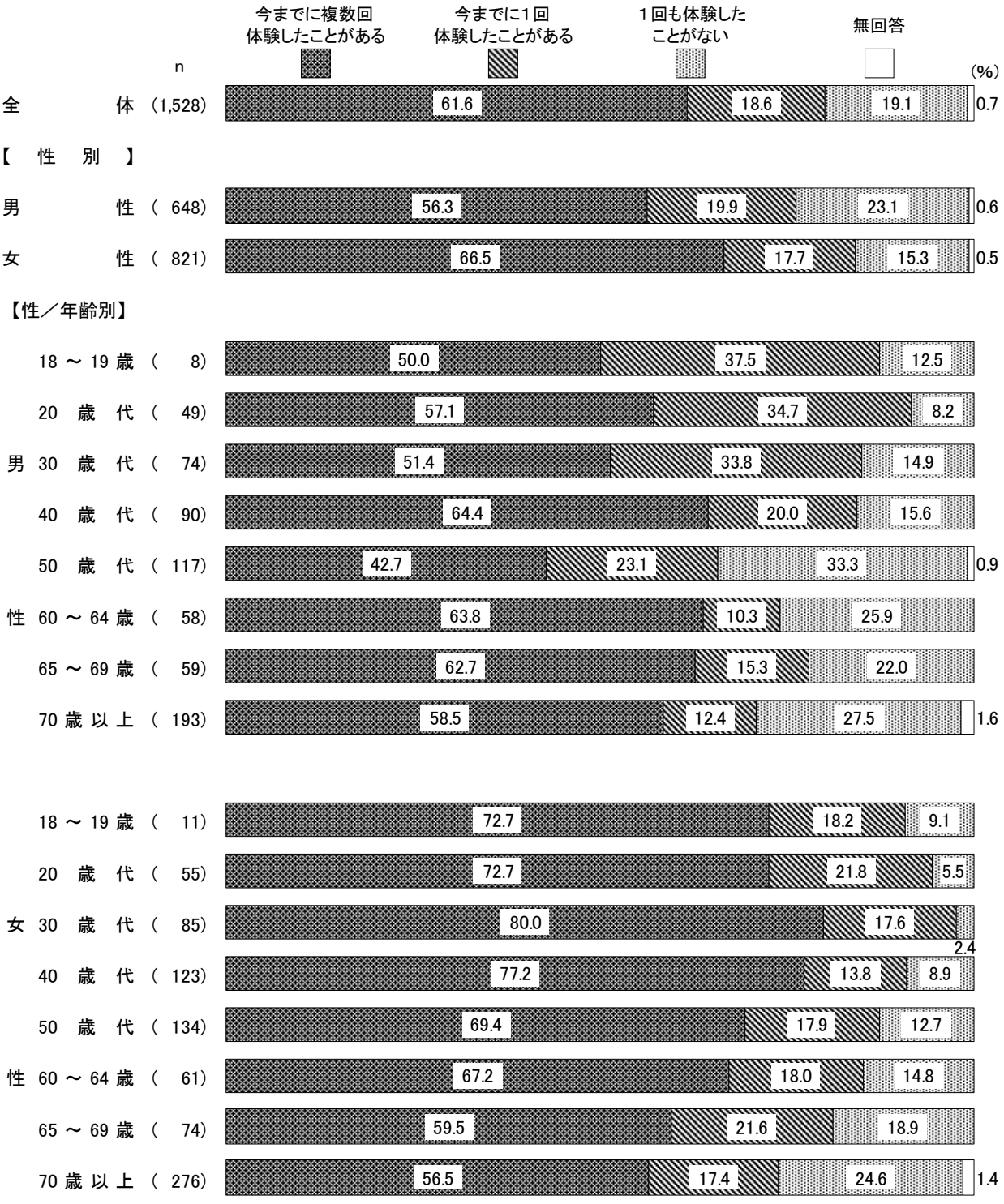
全体でみると、「今までに複数回体験したことがある」（61.6％）が６割強で最も高くなっている。次いで「１回も体験したことがない」（19.1％）、「今までに１回体験したことがある」（18.6％）となっている。

［過去の調査結果］



過去の調査結果と比較すると、大きな傾向の違いはみられない。

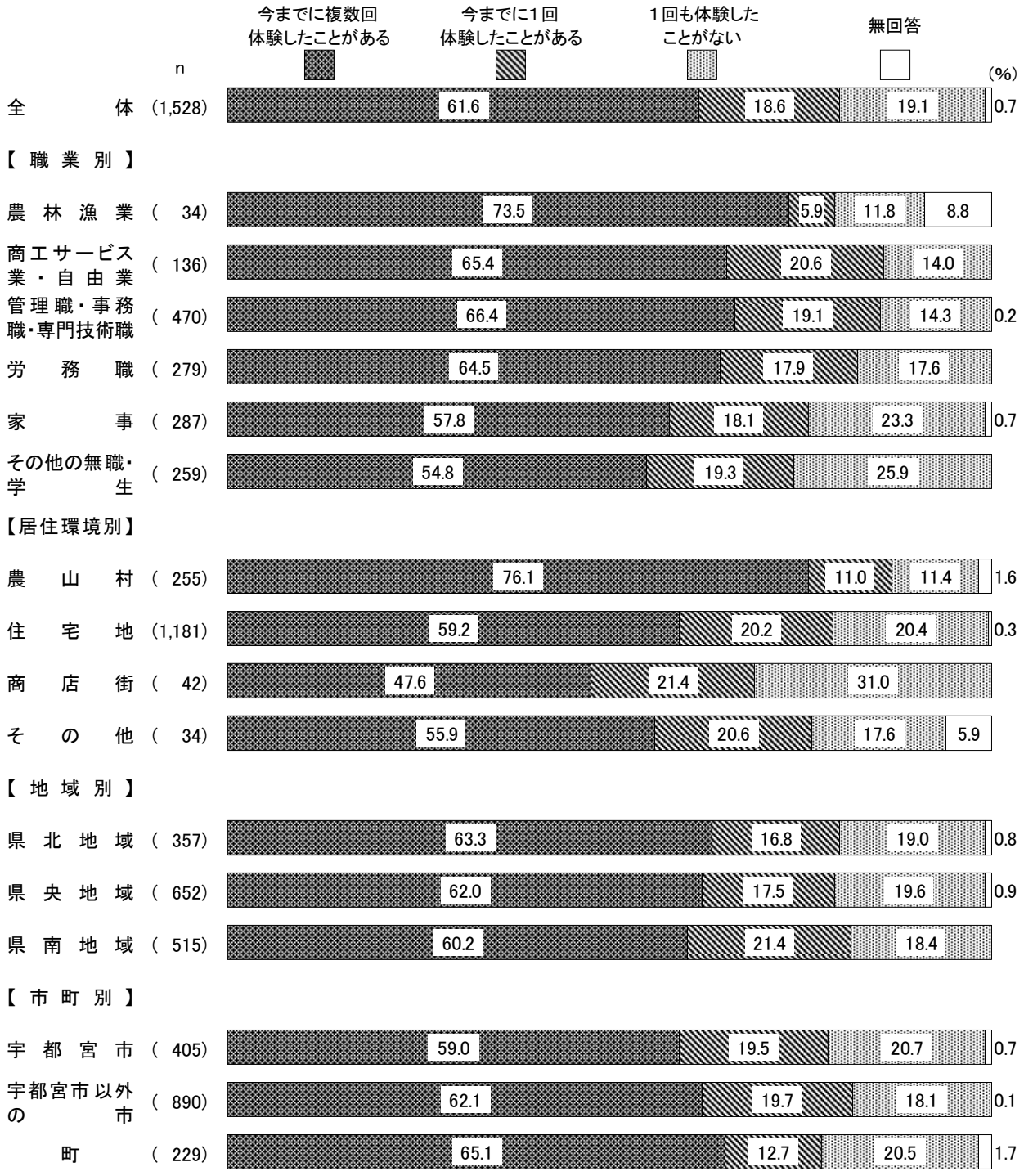
［性別・性／年齢別］



性別でみると、「今までに複数回体験したことがある」では〈女性〉（66.5%）が〈男性〉（56.3%）より10.2ポイント高くなっている。一方、「１回も体験したことがない」では〈男性〉（23.1%）が〈女性〉（15.3%）より7.8ポイント高くなっている。

性／年齢別でみると、「今までに複数回体験したことがある」では〈女性30歳代〉が80.0%、〈女性40歳代〉が77.2%、〈女性20歳代〉が72.7%と高くなっている。「今までに１回体験したことがある」では〈男性20歳代〉が34.7%、〈男性30歳代〉が33.8%と高くなっている。一方、「１回も体験したことがない」では〈男性50歳代〉が33.3%と高くなっている。

［職業別・居住環境別・地域別・市町別］



職業別でみると、「今までに複数回体験したことがある」では〈農林漁業〉が73.5％と高くなっている。

居住環境別でみると、「今までに複数回体験したことがある」では〈農山村〉が76.1％と高くなっている。一方、「１回も体験したことがない」では〈商店街〉が31.0％と高くなっている。

地域別でみると、大きな傾向の違いはみられない。

市町別でみると、大きな傾向の違いはみられない。

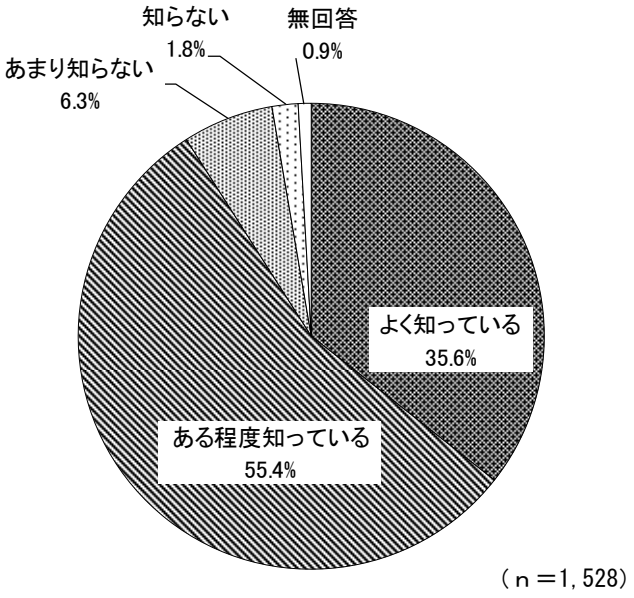
16　食品ロスの削減について

（１）「食品ロス」問題の認知度

問34　あなたは、「食品ロス」の問題を知っていますか。次の中から１つ選んでください。

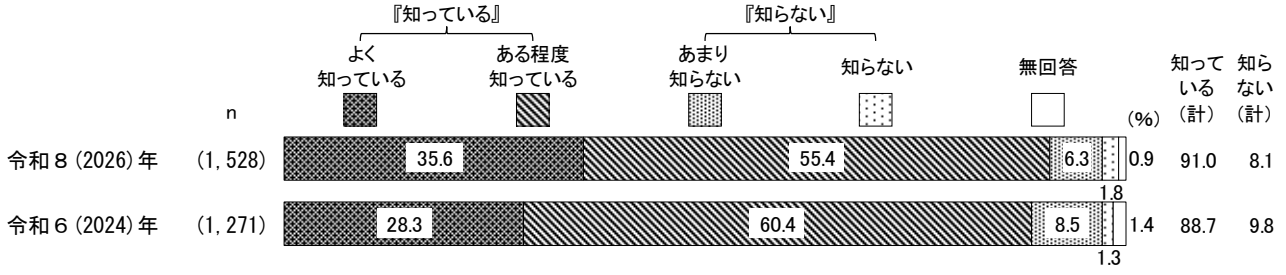
［ｎ＝1,528］

１	よく知っている	35.6%	３	あまり知らない	6.3%
２	ある程度知っている	55.4	４	知らない	1.8
				（無回答）	0.9



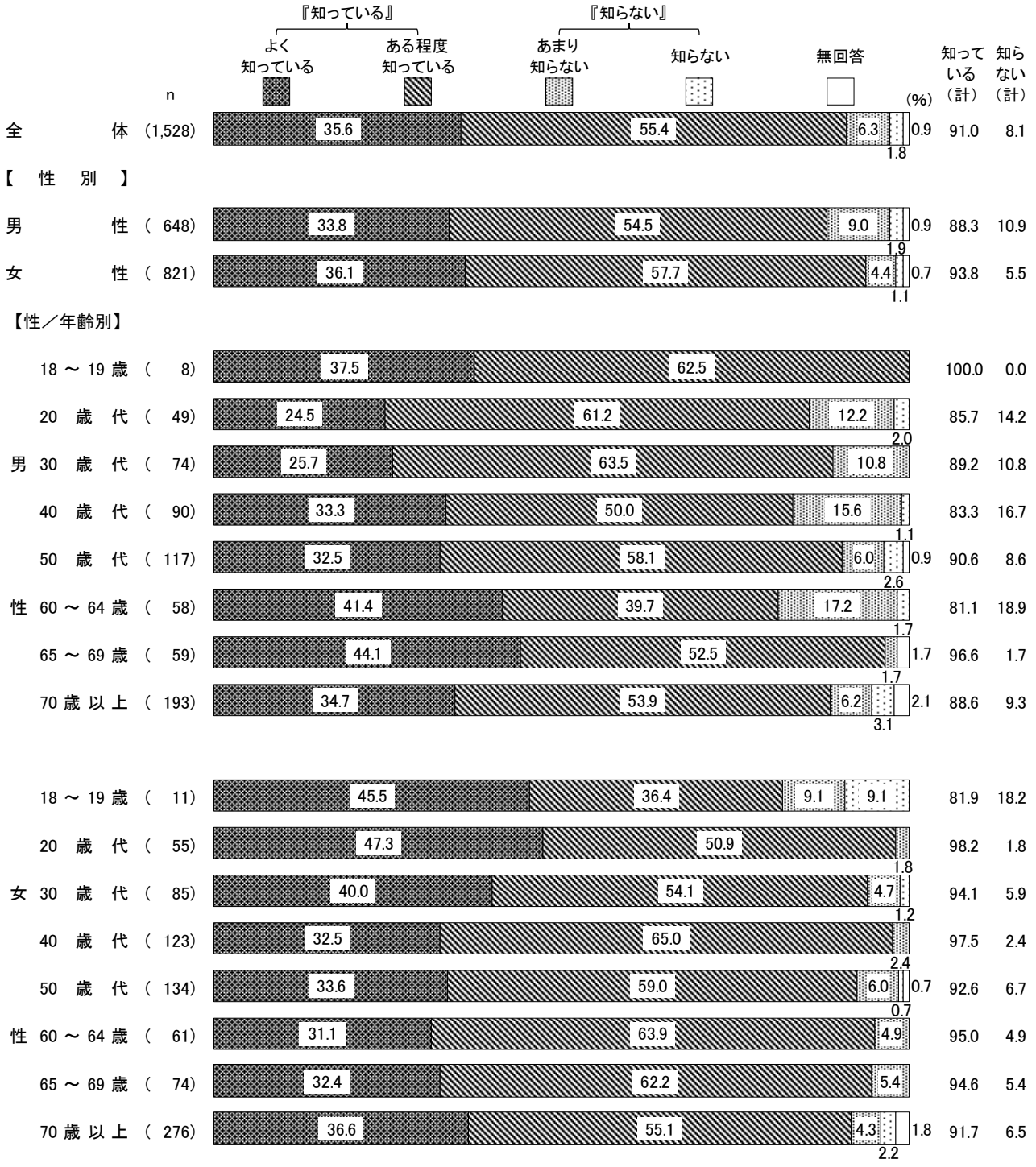
全体でみると、「よく知っている」（35.6%）と「ある程度知っている」（55.4%）の２つを合わせた『知っている』(91.0%)が９割強となっている。一方、「あまり知らない」(6.3%)と「知らない」(1.8%)の２つを合わせた『知らない』（8.1%）が１割近くとなっている。

［過去の調査結果］



前回（令和６(2024)年）の調査結果と比較すると、「よく知っている」が7.3ポイント増加している。

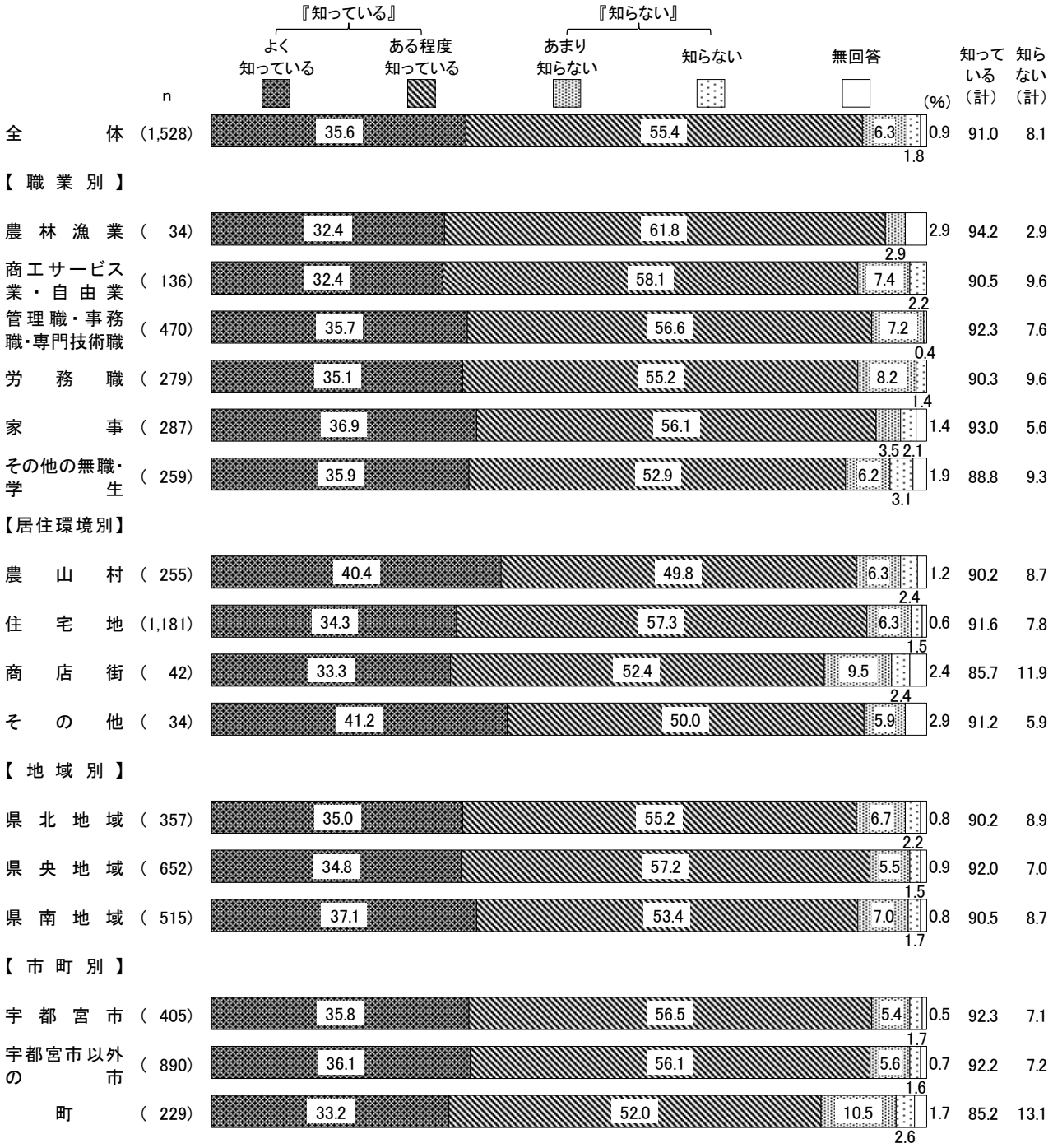
［性別・性／年齢別］



性別でみると、『知っている』では〈女性〉（93.8％）が〈男性〉（88.3％）より5.5ポイント高くなっている。

性／年齢別でみると、『知らない』では〈男性60～64歳〉が18.9％と高くなっている。

［職業別・居住環境別・地域別・市町別］



職業別でみると、大きな傾向の違いはみられない。

居住環境別でみると、大きな傾向の違いはみられない。

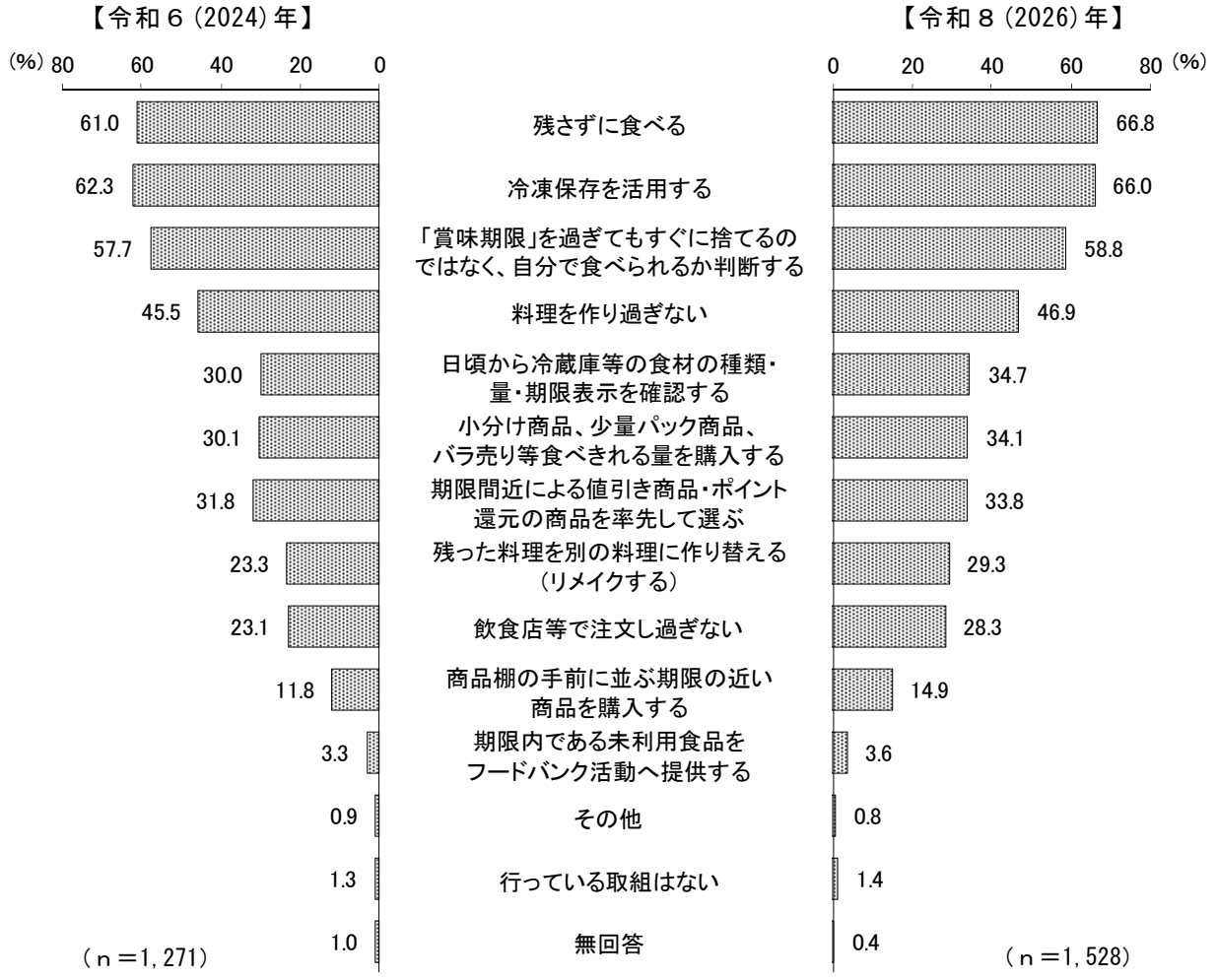
地域別でみると、大きな傾向の違いはみられない。

市町別でみると、大きな傾向の違いはみられない。

（２）現在行っている食品ロスを発生させない取組

問35　あなたが現在行っている、食品ロスを発生させない（食品を無駄にしない）ための取組はどのようなものですか。次の中からいくつでも選んでください。　［ｎ＝1,528］

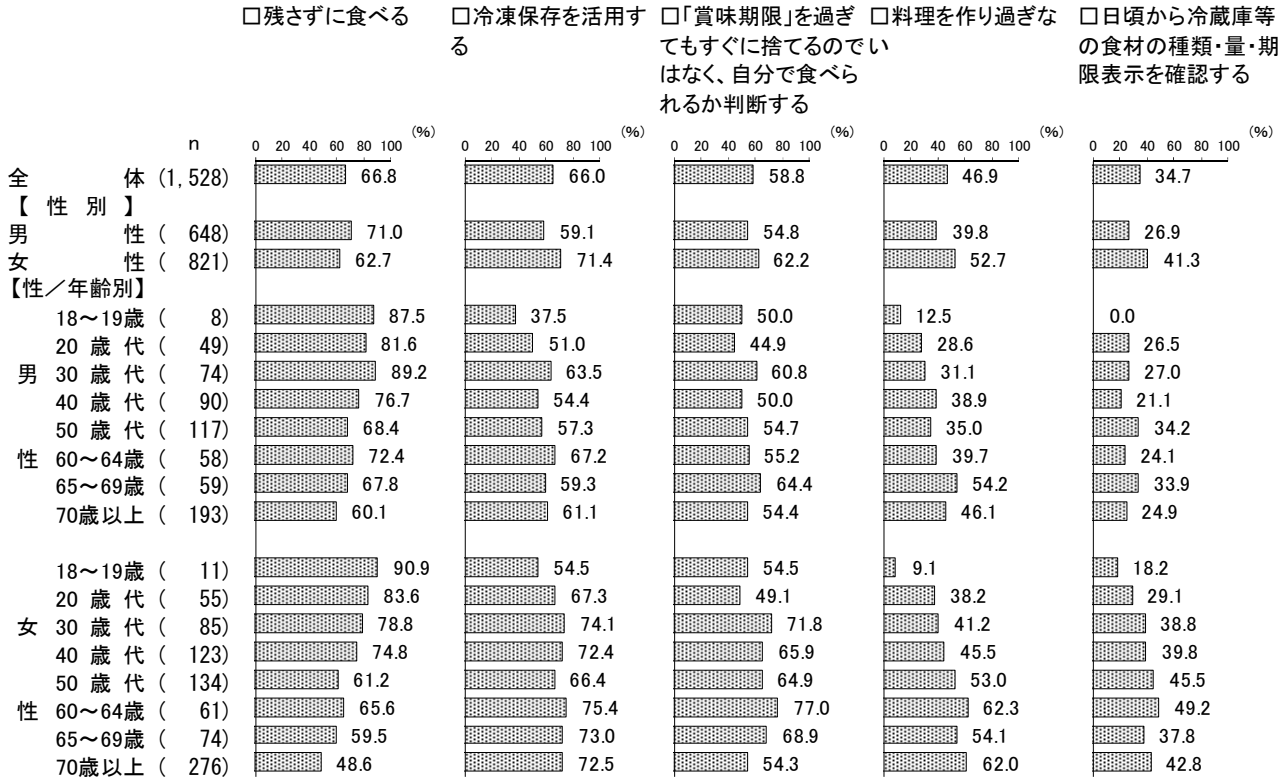
1	料理を作り過ぎない	46.9%
2	残さずに食べる	66.8
3	残った料理を別の料理に作り替える（リメイクする）	29.3
4	冷凍保存を活用する	66.0
5	日頃から冷蔵庫等の食材の種類・量・期限表示を確認する	34.7
6	「賞味期限」を過ぎてもすぐに捨てるのではなく、自分で食べられるか判断する	58.8
7	小分け商品、少量パック商品、バラ売り等食べきれる量を購入する	34.1
8	商品棚の手前に並ぶ期限の近い商品を購入する	14.9
9	期限間近による値引き商品・ポイント還元の商品を率先して選ぶ	33.8
10	飲食店等で注文し過ぎない	28.3
11	期限内である未利用食品をフードバンク活動へ提供する	3.6
12	その他	0.8
13	行っている取組はない	1.4
	（無回答）	0.4

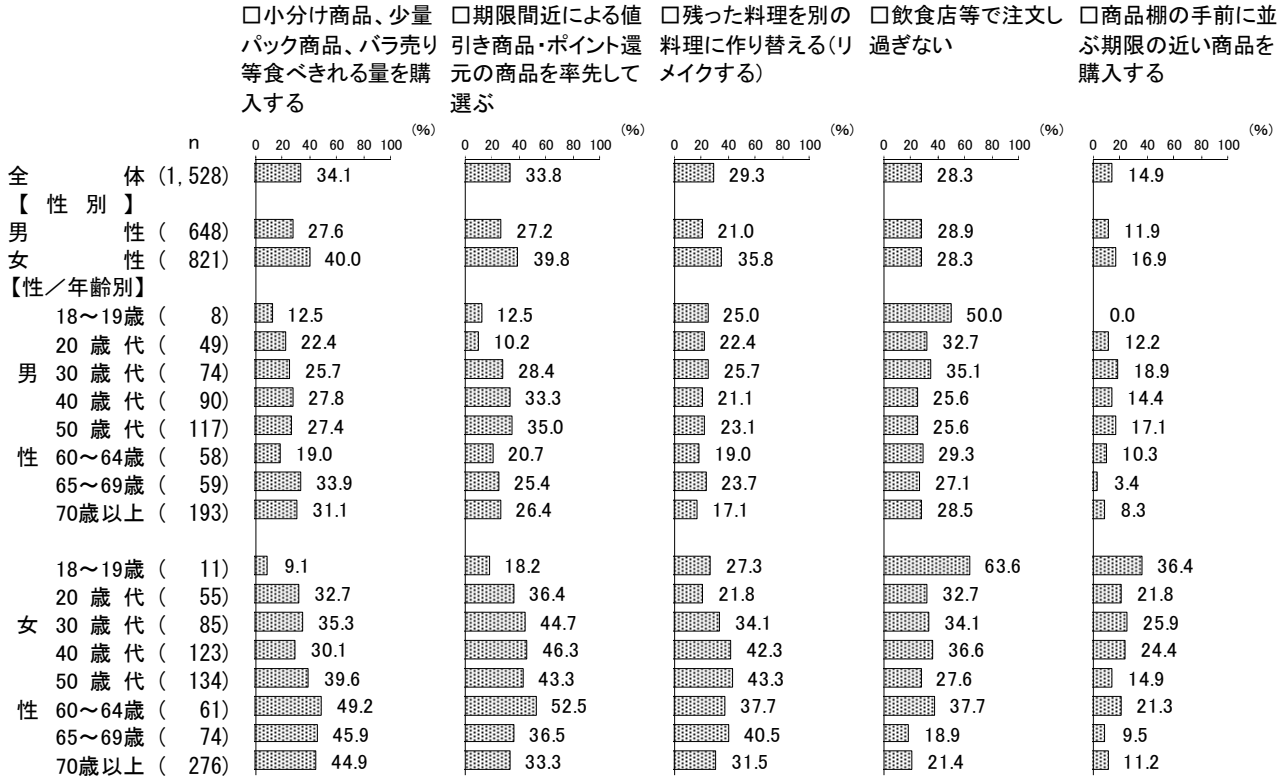


全体でみると、「残さずに食べる」（66.8%）が６割台半ばを超えて最も高く、次いで「冷凍保存を活用する」（66.0%）、『「賞味期限」を過ぎてもすぐに捨てるのではなく、自分で食べられるか判断する』（58.8%）、「料理を作り過ぎない」（46.9%）、「日頃から冷蔵庫等の食材の種類・量・期限表示を確認する」（34.7%）、「小分け商品、少量パック商品、バラ売り等食べきれる量を購入する」（34.1%）、「期限間近による値引き商品・ポイント還元の商品を率先して選ぶ」（33.8%）となっている。

前回（令和６(2024)年）の調査結果と比較すると、「残った料理を別の料理に作り替える（リメイクする)」が6.0ポイント、「残さずに食べる」が5.8ポイント、「飲食店等で注文し過ぎない」が5.2ポイント、「日頃から冷蔵庫等の食材の種類・量・期限表示を確認する」が4.7ポイント、「小分け商品、少量パック商品、バラ売り等食べきれる量を購入する」が4.0ポイント、「冷凍保存を活用する」が3.7ポイント、「商品棚の手前に並ぶ期限の近い商品を購入する」が3.1ポイント増加している。

［性別・性／年齢別］（上位10項目）

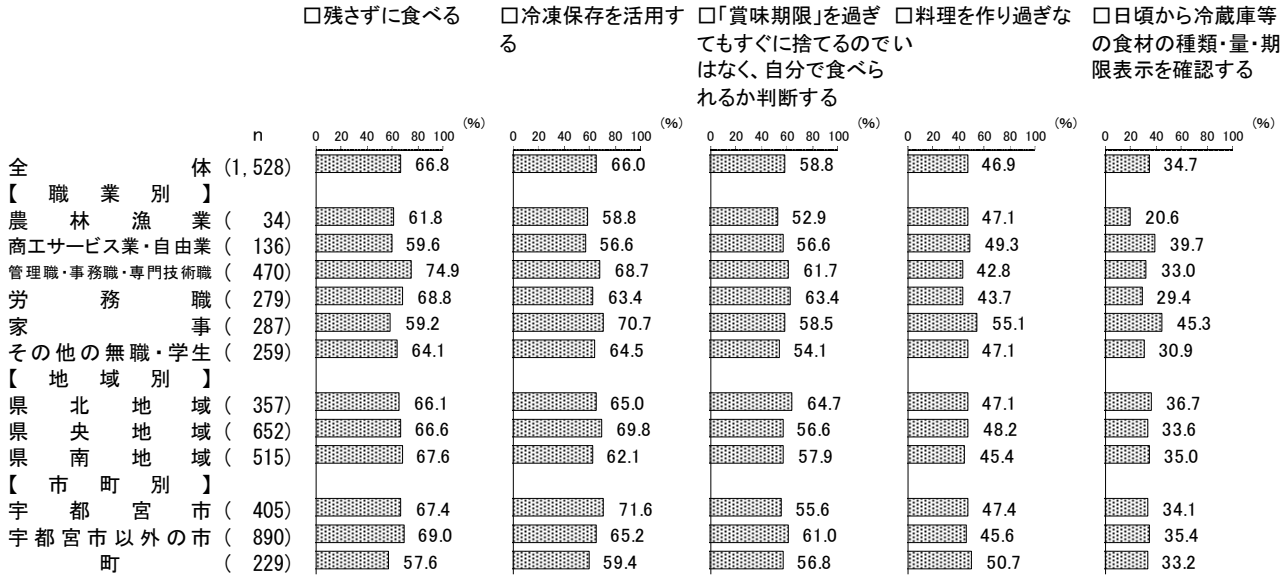


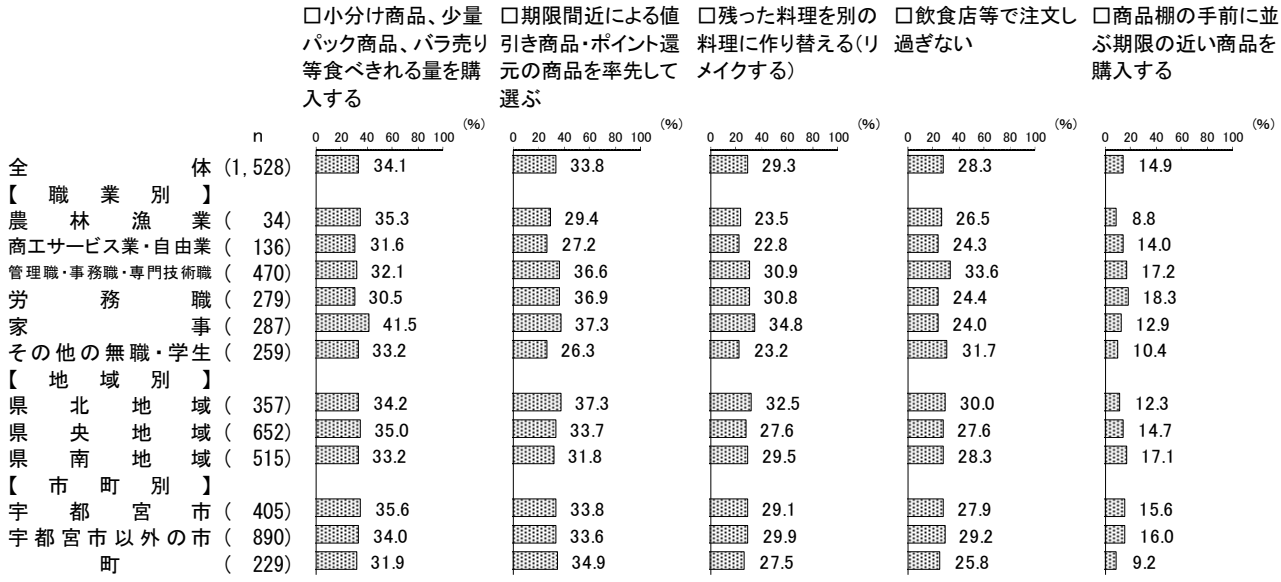


上位10項目について、性別でみると、「残った料理を別の料理に作り替える（リメイクする）」では〈女性〉（35.8％）が〈男性〉（21.0％）より14.8ポイント、「日頃から冷蔵庫等の食材の種類・量・期限表示を確認する」では〈女性〉（41.3％）が〈男性〉（26.9％）より14.4ポイント、「料理を作り過ぎない」では〈女性〉（52.7％）が〈男性〉（39.8％）より12.9ポイント、「期限間近による値引き商品・ポイント還元の商品を率先して選ぶ」では〈女性〉（39.8％）が〈男性〉（27.2％）より12.6ポイント、「小分け商品、少量パック商品、バラ売り等食べきれる量を購入する」では〈女性〉（40.0％）が〈男性〉（27.6％）より12.4ポイント、「冷凍保存を活用する」では〈女性〉（71.4％）が〈男性〉（59.1％）より12.3ポイント、『「賞味期限」を過ぎてもすぐに捨てるのではなく、自分で食べられるか判断する』では〈女性〉（62.2％）が〈男性〉（54.8％）より7.4ポイント高くなっている。一方、「残さずに食べる」では〈男性〉（71.0％）が〈女性〉（62.7％）より8.3ポイント高くなっている。

性／年齢別でみると、「残さずに食べる」では〈男性30歳代〉が89.2％、〈女性20歳代〉が83.6％、〈男性20歳代〉が81.6％、〈女性30歳代〉が78.8％と高くなっている。「冷凍保存を活用する」では〈男性20歳代〉が51.0％、〈男性40歳代〉が54.4％と低くなっている。『「賞味期限」を過ぎてもすぐに捨てるのではなく、自分で食べられるか判断する』では〈女性60～64歳〉が77.0％、〈女性30歳代〉が71.8％、〈女性65～69歳〉が68.9％と高くなっている。「料理を作り過ぎない」では〈女性60～64歳〉が62.3％、〈女性70歳以上〉が62.0％と高くなっている。「日頃から冷蔵庫等の食材の種類・量・期限表示を確認する」では〈女性60～64歳〉が49.2％、〈女性50歳代〉が45.5％と高くなっている。「小分け商品、少量パック商品、バラ売り等食べきれる量を購入する」では〈女性60～64歳〉が49.2％、〈女性65～69歳〉が45.9％、〈女性70歳以上〉が44.9％と高くなっている。「期限間近による値引き商品・ポイント還元の商品を率先して選ぶ」では〈女性60～64歳〉が52.5％、〈女性40歳代〉が46.3％、〈女性30歳代〉が44.7％と高くなっている。「残った料理を別の料理に作り替える（リメイクする）」では〈女性50歳代〉が43.3％、〈女性40歳代〉が42.3％、〈女性65～69歳〉が40.5％と高くなっている。「商品棚の手前に並ぶ期限の近い商品を購入する」では〈女性30歳代〉が25.9％と高くなっている。

［職業別・居住環境別］（上位10項目）





上位10項目について、職業別でみると、「日頃から冷蔵庫等の食材の種類・量・期限表示を確認する」では〈家事〉が45.3％と高くなっている。

地域別でみると、大きな傾向の違いはみられない。

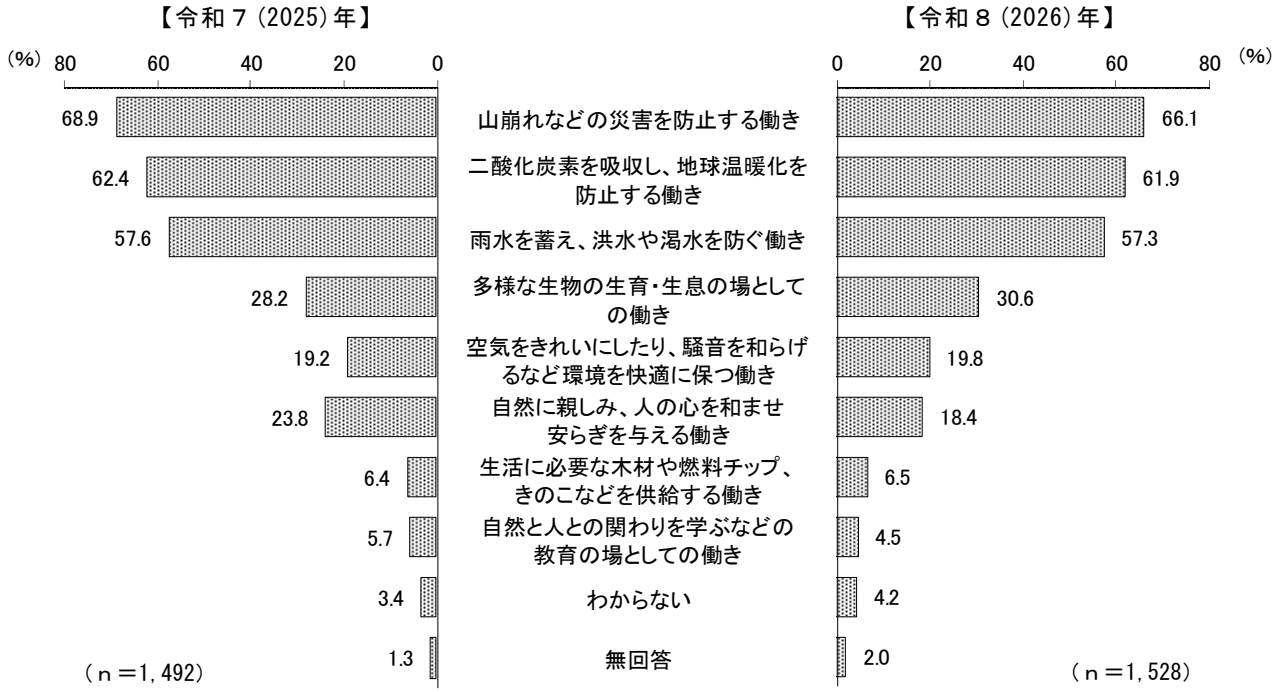
市町別でみると、大きな傾向の違いはみられない。

17　とちぎの元気な森づくり県民税について

（１）重要だと思う森林の持つ働き

問36　森林には、様々な働きがあります。あなたが特に重要だと考える森林の働きはどれですか。次の中から３つまで選んでください。　［ｎ＝1,528］

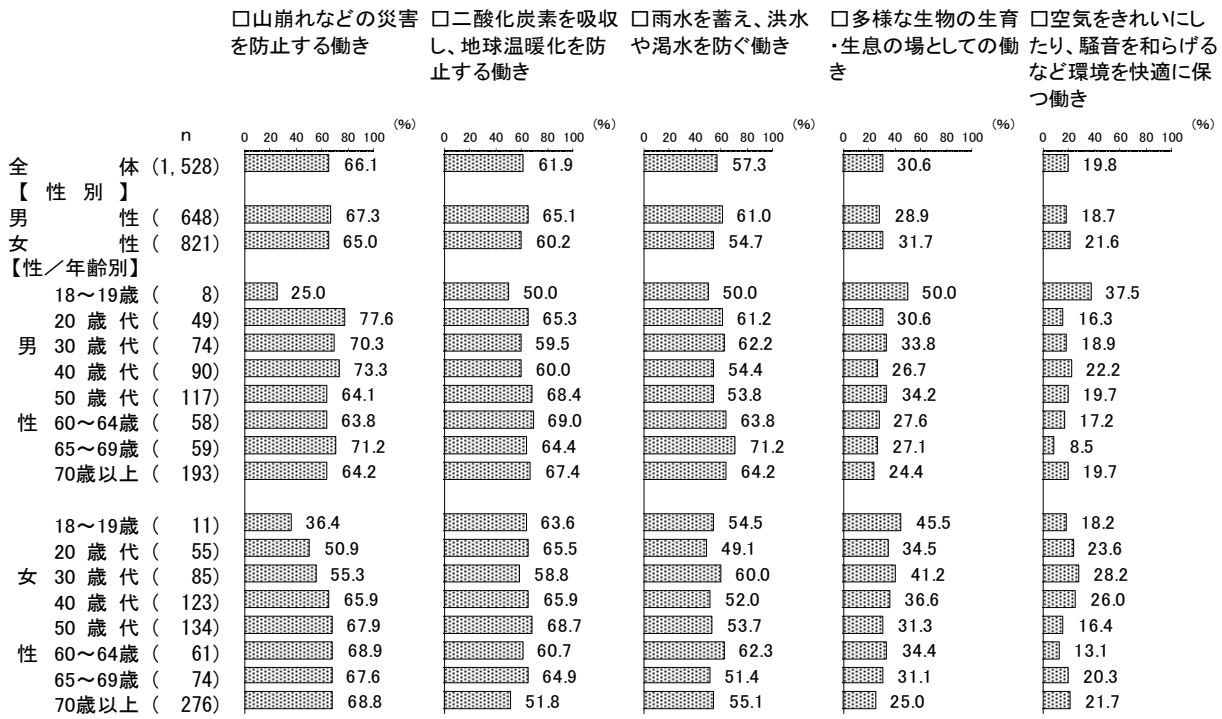
１	山崩れなどの災害を防止する働き	66.1%
２	雨水を蓄え、洪水や渇水を防ぐ働き	57.3
３	二酸化炭素を吸収し、地球温暖化を防止する働き	61.9
４	空気をきれいにしたり、騒音を和らげるなど環境を快適に保つ働き	19.8
５	生活に必要な木材や燃料チップ、きのこなどを供給する働き	6.5
６	多様な生物の生育・生息の場としての働き	30.6
７	自然に親しみ、人の心を和ませ安らぎを与える働き	18.4
８	自然と人との関わりを学ぶなどの教育の場としての働き	4.5
９	わからない	4.2
	（無回答）	2.0

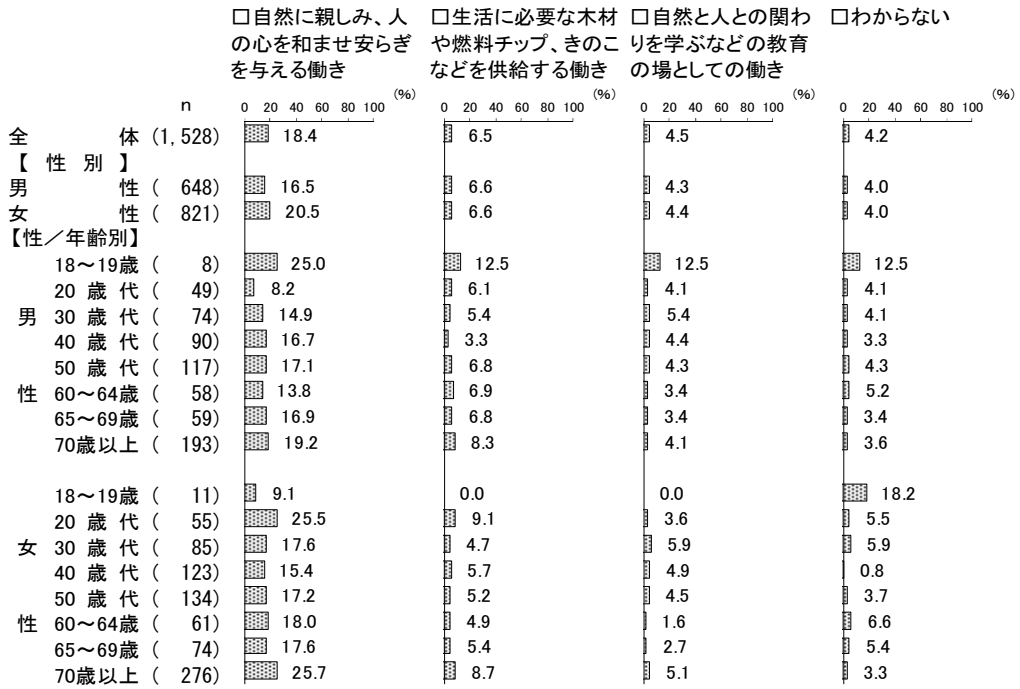


全体でみると、「山崩れなどの災害を防止する働き」（66.1%）が６割台半ばを超えて最も高く、次いで「二酸化炭素を吸収し、地球温暖化を防止する働き」（61.9%）、「雨水を蓄え、洪水や渇水を防ぐ働き」（57.3%）、「多様な生物の生育・生息の場としての働き」（30.6%）となっている。

前回（令和７(2025)年）の調査結果と比較すると、「自然に親しみ、人の心を和ませ安らぎを与える働き」が5.4ポイント減少している。

［性別・性／年齢別］

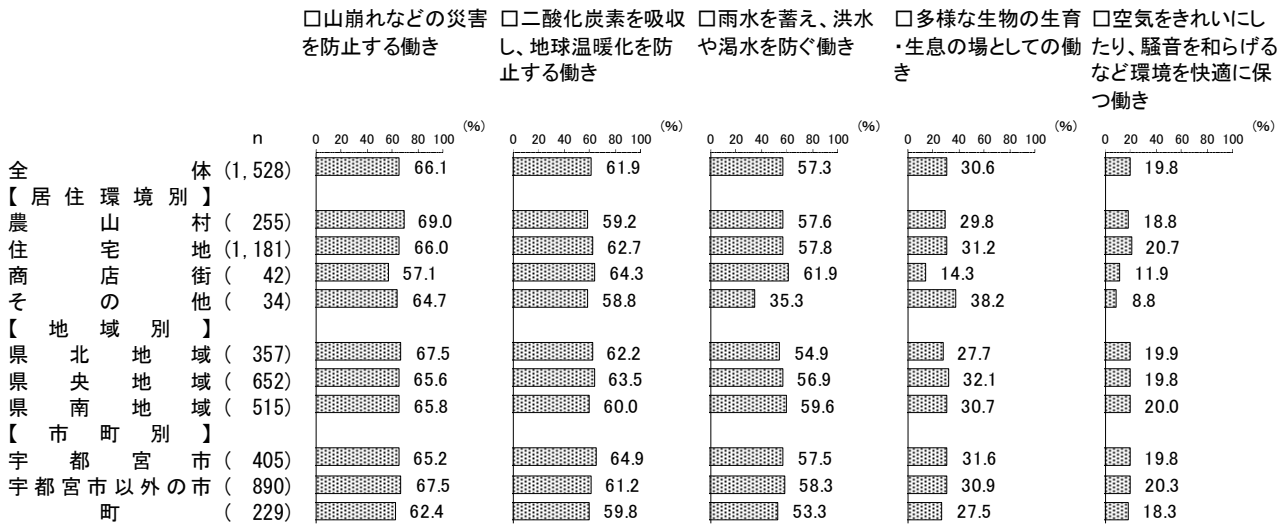


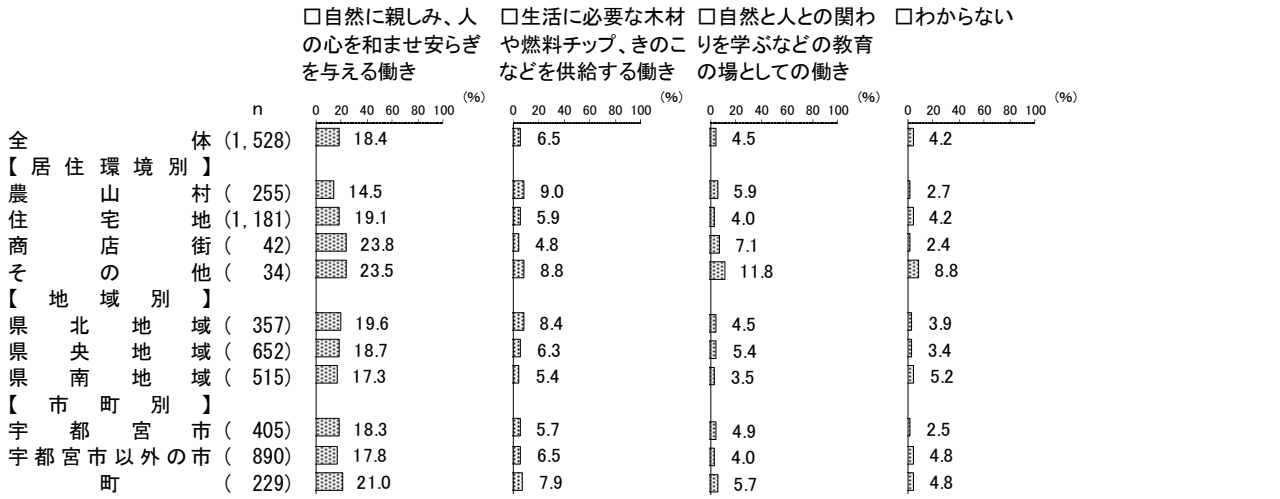


性別でみると、「雨水を蓄え、洪水や渇水を防ぐ働き」では〈男性〉（61.0％）が〈女性〉（54.7％）より6.3ポイント高くなっている。

性／年齢別でみると、「山崩れなどの災害を防止する働き」では〈男性20歳代〉が77.6％と高くなっている。「二酸化炭素を吸収し、地球温暖化を防止する働き」では〈女性70歳以上〉が51.8％と低くなっている。「雨水を蓄え、洪水や渇水を防ぐ働き」では〈男性65～69歳〉が71.2％と高くなっている。「多様な生物の生育・生息の場としての働き」では〈女性30歳代〉が41.2％と高くなっている。「空気をきれいにしたり、騒音を和らげるなど環境を快適に保つ働き」では〈男性65～69歳〉が8.5％と低くなっている。「自然に親しみ、人の心を和ませ安らぎを与える働き」では〈男性20歳代〉が8.2％と低くなっている。

［居住環境別・地域別・市町別］





居住環境別でみると、「多様な生物の生育・生息の場としての働き」では〈商店街〉が14.3％と低くなっている。

地域別でみると、大きな傾向の違いはみられない。

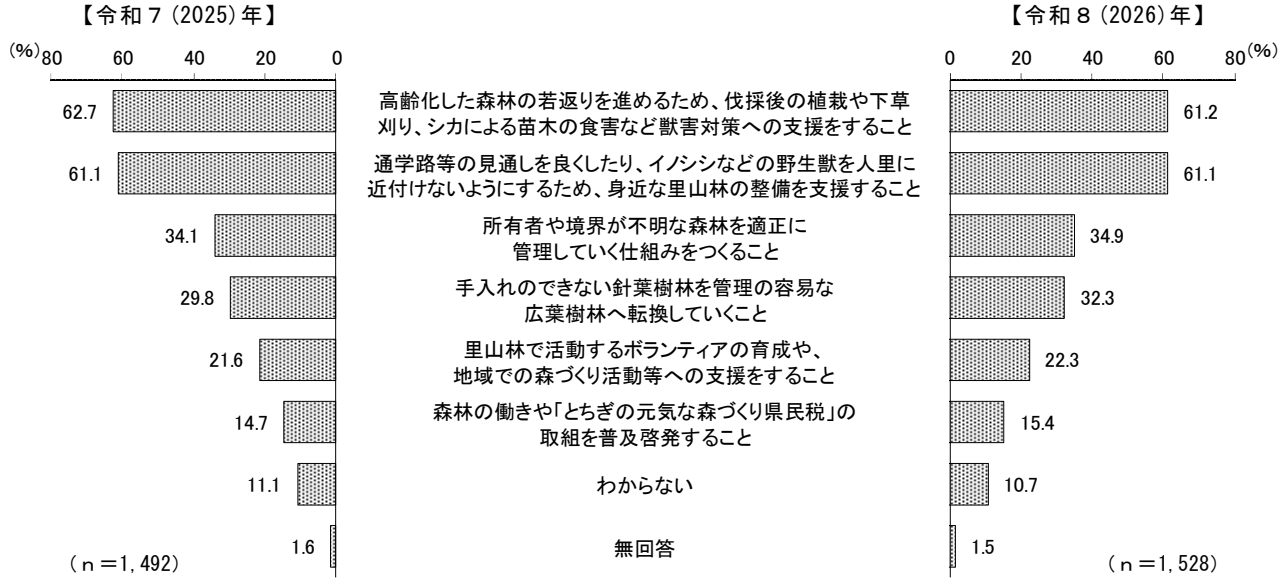
市町別でみると、大きな傾向の違いはみられない。

（２）「とちぎの元気な森づくり県民税」で重要と思う取組

問37　栃木県では、「とちぎの元気な森づくり県民税」を活用して、本県の森林を元気な姿で将来へ引き継いでいくための様々な取組を行っています。

「とちぎの元気な森づくり県民税」の取組の中で、あなたが特に重要と思うものはどれですか。次の中から３つまで選んでください。　［ｎ＝1,528］

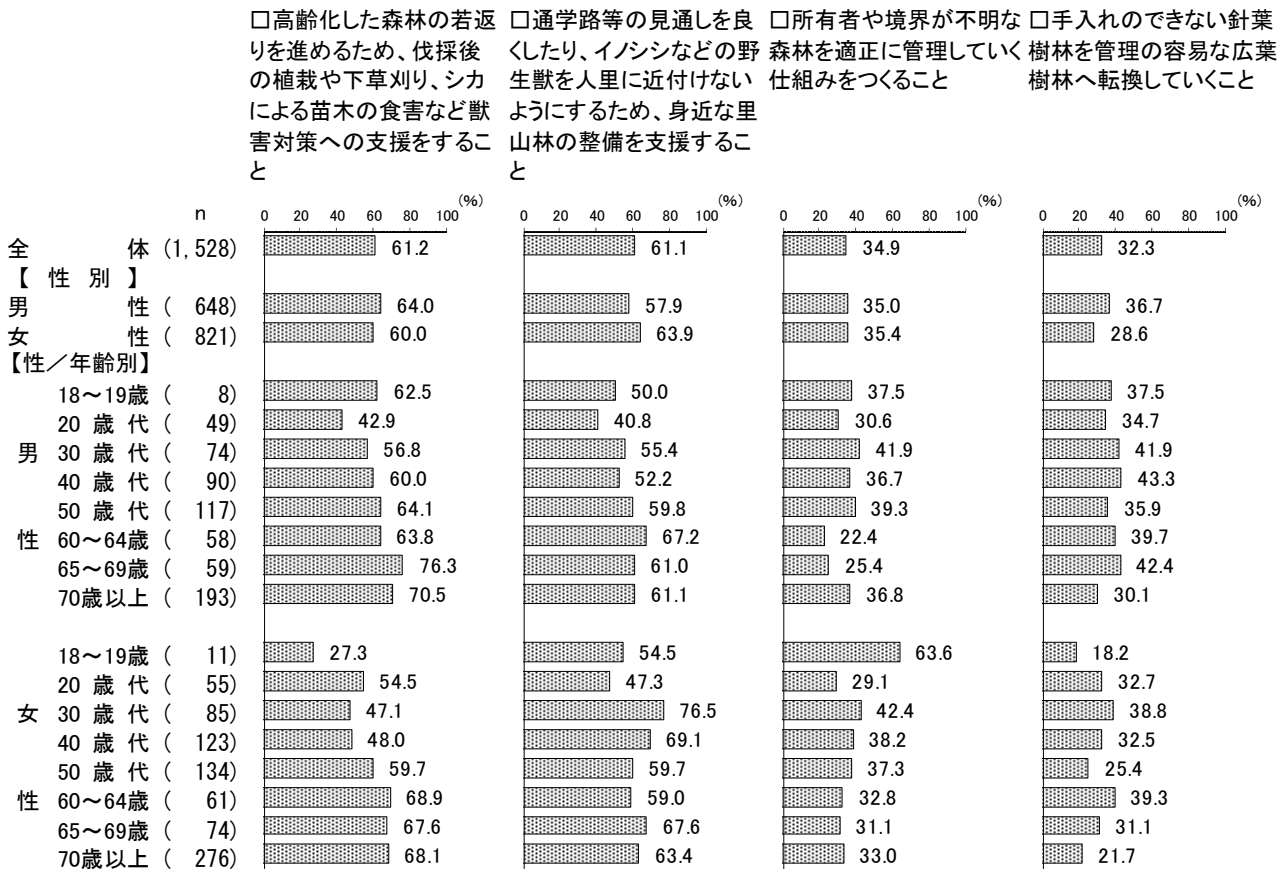
１	高齢化した森林の若返りを進めるため、伐採後の植栽や下草刈り、シカによる苗木の食害など獣害対策への支援をすること	61.2%
２	手入れのできない針葉樹林を管理の容易な広葉樹林へ転換していくこと	32.3
３	通学路等の見通しを良くしたり、イノシシなどの野生獣を人里に近付けないようにするため、身近な里山林の整備を支援すること	61.1
４	里山林で活動するボランティアの育成や、地域での森づくり活動等への支援をすること	22.3
５	所有者や境界が不明な森林を適正に管理していく仕組みをつくること	34.9
６	森林の働きや「とちぎの元気な森づくり県民税」の取組を普及啓発すること	15.4
７	わからない	10.7
	（無回答）	1.5

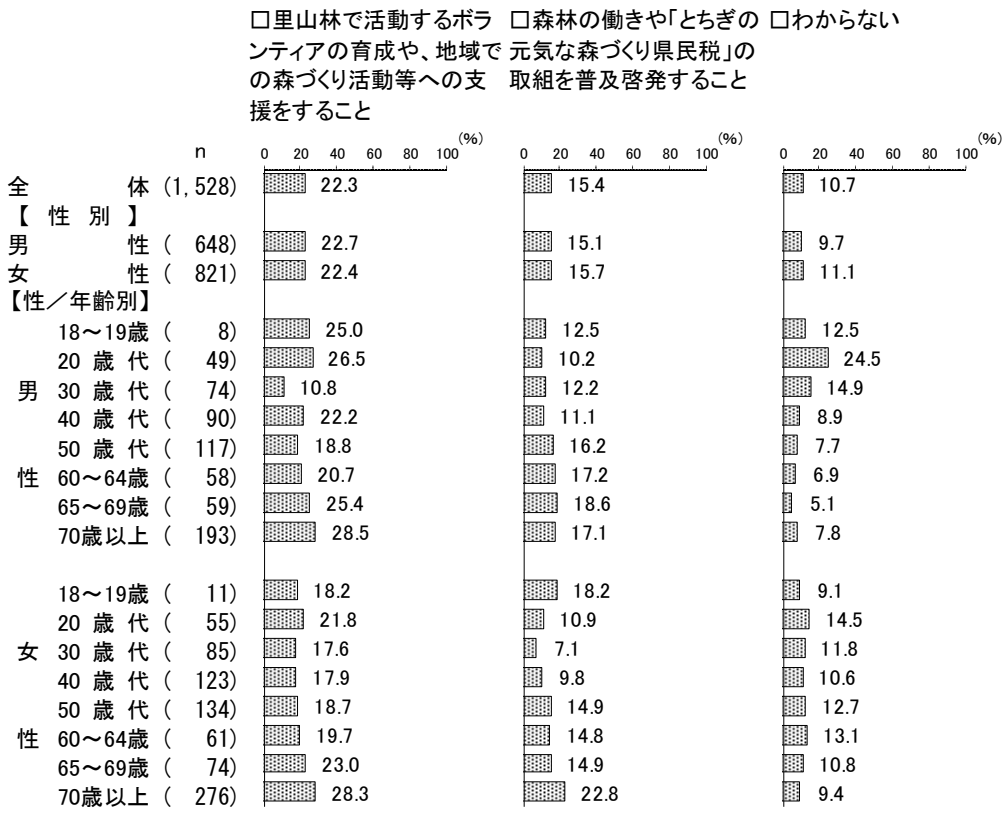


全体でみると、「高齢化した森林の若返りを進めるため、伐採後の植栽や下草刈り、シカによる苗木の食害など獣害対策への支援をすること」（61.2%）が６割強で最も高く、次いで「通学路等の見通しを良くしたり、イノシシなどの野生獣を人里に近付けないようにするため、身近な里山林の整備を支援すること」（61.1%）、「所有者や境界が不明な森林を適正に管理していく仕組みをつくること」（34.9%）、「手入れのできない針葉樹林を管理の容易な広葉樹林へ転換していくこと」（32.3%）、「里山林で活動するボランティアの育成や、地域での森づくり活動等への支援をすること」（22.3%）となっている。

前回（令和７(2025)年）の調査結果と比較すると、大きな傾向の違いはみられない。

［性別・性／年齢別］

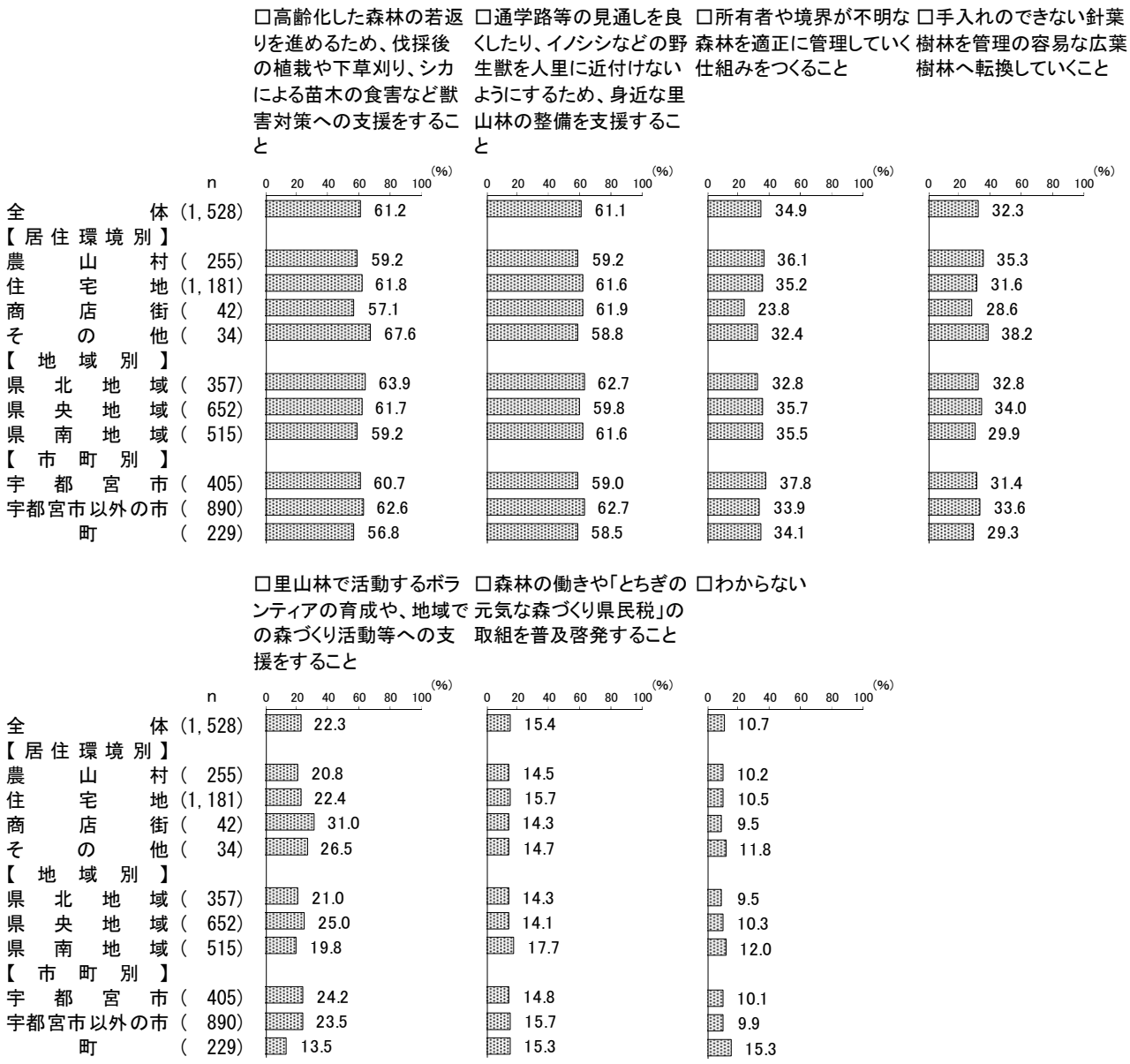

□高齢化した森林の若返りを進めるため、伐採後の植栽や下草刈り、シカによる苗木の食害など獣害対策への支援をすること
□通学路等の見通しを良くしたり、イノシシなどの野生獣を人里に近付けないようにするため、身近な里山林の整備を支援すること
□所有者や境界が不明な森林を適正に管理していく仕組みをつくること
□手入れのできない針葉樹林を管理の容易な広葉樹林へ転換していくこと
n
0 20 40 60 80 100 (%)
全体 (1,528) 61.2 61.1 34.9 32.3
【性別】
男性 (648) 64.0 57.9 35.0 36.7
女性 (821) 60.0 63.9 35.4 28.6
【性／年齢別】
男 18～19歳 (8) 62.5 50.0 37.5 37.5
男 20歳代 (49) 42.9 40.8 30.6 34.7
男 30歳代 (74) 56.8 55.4 41.9 41.9
男 40歳代 (90) 60.0 52.2 36.7 43.3
男 50歳代 (117) 64.1 59.8 39.3 35.9
男性 60～64歳 (58) 63.8 67.2 22.4 39.7
男 65～69歳 (59) 76.3 61.0 25.4 42.4
男 70歳以上 (193) 70.5 61.1 36.8 30.1
女 18～19歳 (11) 27.3 54.5 63.6 18.2
女 20歳代 (55) 54.5 47.3 29.1 32.7
女 30歳代 (85) 47.1 76.5 42.4 38.8
女 40歳代 (123) 48.0 69.1 38.2 32.5
女 50歳代 (134) 59.7 59.7 37.3 25.4
女性 60～64歳 (61) 68.9 59.0 32.8 39.3
女 65～69歳 (74) 67.6 67.6 31.1 31.1
女 70歳以上 (276) 68.1 63.4 33.0 21.7


□里山林で活動するボランティアの育成や、地域での森づくり活動等への支援をすること
□森林の働きや「とちぎの元気な森づくり県民税」の取組を普及啓発すること
□わからない
n
0 20 40 60 80 100 (%)
全体 (1,528) 22.3 15.4 10.7
【性別】
男性 (648) 22.7 15.1 9.7
女性 (821) 22.4 15.7 11.1
【性／年齢別】
男 18～19歳 (8) 25.0 12.5 12.5
男 20歳代 (49) 26.5 10.2 24.5
男 30歳代 (74) 10.8 12.2 14.9
男 40歳代 (90) 22.2 11.1 8.9
男 50歳代 (117) 18.8 16.2 7.7
男性 60～64歳 (58) 20.7 17.2 6.9
男 65～69歳 (59) 25.4 18.6 5.1
男 70歳以上 (193) 28.5 17.1 7.8
女 18～19歳 (11) 18.2 18.2 9.1
女 20歳代 (55) 21.8 10.9 14.5
女 30歳代 (85) 17.6 7.1 11.8
女 40歳代 (123) 17.9 9.8 10.6
女 50歳代 (134) 18.7 14.9 12.7
女性 60～64歳 (61) 19.7 14.8 13.1
女 65～69歳 (74) 23.0 14.9 10.8
女 70歳以上 (276) 28.3 22.8 9.4

性別でみると、「手入れのできない針葉樹林を管理の容易な広葉樹林へ転換していくこと」では〈男性〉（36.7%）が〈女性〉（28.6%）より8.1ポイント高くなっている。一方、「通学路等の見通しを良くしたり、イノシシなどの野生獣を人里に近付けないようにするため、身近な里山林の整備を支援すること」では〈女性〉（63.9%）が〈男性〉（57.9%）より6.0ポイント高くなっている。

性／年齢別でみると、「高齢化した森林の若返りを進めるため、伐採後の植栽や下草刈り、シカによる苗木の食害など獣害対策への支援をすること」では〈男性65～69歳〉が76.3%と高くなっている。「通学路等の見通しを良くしたり、イノシシなどの野生獣を人里に近付けないようにするため、身近な里山林の整備を支援すること」では〈女性30歳代〉が76.5%と高くなっている。「所有者や境界が不明な森林を適正に管理していく仕組みをつくること」では〈男性60～64歳〉が22.4%と低くなっている。「手入れのできない針葉樹林を管理の容易な広葉樹林へ転換していくこと」では〈男性40歳代〉が43.3%、〈男性65～69歳〉が42.4%と高くなっている。「里山林で活動するボランティアの育成や、地域での森づくり活動等への支援をすること」では〈男性30歳代〉が10.8%と低くなっている。

［居住環境別・地域別・市町別］



居住環境別でみると、「所有者や境界が不明な森林を適正に管理していく仕組みをつくること」では〈商店街〉が23.8%と低くなっている。

地域別でみると、大きな傾向の違いはみられない。

市町別でみると、大きな傾向の違いはみられない。

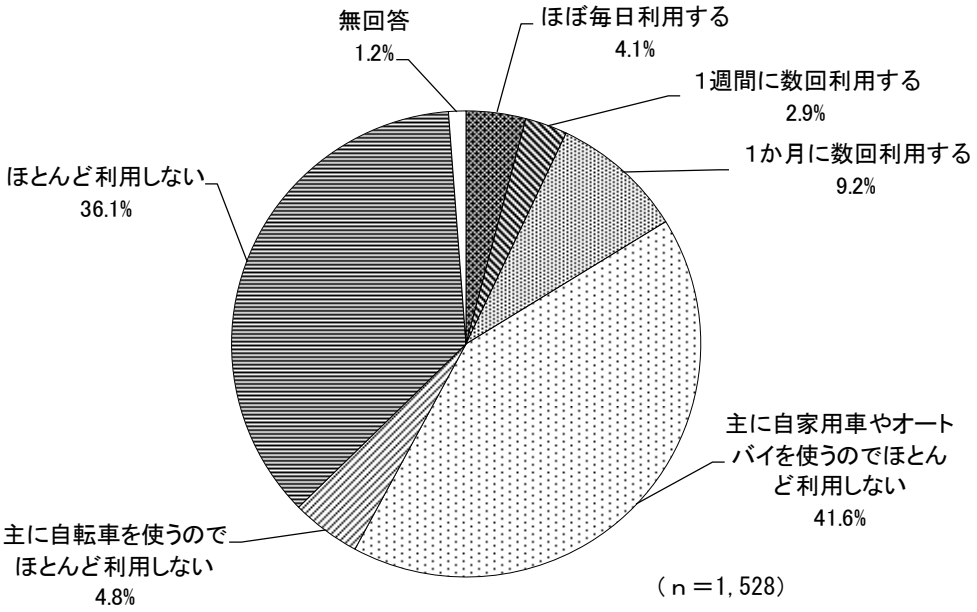
18　公共交通について

（１）公共交通の利用状況

問38　あなたは、日常生活の中で鉄道・バス・タクシーなどの公共交通機関（※）をどれくらい利用していますか。次の中から１つ選んでください。　［ｎ＝1,528］

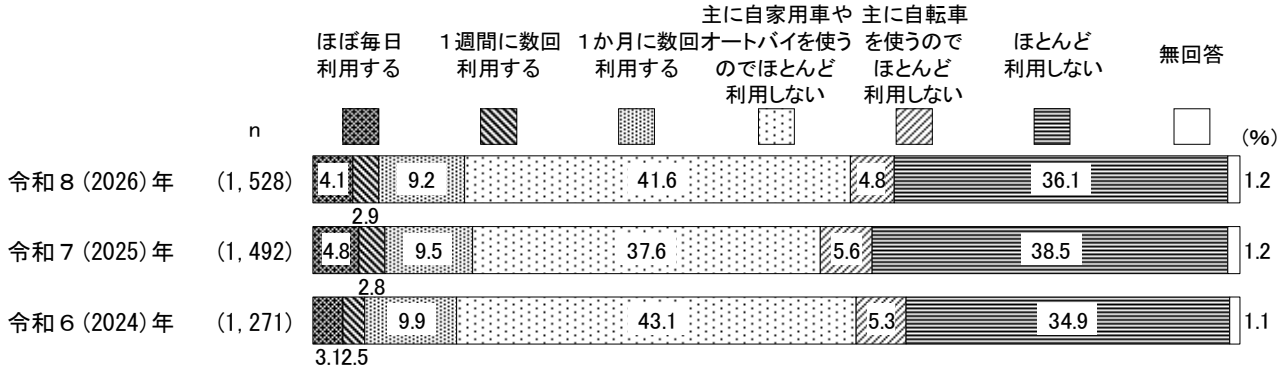
※　公共交通機関とは、民間の交通事業者が運行するものだけではなく、市町が運行するコミュニティバスやデマンド交通なども含みます。

１	ほぼ毎日利用する	4.1%	
２	１週間に数回利用する	2.9	
３	１か月に数回利用する	9.2	
４	主に自家用車やオートバイを使うのでほとんど利用しない	41.6	
５	主に自転車を使うのでほとんど利用しない	4.8%	
６	ほとんど利用しない	36.1	
	（無回答）	1.2	



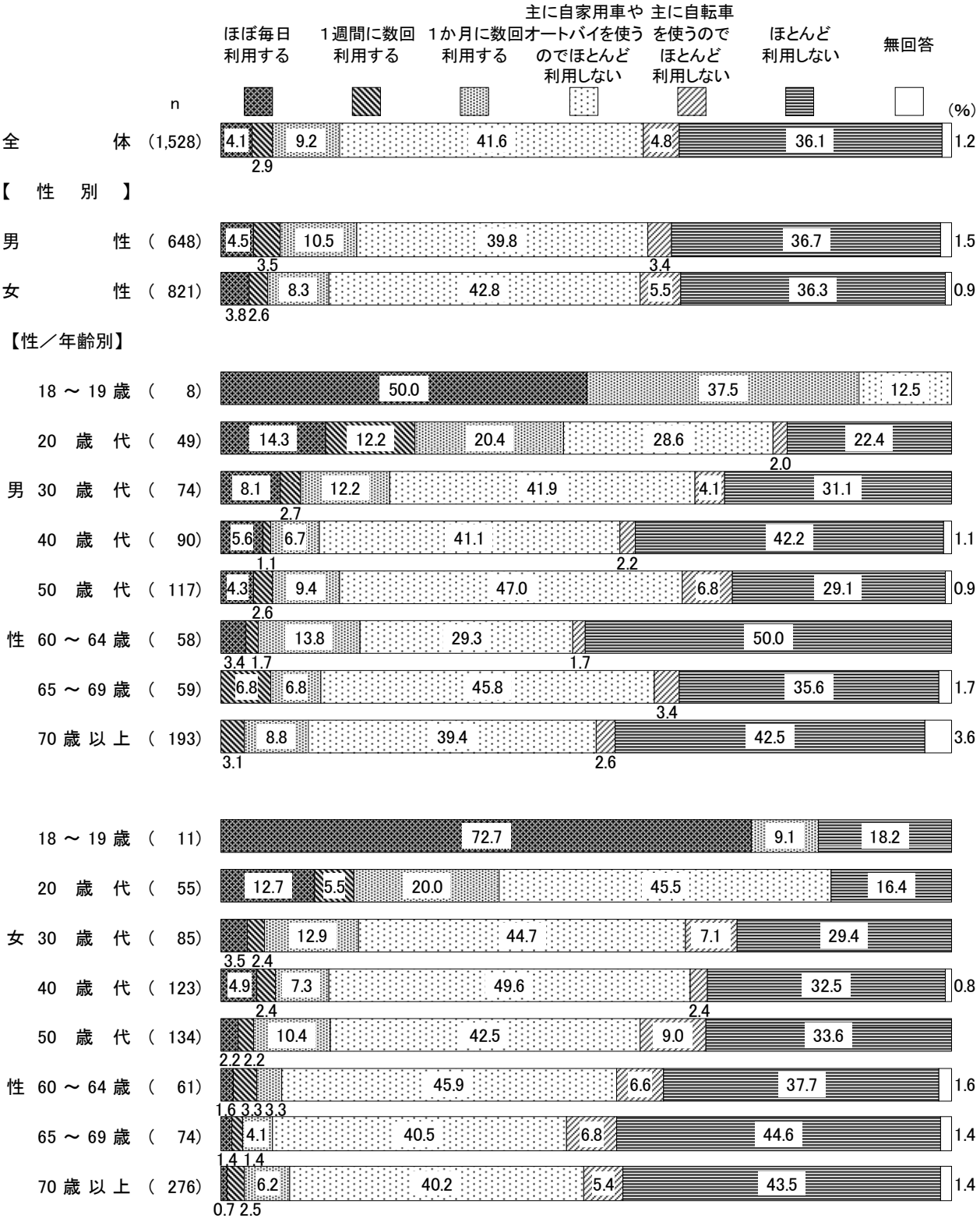
全体でみると、「主に自家用車やオートバイを使うのでほとんど利用しない」（41.6%）が４割強で最も高く、次いで「ほとんど利用しない」（36.1%）となっている。一方、「１か月に数回利用する」（9.2%）が１割弱となっている。

［過去の調査結果］



前回（令和７(2025)年）の調査結果と比較すると、「主に自家用車やオートバイを使うのでほとんど利用しない」が4.0ポイント増加している。

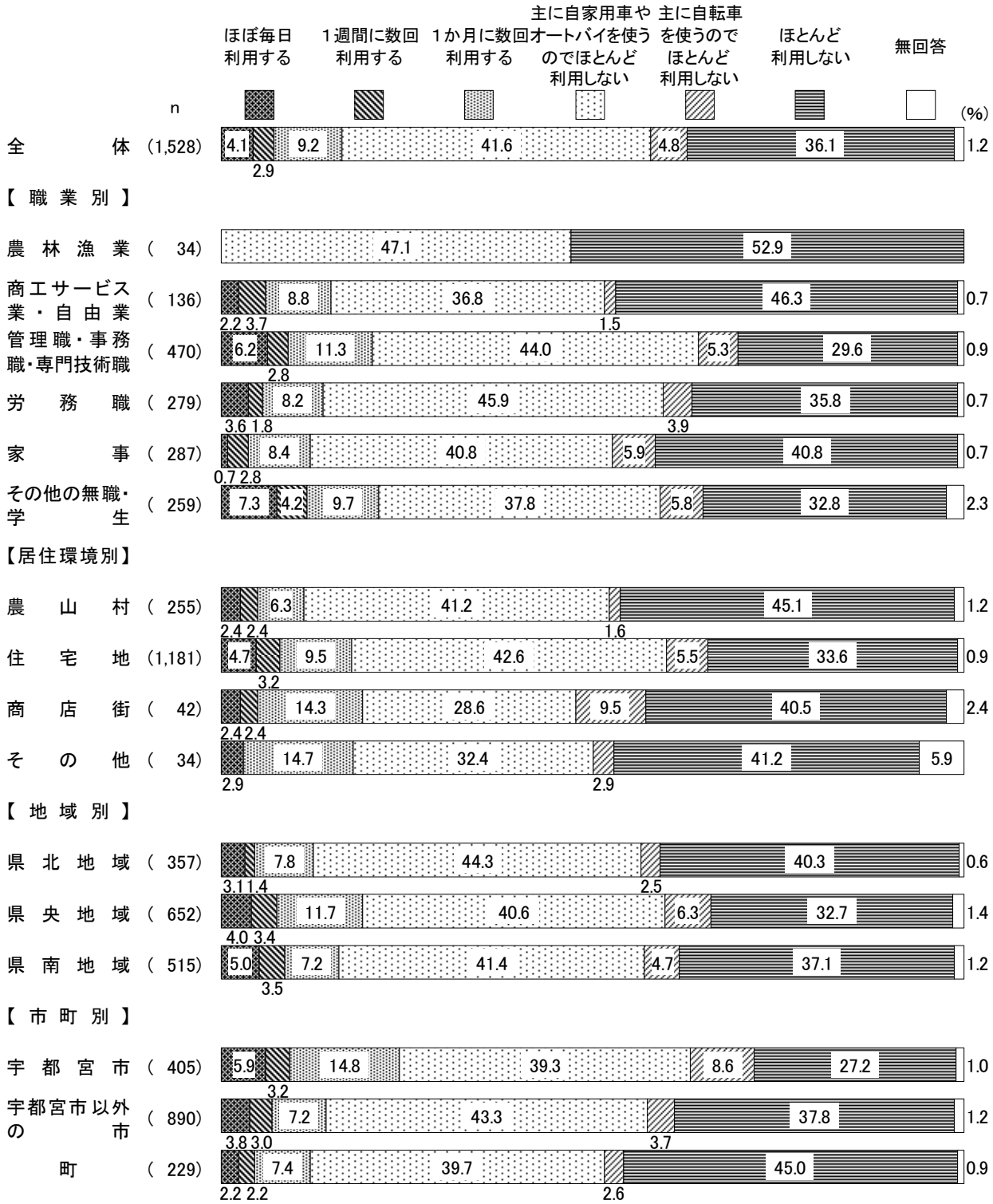
［性別・性／年齢別］



性別でみると、大きな傾向の違いはみられない。

性／年齢別でみると、「ほぼ毎日利用する」では〈男性20歳代〉が14.3％と高くなっている。「１か月に数回利用する」では〈男性20歳代〉が20.4％、〈女性20歳代〉が20.0％と高くなっている。「ほとんど利用しない」では〈男性60～64歳〉が50.0％と高くなっている。

［職業別・居住環境別・地域別・市町別］



職業別でみると、「ほとんど利用しない」では〈農林漁業〉が52.9%、〈商工サービス業・自由業〉が46.3%と高くなっている。

居住環境別でみると、大きな傾向の違いはみられない。

地域別でみると、大きな傾向の違いはみられない。

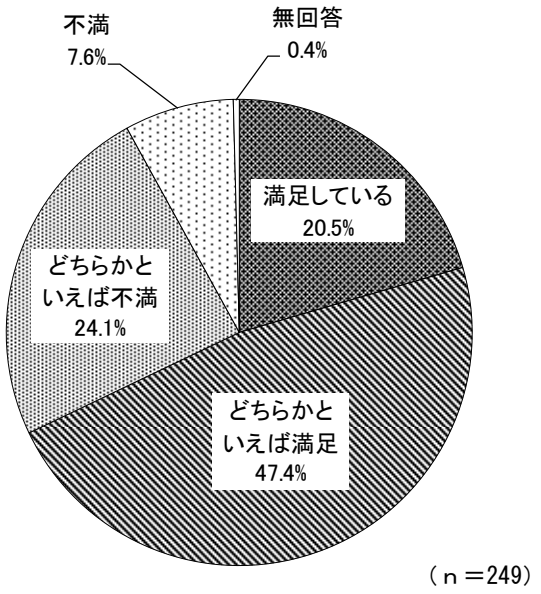
市町別でみると、大きな傾向の違いはみられない。

（２）公共交通に関する満足度

（問38で選択肢「１　ほぼ毎日利用する」、「２　１週間に数回利用する」、「３　１か月に数回利用する」を選んだ方のみお答えください）

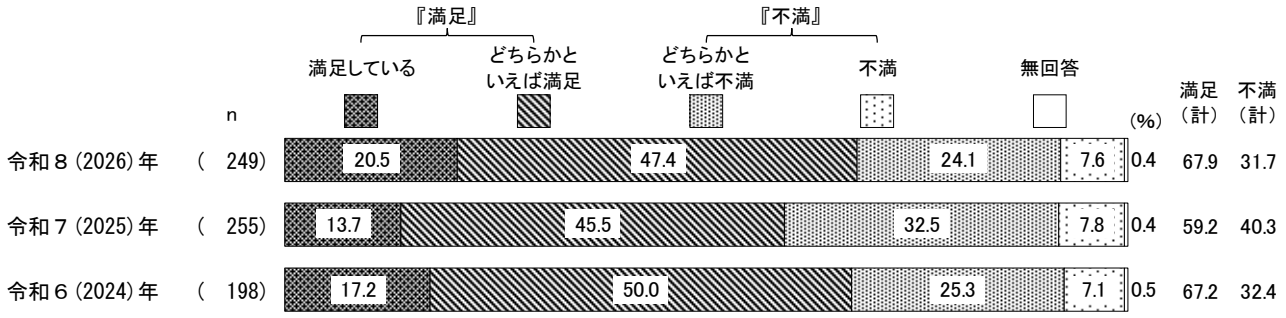
問39　あなたは、公共交通機関のサービスや運行状況について、満足していますか。次の中から１つ選んでください。　［ｎ＝249］

１　満足している	20.5%	３　どちらかといえば不満	24.1%
２　どちらかといえば満足	47.4	４　不満	7.6
		（無回答）	0.4



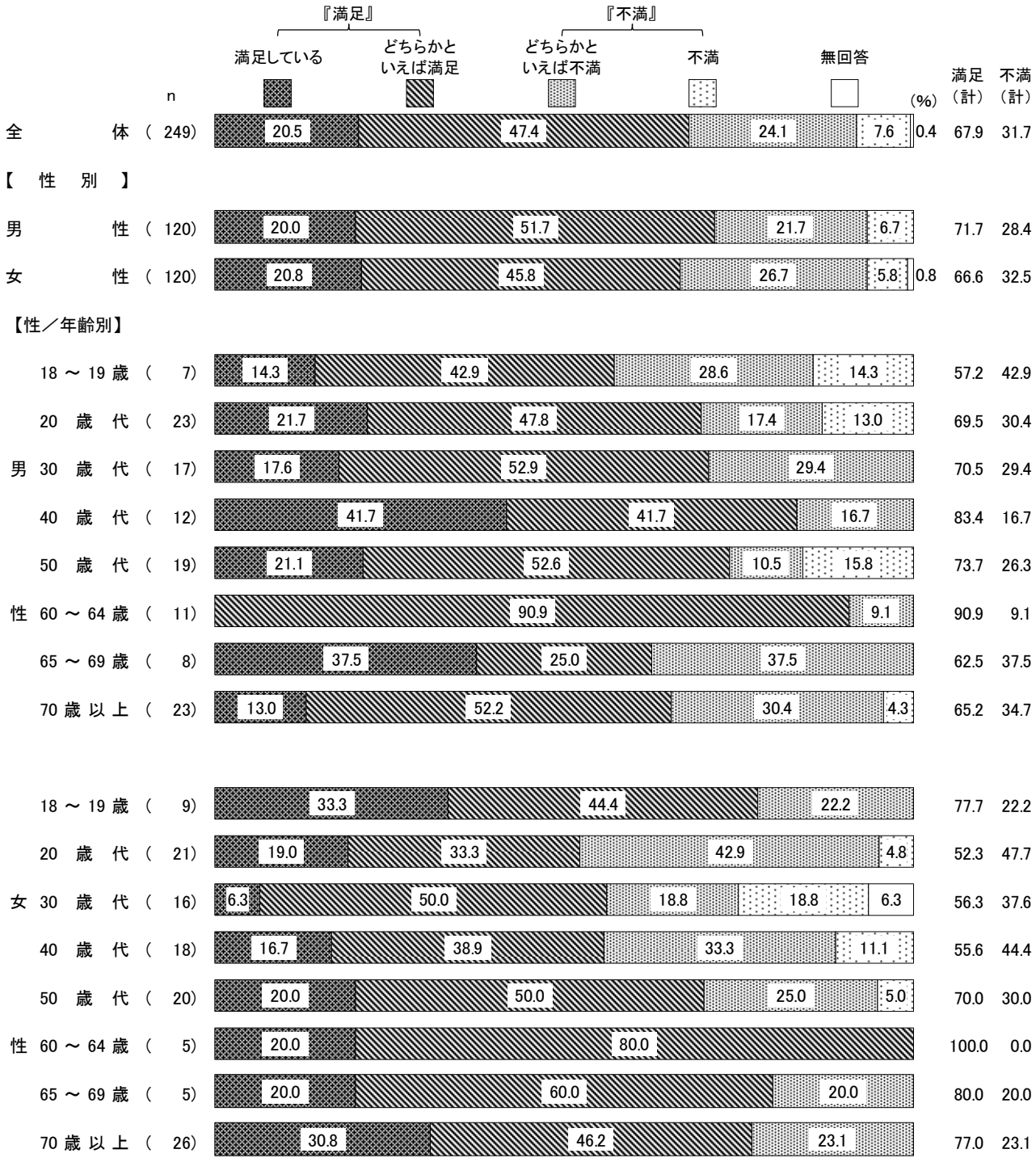
全体でみると、「満足している」（20.5%）と「どちらかといえば満足」（47.4%）の２つを合わせた『満足』(67.9%)が６割台半ばを超えている。一方、「どちらかといえば不満」(24.1%)と「不満」(7.6%)の２つを合わせた『不満』（31.7%）が３割強となっている。

［過去の調査結果］



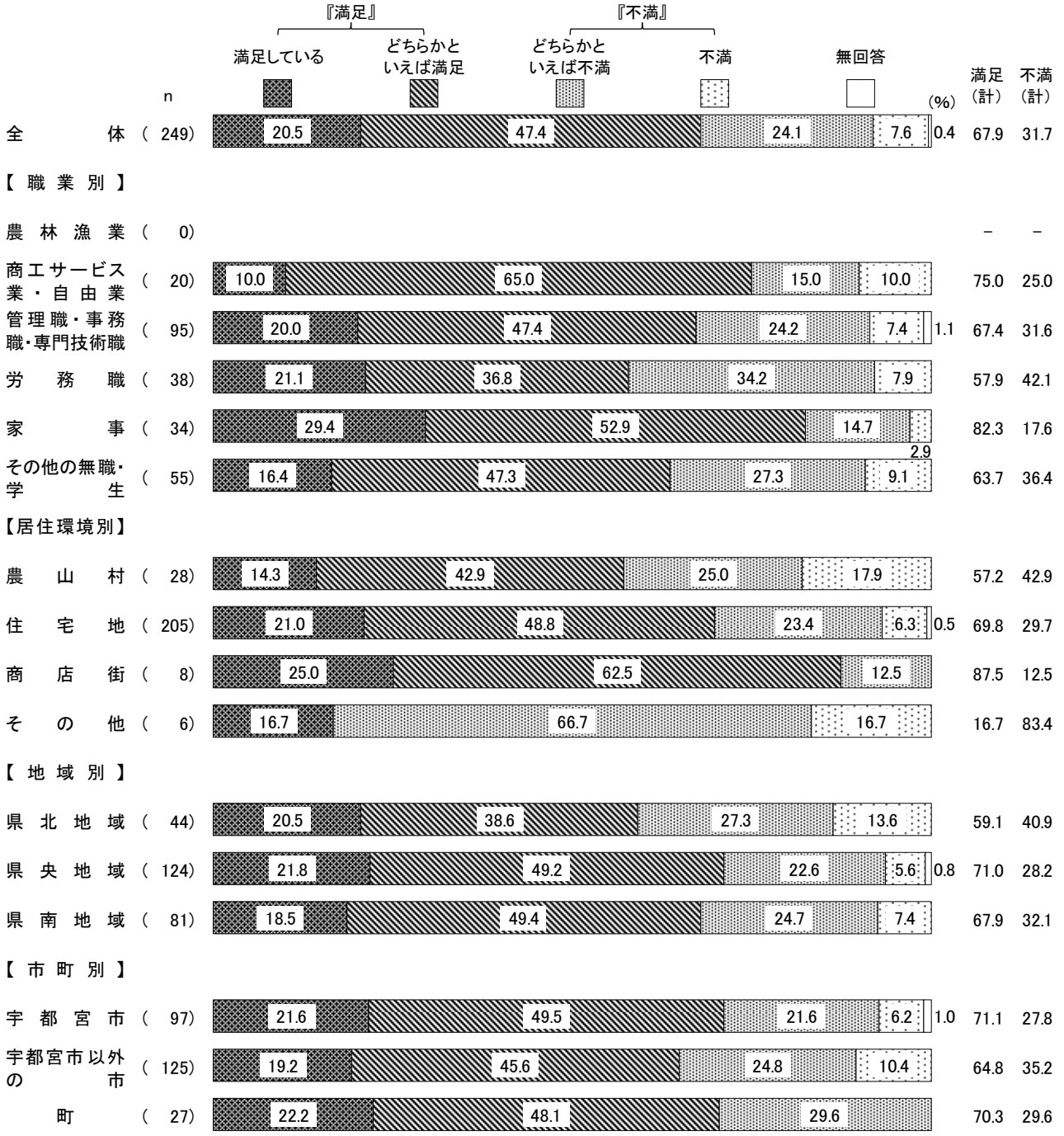
前回（令和７(2025)年）の調査結果と比較すると、『満足』が8.7ポイント増加している。

［性別・性／年齢別］



性別でみると、『満足』では〈男性〉（71.7％）が〈女性〉（66.6％）より5.1ポイント高くなっている。
性／年齢別でみると、『不満』では〈女性20歳代〉が47.7％と高くなっている。

［職業別・居住環境別・地域別・市町別］



職業別でみると、『満足』では〈家事〉が82.3%と高くなっている。『不満』では〈労務職〉が42.1%と高くなっている。

居住環境別でみると、『不満』では〈農山村〉が42.9%と高くなっている。

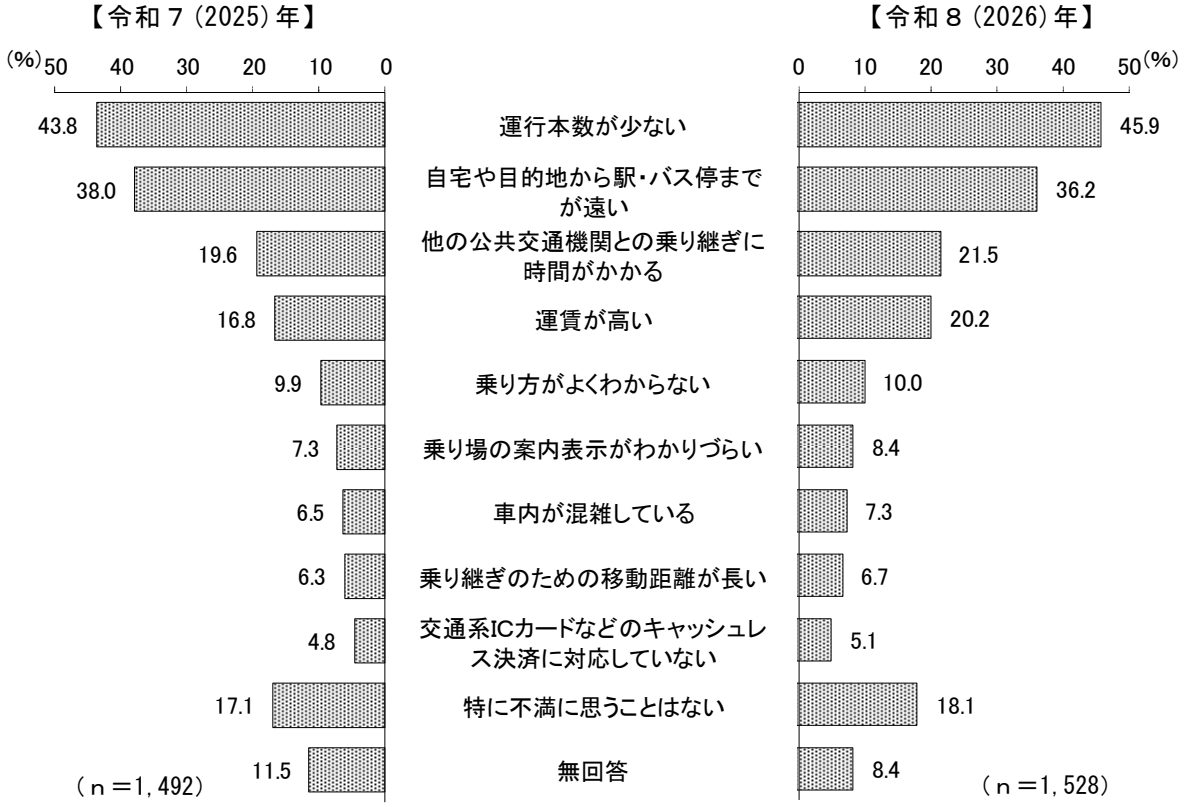
地域別でみると、大きな傾向の違いはみられない。

市町別でみると、大きな傾向の違いはみられない。

（３）公共交通に不満を感じること

問40　あなたが公共交通機関に不満を感じることは何ですか。次の中から３つまで選んでください。　［ｎ＝1,528］

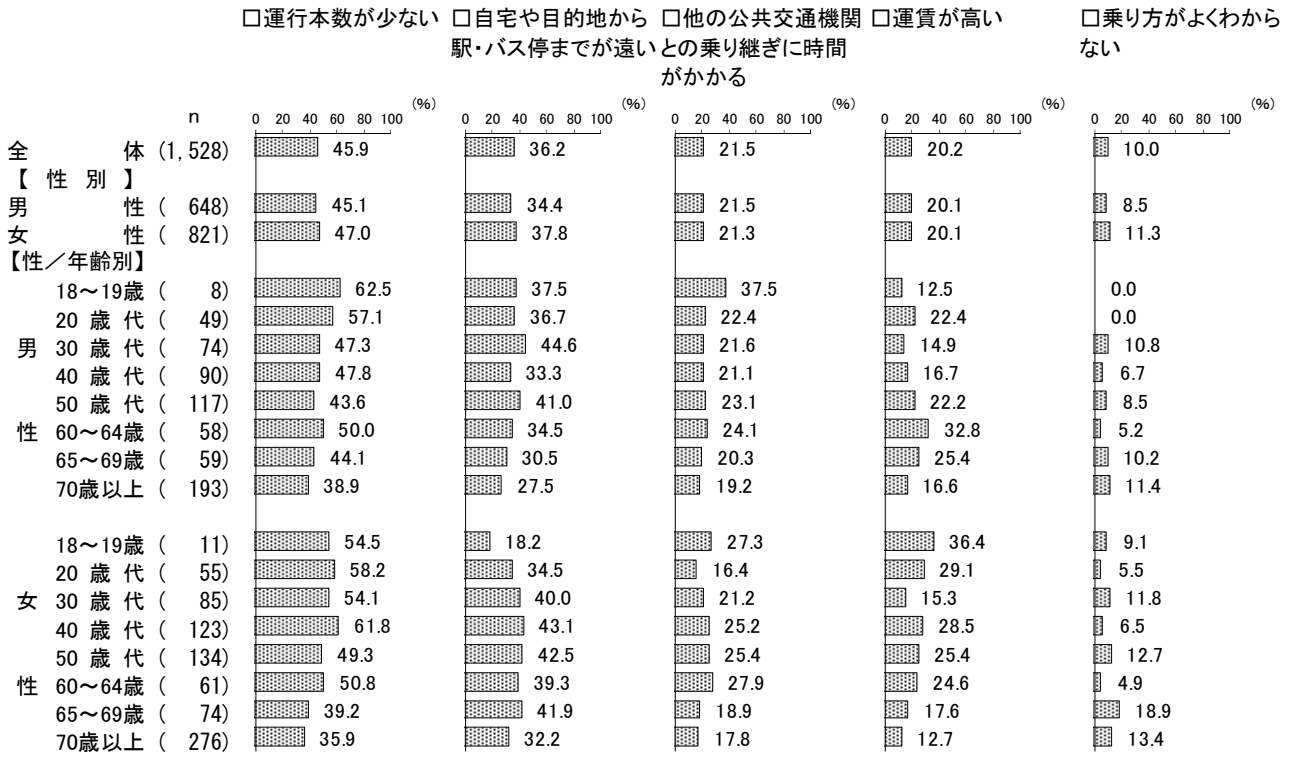
1	運行本数が少ない	45.9%
2	自宅や目的地から駅・バス停までが遠い	36.2
3	他の公共交通機関との乗り継ぎに時間がかかる	21.5
4	運賃が高い	20.2
5	車内が混雑している	7.3
6	交通系ＩＣカードなどのキャッシュレス決済に対応していない	5.1
7	乗り継ぎのための移動距離が長い	6.7
8	乗り方がよくわからない	10.0
9	乗り場の案内表示がわかりづらい	8.4
10	特に不満に思うことはない	18.1
	(無回答)	8.4

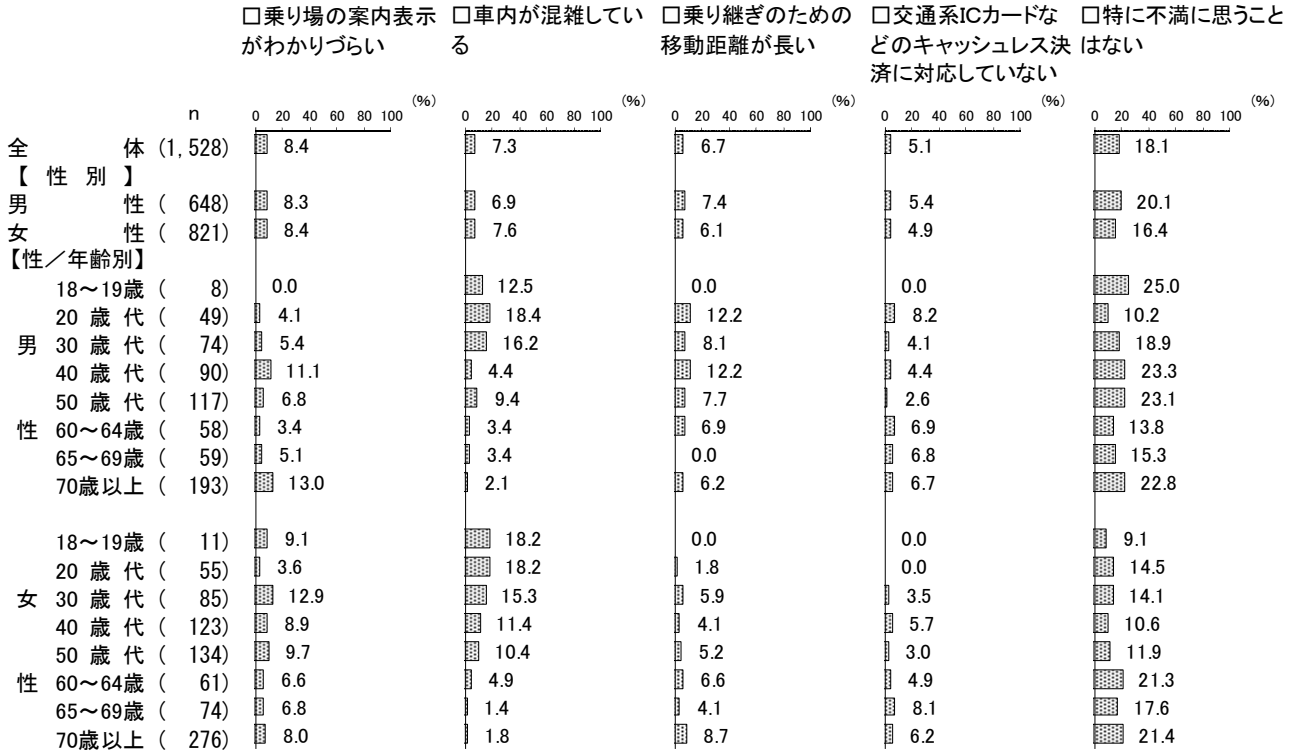


全体でみると、「運行本数が少ない」（45.9%）が４割台半ばで最も高く、次いで「自宅や目的地から駅・バス停までが遠い」（36.2%）、「他の公共交通機関との乗り継ぎに時間がかかる」（21.5%）、「運賃が高い」（20.2%）となっている。

前回（令和７(2025)年）の調査結果と比較すると、「運賃が高い」が3.4ポイント増加している。

［性別・性／年齢別］

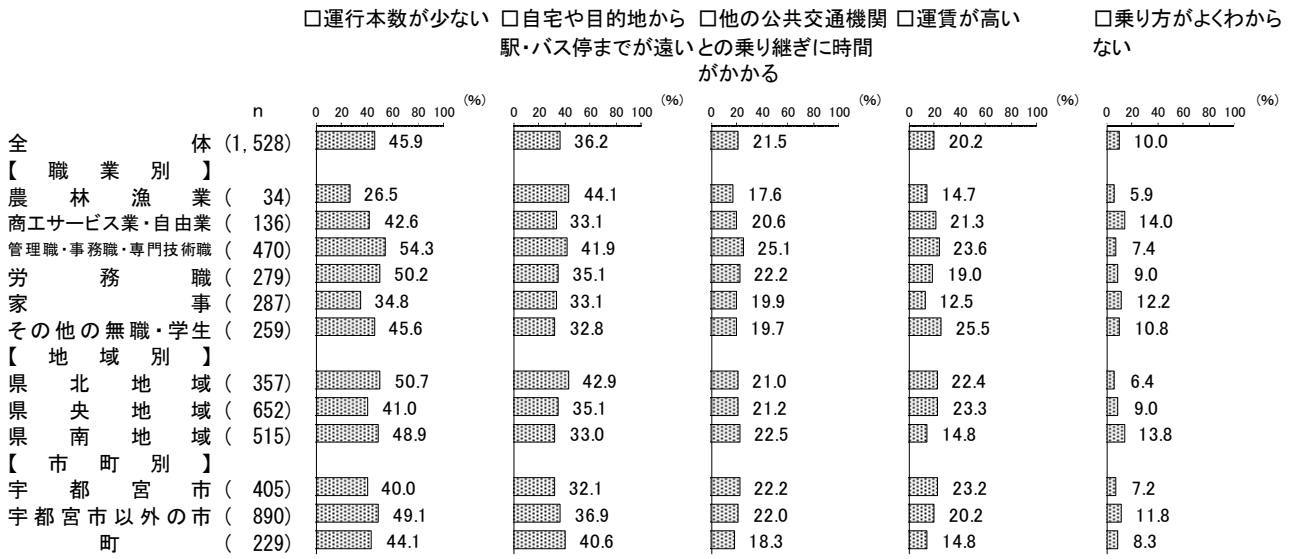


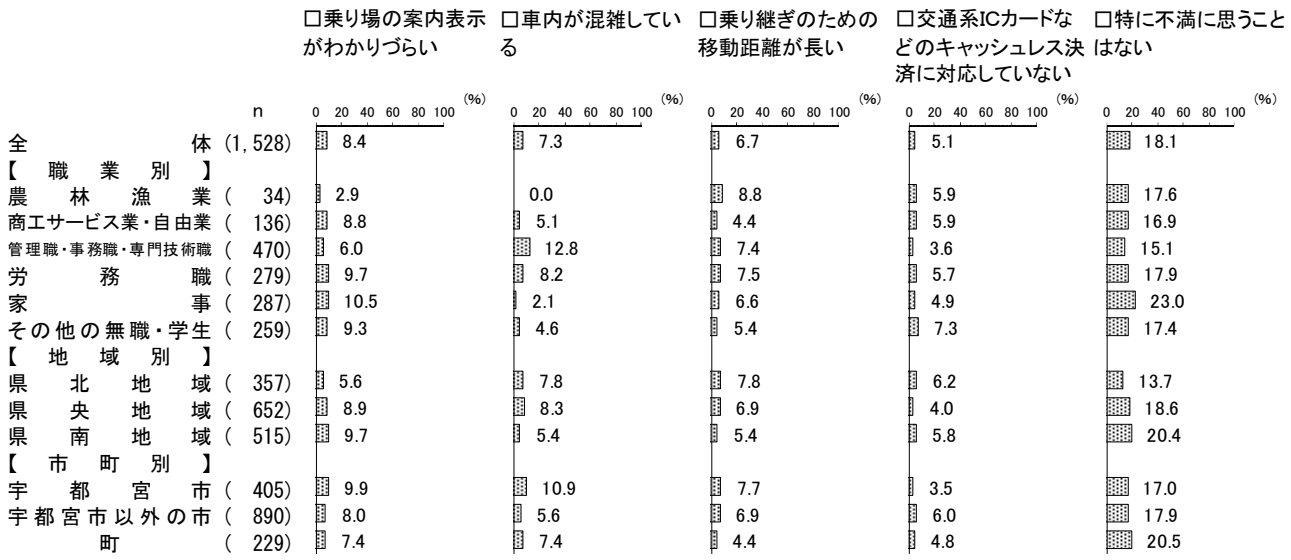


性別でみると、大きな傾向の違いはみられない。

性／年齢別でみると、「運行本数が少ない」では〈女性40歳代〉が61.8％、〈女性20歳代〉が58.2％、〈男性20歳代〉が57.1％と高くなっている。「運賃が高い」では〈男性60～64歳〉が32.8％と高くなっている。「乗り方がよくわからない」では〈男性20歳代〉が0.0％となっている。「車内が混雑している」では〈男性20歳代〉が18.4％、〈女性20歳代〉が18.2％と高くなっている。

［職業別・地域別・市町別］





職業別でみると、「運行本数が少ない」では〈農林漁業〉が26.5%、〈家事〉が34.8%と低くなっている。

地域別でみると、大きな傾向の違いはみられない。

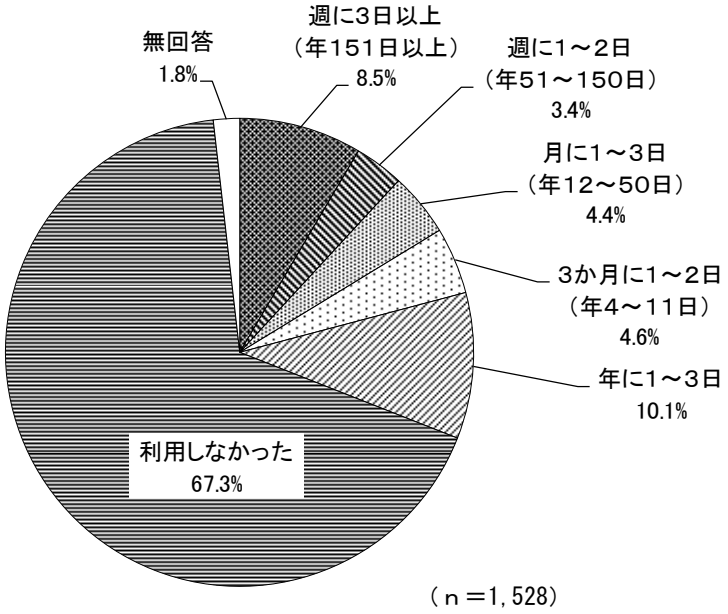
市町別でみると、大きな傾向の違いはみられない。

19　自転車利用率と目的について

（１）自転車の利用状況

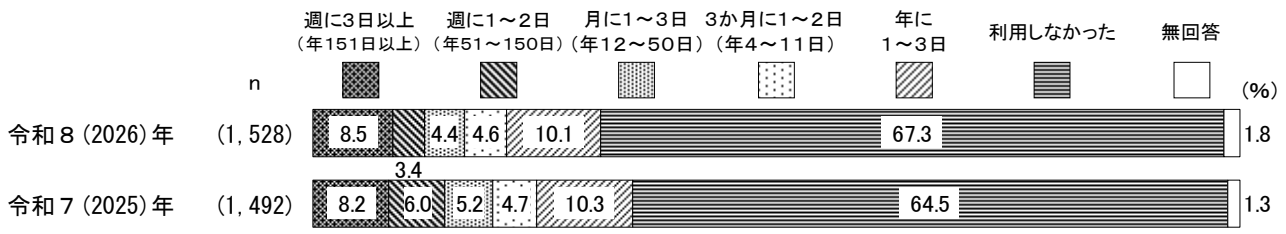
問41　あなたは、この１年間にどの程度自転車を利用しましたか。次の中から１つ選んでください。　［ｎ＝1,528］

1	週に３日以上（年１５１日以上）	8.5%	4	３か月に１～２日（年４～１１日）	4.6%
2	週に１～２日（年５１日～１５０日）	3.4	5	年に１～３日	10.1
3	月に１～３日（年１２～５０日）	4.4	6	利用しなかった	67.3
				（無回答）	1.8



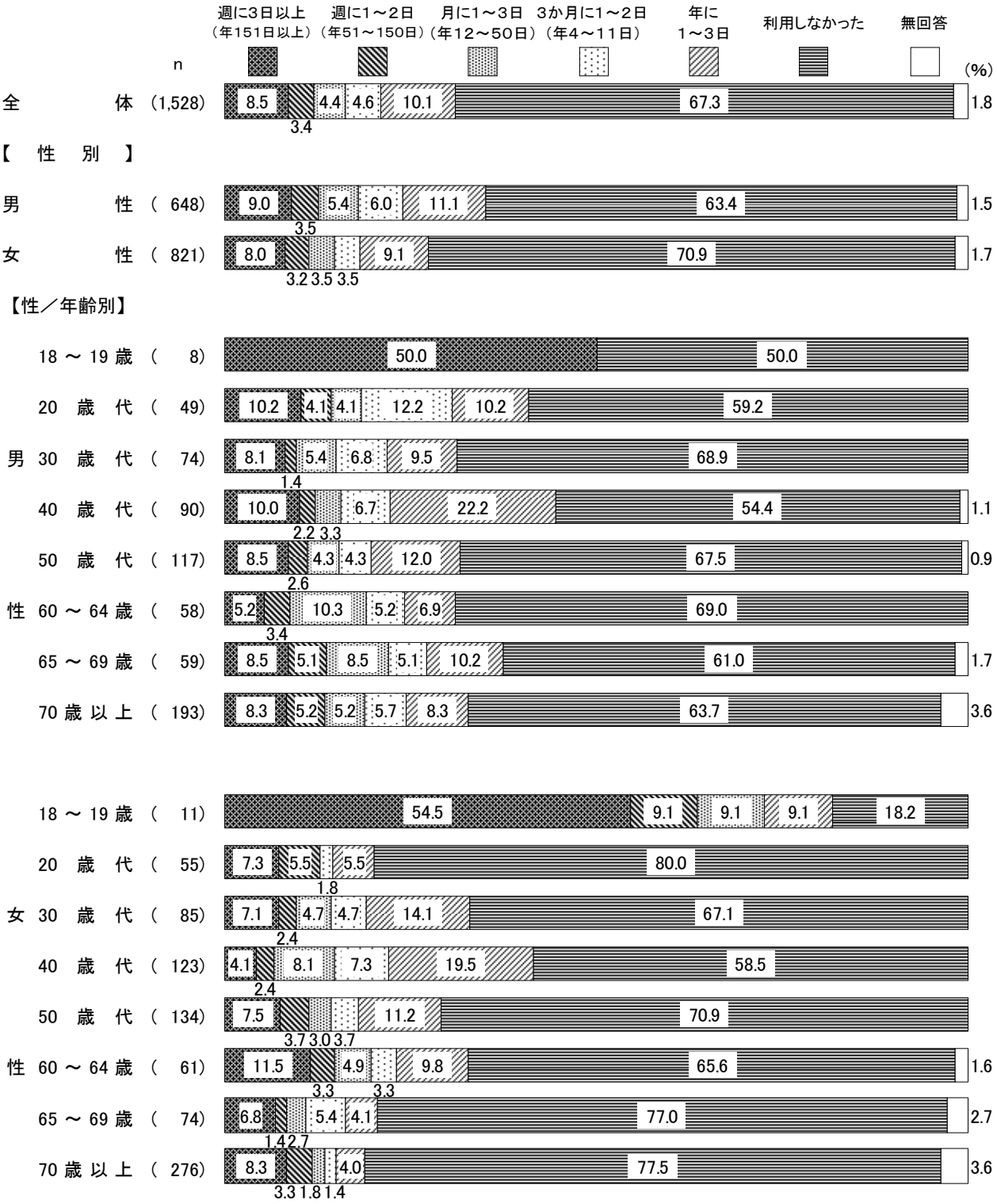
全体でみると、「利用しなかった」（67.3%）が６割台半ばを超えて最も高くなっている。一方、「年に１～３日」（10.1%）が約１割、「週に３日以上（年１５１日以上)」（8.5%）が１割近くとなっている。

［過去の調査結果］



過去の調査結果と比較すると、大きな傾向の違いはみられない。

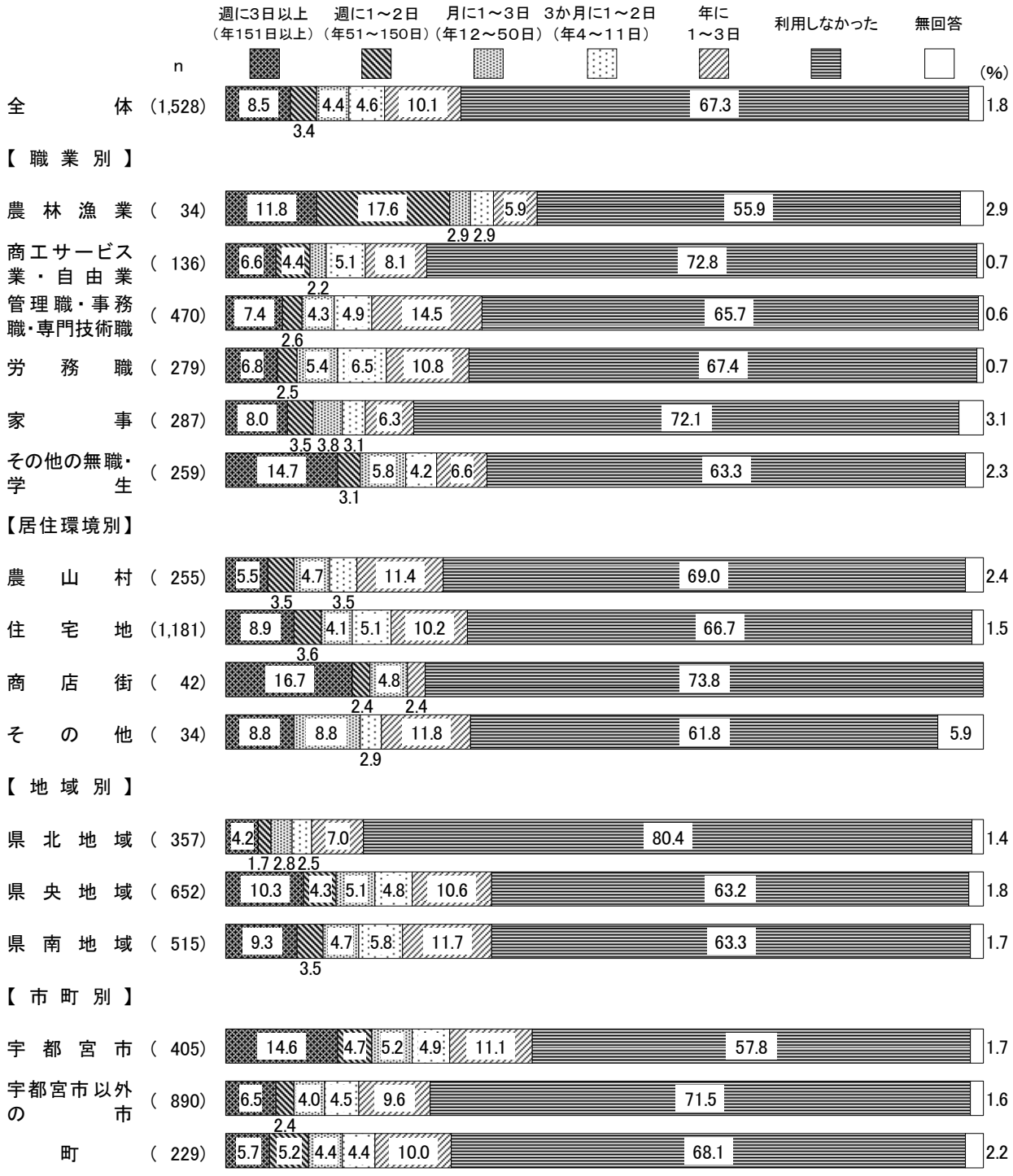
［性別・性／年齢別］



性別でみると、「利用しなかった」では〈女性〉（70.9％）が〈男性〉（63.4％）より7.5ポイント高くなっている。

性／年齢別でみると、「年に１～３日」では〈男性40歳代〉が22.2％と高くなっている。一方、「利用しなかった」では〈女性20歳代〉が80.0％、〈女性70歳以上〉が77.5％と高くなっている。

［職業別・居住環境別・地域別・市町別］



職業別でみると、「利用しなかった」では〈農林漁業〉が55.9％と低くなっている。

居住環境別でみると、大きな傾向の違いはみられない。

地域別でみると、「利用しなかった」では〈県北地域〉が80.4％と高くなっている。

市町別でみると、「利用しなかった」では〈宇都宮市〉が57.8％と低くなっている。

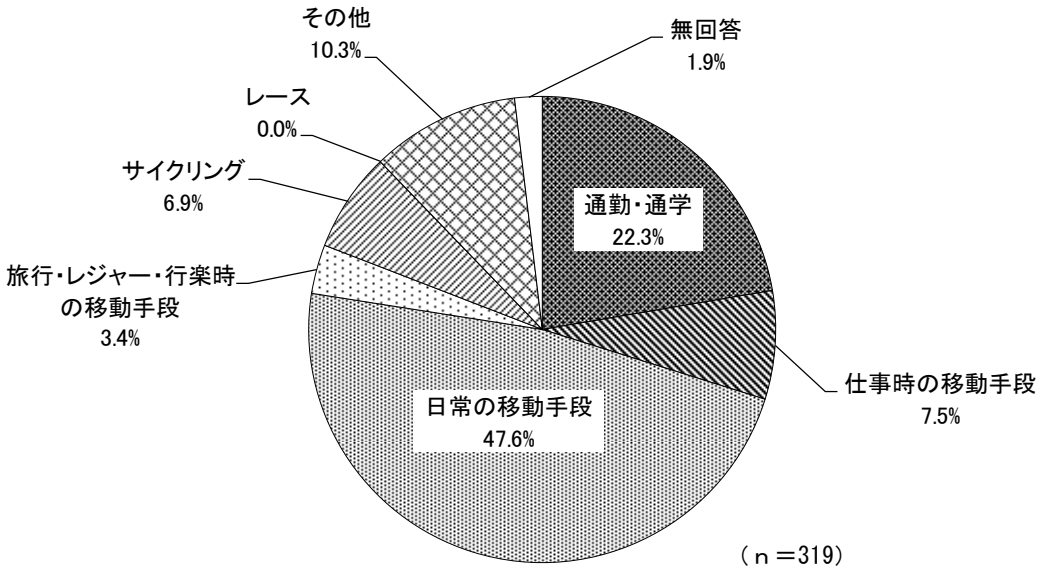
（２）自転車利用の目的

（問41で選択肢「１　週に３日以上」～「４　３か月に１～２日」を選んだ方のみお答えください）

問42　あなたが自転車を利用した主な目的は何ですか。次の中から１つ選んでください。

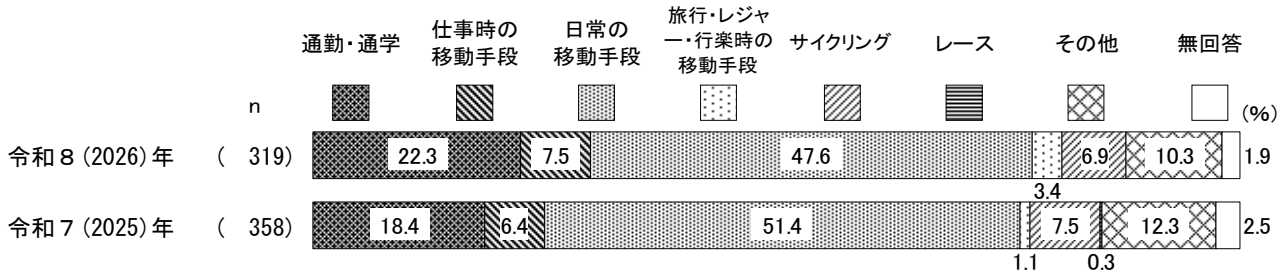
［ｎ＝319］

１	通勤・通学	22.3%	５	サイクリング	6.9%
２	仕事時の移動手段	7.5	６	レース	0.0
３	日常の移動手段	47.6	７	その他	10.3
４	旅行・レジャー・行楽時の移動手段	3.4		（無回答）	1.9



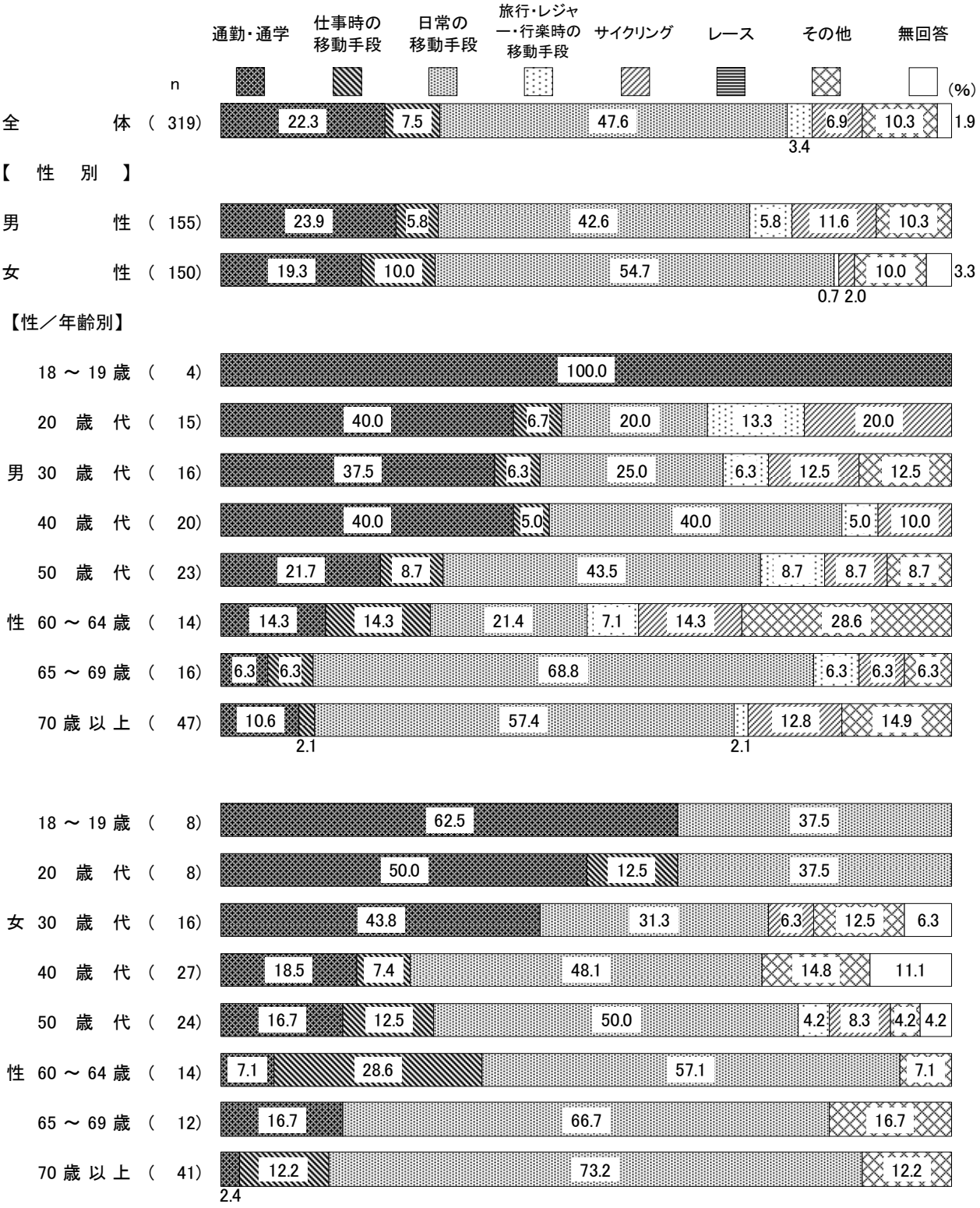
全体でみると、「日常の移動手段」（47.6%）が４割台半ばを超えて最も高くなっている。次いで「通勤・通学」（22.3%）となっている。

［過去の調査結果］



前回（令和７(2025)年）の調査結果と比較すると、「通勤・通学」が3.9ポイント増加している。一方、「日常の移動手段」が3.8ポイント減少している。

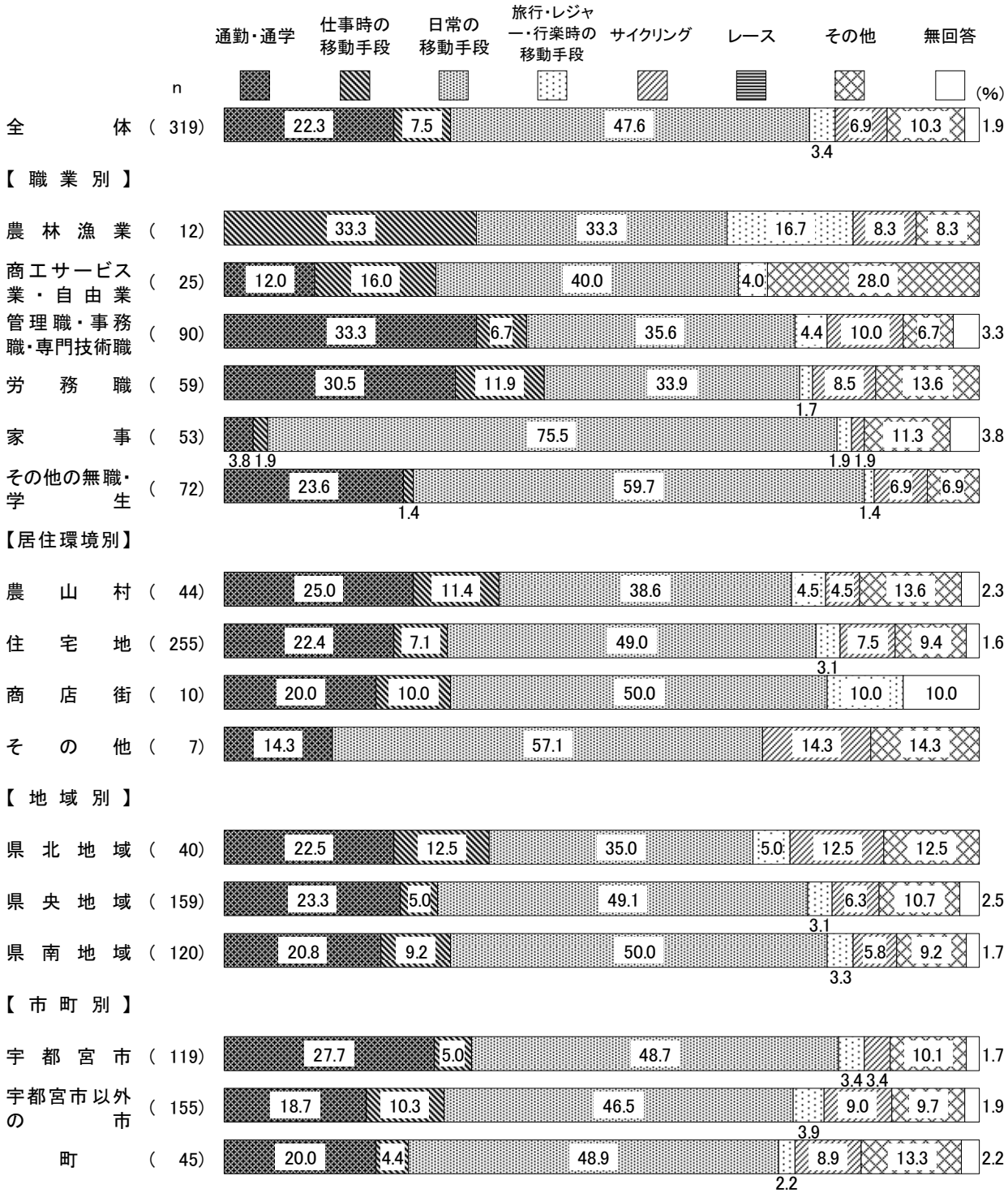
［性別・性／年齢別］


通勤・通学
仕事時の移動手段
日常の移動手段
旅行・レジャー・行楽時の移動手段
サイクリング
レース
その他
無回答
n
(%)
全体 (319) 22.3 7.5 47.6 3.4 6.9 10.3 1.9
【 性 別 】
男性 (155) 23.9 5.8 42.6 5.8 11.6 10.3
女性 (150) 19.3 10.0 54.7 0.7 2.0 10.0 3.3
【性／年齢別】
18～19歳 (4) 100.0
20歳代 (15) 40.0 6.7 20.0 13.3 20.0
男 30歳代 (16) 37.5 6.3 25.0 6.3 12.5 12.5
40歳代 (20) 40.0 5.0 40.0 5.0 10.0
50歳代 (23) 21.7 8.7 43.5 8.7 8.7 8.7
性 60～64歳 (14) 14.3 14.3 21.4 7.1 14.3 28.6
65～69歳 (16) 6.3 6.3 68.8 6.3 6.3 6.3
70歳以上 (47) 10.6 2.1 57.4 2.1 12.8 14.9
18～19歳 (8) 62.5 37.5
20歳代 (8) 50.0 12.5 37.5
女 30歳代 (16) 43.8 31.3 6.3 12.5 6.3
40歳代 (27) 18.5 7.4 48.1 14.8 11.1
50歳代 (24) 16.7 12.5 50.0 4.2 8.3 4.2 4.2
性 60～64歳 (14) 7.1 28.6 57.1 7.1
65～69歳 (12) 16.7 66.7 16.7
70歳以上 (41) 2.4 12.2 73.2 12.2

性別でみると、「日常の移動手段」では〈女性〉（54.7%）が〈男性〉（42.6%）より12.1ポイント高くなっている。一方、「サイクリング」では〈男性〉（11.6%）が〈女性〉（2.0%）より9.6ポイント、「旅行・レジャー・行楽時の移動手段」では〈男性〉（5.8%）が〈女性〉（0.7%）より5.1ポイント高くなっている。

性／年齢別でみると、「通勤・通学」では〈女性20歳代〉が50.0%、〈女性30歳代〉が43.8%、〈男性20歳代〉が40.0%、〈男性40歳代〉が40.0%、〈男性30歳代〉が37.5%と高くなっている。「仕事時の移動手段」では〈女性60～64歳〉が28.6%と高くなっている。「日常の移動手段」では〈女性70歳以上〉が73.2%、〈男性65～69歳〉が68.8%、〈女性65～69歳〉が66.7%と高くなっている。「サイクリング」では〈男性20歳代〉が20.0%と高くなっている。

［職業別・居住環境別・地域別・市町別］



職業別でみると、「通勤・通学」では〈管理職・事務職・専門技術職〉が33.3％と高くなっている。「日常の移動手段」では〈家事〉が75.5％、〈その他の無職・学生〉が59.7％と高くなっている。

居住環境別でみると、大きな傾向の違いはみられない。

地域別でみると、「日常の移動手段」では〈県北地域〉が35.0％と低くなっている。

市町別でみると、大きな傾向の違いはみられない。

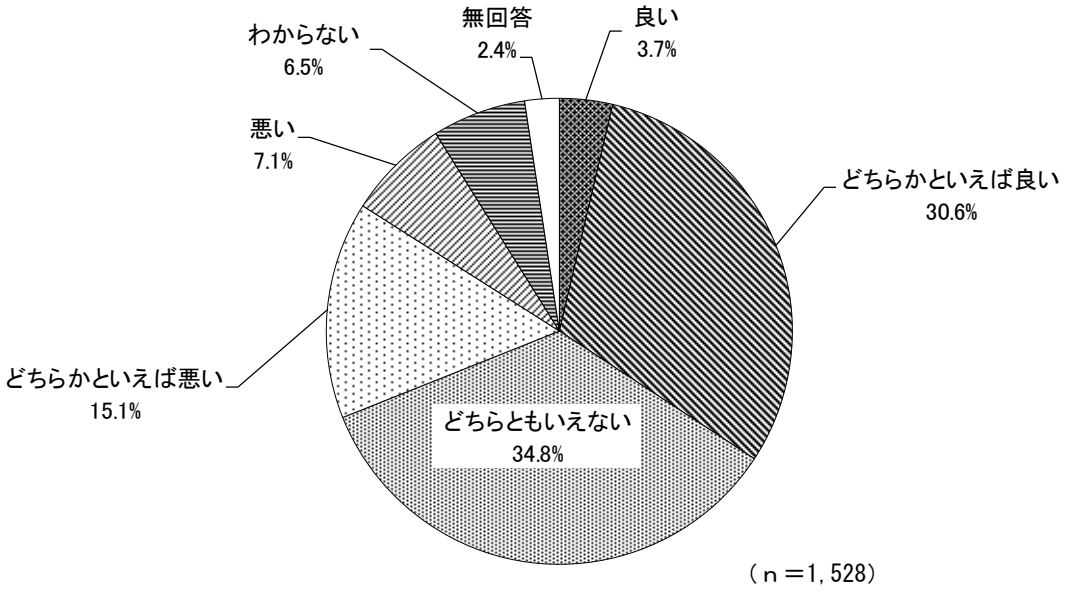
20　犯罪と治安対策について

（１）県内の治安状況の変化

問43　あなたは、県内の治安についてどう感じますか。次の中から１つ選んでください。

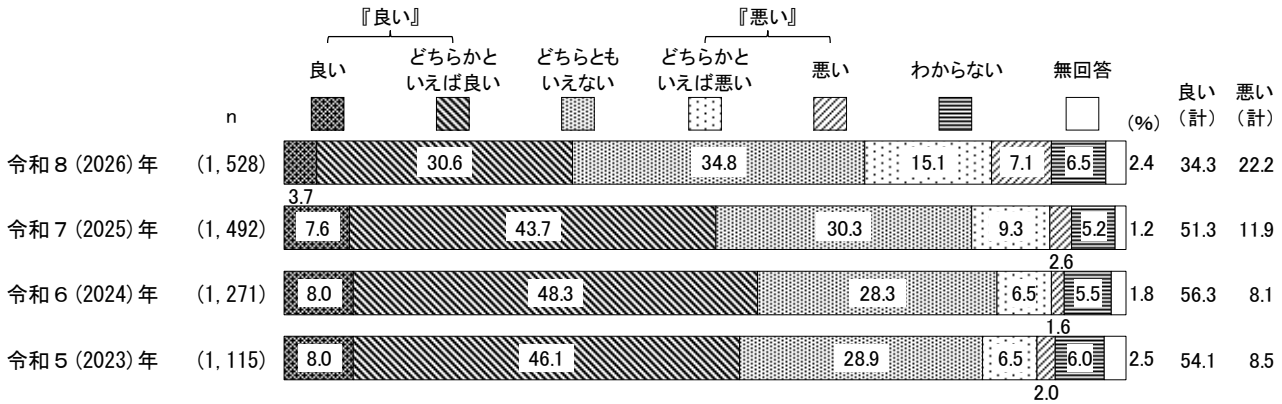
［ｎ＝1,528］

1	良い	3.7%	4	どちらかといえば悪い	15.1%
2	どちらかといえば良い	30.6	5	悪い	7.1
3	どちらともいえない	34.8	6	わからない	6.5
				（無回答）	2.4



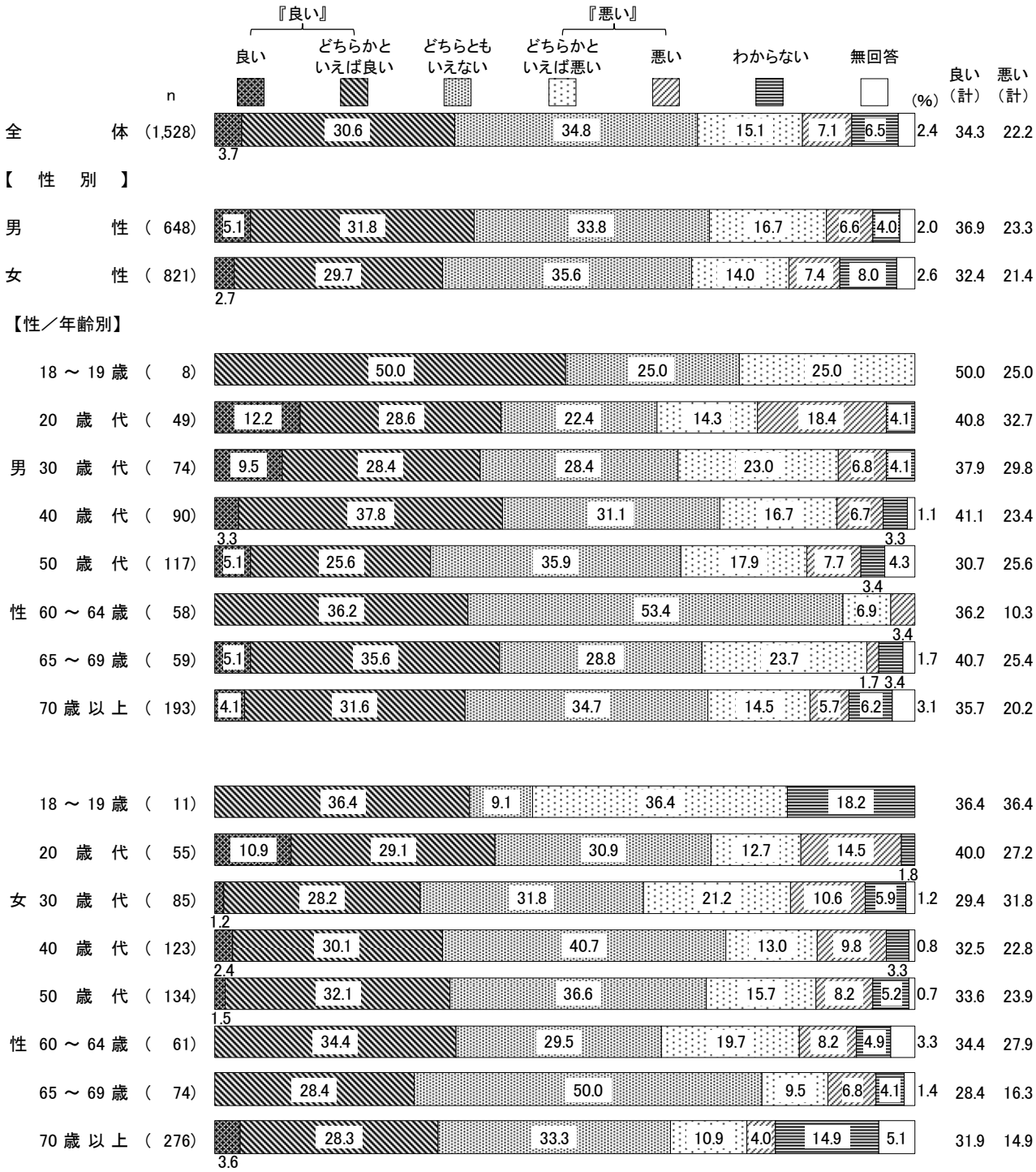
全体でみると、「良い」(3.7%)と「どちらかといえば良い」(30.6%)の２つを合わせた『良い』(34.3%)が３割台半ば近くとなっている。一方、「どちらかといえば悪い」（15.1%）と「悪い」（7.1%）の２つを合わせた『悪い』（22.2%）が２割強となっている。また、「どちらともいえない」（34.8%）が３割台半ば近くとなっている。

［過去の調査結果］



過去の調査結果と比較すると、前回（令和７(2025)年）から『良い』が17.0ポイント減少し、『悪い』が10.3ポイント増加している。

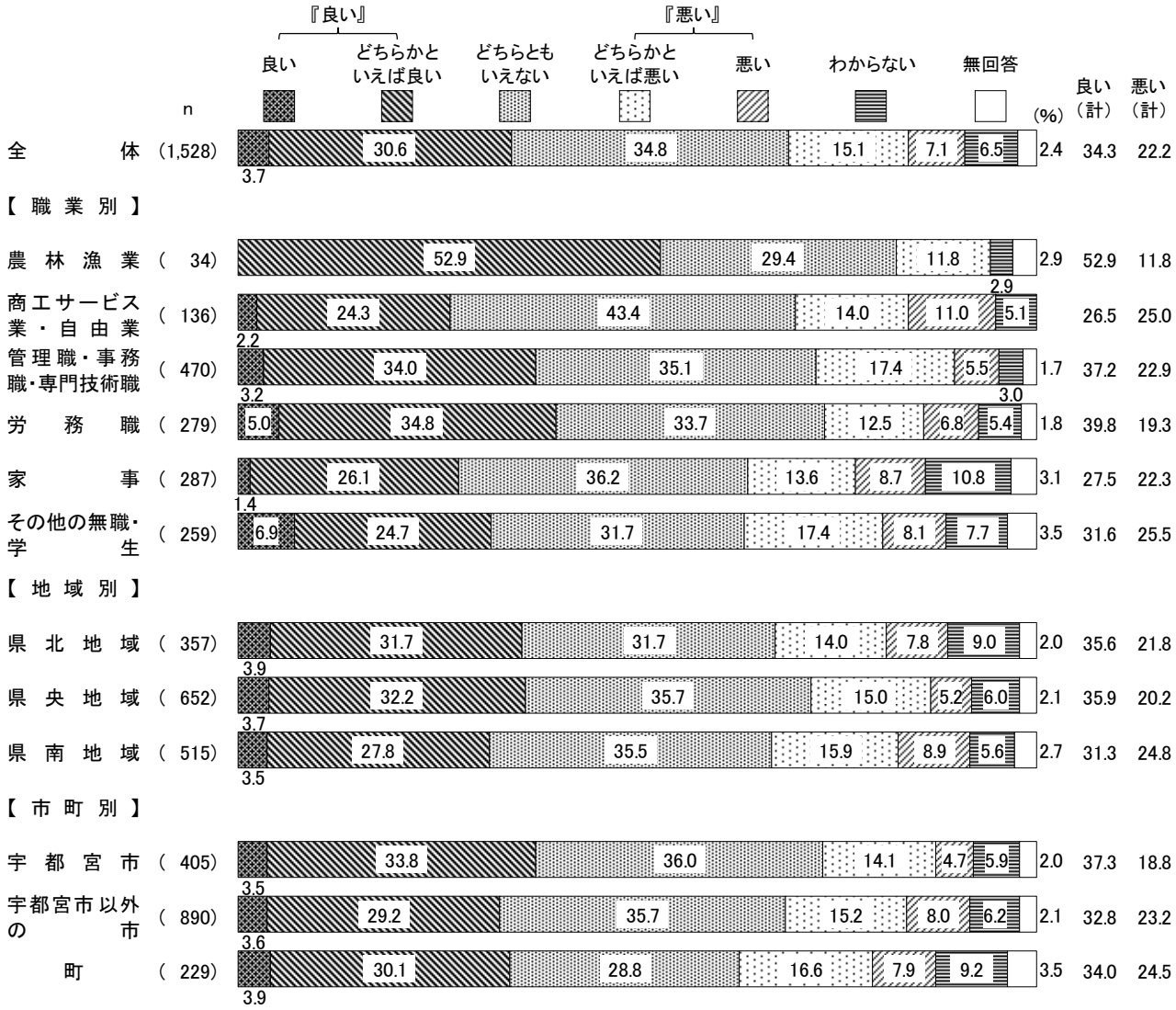
［性別・性／年齢別］



性別でみると、大きな傾向の違いはみられない。

性／年齢別でみると、『悪い』では〈男性20歳代〉が32.7％と高くなっている。

［職業別・地域別・市町別］



職業別でみると、『良い』では〈農林漁業〉が52.9％と高くなっている。

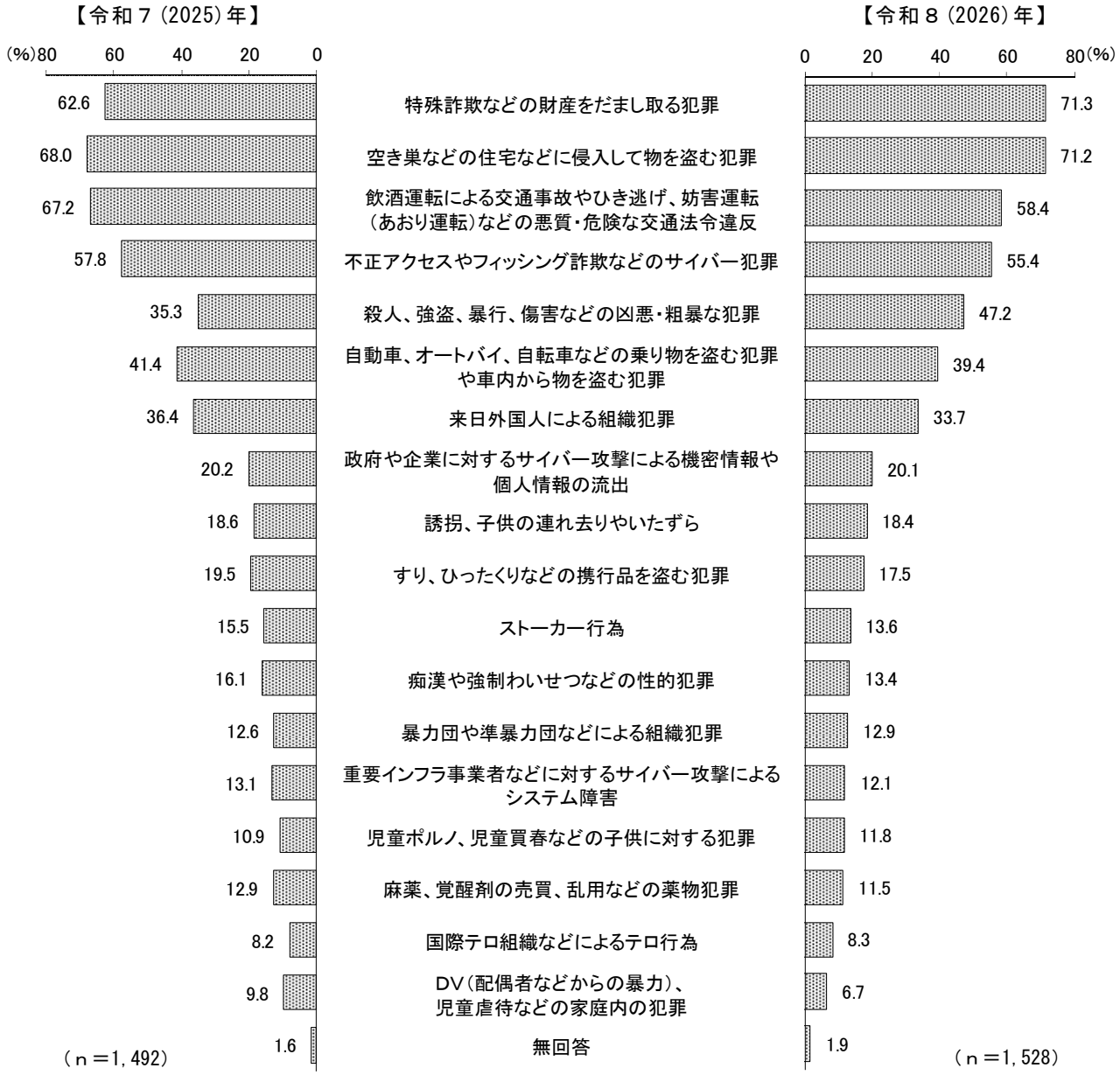
地域別でみると、大きな傾向の違いはみられない。

市町別でみると、大きな傾向の違いはみられない。

（２）不安に感じる犯罪

問44　社会が変化する中、あなたが、自分や身近な人が被害に遭うかもしれないと不安になる犯罪などは何ですか。次の中からいくつでも選んでください。　［ｎ＝1,528］

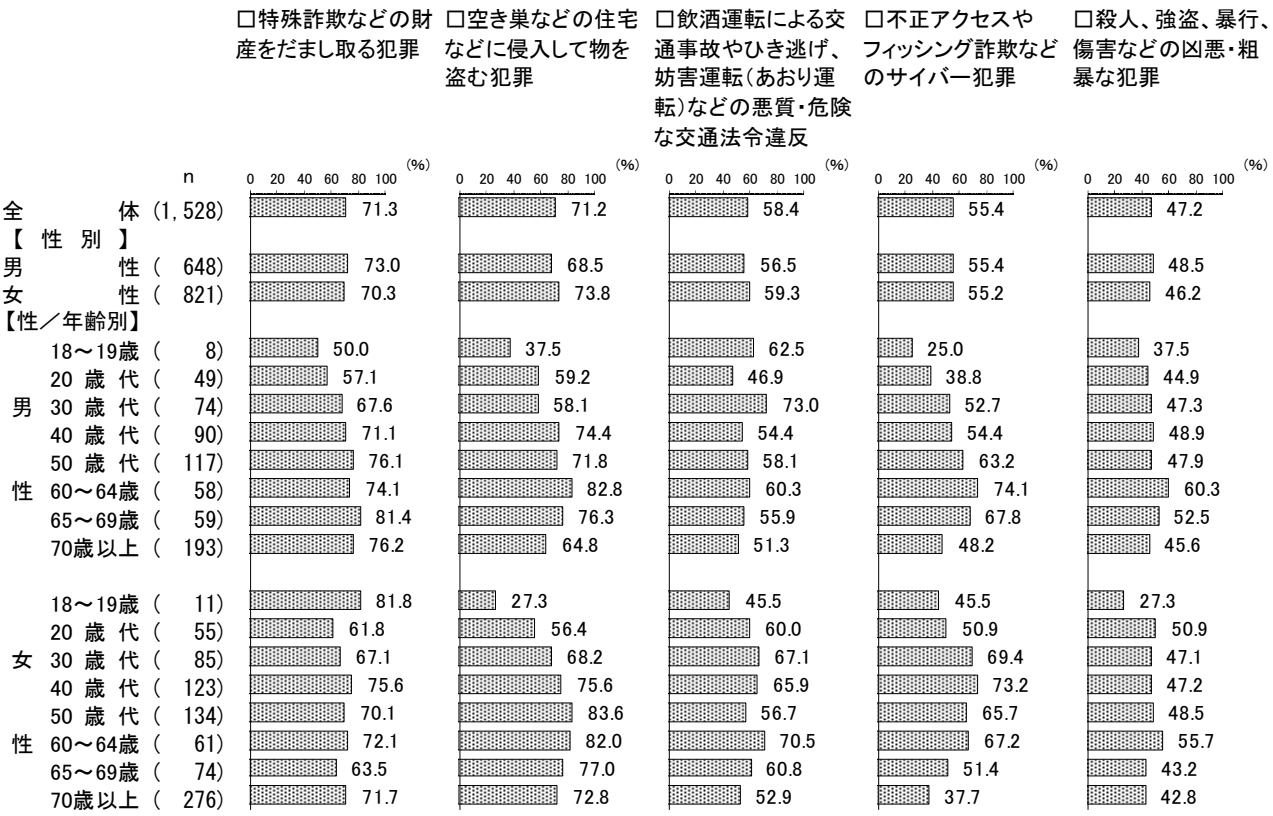
1	特殊詐欺などの財産をだまし取る犯罪	71.3%
2	不正アクセスやフィッシング詐欺などのサイバー犯罪	55.4
3	飲酒運転による交通事故やひき逃げ、妨害運転（あおり運転）などの悪質・危険な交通法令違反	58.4
4	殺人、強盗、暴行、傷害などの凶悪・粗暴な犯罪	47.2
5	空き巣などの住宅などに侵入して物を盗む犯罪	71.2
6	自動車、オートバイ、自転車などの乗り物を盗む犯罪や車内から物を盗む犯罪	39.4
7	政府や企業に対するサイバー攻撃による機密情報や個人情報の流出	20.1
8	ＤＶ（配偶者などからの暴力）、児童虐待などの家庭内の犯罪	6.7
9	誘拐、子供の連れ去りやいたずら	18.4
10	麻薬、覚醒剤の売買、乱用などの薬物犯罪	11.5
11	来日外国人による組織犯罪	33.7
12	すり、ひったくりなどの携行品を盗む犯罪	17.5
13	児童ポルノ、児童買春などの子供に対する犯罪	11.8
14	痴漢や強制わいせつなどの性的犯罪	13.4
15	重要インフラ事業者などに対するサイバー攻撃によるシステム障害	12.1
16	ストーカー行為	13.6
17	国際テロ組織などによるテロ行為	8.3
18	暴力団や準暴力団などによる組織犯罪	12.9
	（無回答）	1.9

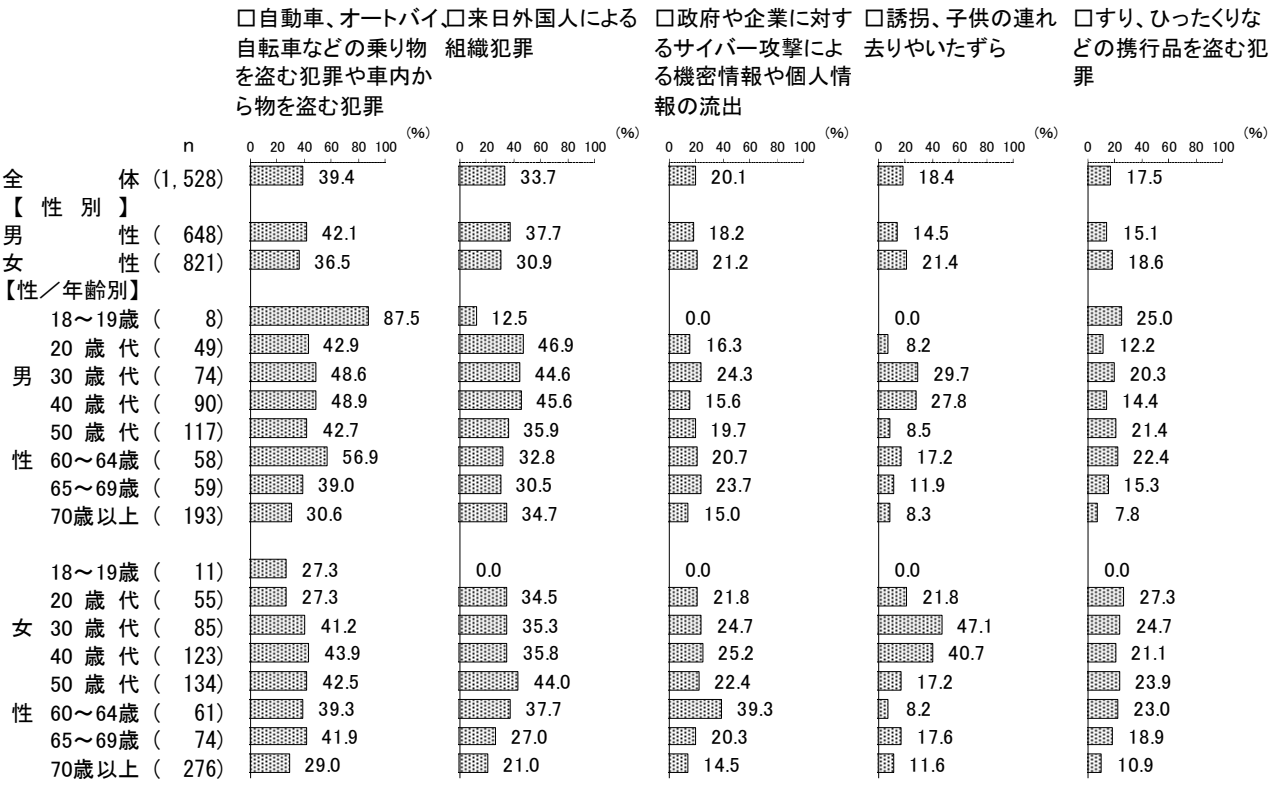


全体でみると、「特殊詐欺などの財産をだまし取る犯罪」（71.3%）が７割強で最も高く、次いで「空き巣などの住宅などに侵入して物を盗む犯罪」（71.2%）、「飲酒運転による交通事故やひき逃げ、妨害運転（あおり運転）などの悪質・危険な交通法令違反」（58.4%）、「不正アクセスやフィッシング詐欺などのサイバー犯罪」（55.4%）、「殺人、強盗、暴行、傷害などの凶悪・粗暴な犯罪」（47.2%）となっている。

前回（令和７(2025)年）の調査結果と比較すると、「殺人、強盗、暴行、傷害などの凶悪・粗暴な犯罪」が11.9ポイント、「特殊詐欺などの財産をだまし取る犯罪」が8.7ポイント、「空き巣などの住宅などに侵入して物を盗む犯罪」が3.2ポイント増加している。一方、「飲酒運転による交通事故やひき逃げ、妨害運転（あおり運転）などの悪質・危険な交通法令違反」が8.8ポイント、「ＤＶ（配偶者などからの暴力）、児童虐待などの家庭内の犯罪」が3.1ポイント減少している。

［性別・性／年齢別］（上位10項目）

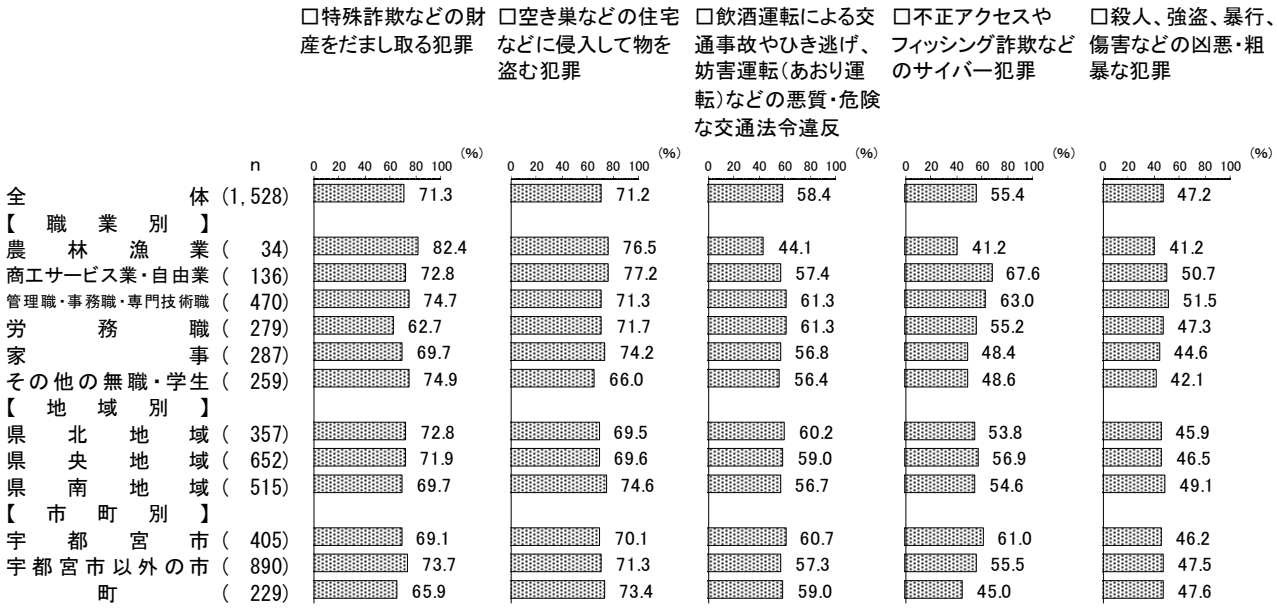


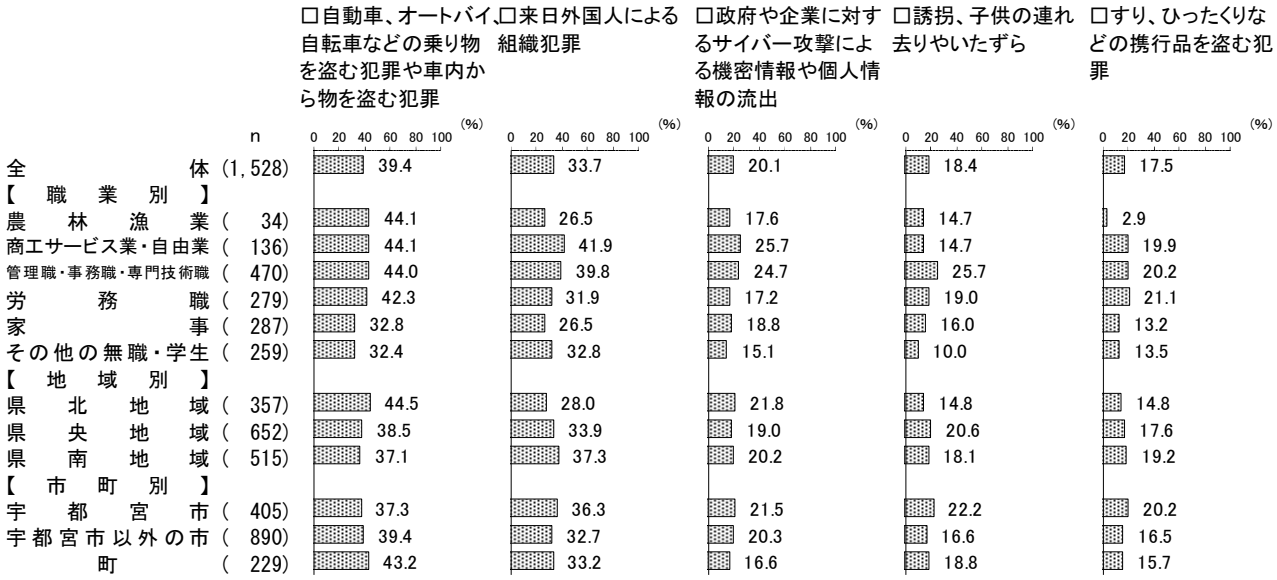


上位10項目について、性別でみると、「誘拐、子供の連れ去りやいたずら」では〈女性〉（21.4％）が〈男性〉（14.5％）より6.9ポイント、「空き巣などの住宅などに侵入して物を盗む犯罪」では〈女性〉（73.8％）が〈男性〉（68.5％）より5.3ポイント高くなっている。一方、「来日外国人による組織犯罪」では〈男性〉（37.7％）が〈女性〉（30.9％）より6.8ポイント、「自動車、オートバイ、自転車などの乗り物を盗む犯罪や車内から物を盗む犯罪」では〈男性〉（42.1％）が〈女性〉（36.5％）より5.6ポイント高くなっている。

性／年齢別でみると、「特殊詐欺などの財産をだまし取る犯罪」では〈男性65～69歳〉が81.4％と高くなっている。「空き巣などの住宅などに侵入して物を盗む犯罪」では〈女性50歳代〉が83.6％、〈男性60～64歳〉が82.8％、〈女性60～64歳〉が82.0％と高くなっている。「飲酒運転による交通事故やひき逃げ、妨害運転（あおり運転）などの悪質・危険な交通法令違反」では〈男性30歳代〉が73.0％、〈女性60～64歳〉が70.5％と高くなっている。「不正アクセスやフィッシング詐欺などのサイバー犯罪」では〈男性60～64歳〉が74.1％、〈女性40歳代〉が73.2％、〈女性30歳代〉が69.4％、〈男性65～69歳〉が67.8％、〈女性60～64歳〉が67.2％、〈女性50歳代〉が65.7％と高くなっている。「殺人、強盗、暴行、傷害などの凶悪・粗暴な犯罪」では〈男性60～64歳〉が60.3％と高くなっている。「自動車、オートバイ、自転車などの乗り物を盗む犯罪や車内から物を盗む犯罪」では〈男性60～64歳〉が56.9％と高くなっている。「来日外国人による組織犯罪」では〈男性20歳代〉が46.9％、〈男性40歳代〉が45.6％、〈男性30歳代〉が44.6％、〈女性50歳代〉が44.0％と高くなっている。「政府や企業に対するサイバー攻撃による機密情報や個人情報の流出」では〈女性60～64歳〉が39.3％と高くなっている。「誘拐、子供の連れ去りやいたずら」では〈女性30歳代〉が47.1％、〈女性40歳代〉が40.7％、〈男性30歳代〉が29.7％と高くなっている。

［職業別・地域別・市町別］（上位10項目）





上位10項目について、職業別でみると、〈農林漁業〉では「特殊詐欺などの財産をだまし取る犯罪」が82.4％と高くなっている一方、「飲酒運転による交通事故やひき逃げ、妨害運転（あおり運転）などの悪質・危険な交通法令違反」が44.1％、「すり、ひったくりなどの携行品を盗む犯罪」が2.9％と低くなっている。「不正アクセスやフィッシング詐欺などのサイバー犯罪」では〈商工サービス業・自由業〉が67.6％と高くなっている。

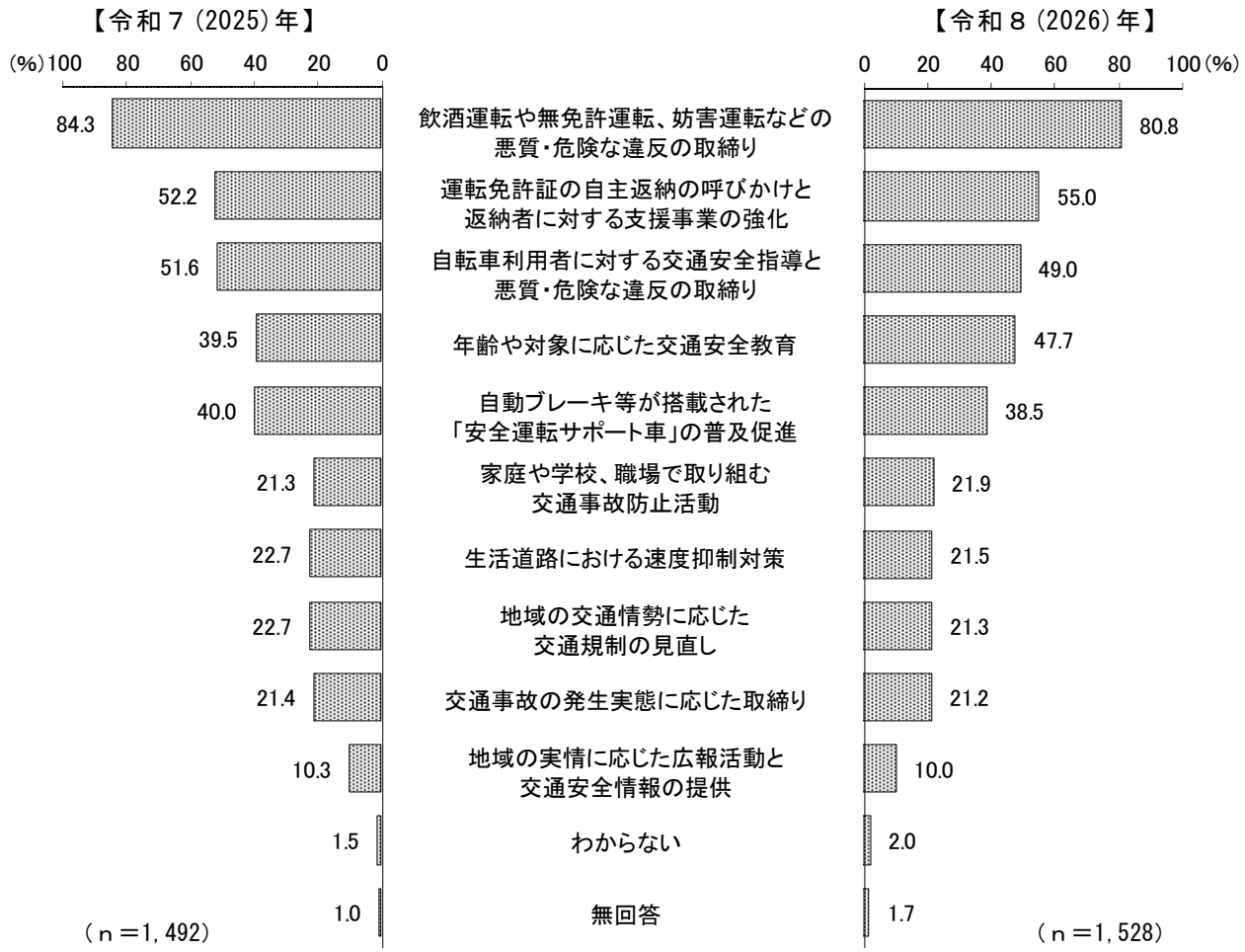
地域別でみると、大きな傾向の違いはみられない。

市町別でみると、「不正アクセスやフィッシング詐欺などのサイバー犯罪」では〈町〉が45.0％と低くなっている。

（３）交通事故を抑止するための対策

問45　交通事故を抑止する上で、あなたはどのような対策が効果的だと思いますか。次の中からいくつでも選んでください。　［ｎ＝1,528］

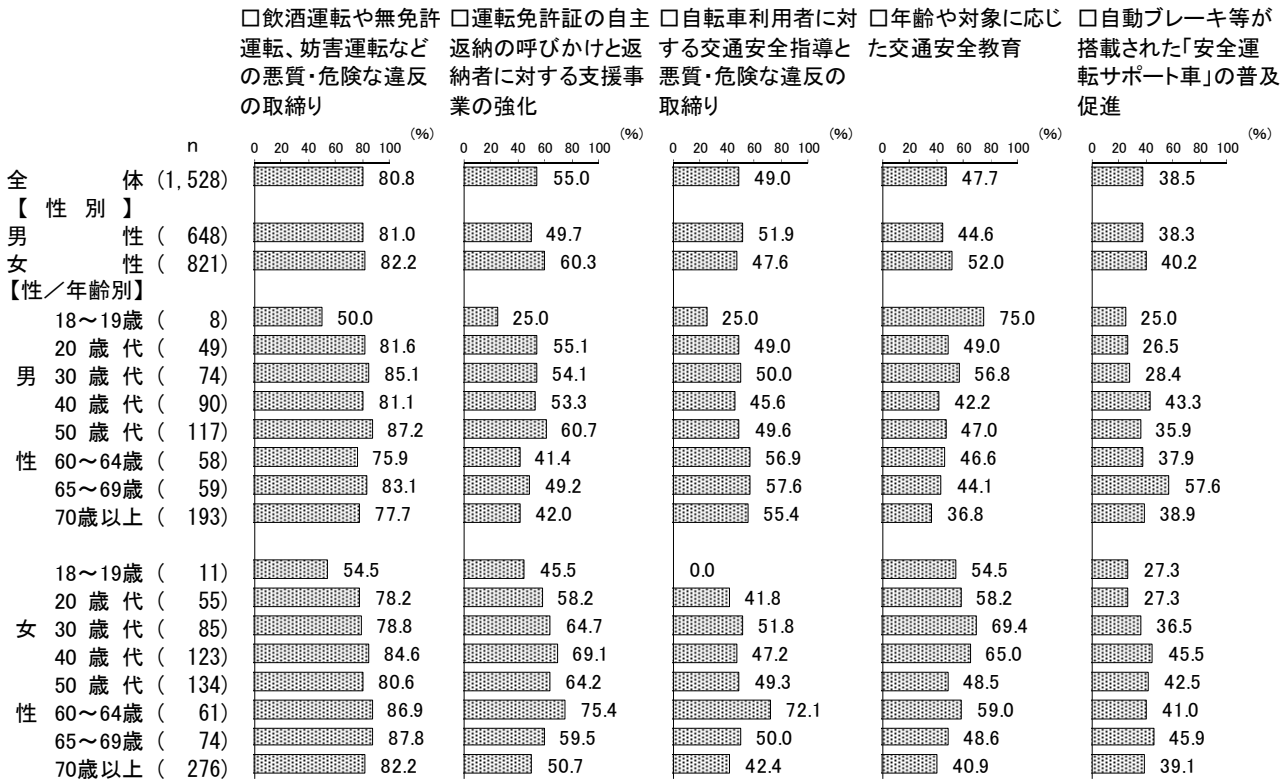
1	飲酒運転や無免許運転、妨害運転などの悪質・危険な違反の取締り	80.8%
2	年齢や対象に応じた交通安全教育	47.7
3	自転車利用者に対する交通安全指導と悪質・危険な違反の取締り	49.0
4	運転免許証の自主返納の呼びかけと返納者に対する支援事業の強化	55.0
5	自動ブレーキ等が搭載された「安全運転サポート車」の普及促進	38.5
6	地域の交通情勢に応じた交通規制の見直し	21.3
7	地域の実情に応じた広報活動と交通安全情報の提供	10.0
8	生活道路における速度抑制対策	21.5
9	交通事故の発生実態に応じた取締り	21.2
10	家庭や学校、職場で取り組む交通事故防止活動	21.9
11	わからない	2.0
	(無回答)	1.7

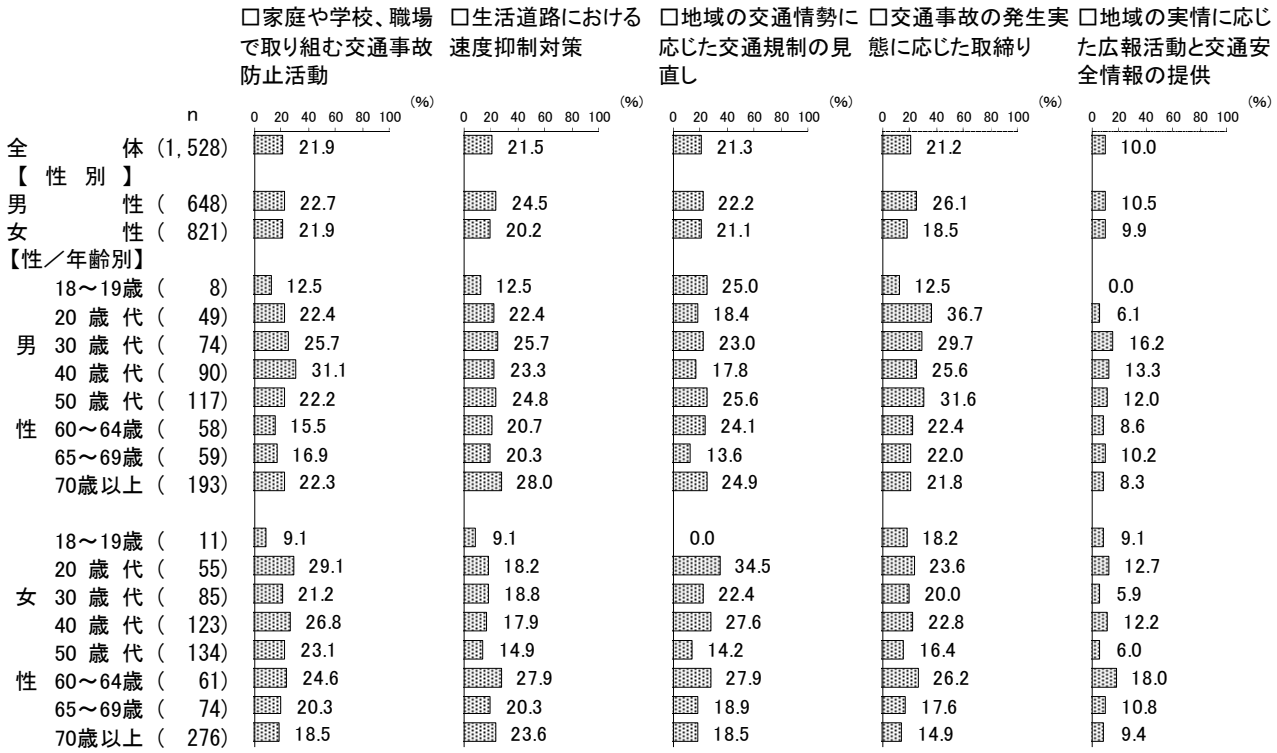


全体でみると、「飲酒運転や無免許運転、妨害運転などの悪質・危険な違反の取締り」（80.8％）が約８割で最も高くなっている。次いで「運転免許証の自主返納の呼びかけと返納者に対する支援事業の強化」（55.0％）、「自転車利用者に対する交通安全指導と悪質・危険な違反の取締り」（49.0％）、「年齢や対象に応じた交通安全教育」（47.7％）、『自動ブレーキ等が搭載された「安全運転サポート車」の普及促進』（38.5％）となっている。

前回（令和７(2025)年）の調査結果と比較すると、「年齢や対象に応じた交通安全教育」が8.2ポイント増加している。一方、「飲酒運転や無免許運転、妨害運転などの悪質・危険な違反の取締り」が3.5ポイント減少している。

［性別・性／年齢別］（上位10項目）

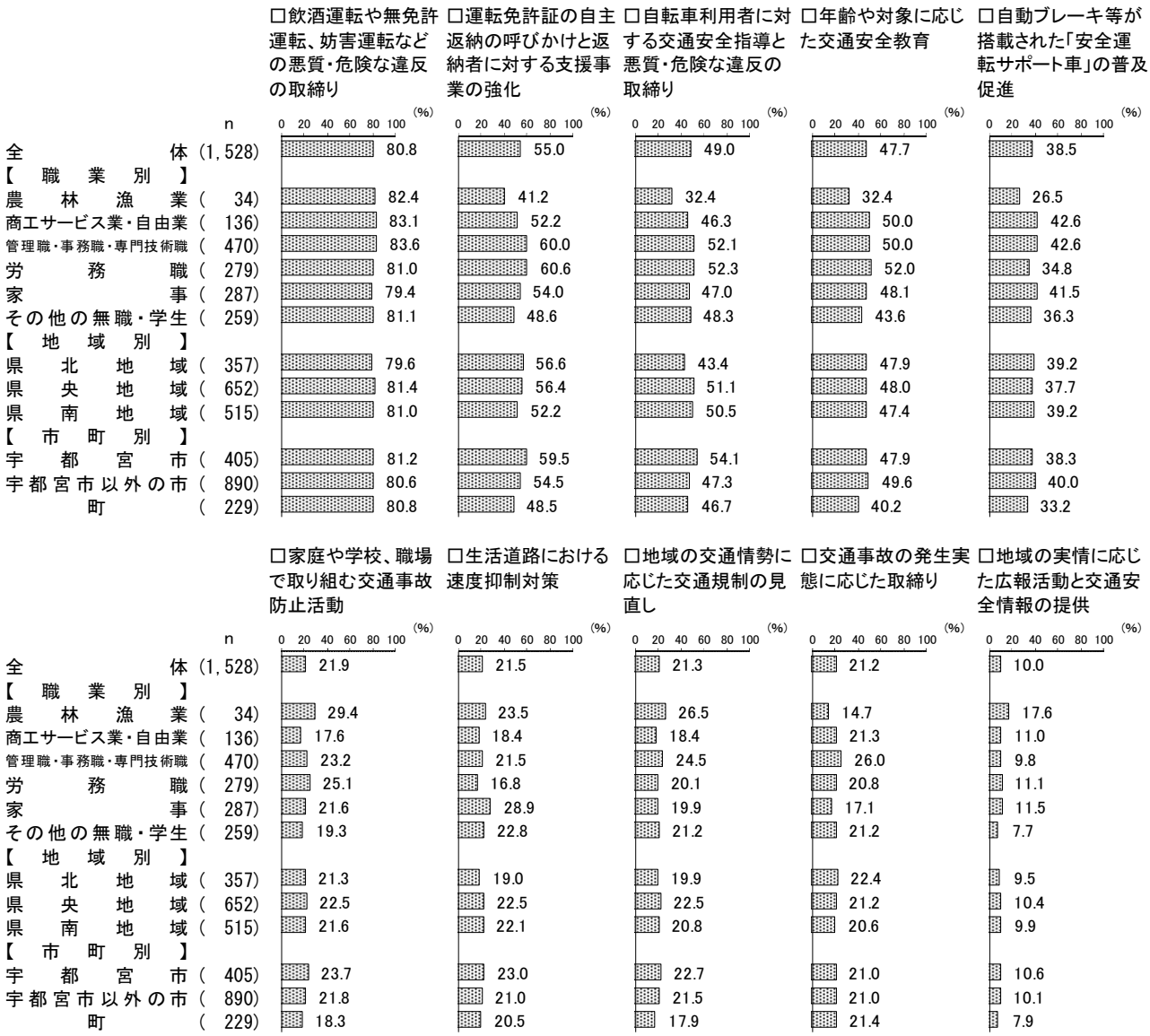




上位10項目について、性別でみると、「運転免許証の自主返納の呼びかけと返納者に対する支援事業の強化」では〈女性〉（60.3％）が〈男性〉（49.7％）より10.6ポイント、「年齢や対象に応じた交通安全教育」では〈女性〉（52.0％）が〈男性〉（44.6％）より7.4ポイント高くなっている。一方、「交通事故の発生実態に応じた取締り」では〈男性〉（26.1％）が〈女性〉（18.5％）より7.6ポイント高くなっている。

性／年齢別でみると、「運転免許証の自主返納の呼びかけと返納者に対する支援事業の強化」では〈女性60～64歳〉が75.4％、〈女性40歳代〉が69.1％と高くなっている。「自転車利用者に対する交通安全指導と悪質・危険な違反の取締り」では〈女性60～64歳〉が72.1％と高くなっている。「年齢や対象に応じた交通安全教育」では〈女性30歳代〉が69.4％、〈女性40歳代〉が65.0％、〈女性60～64歳〉が59.0％、〈女性20歳代〉が58.2％と高くなっている。『自動ブレーキ等が搭載された「安全運転サポート車」の普及促進』では〈男性65～69歳〉が57.6％と高くなっている。「地域の交通情勢に応じた交通規制の見直し」では〈女性20歳代〉が34.5％と高くなっている。「交通事故の発生実態に応じた取締り」では〈男性20歳代〉が36.7％、〈男性50歳代〉が31.6％と高くなっている。

［職業別・地域別・市町別］（上位10項目）



上位10項目について、職業別でみると、〈農林漁業〉では、「運転免許証の自主返納の呼びかけと返納者に対する支援事業の強化」が41.2%、「自転車利用者に対する交通安全指導と悪質・危険な違反の取締り」が32.4%、「年齢や対象に応じた交通安全教育」が32.4%、『自動ブレーキ等が搭載された「安全運転サポート車」の普及促進』が26.5%と低くなっている。

地域別でみると、大きな傾向の違いはみられない。

市町別でみると、大きな傾向の違いはみられない。

Ⅴ　調査票



令和8(2026)年度栃木県政世論調査

＜ご回答に当たってのお願い＞

○ **令和8(2026)年6月15日(月)までにご回答をお願いします。**

○ **宛て名のご本人様がお答えください(代筆も可能です)**

一部の回答でも結構です。皆様のご意見をお聴かせください。

どちらかを選んでご回答ください

【インターネットで回答する場合】

回答用ＩＤ： _____

パスワード： _____

回答フォーム

二次元
コード

・　詳細は別紙「インターネットでの回答方法」をご覧ください。

・　回答用 ID は、重複回答防止のため入力いただくもので、個人を特定するために利用するものではありません。

【郵送で回答する場合】

・　１つだけ回答していただくものと、複数回答していただくものがありますので、説明に従って回答してください。

・　ボールペン又は鉛筆で、当てはまる選択肢の番号を囲むように○印をご記入ください。

例）①

・　ご記入後は、この調査票を三つ折りにして同封の返信用封筒に入れ、ポストに投函してください。(お名前やご住所の記入、切手の貼付は不要です。)

パソコンやスマートフォンから回答できる
便利なインターネット回答をぜひご利用ください。

［暮らしの変化について］

問１　あなたの暮らしは、この５～６年の間にどう変わりましたか。次の中から**１つ**選んでください。

１　かなり良くなった	４　少し悪くなった
２　少し良くなった	５　かなり悪くなった
３　変わらない	６　わからない

（問１で選択肢「４」、「５」を選んだ方のみお答えください）

問２　悪くなったのは、主にどのようなことからですか。
もっとも大きな要因を**１つ**選んでください。

１　物価が上昇したため
２　不景気（新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響を含めた倒産、経営不振、解雇など）のため
３　家族構成の変化により出費が増えたため
４　教育費の出費が増えたため
５　住宅の購入や増・改築、自動車などの出費が増えたため
６　医療費・介護費の出費が増えたため
７　事故・災害による出費が増えたため
８　その他
９　わからない

問３　あなたは、今の暮らしについてどの程度満足していますか。次の中から**１つ**選んでください。

１　満足している	４　やや不満がある
２　まあ満足している	５　不満がある
３　どちらともいえない	６　わからない

問４　あなたの暮らしは、これから先どうなっていくと思いますか。次の中から**１つ**選んでください。

１　良くなっていく
２　変わらない
３　悪くなっていく
４　わからない

問５　あなたは、今後の暮らしの中で、どのような点に力を入れていきたいと思いますか。
次の中から**３つまで**選んでください。

1　仕事（家事、学業）	9　家族との団らん
2　知識や教養	10　近所との付き合い
3　貯蓄	11　友人や知人との付き合い
4　趣味やスポーツ	12　子育てや子どもの教育
5　ボランティア活動	13　健康づくり
6　衣・食生活の充実	14　その他
7　住生活の改善、充実	15　わからない
8　環境にやさしいライフスタイル	

［県政への要望について］

問６　県では、皆様のご理解とご協力を得ながら、「共に創る 人も地域も輝く“元気なとちぎ”」をめざして様々な仕事をしています。あなたが、県政に対して、特に力を入れてほしいことは何ですか。次の中から**いくつでも**選んでください。

1　学校教育の充実	20　雇用の安定と勤労者の福祉
2　青少年の健全育成	21　住宅・宅地対策
3　家庭教育の充実	22　資源エネルギー対策
4　社会教育の充実	23　下水道の整備
5　文化の振興	24　公園・緑地・河川の整備
6　スポーツ・レクリエーション施策の充実	25　公共交通ネットワークの整備
7　ＮＰＯ・ボランティア活動の促進	26　道路の整備
8　広聴・広報の充実	27　地域情報化の推進
9　国際化の推進	28　防災対策
10　子育て・少子化対策	29　防犯対策
11　高齢者福祉対策	30　交通安全対策
12　心身障害者対策	31　消費生活対策
13　医療対策	32　自然保護・環境保全対策
14　保健対策	33　循環型社会の推進(リサイクル･廃棄物対策)
15　男女共同参画の推進	34　行財政改革
16　農林業の振興	35　“とちぎ”ブランド力の強化
17　食料の安定供給の確保・食の安全確保	36　その他
18　商工業の振興	37　わからない
19　観光の振興	

［文化・芸術活動について］

問７　あなたが日ごろ行っている文化・芸術活動（鑑賞を含む）は、どのようなものですか。
次の中から**いくつでも**選んでください。

1	文学、音楽、絵画、陶芸、写真、演劇、舞踊などの芸術活動
2	映画、漫画、アニメーション、ＣＧなどのメディア芸術活動
3	雅楽、能楽、文楽、歌舞伎、組踊などの伝統的芸能活動
4	講談、落語、浪曲、漫談、漫才、歌唱などの芸能活動
5	茶道、華道、書道、食文化、和洋裁、盆栽、園芸、囲碁、将棋などの文化活動
6	年中行事、伝統工芸、伝統芸能などの地域の伝統的文化の保存・継承に関する活動
7	文化遺産の保護・活用に関する活動
8	何も行っていない

［スポーツ活動について］

問８　あなたは、この１年間にどの程度運動やスポーツ（※）を行いましたか。
次の中から**１つ**選んでください。

※ここでは「運動やスポーツ」を、「散歩や階段昇降など、健康・体力や美容の保持増進のための活動」や「家事・育児・通勤・通学など日常生活の中で意識的に身体を動かすこと」まで幅広く捉えることとします。

1	週に３日以上（年１５１日以上）	4	３か月に１～２日（年４～１１日）
2	週に１～２日（年５１～１５０日）	5	年に１～３日
3	月に１～３日（年１２～５０日）	6	運動やスポーツを行わなかった

［社会貢献活動について］

問９　あなたは、この１年間に社会貢献活動（※）に参加しましたか。また、今後参加したいと思いますか。次の中から**１つ**選んでください。

※社会貢献活動とは、例えば、募金、寄附、プルタブ・エコキャップなどの物品収集、公園清掃などの活動、ボランティアやＮＰＯ（非営利活動団体）活動、コミュニティ活動、自治会、育成会などの地域活動などをいいます。

1　参加した。また今後も参加したい
2　参加したが、今後参加するかどうかわからない
3　参加したが、今後参加するつもりはない
4　参加していないが、過去に参加したことがあり、今後参加したい
5　参加していないが、過去に参加したことがあり、今後参加するかどうかわからない
6　参加していないが、過去に参加したことがあり、今後参加するつもりはない
7　今まで参加したことはないが、今後参加したい
8　今まで参加したことはなく、今後も参加するかどうかわからない
9　今まで参加したことはなく、今後も参加するつもりはない

［防災対策について］

問10　あなたの家庭では、災害に対してどのような備えをしていますか。
次の中から**いくつでも**選んでください。

1　家具の転倒防止対策や配置の工夫
2　ハザードマップの確認
3　非常用持ち出し袋の準備
4　食料や飲料水の備蓄
5　消火器の設置
6　感震ブレーカー（※）の設置・点検
7　県や市町などの防災メールへの登録
8　地震などの自然災害対応の保険への加入
9　家族との安否確認手段（災害用伝言ダイヤル等）の確認
10　特に何もしていない

※感震ブレーカーとは、地震の揺れをセンサーが感知し、あらかじめ設定しておいた震度以上の場合に電力の供給を遮断する器具をいいます。

［栃木県への愛着と誇りについて］

問11　あなたは、「栃木県」に対してどの程度愛着を感じていますか。次の中から**１つ**選んでください。

1　とても愛着がある	4　あまり愛着がない
2　やや愛着がある	5　まったく愛着がない
3　どちらでもない	

問12　あなたが「栃木県」の魅力あるものとして自慢できるもの、オススメするものは何ですか。次の中から**いくつでも**選んでください。

1　日光・那須に代表される雄大な自然や四季折々の風景
2　鬼怒川や塩原など源泉総数全国10位の温泉や宿泊施設
3　「あしかがフラワーパーク」や「モビリティリゾートもてぎ」などのレジャー施設
4　栃木県総合運動公園の「カンセキスタジアム」や「日環アリーナ」などのスポーツ施設やスポーツ環境
5　佐野・那須のアウトレットやインターパークなどの大規模商業施設
6　博物館や美術館などの文化施設
7　無形文化遺産の「烏山の山あげ行事」や「鹿沼今宮神社祭の屋台行事」などの伝統芸能
8　「蔵の街とちぎ」などに代表される歴史的景観や街並み
9　世界遺産「日光の社寺」や日本最古の大学である「足利学校」などの歴史文化遺産
10　「益子焼」や「結城紬」などの伝統工芸品
11　半世紀以上にわたり生産量全国１位のいちごなどの農産物
12　生産量全国２位の生乳や世界的コンテストで複数回入賞したナチュラルチーズなどの牛乳乳製品
13　「宇都宮餃子®」や「佐野ラーメン」などのご当地グルメ
14　世界的コンテストで最高賞を受賞する日本酒
15　人のやさしさ・おもてなし
16　親しみのある方言・なまり
17　一人当たりの県民所得全国６位の豊かさや自然災害が少ないなどの住みやすさ
18　こども医療費の全額助成などの充実した子育て支援
19　全国初の全線新設の「芳賀・宇都宮ＬＲＴ」
20　都心へのアクセスの良さ
21　「とちまるくん」や「さのまる」などのご当地キャラクター
22　リーグ優勝複数回を誇る「宇都宮ブレックス」などのプロスポーツチームやスポーツ選手
23　「U字工事さん」や「井上咲楽さん」などの栃木県出身の有名人・著名人
24　特にない

［男女平等意識について］

問13　あなたは、現在、社会全体の中で、男女の地位はどの程度平等になっていると思いますか。
次の中から**１つ**選んでください。

1　男性の方が優遇されている
2　どちらかといえば、男性の方が優遇されている
3　平等になっている
4　どちらかといえば、女性の方が優遇されている
5　女性の方が優遇されている
6　わからない

問14　あなたは、「男は外で働き、女は家庭を守るべき」との考え方について、どのように思いますか。
次の中から**１つ**選んでください。

1　賛成
2　どちらかといえば賛成
3　どちらかといえば反対
4　反対
5　わからない

問15　あなたは、現在、働く場において、男女の地位はどの程度平等になっていると思いますか。
次の中から**１つ**選んでください。（現在働いていない方も、イメージでお答えください。）

1　男性の方が優遇されている
2　どちらかといえば、男性の方が優遇されている
3　平等になっている
4　どちらかといえば、女性の方が優遇されている
5　女性の方が優遇されている
6　わからない

［あらゆる人々が活躍できる環境づくりについて］

問16　あなたは、現在、栃木県内に暮らす高齢者、障害者、外国人等あらゆる人々が、地域を構成する一員として共に活躍できる社会となっていると思いますか。次の中から**１つ**選んでください。

1　そう思う	4　あまりそう思わない
2　ややそう思う	5　そう思わない
3　どちらでもない	

問17　あらゆる人々が活躍できる環境づくりに向けて、さらに力を入れた方がよいと考える取組は何ですか。次の中から**１つ**選んでください。

1　高齢者の社会参加の促進
2　障害者の就労機会の確保定着
3　就職氷河期世代を含む中高年世代の就労の促進
4　外国人材の受入支援や外国人住民の地域活動への参加促進
5　その他
6　わからない

［消費生活に関する意識について］

問18　あなたが、この１年間に購入･利用した商品やサービスについて、「表示･広告と実際の商品･サービスの内容が違っていた」「契約･解約時のトラブルで被害にあった」等の消費者トラブルに遭ったことはありますか。トラブルに遭ったことがある場合は、その内容を次の中から**１つ**選んでください。

1　遭ったことはない
2　商品の機能・品質やサービスの質が期待より大きく劣っていた
3　表示・広告と実際の商品・サービスの内容が大きく違っていた
4　契約・解約時にトラブルがあった
5　詐欺によって事業者にお金を払った
6　けが、病気をするなど、安全性や衛生面に問題があった
7　思っていたよりかなり高い金額を請求された
8　問題のある販売手口やセールストークにより契約・購入した
9　その他

［生涯学習について］

問19　あなたは、この１年くらいの間に、生涯学習（※）をしたことがありますか。
次の中から**いくつでも**選んでください。

※生涯学習とは、人々が、生涯のいつでも、どこでも、自由に行う学習活動のことで、学校での学習や公民館などにおける講座等の学習はもとより、自分から進んで行う学習やスポーツ、文化活動、趣味、ボランティア活動などの様々な学習活動のことをいいます。

1　趣味的なもの（音楽、美術、華道、舞踏、書道、レクリエーション活動など）
2　教養的なもの（文学、歴史、科学、語学など）
3　社会問題に関するもの（社会・時事、国際、環境など）
4　健康・スポーツ（健康法、医学、栄養、ジョギング、水泳など）
5　家庭生活に役立つ技能（料理、洋裁、和裁、編み物など）
6　育児・教育（家庭教育、幼児教育、教育問題など）
7　職業上必要な知識・技能（仕事に関係のある知識の習得や資格の取得など）
8　情報端末やインターネットに関すること（パソコンやタブレット、スマートフォンなどの端末に関することやホームページの作り方、ソーシャル・ネットワーキング・サービス（ＳＮＳ）の使い方に関することなど）
9　ボランティア活動のために必要な知識・技能
10　自然体験や生活体験などの体験活動
11　学校（高等・専門・各種学校、大学、大学院など）の正規課程での学習
12　生涯学習をこの１年くらいしていない
13　わからない

（問19で選択肢「１」～「11」を選んだ方のみお答えください）

問20　あなたが、生涯学習を行った理由は何ですか。次の中から**いくつでも**選んでください。

1　趣味又は教養を深めるため
2　仲間づくりになるため
3　生きがいにつなげるため
4　健康・体力づくりのため
5　仕事のスキルアップのため
6　地域活動に生かすため
7　日常生活に生かすため
8　余暇を充実させるため
9　特に理由はない

［地域のつながりについて］

問21　あなたは現在、ご近所（両隣など）の方とどのような関係ですか。
次の中から**１つ**選んでください。

1	家族構成や人となりなどもよく知っていて、親しく付き合っている
2	顔と名前が分かり挨拶をする程度である
3	ほとんど、もしくはまったく付き合っていない

問22　日常生活で困ったときに、家族・親族以外で相談できるところ（相手）はどこ（誰）ですか。
次の中から**いくつでも**選んでください。

1	知人・友人
2	隣近所の人
3	民生委員・児童委員
4	班長・自治会長
5	社会福祉協議会
6	市役所・町役場（子育て支援センターや地域包括支援センター等の相談窓口を含む）
7	福祉サービス事業者（社会福祉法人、ＮＰＯ法人等）
8	学校の先生・スクールカウンセラー（卒業後を含む）
9	職場の上司・同僚
10	その他（ＳＮＳを含む）
11	相談できるところ（相手）はない



［ケアラーについて］

問23 あなたは、「ケアラー」（18歳未満のヤングケアラーを含む。）（※）という言葉を聞いたことがありますか。次の中から１つ選んでください。

※栃木県では、全てのケアラーが個人として尊重され、社会から孤立することなく、安心して生活することができる地域社会の実現に向けて、令和５年４月に栃木県ケアラー支援条例を施行しました。この条例において、「ケアラー」とは、「高齢、障害、疾病等の理由により援助を必要とする家族、身近な人その他の者に対し、無償で介護、看護、日常生活上の世話その他の援助を提供する」方と定義しており、「ヤングケアラー」とは、このうち18歳未満の方をいいます。

1　聞いたことがあり、内容も知っている
2　聞いたことはあるが、内容はよく知らない
3　聞いたことはない

問24 今後、あなたがケアラー当事者（※問23の定義にある、家族等のお世話や介護・看護を担う方）となる可能性について、どのようにお考えですか。
あなたの考えに最も近いものを、次の中から１つ選んでください。

1　実際に家族のお世話（介護、看護、日常生活上の手伝いなど）を行っている
2　自分がケアラーになる可能性は、十分にあると思う
3　自分がケアラーになる可能性は、あまりないと思う
4　自分がケアラーになる可能性は、ないと思う

［在宅医療について］

問25 あなたの地域では、あなたや家族が自分の希望する場所で医療や介護サービスを受けることができる環境がある（整っている）（※）と思いますか。次の中から１つ選んでください。

※「希望する場所で医療や介護サービスを受けることができる環境がある（整っている）」とは、病院を希望するなら入院ができる、介護施設を希望するなら入所できる、自宅や老人ホームを希望するなら在宅療養のための支援を受けることができる等をいいます。

1　そう思う
2　ややそう思う
3　あまりそう思わない
4　そう思わない

問26 あなたは、「人生会議（ＡＣＰ）」（※）を知っていますか。次の中から１つ選んでください。

※「人生会議（ＡＣＰ）」とは、アドバンス・ケア・プランニングの愛称で、当事者が望む人生の最終段階の医療やケアについて、前もって考え、家族等や医療・ケアチームと繰り返し話し合い、共有する取組のことをいいます。

1　よく知っている
2　ある程度知っている
3　言葉だけは知っている
4　知らない

［がん対策について］

問27　がんについてあなたが知っていることを、次の中から**いくつでも**選んでください。

1　日本では、約２人に１人が、がんにかかる
2　日本では、死因の約３分の１が、がんである
3　小児やＡＹＡ世代（15～39 歳）といわれる年代でも、がんにかかることがある
4　がんの治療法には、大きく分けて、手術療法、薬物療法、放射線療法がある
5　がんは、早期発見・早期治療をすれば 90%以上が治る
6　がん全体の５年生存率は 50%を超えている
7　喫煙は、がんを引き起こす原因の中で、予防可能な最大のものである
8　がんについて相談ができる「がん相談支援センター」を設置している医療機関がある
9　いずれも知らない

問28　がん検診の受診率は40～50%程度となっていますが、県が掲げる受診率目標の60%と比較すると依然として低い状況です。あなたは、多くの方ががん検診を受けないのはなぜだと思いますか。次の中から**いくつでも**選んでください。

1　がん検診そのものを知らないから
2　受診するのが面倒だから
3　受診する時間がないから
4　受診する場所が不便だから
5　費用がかかり経済的に負担になるから
6　健康状態に自信があり、必要性を感じないから
7　検査に伴う苦痛に不安があるから
8　心配なときはいつでも医療機関を受診できから
9　がんであると分かるのが怖いから
10　受診しても、見落としがあると思うから
11　わからない

問29　現在の日本の社会では、がんの治療や検査のために通院しながら働き続けられる環境だと思いますか。次の中から**１つ**選んでください。

1　そう思う
2　どちらかといえばそう思う
3　どちらかといえばそう思わない
4　そう思わない
5　わからない

［食の安全・安心について］

問30　あなたは、食品の安全性について、不安を感じていますか。次の中から**１つ**選んでください。

1　大いに感じている	3　あまり感じていない
2　多少は感じている	4　全く感じていない

（問 30 で選択肢「１」、「２」を選んだ方のみお答えください）

問31　あなたは、食品の安全性のどのような部分について不安を感じていますか。
次の中から**４つまで**選んでください。

1　食中毒	10　遺伝子組換え食品
2　食品添加物	11　輸入食品
3　いわゆる「健康食品」	12　ＢＳＥ（牛海綿状脳症）
4　放射性物質	13　高病原性鳥インフルエンザ
5　重金属（カドミウム・水銀など）	14　体細胞クローン牛・豚
6　残留農薬	15　家畜等の医薬品
7　食物アレルギー	16　環境ホルモン（内分泌かく乱化学物質）
8　賞味期限・消費期限	17　フードテック（ゲノム編集食品・昆虫食・細胞性食品等）
9　原産地	18　その他

［食に関する意識と実践について］

問32　あなたは、お米や野菜、果物などの生鮮食品を購入する際、国産や県産など産地を意識して選んでいますか。次の中から**１つ**選んでください。

1　いつも選んでいる	3　あまり選んでいない
2　ときどき選んでいる	4　全く選んでいない

問33　あなたは、田植えやいちご狩り、乳搾りなど、農業体験をしたことがありますか。
次の中から**１つ**選んでください。

1　今までに複数回体験したことがある
2　今までに１回体験したことがある
3　１回も体験したことがない

［食品ロスの削減について］

問34　あなたは、「食品ロス」の問題を知っていますか。次の中から**１つ**選んでください。

1　よく知っている	3　あまり知らない
2　ある程度知っている	4　知らない

問35　あなたが現在行っている、食品ロスを発生させない（食品を無駄にしない）ための取組はどのようなものですか。次の中から**いくつでも**選んでください。

1　料理を作り過ぎない
2　残さずに食べる
3　残った料理を別の料理に作り替える（リメイクする）
4　冷凍保存を活用する
5　日頃から冷蔵庫等の食材の種類・量・期限表示を確認する
6　「賞味期限」を過ぎてもすぐに捨てるのではなく、自分で食べられるか判断する
7　小分け商品、少量パック商品、バラ売り等食べきれる量を購入する
8　商品棚の手前に並ぶ期限の近い商品を購入する
9　期限間近による値引き商品・ポイント還元の商品を率先して選ぶ
10　飲食店等で注文し過ぎない
11　期限内である未利用食品をフードバンク活動へ提供する
12　その他
13　行っている取組はない

［とちぎの元気な森づくり県民税について］

問36　森林には、様々な働きがあります。あなたが特に重要だと考える森林の働きはどれですか。次の中から**３つまで**選んでください。

1　山崩れなどの災害を防止する働き
2　雨水を蓄え、洪水や渇水を防ぐ働き
3　二酸化炭素を吸収し、地球温暖化を防止する働き
4　空気をきれいにしたり、騒音を和らげるなど環境を快適に保つ働き
5　生活に必要な木材や燃料チップ、きのこなどを供給する働き
6　多様な生物の生育・生息の場としての働き
7　自然に親しみ、人の心を和ませ安らぎを与える働き
8　自然と人との関わりを学ぶなどの教育の場としての働き
9　わからない

問37　栃木県では、「とちぎの元気な森づくり県民税」を活用して、本県の森林を元気な姿で将来へ引き継いでいくための様々な取組を行っています。
「とちぎの元気な森づくり県民税」の取組の中で、あなたが特に重要と思うものはどれですか。次の中から**３つまで**選んでください。

1　高齢化した森林の若返りを進めるため、伐採後の植栽や下草刈り、シカによる苗木の食害など獣害対策への支援をすること
2　手入れのできない針葉樹林を管理の容易な広葉樹林へ転換していくこと
3　通学路等の見通しを良くしたり、イノシシなどの野生獣を人里に近付けないようにするため、身近な里山林の整備を支援すること
4　里山林で活動するボランティアの育成や、地域での森づくり活動等への支援をすること
5　所有者や境界が不明な森林を適正に管理していく仕組みをつくること
6　森林の働きや「とちぎの元気な森づくり県民税」の取組を普及啓発すること
7　わからない



［公共交通について］

問38　あなたは、日常生活の中で鉄道・バス・タクシーなどの公共交通機関（※）をどれくらい利用していますか。次の中から**１つ**選んでください。

※公共交通機関とは、民間の交通事業者が運行するものだけではなく、市町が運行するコミュニティバスやデマンド交通なども含みます。

１　ほぼ毎日利用する	４　主に自家用車やオートバイを使うのでほとんど利用しない
２　１週間に数回利用する	５　主に自転車を使うのでほとんど利用しない
３　１か月に数回利用する	６　ほとんど利用しない

（問38で選択肢「１」、「２」、「３」を選んだ方のみお答えください）

問39　あなたは、公共交通機関のサービスや運行状況について、満足していますか。
次の中から**１つ**選んでください。

１　満足している
２　どちらかといえば満足
３　どちらかといえば不満
４　不満

問40　あなたが公共交通機関に不満を感じることは何ですか。
次の中から**３つまで**選んでください。

１　運行本数が少ない	６　交通系ＩＣカードなどのキャッシュレス決済に対応していない
２　自宅や目的地から駅・バス停までが遠い	７　乗り継ぎのための移動距離が長い
３　他の公共交通機関との乗り継ぎに時間がかかる	８　乗り方がよくわからない
４　運賃が高い	９　乗り場の案内表示がわかりづらい
５　車内が混雑している	10　特に不満に思うことはない

［自転車利用率と目的について］

問41　あなたは、この１年間にどの程度自転車を利用しましたか。次の中から**１つ**選んでください。

１　週に３日以上（年１５１日以上）	４　３か月に１～２日（年４～１１日）
２　週に１～２日（年５１～１５０日）	５　年に１～３日
３　月に１～３日（年１２～５０日）	６　利用しなかった

（問41で選択肢「１」～「４」を選んだ方のみお答えください）

問42　あなたが自転車を利用した主な目的は何ですか。次の中から**１つ**選んでください。

１　通勤・通学	５　サイクリング
２　仕事時の移動手段	６　レース
３　日常の移動手段	７　その他
４　旅行・レジャー・行楽時の移動手段	

［犯罪と治安対策について］

問43　あなたは、県内の治安についてどう感じますか。次の中から**１つ**選んでください。

１　良い	４　どちらかといえば悪い
２　どちらかといえば良い	５　悪い
３　どちらともいえない	６　わからない

問44　社会が変化する中、あなたが、自分や身近な人が被害に遭うかもしれないと不安になる犯罪などは何ですか。次の中から**いくつでも**選んでください。

１　特殊詐欺などの財産をだまし取る犯罪
２　不正アクセスやフィッシング詐欺などのサイバー犯罪
３　飲酒運転による交通事故やひき逃げ、妨害運転（あおり運転）などの悪質・危険な交通法令違反
４　殺人、強盗、暴行、傷害などの凶悪・粗暴な犯罪
５　空き巣などの住宅などに侵入して物を盗む犯罪
６　自動車、オートバイ、自転車などの乗り物を盗む犯罪や車内から物を盗む犯罪
７　政府や企業に対するサイバー攻撃による機密情報や個人情報の流出
８　ＤＶ（配偶者などからの暴力）、児童虐待などの家庭内の犯罪
９　誘拐、子供の連れ去りやいたずら
10　麻薬、覚醒剤の売買、乱用などの薬物犯罪
11　来日外国人による組織犯罪
12　すり、ひったくりなどの携行品を盗む犯罪
13　児童ポルノ、児童買春などの子供に対する犯罪
14　痴漢や強制わいせつなどの性的犯罪
15　重要インフラ事業者などに対するサイバー攻撃によるシステム障害
16　ストーカー行為
17　国際テロ組織などによるテロ行為
18　暴力団や準暴力団などによる組織犯罪

問45　交通事故を抑止する上で、あなたはどのような対策が効果的だと思いますか。
次の中から**いくつでも**選んでください。

1　飲酒運転や無免許運転、妨害運転などの悪質・危険な違反の取締り
2　年齢や対象に応じた交通安全教育
3　自転車利用者に対する交通安全指導と悪質・危険な違反の取締り
4　運転免許証の自主返納の呼びかけと返納者に対する支援事業の強化
5　自動ブレーキ等が搭載された「安全運転サポート車」の普及促進
6　地域の交通情勢に応じた交通規制の見直し
7　地域の実情に応じた広報活動と交通安全情報の提供
8　生活道路における速度抑制対策
9　交通事故の発生実態に応じた取締り
10　家庭や学校、職場で取り組む交通事故防止活動
11　わからない



［あなたご自身やご家族について］

最後に、お答えいただいたことを統計的に分析するため、あなたご自身やご家族についてお答えください。

Ｆ１　あなたの性別は。

1　男性
2　女性
3　回答しない

Ｆ２　あなたの年齢は、次の中のどれに当てはまりますか。

1　18 歳～19 歳	3　30 歳～39 歳	5　50 歳～59 歳	7　65 歳～69 歳
2　20 歳～29 歳	4　40 歳～49 歳	6　60 歳～64 歳	8　70 歳以上

Ｆ３　あなたの職業は、次の中のどれに当てはまりますか。

（自営･家族従業）		（勤めている）		（無　　職）	
1 農林漁業	2 商工サービス業・自由業	3 管理職・事務職 ・専門技術職	4 労務職	5 家　事	6 その他の無職 ・学生

Ｆ４　あなたは、栃木県でお生まれになりましたか。

1　は　い	2　いいえ

Ｆ５　あなたは、栃木県に通算して何年お住まいですか。

1　１年未満	4　５年～９年
2　１年～２年	5　10 年～19 年
3　３年～４年	6　20 年以上

Ｆ６　現在、あなたのご住居は、次の中のどれに当たりますか。

1　持家の一戸建	5　民間の賃貸アパート・マンション
2　持家の集合住宅（分譲マンションなど）	6　社宅・官舎
3　借家の一戸建	7　その他
4　公社・公営の賃貸住宅	（　　）

Ｆ７　あなたがお住まいの周囲の環境は、次の中のどれに当たりますか。

１　農山村	３　商店街
２　住宅地	４　その他（　　）

Ｆ８　あなたがお住まいの地域は、次の中のどれに当たりますか。

１　県北地域（日光市、大田原市、矢板市、那須塩原市、さくら市、那須烏山市、塩谷町、高根沢町、那須町、那珂川町）

２　県央地域（宇都宮市、鹿沼市、真岡市、上三川町、益子町、茂木町、市貝町、芳賀町、壬生町）

３　県南地域（足利市、栃木市、佐野市、小山市、下野市、野木町）

Ｆ９　あなたのご住所は、次の中のどれに当たりますか。

１　宇都宮市	２　宇都宮市以外の市	３　町

◎長時間にわたり、ご協力ありがとうございました。

お手数ですが、同封の返信用封筒に入れて（切手は不要です）、６月１５日（月）までにご投函ください。

VERY GOOD LOCAL

とちぎ

栃　木　県　政　世　論　調　査

令和８（2026）年11月

栃木県総合政策部広報課

宇都宮市塙田１－１－20
電話（028）623－2158